第七編　治水及水道

第一章　治水

△河川法……一
△河川法施行規程……七

第二章　砂防

△砂防法……八
△砂防法施行稅程……三
△砂防行政監督令……四

第三章　水利組合

△水利組合法……四
△水利組合法改正經過規程……四

第四章　下水道

△下水道法……四
△下水道法施行規則……五

第七編　治水及水道

第一章　治水

河川法（明治二十九年四月八日法律第七十一號）

【沿革】大正四年六月法律第四號、昭和二年三月同第三號改正

第一章　總則
第二章　河川ノ管理
第三章　河川ノ使用ニ關スル制限竝警察
第四章　河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務竝河川ノ管理ヨリ生スル收入等
第五章　監督及强制手續
第六章　訴願及訴訟
第七章　附則

河川法

第一章　總則

第一條　此ノ法律ニ於テ河川ト稱スルハ主務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ヲ謂フ

第二條　河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル

流水河川ノ區域外ニ出テテ永期ニ渉ルヘキモノト認ムルトキハ地方行政廳ハ其ノ河川ノ區域ヲ變更スヘシ

第三條　河川竝其ノ敷地若ハ流水ハ私權ノ目的トナルコトヲ得ス

第四條　地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除タノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水ニ因リテ生スル分利ヲ增進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ設ケタルモノニシテ地方行政廳ニ於テ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

第五條　此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ流入シ若ハ河川ヨリ分岐スル水流若ハ水面又ハ第一條ノ認定ヲ受ケサル河川ニ準用スルコトヲ得

第二章　河川ノ管理

第六條　河川ハ地方行政廳ニ於テ其ノ管内ニ係ル部分ヲ管理スヘシ但シ主務大臣カ自ラ河川ニ關スル工事ヲ施行シタルモノニ付必要ト認ムルトキ又ハ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ代テ之ヲ管理シ又ハ其ノ維持修繕ヲナスコトヲ得

第七條　地方行政廳ハ河川ニ關スル工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス但シ第四十三條ニ依リ通航料徵收ノ許可ヲ得タル者ヲシテ其ノ義務ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

第八條　河川ニ關スル工事ニシテ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止マラサルトキ又ハ其ノ工事至難ナルトキ若ハ其ノ工費重大ナルトキ又ハ河川ノ全部若ハ一部ニ付キ大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基キテ施行スル改良工事ナルトキハ主務大臣ハ自ラ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ之ヲ施行セシムルコト

チ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第九條　地方行政廳ハ令令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ノ一部ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第十條　河川ノ附屬物ニシテ兼ネテ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

他ノ工作物ニシテ兼ネテ河川ノ附屬物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ニ於テ其ノ工作物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

第十一條　他ノ工事ニ因リ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生シタルトキハ地方行政廳ハ其ノ工事ノ施行者ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生シタル他ノ工事又ハ河川ニ關スル工事ヲ施行スル爲ニ必要ナル他ノ工事ハ地方行政廳ニ於テ併セテ之ヲ施行スルコトヲ得

第十二條　行政廳ハ河川ニ關スル工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス

第十三條　河川ニ關スル工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　地方行政廳ハ其ノ管理ニ屬スル河川ノ臺帳ヲ調製シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

臺帳ノ調製、保管、記載事項等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

主務大臣ノ認可ヲ經タル臺帳ニ記載セル事項ニ關シテハ反對ノ立證ヲ許サス但シ臺帳調製後其ノ事實ノ變更シタルコトヲ證スルヲ妨ケストキハ其定員、給料、手當、職務權限竝其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第四章　河川ノ使用ニ關スル制限竝警察

第十六條　舟筏ノ通航及流木ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　左ニ記載スル工作物ヲ新築改築若ハ除却セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

一　流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫防スル爲ニ施設スル工作物

二　河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物

三　河川ノ區域内ニ於テ敷地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若クハ河川ヲ横過シ若クハ其ノ床下ニ於テ施設スル工作物

第十八條　河川ノ敷地若クハ流水ヲ占用セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條　流水ノ方向、清潔、分量、輻員若クハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ホスノ虞アル工事、營業其ノ他ノ行爲ハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若クハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條　左ノ場合ニ於テ地方行政廳ハ許可ヲ取消シ若クハ其ノ效力ヲ停止シ若クハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若クハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一　工事施行ノ方法若クハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二　河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三　河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事、使用若クハ占用ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四　此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五　法律命令ニ違背シタルトキ

六　公益ノ爲必要アルトキ

第二十一條　本章ノ規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生スル權利義務ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第二十二條　法律、命令若クハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生シタル事實ヲ更正シ且其ノ因リテ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第二十三條　洪水ノ危險切迫ナルトキハ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ現場ニ於テ直ニ防禦ノ爲ニ必要ナル土地ヲ使用シ土砂竹木其ノ他ノ材料車馬其ノ他ノ運搬具及器具等ヲ使用若クハ徴收シ又ハ其ノ現場ニ在ル者ヲ使役シ又ハ家屋其ノ他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ管内ニ於テ夫役ヲ命シ又ハ下級公共團體ニ命シテ土地、材料、運搬具、器具及夫役ヲ供セシメ又ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員等ヲ指揮シテ必要ナル處分ヲナサシムルコトヲ得

地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命シテ豫メ洪水防禦ノ爲必要ナル準備ヲナサシムルコトヲ得

第四章　河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務

竝河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第二十四條　河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理若クハ其ノ維持修繕ヲナス場合ニ於テハ國庫ニ於テ其ノ費用ノ全部若クハ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第一項費用ノ範圍ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條　通航料徴收ノ許可ヲ受ケテ施設シタル工作物ノ爲ニ要スル費用ハ其ノ徴收期間許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條　河川ノ改良工事ニ要スル豫算費用ニシテ其ノ府縣内ノ地價總額千分ノ二箇半ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ三分ノ二以内ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得但シ地價總額百分ノ二箇半ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ超過額ノ四分ノ三以内ヲ補助スルコトヲ得

前項ニ於テ地價ト稱スルハ其ノ年分地租ヲ徴收スヘキ土地ノ一月一日現在地價ヲ謂フ

災害ニ因リ必要ヲ生シタル工事ニ要スル費用ハ第一項ニ依ルノ限ニ在ラス

工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第二十七條　第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ前條ノ規定ニ準シテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔スヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣ノ負擔スヘキ金額竝不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十八條　第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ

府縣ハ其ノ負擔スヘキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

第二十九條　地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條　河川ノ附屬物ニシテ兼ネテ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條　營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生セシムルモノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條　河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生シタルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於テ其ノ原因タル工事ノ費用負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若クハ管理者タル私人ノ負擔トス但命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其費用ノ全部若クハ一部ヲ補助スルコトヲ妨ケス

第三十三條　河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若クハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキ又ハ河川ニ關スル工事若クハ其ノ維持ニシテ主トシテ他府縣内ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ府縣若クハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條　此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第五十二條ニ依リ主務大臣若クハ地方長官ニ於テ義務者ノ履行スヘキ事項ヲ自ラ執行シ若クハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徵スルコトヲ得

第三十五條　公共團體ハ河川ニ關スル工事若クハ費用ノ爲寄附ヲナスコトヲ得

第三十六條　公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ私人若クハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第三十七條　公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ原簿ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナコストヲ得

第三十八條　河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若クハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若クハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第三十九條　河川ニ關スル工事ノ爲メ必要ナルトキハ地方行政廳ハ其ノ堤外地ニ立入リ又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

堤外地ニ非サル沿岸若クハ沿堤土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲必要ナル場合ニ限リ前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條　第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村、町村組合若クハ水利組合ニ命シテ其ノ物件ノ價額ヲ補償セシムル事ヲ得其ノ價額ハ行政廳之ヲ定ム

前項補償ノ手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條　法律、命令若クハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備使用、占用若クハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

前項ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第四十二條　流水ヲ停滯シ若クハ引用スル爲ノ工作物ノ施設其ノ他河川ノ使用若クハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者使用者若クハ占用者ヨリ使用料若クハ占用料ヲ徵收スルコトヲ得

本條ノ使用料若クハ占用料其ノ他河川ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス

第四十三條　地方行政廳ハ私人若クハ其ノ管内下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲新築若クハ改築工事ヲ施行スル場合ニ限リ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收スルコトヲ許可スルコトヲ得但シ其ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超過スルコトヲ得ス

通航料ノ徵收ヲ停止スヘキ場合ニ於ケル補償其ノ他通航料ノ制限等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條　河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ但シ此ノ法律施行前私人ノ所有權ヲ認メタル證跡アルトキハ其ノ私人ニ下付スヘシ

第四十五條　河川附近ノ土地若クハ工作物ノ所有者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ土地ノ缺壞若クハ土砂流出ヲ豫防スル爲又ハ其ノ工作物ノ河川ニ及ホス損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若クハ一部ヲナシ又ハ其ノ費用ノ全部若クハ一部ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第四十六條　河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ其ノ土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若クハ培養シ又ハ其ノ他土砂扞止ノ設備ヲナシ若クハ之ヲ維持スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

前項ニ依リ植附タル竹木芝草ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ土地所有者ヲシテ收益ノ全部若クハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

土砂扞止ノ爲ニ要スル土地ハ行政廳ニ於テ土地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得第一項土地ノ區域ハ地方行政廳ニ於テ豫メ之ヲ告示スヘシ

第四十七條　此ノ法律ヲ以テ定メタルモノノ外尙河川附近ノ土地家屋若クハ其ノ他ノ工作物ニ關シ河川ノ公利ヲ增進シ又ハ公害ヲ除却若クハ輕減スル爲ニ必要ナル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條　河川若クハ河川附近ノ土地ニ關シテ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域若クハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五章　監督及强制手續

第四十九條　主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監督ス

地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若クハ地方長官ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條及第三十六條ニ規定シタル事項竝此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第五十條　他ノ府縣若ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條　主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及其ノ附屬物ノ認定若クハ臺帳ノ更正ヲナサシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第五十二條　義務者ニ於テ此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若クハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若クハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十三條　私人ニ於テ此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若クハ地方長官ハ一定ノ期限ヲ示シ若期限内ニ履行セサルトキ若クハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ千圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第五十四條　此法律若クハ此法律ニ基キ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ納付セシメタル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第五十五條　此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第五十六條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ强制スルニトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第五十七條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十八條　此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第六章　訴願及訴訟

第五十九條　此法律若ハ此法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地

方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第六十條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條　第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第六十二條　第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後三箇月以内其金額ノ通知ナキトキハ其期限經過後六箇月以内ニ民軍訴訟ヲ提起スル事ヲ得

第六十三條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七章　附則

第六十四條　此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條　河川ノ臺帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二年箇以内ニ之ヲ調製スヘシ

河川法施行規程（明治二十九年六月三日勅令第二百三十六號）

【沿革】明治三十二年六月勅令第二八六號改正

第一條　内務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

内務大臣ニ於テ河川法ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ヲ定メタルトキ亦同シ

第二條　府縣知事ニ於テ河川ノ支川若ハ派川又ハ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第三條　沿岸、沿堤及河川附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事之ヲ定メ内務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第四條　河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ河川ニ關スル工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ官報ヲ以テ其工事ヲ施行スヘキ河川竝ニ其ノ區域及起工年度ヲ告示スヘシ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第五條　河川法第六條但書ニ依リ内務大臣ニ於テ河川ノ管理又ハ維持修繕ヲナストキハ内務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條　河川法第三十八條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹

木及運搬具ノ供給ヲナサシメントスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第七條　河川法第三十九條ニ依リ府縣知事ニ於テ堤外地、沿岸若ハ沿堤土地ニ立入リ又ハ之ヲ材料置場等ニ供セントスルトキハ少クトモ五日前ニ又之ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除去セントスルトキハ少クトモ十五日前ニ其ノ場所若ハ建設物等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第八條　河川法施行前ニ確定シタル河川ニ關スル費用ノ豫算ハ河川法施行ノ爲其ノ效力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣行ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第九條　河川法施行前ニ私人ノ所有權ヲ認メタル河川ノ敷地ニシテ荒地ニアラサルモノハ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ノ請求ニ因リ府縣知事ハ公益ヲ妨ケサル限ニ於テ其ノ占用ヲ許可スヘシ

第十條　府縣知事ニ於テ從前ノ所有者若ハ其相續人ニ前條ノ占用ヲ許可セサルトキ又ハ之ヲ禁止スルトキハ府縣ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲前項處分ノ必要ヲ生スルトキハ府縣知事ハ其ノ事業ノ許可ノ條件トシテ其ノ執行者ヲシテ補償金ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

河川ニ關スル工事ニ因リ下付ノ必要アル第一項ノ補償金ハ其ノ工事ノ豫算費用中ニ算入スヘシ

第十一條　河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際ニ現存スルモノハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但其ノ施行ノ日ヨリ三箇月以內ニ府縣知事ニ於テ更ニ許可ヲ受クヘキコトヲ命シタルモノハ此ノ限ニアラス

河川法施行前許可ニ附シタル條件ハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ牴觸セサル程度ニ於テ效力ヲ有ス

第十二條　河川法施行前ニ許可シタル通航料ノ徵收ハ從前ノ規程ニ依ル但徵收ノ期限ナキモノハ府縣知事ニ於テ河川法施行後三十箇年以內ノ期限ヲ定メテ之ヲ許可スヘシ

第十三條　內務大臣ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ二十五圓以內ノ罰金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

府縣知事及警視總監ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ十圓以內ノ罰金若ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第十四條　河川法第[illegible]條、第五條、第十三條、第十五條、第十六條、第十九條、第四十五條及第四十六條第二項ニ依リテ發スル命令ハ府縣令ヲ以テスルコトヲ得但東京府ニ在テハ第十六條及第十九條中警察ニ係ル事項ハ警視廳令ヲ以テスルニトヲ得

第二章　砂防

砂防法

（明治三十年三月三十日法律第二十九號）

【沿革】大正十三年七月法律第三號改正

第一章　總則
第二章　土地ノ制限及砂防設備
第三章　砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務竝收入等
第四章　警察、監督及强制手續
第五章　訴願及訴訟
第六章　附則

第一章　總則

第一條　此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ

第二條　砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條　此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコトヲ得

第二章　土地ノ制限及砂防設備

第四條　第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テハ地方行政廳ハ治水上砂防ノ一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得

前項ノ禁止若ハ制限ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサルトキハ主務大臣ハ前項ノ取締ヲ施行スルコトヲ得

第五條　地方行政廳ハ其ノ管內ニ於テ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ヲ監視シ及其ノ管內ニ於ケル砂防設備ヲ管理シ其ノ工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス

第六條　砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルトキ、其ノ利害關係一府縣ニ止マラサルトキ、其ノ工事至難ナルトキ又ハ其ノ工費至大ナルトキハ主務大臣ハ之ヲ管理シ、其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ其ノ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルニトヲ得

本縣ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第七條　地方行政廳ハ其ノ管內ノ下級行政廳ヲシテ砂防工事ヲ施行セシメ又ハ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第八條　他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ砂防工事ヲ施行スルノ必要ヲ生スルトキハ地方行政廳ハ其ノ行爲ヲナシタル者ヲシテ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ砂防設備ノ維持ヲナサシムルニトヲ得

第九條　行政廳ハ砂防工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス

第十條　砂防工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條　第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

第三章　砂防ニ關スル費用ノ負擔土地所有者ノ權利義務竝收入等

第十二條　第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ監視及砂防設備ノ管理、維持竝砂防工事ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條　砂防工事ニ要スル費用ハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ府縣ニ補助スルコトヲ得

前項國庫ノ補助額ハ工費豫算ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス
本條ノ補助金ハ精算ノ上其ノ費用ノ三分ノ二ヲ超過スルコトアルモ其ノ超過額ヲ還付セシメサルコトヲ得
災害ニ因リ必要ヲ生シタル砂防工事ニ要スル費用ハ本條ニ依ルノ限ニ在ラス

第十四條　第六條ニ依リ主務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理及維持ヲナシ又ハ防砂工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ國庫ノ負擔トス
前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ府縣ヲシテ前項費用ノ三分ノ一以内ヲ負擔セシムルコトヲ得
前項ニヨリ府縣ノ負擔スヘキ金額竝其ノ年度割及納付期限等ハ主務大臣之ヲ定ム

第十五條　地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ砂防ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十六條　砂防工事ニシテ他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生スル程度ニ於テ其ノ原因タル工事、作業其ノ他ノ行爲ニ關シ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得但シ河川法第三十二條第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　砂防工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十八條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ヲ負擔トス
主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ義務者ノ履行スヘキ義務ヲ自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徵スルコトヲ得

第十九條　公共團體ハ砂防工事若ハ砂防ニ關スル費用ノ爲寄附ヲナスコトヲ得

第二十條　公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスニトヲ得

第二十一條　公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第二十二條　砂防工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第二十三條　砂防ノ爲必要ナルトキハ行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ニ立入リ又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル障害物ヲ除却スルコトヲ得
前項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條　第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ所有者若ハ關係人ハ行政廳若ハ其命ヲ受ケタル私人ニ於テ其ノ土地ニ砂防工事ヲ施行シ又ハ砂防設備ノ維持ヲナスコトヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條　法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第二十六條　此ノ法律ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ補償金若ハ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第二十七條　砂防設備ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス但シ地方行政廳ハ其ノ收入ヲ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地若ハ其ノ土地ニ在ル森林ノ所有者又ハ其ノ砂防設備ノ施設者ニ下付スルコトヲ得

第二十八條　砂防設備ノ現在スル土地若ハ森林ノ所有者ニ下付スルコトヲ得
其ノ砂防設備ノ現在スル土地若ハ森林ノ所有者ニ下付スルコトヲ得

第四章　警察、監督及强制手續

第二十九條　第四條ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ一定ノ事項ニ對シ許可ヲ受ケシメタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ效力ヲ停止シ若ハ其條件ヲ變更シ又ハ設備ノ變更若ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得

第三十條　法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生スル事實ヲ更正シ且其ノ違背ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第三十一條　地方行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地監視ノ爲竝砂防設備管理ノ爲吏員ヲ置クヘシ其ノ定員、給料、手當、職務權限竝其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條　主務大臣ハ砂防ニ關スル行政ヲ監督ス
地方行政廳ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方行政廳ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條及**第二十條**ニ規定シタル事項竝此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第三十三條　他ノ府縣若ハ地府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ砂防工事ヲ施行セシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第三十五條　義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキ時又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サル時ハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第三十六條　私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ一定ノ期限ヲ示シ若シ期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ百圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第三十七條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ保證金ヲ納付セシメタル場合ニ於テハ行政廳ニ於テ直ニ之ヲ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得
前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第三十八條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅・滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付テ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スル者トス

此ノ法律若ハ此法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ハ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第三十九條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ强制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第四十條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ砂防視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第四十一條　此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以內ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五章　訴願及訴訟

第四十二條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方行政廳ニ訴願シ地方行政廳ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十三條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第四十四條　第二十五條ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、令令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續又ハ監督官廳ノ決定ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニアラサレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第四十五條　第二十二條若ハ第二十三條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但第二十三條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後六箇月以內ニ其金額ノ通知ヲナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十六條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第六章　附則

第四十七條　此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條　第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ在ル從來ノ砂防ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規程ニ依ル

附　則（大正十三年七月法律第三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十三年七月十八日官報）

砂防法施行規程

（明治三十年十月二十六日勅令第三百八十二號）

第一條　內務大臣ニ於テ砂防法第二條ニ依リ指定スル土地ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二條　砂防法第三條ニ依リ同法ニ規定シアル事項ヲ準用スヘキ施設物ハ府縣知事ニ於テ其ノ地力ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示スヘシ其ノ準用スヘキ事項ハ府縣令ヲ以テ之ヲ定ム但シ同法第十三條及第十四條ニ規定シタル事項ハ之ヲ準用スルコトヲ得ス

第三條　砂防法第四條ニ依リ禁止若ハ制限スヘキ行爲ハ同條第一項ノ場合ニ於テハ府縣令ヲ以テ第二項ノ場合ニ於テハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　砂防法第六條第一項ニ依リ內務大臣ニ於テ砂防設備ヲ管理シ又ハ其ノ維持ヲナス場合ニ於テハ其ノ砂防設備ヲ、其ノ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ砂防設備工事ノ施行區域及起工年度ヲ官報ヲ以テ告示スヘシ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

砂防法第六條第二項ニ依リ內務大臣ニ於テ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムル場合ニ於テモ亦前二項ノ例ニ依ル

第五條　內務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理又ハ其ノ維持ヲナストキハ內務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條　砂防法第二十二條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシメムトスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ物件所在地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第七條　砂防法第二十三條ニ依リ府縣知事、郡長、市參事會、町村長、町村組合長又ハ水利組合ノ管理者ニ於テ內務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ヲ材料置場等ニ供セムトスルトキハ少クトモ五日前ニ又之ニ現在スル障害物ヲ除去セムトスルトキハ少クトモ十五日前ニ其ノ場所若ハ障害物ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第八條　行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ砂防工事ヲ施行セムトスルトキハ少クトモ七日前ニ之ヲ其ノ土地所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第九條　砂防ニ關スル費用ノ豫算ニシテ砂防法第二條ニ依ル土地ノ指定前ニ確定シタルモノハ其ノ指定ノ爲其ノ效力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第十條　砂防法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ハ從來許可ヲ受ケタルモノト雖內務大臣又ハ府縣知事ノ定ムル所ノ期

限内ニ於テ更ニ其ノ許可ヲ受クヘシ

砂防行政監督令（大正十五年八月二十六日勅令第二百九十一號）

第一條　砂防法又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ於リ市町村、市町村組合、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル砂防行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第二條　左ニ掲クル事項竝ニ其ノ變更、停止及廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一　砂防法第三條ノ規定ニ依ル準用

二　砂防法第四條ノ規定ニ依リ府縣知事ニ於テ禁止若ハ制限スヘキ一定ノ行爲

三　砂防法第七條ノ規定ニ依ル砂防工事ノ施行ニ關スル府縣知事ノ處分但シ輕易ナル修繕工事ニ關スルモノヲ除ク

四　砂防法第十三條ノ規定ニ依リ國庫ノ補助ヲ受クル砂防工事ノ計畫但シ一設計内ニ於ケル變更ニシテ當初計畫ノ目的ヲ達シ得ヘキモノヲ除ク

五　砂防法第十五條ノ費用ノ負擔方法但シ砂防設備ノ維持又ハ輕易ナル修繕工事ニ係ルモノヲ除ク

六　砂防法第十六條ノ費用ニシテ國ニ於テ施行スル工事ニ原因スルモノノ負擔方法

七　國庫ノ補助ヲ受ケテ施設シタル砂防設備ノ公用廢止

第三條　左ニ掲クル事項竝ニ其ノ變更、停止及廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一　砂防法第二十三條ノ規定ニ依リ下級行政廳ノ爲スヘキ障害物ノ除却

二　砂防法第三十條ノ規定ニ依ル下級行政廳ノ處分

第四條　本令ニ依リ認可ヲ要スル事項ニ付テハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ輕易ナル事項ニ限リ認可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第三章　水利組合

水利組合法（明治四十一年四月十三日法律第五十號）

【沿革】大正十五年六月法律第七九號改正

第一章　總則

第一條　水利土功ニ關スル事業ニシテ特別ノ事情ニ依リ府縣其ノ他ノ地方公共團體ノ事業ト爲スコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ水利組合ヲ設置スルコトヲ得

第二條　水利組合ハ法人トス

第三條　水利組合ハ組合規約ヲ設ケ組合ニ關スル重要ノ事項ヲ規定スヘシ

組合規約ハ之ヲ告示スヘシ其ノ改正アリタルトキ亦同シ

第四條　水利組合ハ分チテ左ノ二種トス

一　普通水利組合

二　水害豫防組合

第五條　普通水利組合ニ灌漑排水ニ關スル事業ノ爲設置スルモノトス

第六條　普通水利組合ハ組合事業ノ爲利益ヲ受クル土地ヲ以テ區域トシ其ノ區域内ニ於テ土地ヲ所有スル者ヲ以テ組合員トス但シ舊慣アルモノハ其ノ舊慣ニ依リ區域ヲ畫スルコトヲ得

第七條　水害豫防組合ハ水害防禦ニ關スル事業ノ爲設置スルモノトス

第八條　水害豫防組合ハ水害ヲ受クヘキ土地ヲ以テ區域トシ其ノ區域内ニ於テ土地、家屋及組合規約ニ指定スル工作物ヲ所有スル者ヲ以テ組合員トス但シ舊慣アルモノハ其ノ舊慣ニ依リ區域ヲ畫スルコトヲ得

第九條　水害豫防組合ニ於テ其ノ區域全部ニ渉リ灌漑排水ニ關スル事業ノ必要アルトキハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事業ヲ兼營スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ灌漑排水ノ事業ニ關スル部分ニ付テハ普通水利組合ノ規定ヲ準用ス

第二章　組合ノ設置及廢止

第十條　水利組合ヲ設置セムトスルトキハ府縣知事ニ於テ組合區域ヲ指定シ關係地ノ市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ但シ普通水利組合ノ設置ニ付テハ組合員タルヘキ者五人以上ノ申請又ハ組合事業ニ關係アル市町村長ノ具申アル場合ニ限ル

第三十三條第三項ノ規定ニ創立委員ニ之ヲ準用ス

第十一條　創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ關係者ノ總會議ニ付スヘシ關係者百人以上アルトキハ府縣知事ノ許可ヲ得テ便宜總代人ヲ選ハシメ其ノ集會ヲ以テ總會議ニ充ツルコトヲ得

總會議又ハ總代人會ノ議長ハ創立委員ヲ以テ之ニ充ツ創立委員數人アルトキハ府縣知事其ノ中一人ヲ指定ス

總會議又ハ總代人會ハ關係者又ハ總代人ヲ三分ノ二以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ特別ノ事情アルトキハ創立委員ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ關係者又ハ總代人ノ代人ヲ許スコトヲ得

總會議又ハ總代人會ノ議事ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

總會議費又ハ總代人會費其ノ他創立ニ關スル費用ハ組合設置ノ後組合費ヨリ之ヲ支辨スヘシ

第十二條　創立委員ハ組合規約ノ議決ヲ經タルトキ府縣知事ニ其ノ許可ヲ請フヘシ

第十三條　普通水利組合關係者ノ總會議又ハ總代人會ニ於テ議決シタル組合規約又ハ其ノ議決ノ方法法令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

水害豫防組合關係者ノ總會議若ハ總代人會成立セス又ハ其ヲ議決スヘキ事件ヲ議決セス又ハ議決スルモ其ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

第十四條　水利組合ハ組合規約ノ許可又ハ前條第二項ニ依ル組合ハ規約ノ規定ニ依リ成立ス

前項ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ組合設置ノ旨ヲ告示スヘシ

第十五條　水利組合ノ設置分合又ハ區域ノ變更ハ普通水利組合ニ在リテハ組合會ノ議決又ハ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ之ヲ行ヒ水害豫防組合ニ在リテハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ行フ

前項ノ場合ニ於テ組合規約ノ設定若ハ改正又ハ財産處分ヲ要スルトキハ組合會ノ議決又ハ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ但シ水害豫防組合ニ於テ協議調ハサルトキハ府縣知事之ヲ定ム

水利組合ハ民法上ノ義務ヲ完了スルニ非サレハ之ヲ廢止スル事ヲ得ス

普通水利組合ノ區域ヲ變更スル場合ニ於テ新ニ組合區域ニ編入セラルル土地アルトキハ管理者ハ其ノ土地ノ關係者ノ同意又ハ關係者ノ總會議若ハ總代人會ノ同意ヲ得ルヲ要ス

前項總會議又ハ總代人會ニ關シテハ第十一條ノ規定ヲ準用ス但シ創立委員ノ職務ハ管理者之ヲ行フ

第十六條　水利組合ノ廢置分合又ハ區域ノ變更アリタルトキハ府縣知事ハ之ヲ告示スヘシ

第三章　組合ノ會議

第十七條　水利組合ニ組合會ヲ置ク

第十八條　組合會議員ハ其ノ被選擧權アル者ニ就キ選擧人之ヲ選擧ス

組合會議員選擧人被選擧人ノ資格議員ノ定數任期及選擧ニ關スル事項ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

組合會議員ノ選擧ヲ終リタルトキハ管理者ハ直ニ選擧錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ第一次監督官廳ニ報告スヘシ

當選者定リタルトキハ管理者ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ第一次監督官廳ニ報告スヘシ

組合會議員ノ選擧ニ付テハ衆議院議員選擧ニ關スル罰則ヲ準用ス

第十九條　選擧ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選擧ノ全部又ハ一部ヲ無效トス

當選者ニシテ被選擧權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無效トス

第二十條　選擧人選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧ニ關シテハ選擧ノ日ヨリ當選ニ關シテハ告示ノ日ヨリ七日以內ニ之ヲ管理者ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ管理者ハ十四日以內ニ組合會ノ決定ニ付スヘシ

組合會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ之ヲ決定スヘシ

前項組合會ノ決定ニ不服アル者ハ第一次監督官廳ニ訴願スル事ヲ得

第一次監督官廳ニ於テ選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧又ハ當選ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ之ヲ處分スル事ヲ得

前項ノ處分アリタルトキハ其ノ前後ニ爲シタル異議ノ申立及組合會ノ決定ハ無効トス

本條第一次監督官廳ノ處分又ハ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

組合會議員ハ選擧又ハ當選ニ關スル異議ノ決定訴願ノ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第二十一條　組合會議員ニシテ被選擧權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選擧權ニ關スル異議ハ組合會之ヲ決定ス

管理者ニ於テ組合會議員中被選擧權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ組合會ノ決定ニ付スヘシ

本條組合會ノ決定ニ不服アル者ハ第一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十條第六項ノ規定ハ本條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條　前二條ニ規定スル異議ノ決定訴願ノ裁決及第二十條第三項ノ處分ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第二十三條　組合會ハ組合ニ關スル事件ヲ議決ス

組合會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一　組合規約ヲ設定改正スル事

二　組合費ヲ以テ支辨スヘキ事業

三　歲入出豫算ヲ定ムル事

四　決算報告ヲ認定スル事

五　法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料手數料加入金組合費及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

六　不動產ノ管理處分及取得ニ關スル事

七　積立基金ノ設置管理及處分ニ關スル事

八　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

九　財產及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

十　組合吏員ノ身元保證ニ關スル事

十一　組合ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事

第二十四條　組合會ハ組合ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閱シ管理者ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ執行及出納ヲ檢查スルコトヲ得

組合會ハ議員中ヨリ委員ヲ選擧シ管理者又ハ其ノ指定シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項組合會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十五條　組合會ハ管理者ヲ以テ議長トス管理者故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ代理ス管理者及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選擧スヘシ

組合會ハ組合ノ區域數市町村ニ涉ルモノニ在リテハ組合規約ヲ以テ議員中ヨリ議長副議長各一人ヲ選擧スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ前項ノ例ニ依ル

前項選擧ニ關スル事項ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

議員中ヨリ議長ヲ選擧スル場合ニ在リテハ議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ管理者ニ報告スヘシ

第二十六條　管理者及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ於テ議事ニ付辯明ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　組合會ハ每年一回通常會ヲ開キ其ノ他臨時ノ必要アル每ニ臨時會ヲ開ク

臨時會ニ付スヘキ事件ハ招集ノ告知ト共ニ之ヲ告知スヘシ但シ其ノ開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ管理者ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

組合會ハ管理者之ヲ招集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキハ管理者之ヲ招集スヘシ

管理者ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ組合會ヲ招集スルコトヲ得

組合會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　管理者ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二　議長ニ於テ傍聽禁止ノ必要アリト認メタルトキ

三　議員三人以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項第三號ニ依ル發議ハ討論ヲ用ヰス其ノ可否ヲ決スヘシ

招集ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

組合會ハ管理者之ヲ開閉ス

第二十八條　組合會ハ議員定數ノ半數以上ニ出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサ

ルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ更ニ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　組合會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十條　組合規約ノ設定改正及普通水利組合ノ廢置分合又ハ區域ノ變更ニ關スル議決ハ議員定數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第三十一條　組合會ノ職務權限及處務規程ニ關シテハ本章中規定スルモノノ外市制町村制ノ規定ヲ準用ス

第三十二條　特別ノ事情アル組合ニ於テハ府縣知事ハ組合會ヲ設ケス組合員ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得但シ總會ニ出席スヘキ組合員ニ關シテハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル

組合總會ニ關シテハ組合會ニ關スル規定ヲ準用ス

第四章　組合ノ管理

第三十三條　府縣知事ハ水利組合關係地ノ市町村長ノ内一人ヲ指定シ其ノ組合ノ事務ヲ管理セシムヘシ但シ府縣知事必要アリト認ムルトキハ官吏ヲ指定シ組合ノ事務ヲ管理セシムルコトヲ得

府縣知事ニ於テ管理者ヲ指定シタルトキハ直ニ之ヲ告示スヘシ

管理者タル市町村長故障アルトキハ其ノ代理者之ヲ代理ス

組合ノ區域數市町村ニ涉ル場合ニ於テ選擧區又ハ選擧分會ヲ設ケタルトキハ各市町村長又ハ其ノ代理者ハ管理者ノ求ニ依リ議員選擧ニ關スル事務ヲ管理スヘシ組合員及組合費賦課物件ノ異動ニ關スル事務ニ付テモ亦同シ

第三十四條　組合ノ出納其ノ他會計事務ハ官吏管理者タル場合ハ府縣知事ノ指定シタル官吏又ハ府縣吏員ヲシテ之ヲ掌ラシメ市町村長管理者タル場合ハ其ノ市町村收入役ヲシテ之ヲ掌ラシムヘシ

特別ノ事情アル場合ニ於テハ管理者ニ於テ第三十六條ノ吏員中ニ就キ會計事務ヲ掌ル者ヲ定ムルコトヲ得

前項會計事務ヲ掌ル吏員ニ付テハ第一次監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十五條　組合ハ組合規約ヲ以テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十六條　組合ハ書記技術員其ノ他ノ有給吏員ヲ置クコトヲ得

吏員ハ管理者之ヲ任免ス

第三十七條　管理者ハ組合ヲ代表シ組合一切ノ事務ヲ擔任ス

管理者ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　組合會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事

二　財產及營造物ヲ管理スル事

三　收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

四　證書及公文書類ヲ保管スル事

五　法令又ハ組合會ノ議決ニ依リ使用料手數料加入金組合費及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

第三十八條　管理者ハ組合吏員ヲ指揮監督シ其ノ任命ニ係ル組合吏員ニ對シテハ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

第三十九條　組合會ノ議決若ハ選擧其ノ權限ヲ超エ又ハ法令若ハ組合規約ニ背クト認ムルトキハ管理者ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シ其ノ執行ヲ停止シ

之ヲ再議ニ付シ又ハ再選擧ヲ行ハシメ仍議決ニ付テハ其ノ議決ヲ改メサルトキハ第一次監督官廳ノ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ指揮ヲ請フコトヲ得

監督官廳ハ前項ノ議決又ハ選擧ヲ取消スコトヲ得但シ指揮ノ申請アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前二項府縣知事ノ處分ニ不服アル組合會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

組合會ノ議決公益ヲ害シ又ハ組合ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ管理者ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シ其ノ執行ヲ要スルモノニ任リテハ其ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ第一次監督官廳ノ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ指揮ヲ請フコトヲ得

前項第一次監督官廳ノ處分ニ不服アル組合會ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第四十條　組合會成立セス又ハ第二十八條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開カコト能ハサルトキハ管理者ハ第一次監督官廳ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

組合會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサル時ハ前項ノ例ニ依ル

組合會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル管理者ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スヘシ

第四十一條　組合會ノ權限ニ屬スル事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ組合會成立セス又ハ管理者ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ管理者ハ專決處分シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スヘシ

前項管理者ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十二條　委員ハ管理者ノ指揮監督ヲ承ケ財產又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他組合事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第四十三條　吏員ハ管理者ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十四條　組合會議員及委員ハ職務ノ爲要スル費用ヲ辨償ヲ受クルコトヲ得官吏又ハ市町村長ニ於テ管理者タル職務ヲ行フ爲要スル費用第三十三條第四項ノ事務ヲ行フ爲要スル費用及官吏、府縣吏員又ハ市町村收入役ニ於テ組合ノ會計事務ヲ行フ爲要スル費用ニ付亦同シ

吏員ニハ退隱料退職給與金死亡給與金及遺族扶助料ヲ支給スルコトヲ得

第四十五條　費用辨償額給料額旅費額及其ノ支費方法ハ組合會ノ議決ヲ經第一次監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム

退隱料退職給與金死亡給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ組合會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム

第四十六條　費用辨償給料旅費退隱料退職給與金死亡給與金及遺族扶助料ハ組合ノ負擔トス

第五章　組合ノ財務

第四十七條　組合ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令ニ依リ組合ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第四十八條　普通水利組合費ハ土地ニ對シテ之ヲ賦課シ水害豫防組合費ハ土地及家屋其ノ他第八條ニ依ル工作物ニ對シテ之ヲ賦課スルモノト

ス但シ特別ノ事情アルモノハ土地ニ對シテノミ之ヲ賦課スルコトヲ得

普通水利組合ニ於テハ新ニ區域内ニ編入スル土地ニ付組合費ノ外一時ノ加入金ヲ徵收スルコトヲ得

第五十九條　組合ハ其ノ事業ノ爲夫役現品ヲ組合員ニ賦課スル事ヲ得

水害豫防組合ニ在リテハ夫役ニ限リ其ノ區域内ノ總居住者ニ之ヲ賦課スルコトヲ得

夫役現品及其ノ代納ニ關スル規定ハ組合規定ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第六十條　非常災害ノ爲必要アルトキハ組合ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ現品ヲ使用シ若ヘ敢用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スルコトヲ要ス

水害豫防組合ニ於テハ前項ノ外出水ノ爲危險アルトキニ限リ管理者警察官又ハ監督官廳ニ於テ組合區域内ノ總居住者ヲシテ防禦ニ從事セシムルコトヲ得

第一項ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ決定ス其ノ定決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第一項土地ノ一時使用ニ關スル組合ノ處分ニ不服アル者ハ第一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スル事ヲ得

第六十一條　組合内ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ組合ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ組合内ノ一部ニ對シ特ニ賦課スルコトヲ得

舊慣アルモノハ組合規約ヲ以テ特別ノ賦課方法ヲ定ムルコトヲ得

第六十二條　組合費ノ賦課ヲ免除スヘキモノニ關シテハ市町村稅ノ例ニ依ル

第六十三條　組合ハ其ノ營造物ヲ事業ノ妨害ト爲ラサル範圍内ニ於テ他ノ目的ニ使用セシムルコトヲ得

前項ノ使用ニ付テハ使用料ヲ徵收スルコトヲ得

第六十四條　組合ノ區域數市町村ニ涉ルトキハ各市町村ハ管理者ノ求ニ依リ其ノ市町村内ニ於ケル組合費其ノ他組合ノ收入ノ賦課徵收ヲ爲スヘシ

前項組合費其ノ他組合ノ收入ノ徵收ニ關シテハ組合規約ノ規定ニ依リ徵收金百分ノ四以内ヲ其ノ市町村ニ交付スルコトヲ得

第六十五條　市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ組合費其ノ他組合ノ收入ヲ失ヒタルトキハ其ノ納入義務免除ヲ組合ニ請求スルコトヲ得

組合ニ於テ前項ノ請求ニ應セサルトキハ市町村ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ組合ノ第一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ對シテハ組合ヨリモ亦訴願ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ裁決書ハ之ヲ市町村及組合ニ交付スヘシ

第六十六條　組合費其ノ他組合ノ收入ノ督促及滯納處分ニ關シテハ市町村稅ノ例ニ依ル

前項ノ場合ニ關シテハ第五十四條第一項ノ規定ヲ準用ス

第六十七條　組合費其ノ他組合ノ收入ノ督促ニ付テハ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

前條第二項ノ場合ニ於テハ前項ノ督促手數料ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ組合ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

第五十八條　管理者ハ組合費ノ賦課ヲ受ケタル者ノ中特別ノ事情アル者ニ對シ會計年度内ニ限リ其ノ納付ノ延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ組合會ノ議決ヲ經ヘシ

管理者ハ特別ノ事情アル者ニ限リ組合會ノ議決ヲ經テ組合費ヲ減免スルコトヲ得

第五十九條　組合費及夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ賦課令狀ノ交付後三月以内ニ管理者ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

加入金使用料及手數料ノ徵收ニ付テモ亦前項ノ例ニ依ル

本條ノ異議ハ組合會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ第一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

組合費其ノ他組合ノ收入ノ滯納處分ニ不服アル者ハ第一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所出ニ訴スルコトヲ得

組合費其ノ他組合ノ收入ノ滯納處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第六十條　組合ハ特定ノ目的ノ爲積立基金ヲ設クルコトヲ得

第六十一條　組合ハ其ノ事業ノ關係上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第六十二條　組合ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ組合永久ノ利益トナルヘキ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲已ムヲ得サル場合ニ限リ組合債ヲ起スコトヲ得

組合債ヲ起スニ付組合會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

組合ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第六十三條　管理者ハ毎會計年度ノ歲入出豫算ヲ調製シ會計年度前通常組合會ノ議決ニ付スヘシ

管理者ハ組合會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲ス事ヲ得

組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

第六十四條　組合費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ組合會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第六十五條　豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

豫備費ハ組合會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第六十六條　豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ第一次監督官廳ニ報告シテ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第六十七條　組合會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ管理者ヨリ其ノ謄本ヲ組合ノ會計事務ヲ掌ル官吏吏員ニ交付スヘシ

會計事務ヲ掌ル官吏吏員ハ管理者又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナキトキ又ハ豫備費支出及費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依ラサルトキ亦同シ

第六十八條　組合ノ支拂金ニ關スル時效ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第六十九條　組合ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ閉鎖ス

決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ證書類ヲ併セテ會計事務ヲ掌ル官吏吏員ヨリ之ヲ管理者ニ提出スヘシ管理者ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常會迄ニ組合會ノ認定ニ付スヘシ

決算及其ノ認定ニ關スル組合會ノ議決ハ之ヲ第一次監督官廳ニ報告シ且決算ハ其ノ要領ヲ告示スヘシ

決算ノ認定ニ關スル會議ニ於テハ管理者及其ノ代理者共ニ議長タルコトヲ得ス

第七十條　豫算調製ノ式及費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第六章　組合ノ聯合

第七十一條　水利組合ニ於テ共同事業ヲ爲スノ必要アルトキハ其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ水利組合ノ聯合ヲ設クルコトヲ得

水利組合聯合ハ之ヲ法人トス

水利組合聯合ニシテ其ノ聯合組合ノ數ヲ增減シ又ハ共同事業ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ組合ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ其ノ聯合ヲ解カムトスルトキ亦同シ

水利組合聯合ニ關シテハ水利組合ニ關スル規定ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項及特ニ必要ナル事項ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第七章　組合ノ監督

第七十二條　組合ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

監督官廳ハ組合事務ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲ス事ヲ得

土木監督官廳ハ下級監督官廳ノ組合事務ニ關シテ爲シタル命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

第七十三條　本法ニ規定スル異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ其ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

本法ニ規定スル行政訴訟ハ處分ヲ爲シ又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ其ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ提起スヘシ

本法ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ理由ヲ付シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

本法ニ規定スル異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第七十四條　監督官廳ハ必要アル場合ニ於テハ期間ヲ定メテ組合會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第七十五條　内務大臣ハ組合會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

組合會解散ノ場合ニ於テハ三月以内ニ議員ヲ選擧スヘシ

第七十六條　組合ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依リ命スル所ノ費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ第一次監督官廳ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

組合又ハ管理者其ノ他ノ官吏吏員ニ於テ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ第一次監督官廳ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ組合ノ負擔トス

本條ノ處分ニ不服アル組合又ハ管理者其ノ他ノ官吏吏員ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十七條　組合ニ於テ負債ヲ起シ並起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ變更セムトスルトキハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ第六十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條　左ニ掲クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

一　組合規約ヲ設定改正スル事

二　不動産ノ管理及處分ニ關スル事

三　不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ組合内ノ一部ニ對シ特ニ賦課ヲ爲ス事

四　加入金使用料手數料ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事

五　積立基金ノ設置管理及處分ニ關スル事

六　寄附及補助ヲ爲ス事

七　繼續費ノ定メ又ハ變更スル事

第七十九條　組合ノ事務ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第八十條　組合ノ事務ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事件中其ノ輕易ナルモノハ命令ノ規定ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任スルコトヲ得

第八十一條　監督官廳タル府縣知事ハ第三十五條ノ委員及第三十六條ノ吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

府縣知事ノ行ヒタル解職ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得府縣知事ハ吏員ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命シ且場合ニ依リ給料又ハ報酬ヲ支給セシメサルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間水利組合ノ公職ニ選擧セラレ又ハ任命セラルルコトヲ得ス

第八十二條　組合吏員ノ服務紀律賠償責任身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八章　雜則

第八十三條　本法ノ規定ニ依リ初テ議員ヲ選擧スル場合ニ於テ組合會ノ議決スヘキ事項ハ其ノ成立ニ至ル迄管理者ニ於テ之ヲ行フヘシ

第八十四條　本法ノ規定ニ依リ府縣知事ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ内務大臣ニ於テ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事ヲ指定スヘシ

第八十五條　本法ハ市制町村制ヲ施行セサル地ニハ之ヲ施行セス勅令ヲ以テ別ニ其ノ制ヲ定ム

附　則

第八十六條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

水利組合條例ハ之ヲ廢止ス

第八十七條　本法施行ノ際現ニ存スル水利組合ハ本法ニ依リ設置シタルモノト看做ス

第八十八條　水利組合條例ニ依リ爲シタル諸般ノ行爲ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第八十九條　水利組合條例ニ依リ爲シタル處分ニ對スル異議訴願又ハ訴訟ニ關シテハ水利組合條例ニ依ル

第九十條　本法施行ノ際現ニ存スル市町村會又ハ水利土功會ニシテ其ノ

目的トスル事業カ本法ノ規定ニ抵觸セサルトキハ之ヲ本法ノ規定ニ依リ設置シタル水利組合ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ從來ノ吏員及議員ハ總テ其ノ職ヲ失フモノトス

第一項ノ水利組合及其ノ管理者ハ府縣知事ニ於テ直ニ之ヲ告示スヘシ

前項ノ告示アリタルトキハ管理者ハ遲滯ナク組合規約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

附　則（大正十五年法律第七九號）

本法ハ郡長廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

水利組合法改正經過規程

（大正十五年六月二十四日 勅令第二百十八號）

第一條　從前ノ規定ニ依リ郡長ニ爲シタル許可、認可若ハ指揮ノ申請又ハ訴願ニシテ大正十五年六月三十日迄ニ許可、認可若ハ指揮ヲ得ス又ハ裁決ナキモノハ之ヲ新規定ニ依リ府縣知事ニ爲シタル許可、認可若ハ指揮ノ申請又ハ訴願ト看做ス

第二條　從前ノ規定ニ依リ郡長ノ爲シタル處分又ハ裁決ニ關スル訴願ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル、此ノ場合ニ於テハ訴願ノ提起ハ處分又ハ裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由スルコトヲ要セス

前項ノ訴願ノ裁決ニ對スル訴願及訴訟ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四章　下水道

下水道法（明治三十三年三月七日 法律第三十二號）

第一條　本法ニ於テ下水道ト稱スルハ土地ノ清潔ヲ保持スル爲汚水雨水疎通ノ目的ヲ以テ布設スル排水管其ノ他ノ排水線路及其ノ附屬裝置ヲ謂フ

本法ニ於テ築造ト稱スルハ新築改築及增築ヲ包含ス

第二條　市ニ於テ下水道ヲ築造セムトスルトキハ其ノ設計工費ノ收支豫算及起工竣功ノ期限ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ命令ヲ以テ定ムル種類ノ改築又ハ增築工事ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第三條　下水道ヲ設ケタル地ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ市又ハ土地ノ所有者使用者若ハ占有者ハ汚水雨水ヲ下水道ニ疎通スル爲必要ナル施設ヲ爲シ之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ

市ニ於テ前項ノ施設ヲ爲シ及之ヲ管理スル場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依リ其ノ費用ヲ土地ノ所有者使用者又ハ占有者ヨリ徵收スルコトヲ得

第四條　前條ノ場合ニ於テ甲地ノ汚水雨水ヲ疎通スル爲必要アルトキハ乙地ニ汚水雨水ヲ通過セシメ又ハ乙地ノ汚水雨水ヲ通過セシムル爲設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得但シ乙地ノ爲ニ損害最少キ場所及方法ヲ選ムヘシ

前項ニ依リ他人ノ工作物ヲ使用スル者ハ其ノ利益ヲ受クル割合ニ應シテ工作物ノ施設及管理ノ費用ヲ負擔スヘシ

第五條　下水道ヲ築造シ若クハ之ヲ管理シ又ハ第三條ノ施設ヲ爲シ若クハ之ヲ管理スル爲必要アルトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ之カ爲他人ノ受ケタル損害ニ對シ償金ヲ拂フコトヲ要ス

第六條　當該吏員ハ下水道又ハ第三條ノ施設ノ實況ヲ監視スル爲其ノ事由ヲ告知シテ私人ノ土地ニ立入ルコトヲ得

第七條　下水道ノ用地ニ必要ナル國有ノ土地ハ之ヲ市ニ讓與シ又ハ無償ニテ使用セシムルコトヲ得

第八條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ當該吏員ニ於テ之ヲ施行シ其ノ費用ハ市ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ必要ノ時限内ニ履行シ得スト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ市ハ市稅ノ例ニ依リ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得

第十條　市ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ町村ノ委託ヲ受ケ町村ノ全部又ハ一部ノ爲ニ其ノ下水道ヲ築造スルコトヲ得

第十一條　内務大臣ハ必要ト認ムルトキハ下水道ノ築造ヲ市ニ命スルコトヲ得

附　則

第十二條　本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條　本法ハ東京市區改正ニ關スル規定ノ效力ヲ妨ケス

第十四條　本法ノ規定ハ之ヲ區町村ニ準用ス

下水道法施行規則（明治三十四年七月十日 内務省令第二十一號）

【沿革】大正六年十月省令第二三號改制

第一條　土地ノ所有者使用者又ハ占有者ハ左ノ區分ニ依リ下水道法第三條ノ施設ヲ爲シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ但シ本則第二條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

一　建物アル土地ニアリテハ之カ築造及修繕ハ其ノ建物ノ所有者

二　建物ナキ土地ニアリテハ之カ築造及修繕ハ其ノ土地ノ所有者

三　建物ノ有無ニ拘ハラス之カ掃除及浚渫ハ土地ノ占有者

第二條　市ハ下水道法第三條ノ施設ニシテ公道ニ屬スル部分ヲ築造シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ

市ハ土地ノ狀況ニ依リ下水道法第三條ノ施設ニシテ公道以外ニ屬スル部分ヲ築造シ又ハ之ヲ管理スルコトヲ得

第三條　市ハ下水道ノ改築又ハ增築工事ニシテ工費壹萬圓未滿ノモノニ關シテハ下水道法第二條ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス

第四條　當該吏員下水道法第六條ニ依リ私人ノ土地ニ立入ル場合ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十二條ノ規定ヲ準用ス

第五條　下水道　第八條第二項ノ戒告及第九條ノ費用徵收ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十三條及第十四號ノ規定ヲ準用ス

第六條　下水道ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第四條第三項及第七條ノ規程ヲ準用ス

下水道及下水道法第三條ノ施設ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十五條ノ規定ヲ準用ス

第七條　東京市及八王子市ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監及東京府知事之ヲ行フ

第八編　警察、衛生

第八編　警察、衛生

第一章　警察、保安及風俗

△治安警察法……一
△行政執行法……三
△行政執行施行令……四
△代書人規則……五
△治安警察法第十八條ニヨリ戈器其ノ他ノ物件携帶禁止ノ件……七
△治安維持法……七
△懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖方法提供ノ行爲制限方……七
△射倖行爲取締ニ關スル件……八
△暴利ヲ目的トスル賣買ノ取締ニ關スル件……八
△未成年者飲酒禁止法……八
△未成年者喫煙禁生法……九
△娼妓取締規則……九
△勞働者募集取締令……一〇
△廣告物取締法……一四

第二章　銃砲火藥

△銃砲火藥類取締法……一四
△銃砲火藥類取締法施行規則……一七

第三章　消防

△消防組規則……二三
△消防組點檢規則……二四

第四章　狩獵

△狩獵法……二五
△狩獵法施行規則……二七

第五章　模造

△通貨及證券模造取締法……三三
△紙幣類似證券取締法……三三
△印紙模造取締規則……三三

第六章　出版

△出版法……三四
△出版法ニ據リ刻版印本ヲ差押ヘタルトキ取扱處分方……三六
△豫約出版法……三六

第七章　新聞紙

△新聞紙法……三八

第八章　古物商及質屋

△古物商取締法……四一
△古物商取締法細則……四三
△質屋取締法……四四
△質屋取締法細則……四六
△公益質屋法……四六

第九章　遺失物及拾得物

△遺失物法……四八
△遺失物法施行細則……五〇
△捨得届出ニ係ル郵便爲替及小爲替券處理ニ關スル件……五〇
△拾得金貨取扱方……五一
△拾得物件ノ時効ニ關スル件……五一

第十章　自動車取締

△自動車取締令……五一

第十一章　精神病院

△精神病院法……五五
△精神病院法施行令……五六
△精神病院法施行規則……五六

第十二章　衛生

第一節　醫師

△醫師法……五七
△醫師法施行規則……五九
△齒科醫師法……六一
△齒科醫師法施行規則……六二
△齒科醫師法第一條第三號ノ資格ニ關スル件……六四
△醫師會令……六五
△齒科醫師會令……六九
△死亡診斷書死體檢案書並死産證書死胎檢案書記載方ノ件……七三

第二節　獸醫、産婆、看護婦

△獸醫師法……七三
△獸醫師法施行規則……七五
△獸醫師會令……七七
△産婆規則……八〇
△看護婦規則……八二

第三節　藥劑師

△藥劑師法……八四
△藥劑師法施行規則……八六
△藥劑師會令……八八

第四節　藥品

△賣藥法……九二
△賣藥法施行規則……九三

△阿片法……九五
△阿片法施行規則……九七
△關東州阿片令……九九
△關東州阿片令施行規則……一〇〇

第五節　飲食物

△清凉飲料水營業取締規則……一〇二

第六節　傳染病其ノ他

△傳染病豫防法……一〇四
△種痘法……一〇九
△結核豫防法……一一〇
△結核豫防法施行令……一一二
△結核豫防法施行規則……一一四
△花柳病豫防法……一一五
△汚物掃除法……一一五
△汚物掃除法施行規則……一一六

第八編　警察、衛生

第一章　保安及風俗

治安警察法（明治三十三年三月十日法律第三十六號）

【沿革】大正十一年四月法律第五九號、同十五年四月同第五八號改正

第一條　政事ニ關スル結社ノ主幹者（支社ニ在リテハ支社ノ主幹）者ハ結社組織ノ日ヨリ三日以内ニ社名、社則、事務所及其ノ主幹者ノ氏名ヲ其ノ事務所所在地ノ管轄警察官署ニ届出ツヘシ其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第二條　政事ニ關シ公衆ヲ會同スル集會ヲ開カントスル者ハ發起人ヲ定ムヘシ

發起人ハ到達スヘキ時間ヲ除キ開會三時間以前ニ集會ノ場所、年月日時ヲ會場所在地ノ管轄警察官署ニ届出ツヘシ

届出ノ時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セス若ハ三時間以上中斷スルトキハ届出ハ其ノ效ヲ失フ

法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選擧準備ノ爲ニ選擧權ヲ行フヘキ者及被選擧權ヲ有スル者ニ限リ會同スル所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ本條第二項ノ届出ヲ要セス

第三條　公事ニ關スル結社又ハ集會ニシテ政事ニ關セサルモノト雖モ安寧秩序ヲ保持スル爲届出ヲ必要トスルモノアルトキハ命令ヲ以テ第

條又ハ第二條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第四條　屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ若ハ多衆運動セントスルトキハ發起人ヨリ十二時間以前ニ會同スヘキ場所、年月日時及其ノ通過スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ届出ツヘシ但シ祭葬、講社、學生、生徒ノ體育運動其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條　左ニ掲クル者ハ政事上ノ結社ニ加入スルコトヲ得ス

一　現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人
二　警察官
三　神官神職僧侶其ノ他諸宗教師
四　官立公立私立學校ノ教員學生生徒
五　女子
六　未成年者
七　公權剝奪及停止中ノ者

未成年者ハ公衆ヲ會同スル政談集會ニ會同シ若ハ其ノ發起人タルコトヲ得ス

公權剝奪及停止中ノ者ハ公衆ヲ會同スル政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

第六條　日本臣民ニ非サル者ハ政事上ノ結社ニ加入シ又ハ公衆ヲ會同スル政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

第七條　結社ハ法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シテ其ノ發言表決ニ付議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ規定ヲ設クルコトヲ得ス

第八條　安寧秩序ヲ保持スル爲必要ナル場合ニ於テハ警察官ハ屋外ノ集會又ハ多衆ノ運動若クハ群衆ヲ制限、禁止若ハ解散シ又ハ屋内ノ集會ヲ解散スルコトヲ得

結社ニシテ前項ニ該當スルトキハ内務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得此場合ニ於テ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條　集會ニ於テハ重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ヲ公判ニ付セサル以前ニ講談論議シ又ハ傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ヲ講談論議スルコトヲ得ス

集會ニ於テハ犯罪ヲ煽動若ハ曲庇シ又ハ犯罪人若ハ刑事被告人ヲ賞恤若ハ救護シ又ハ刑事被告人ヲ陷害スルノ講談論議ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　集會ニ於ケル講談論議ニシテ前條ノ規定ニ違背シ其ノ他安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムル場合ニ於テハ警察官ハ其ノ人ノ講談論議ヲ中止スルコトヲ得

第十一條　結社、集會又ハ多衆運動ニ關シ警察官ノ尋問アリタルトキハ主幹者、會長、發起人ニ於テ又ハ警察官ノ主タル社員若ハ主タル會同者ト認ムル者ニ於テ之ヲ答フヘシ

警察官署ハ制服ヲ著シタル警察官ヲ派遣シ政事ニ關シ公衆ヲ會同スル集會ニ臨監セシムルコトヲ得其ノ集會ニシテ政事ニ關セサルモノト雖モ安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキ亦同シ此場合ニハ發起人ニ於テ又ハ警察官ノ主タル會同者ト認ムル者ニ於テ警察官ノ求ムル席ヲ供スヘシ

第十二條　集會又ハ多衆運動ノ場合ニ於テ故ラニ喧擾シ又ハ狂暴ニ渉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ中止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ現場ヨリ退去セシムルコトヲ得

第十三條　集會及多衆ノ運動ニ於テハ戎器又ハ兇器ヲ携帶スルコトヲ得ス但定規ニ依リ戎器ヲ携帶スル者ハ此限ニアラス

第十四條　祕密ノ結社ハ之ヲ禁ス

第十五條　法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員議事準備ノ爲ニ相關結スル者ニ對シテハ第一條及第五條ヲ適用セス

第十六條　街頭其ノ他公衆ノ自由ニ交通スルコトヲ得ル場所ニ於テ文書圖書、詩歌ノ掲示、頒布、朗讀若ハ放吟又ハ言語形容其ノ他ノ作爲ヲ爲シ其ノ狀況安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ警察官ニ於テ禁止ヲ命スルコトヲ得

第十七條　（削除）

第十八條　行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スル爲必要ト認ムルトキハ戎器、爆發物又ハ戎器ヲ仕込ミタル物件ノ携帶ヲ禁スルコトヲ得

第十九條　第一條ニ違背シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處シ第一條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　第二條第一項又ハ第二項ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處シ第二項ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　第四條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處シ第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　第五條又ハ第六條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス第五條又ハ第六條ニ違背シ入社セシメタル者亦同シ

第二十三條　第八條第一項ノ制限若ハ禁止ノ命ニ違背シ又ハ解散ヲ命セラレタル後仍退散セサル者ハ二月以下ノ輕禁錮又ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條第二項ノ禁止ノ命ニ違背シタル者ハ六月以下ノ輕禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條　第九條ニ違背シ又ハ第十條ノ中止ノ命ニ違背シタル者ハ三月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條　第十一條第一項ノ尋問ニ答ヘス若ハ答フルモ實ヲ以テセス又ハ第二項ノ場合ニ於テ警察官ノ臨監ヲ拒ミ若ハ其ノ求ムル席ヲ供ヘサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　第十二條ニ依リ退去ヲ命セラレタル後仍退去セサル者ハ一月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條　第十三條ニ違背シタル者ハ三月以下ノ輕禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　祕密ノ結社ヲ組織シ又ハ祕密ノ結社ニ加入シタル者ハ六月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二十九條　第十六條ノ禁止ノ命ニ違背シタル者ハ一月以下ノ輕禁錮又ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　（削除）

第三十一條　第十八條ノ禁ヲ犯シタル者ハ六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三十二條　本法ニ關スル公訴ノ時效ハ六箇月トス

第三十三條　集會及政社法ハ之ヲ廢止ス

附　則　（大正十五年四月法律第五八號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十五年勅令第一九八號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

行政執行法

（明治三十三年六月二日法律第八十四號）

【沿革】明年四十三年四月法律第五二號改正

第一條　當該行政官廳ハ泥醉者、瘋癲者自殺ヲ企ツル者其ノ他救護ヲ要スト認ムル者ニ對シ必要ナル檢束ヲ加ヘ戎器、兇器其ノ他危險ノ虞アル物件ノ假領置ヲ爲スコトヲ得暴行、鬪爭其ノ他公安ヲ害スルノ虞アル者ニ對シ之ヲ豫防スル爲必要ナルトキ亦同シ

前項ノ檢束ハ翌日ノ日沒後ニ至ルコトヲ得ス又假領置ハ三十日以内ニ於テ其期間ヲ定ムヘシ

第二條　當該行政官廳ハ日出前、日沒後ニ於テハ生命身體又ハ財產ニ對シ危害切迫セリト認ムルトキ又ハ博奕密賣淫ノ現行アリト認ムルトキニ非サレハ現居住者ノ意ニ反シテ邸宅ニ入ルコトヲ得ス但シ旅店、割烹店其ノ他夜間ト雖衆人ノ出入スル場所ニ於テ其ノ公開時間内ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　當該行政官廳ハ密賣淫犯者若ハ其ノ前科者ニシテ尙密賣淫ノ常習アル者ニ對シ其ノ健康ヲ診斷シ若ハ指定シタル醫師ノ檢診ヲ受ケシメ傳染性疾患ニ罹リ必要アリト認ムルトキハ病院ニ入ラシメ又ハ指定シタル醫師ノ治療ヲ受ケシメ治癒ニ至ル迄指定シタル場所ニ居住セシメ其ノ外出ヲ禁止スルコトヲ得

前項療養ノ費用ハ本人又ハ媒合者ノ負擔トス但シ本人又ハ媒合者ニ於テ費用ヲ負擔スルノ資力ナシト認ムルトキハ廳府縣警察費ヲ以テ支辨スヘシ

風俗上ノ取締ヲ要スル業ヲ爲ス者ノ居住其ノ他ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　當該行政官廳ハ天災事變ニ際シ又ハ勅令ノ規定アル場合ニ於テ危害豫防若ハ衛生ノ爲必要ト認ムルトキハ土地、物件ヲ使用、處分シ又ハ其ノ使用ヲ制限スルコトヲ得

第五條　當該行政官廳ハ法令又ハ法令ニ基ツキテ爲ス處分ニ依リ命シタル行爲又ハ不行爲ノ强制スル爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコト

二　强制スヘキ行爲ニシテ他人ノ爲スコト能ハサルモノナルトキ又ハ不行爲ヲ强制スヘキトキハ命令ノ規定ニ依リ二十五圓以下ノ過料ニ處スルコト

前項ノ處分ハ豫メ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ急迫ノ事情アル場吟ニ於テ第一號ノ處分ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

行政官廳ハ第一項ノ處分ニ依リ行爲又ハ不行爲ヲ强制スルコト能ハスト認ムル時又ハ急迫ノ事情アル場合ニ非レハ直接强制ヲ爲ス事ヲ得ス

第六條　第三條及第五條ノ費用及第五條ノ過料ハ國稅徵收法ノ規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ徵收金ニ付國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第一項ノ費用及過料ニ關スル繰替支辨、收入ノ所屬其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　認可又ハ認可ヲ受クルニ非サレハ所有スルコトヲ得サル物件行政廳ノ保管ニ歸シタル場合ニ於テ其ノ所有ヲ認許スヘカラサルトキハ其ノ所有權國庫ニ歸屬ス假領置ヲ爲シタル物件ニシテ一箇年以内ニ交付ヲ請求スル者ナキトキ亦同シ

行政執行法施行令

（明治三十三年六月二日勅令第二百五十三號）

第一條　廳府縣長官ハ行政執行法第三條ノ健康診斷ヲ行フカ爲必要ナル設備ヲ爲スヘシ

前項設備ニ要スル費用ハ廳府縣警察費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第二條　生命、身體若ハ財產ニ對シ危害切迫セリト認メ又ハ本陸ノ交通ニ危害ヲ及ホスノ虞アリト認メタルトキハ當該行政官廳ハ行政執行法第四條ニ依リ必要ナル措置ヲ爲スコトヲ得

左ノ各號ニ揭クル土地、物件ニ關シテハ法令ノ規定ニ違背シ因テ危害ヲ生シ又ハ健康ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキ亦前項ニ同シ

一　崩壞又ハ人ヲ陷落セシムルノ虞アル場所

二　屋其ノ他ノ工作物

三　船車其ノ他交通ノ用ニ供スル器具又ハ裝置

四　汽罐、汽機及其ノ附屬裝置

五　前各號ニ揭ケタルモノノ外主務大臣ノ定メタル土地、物件

第三條　危害豫防ノ爲又ハ衞生上必要ト認ムル物品ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ必要ナル分量ノ試驗ノ用ニ供スルコトヲ得

第四條　行政執行法第五條ノ過料ハ處分ヲ爲ス行政官廳ノ區別ニ從ヒ左ノ金額ヲ超エルコトヲ得ス

一　各省大臣　二十五圓

二　廳府縣長官　十圓

三　其ノ他ノ行政官廳　二圓

第五條　行政執行法第五條ノ戒告ハ履行期間ヲ定タ且書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六條　行政執行法第五條ノ費用ノ徵收ハ現ニ要シタル費用及其ノ納期日ニ決定シ決定書ノ正本ヲ義務者ニ交付シテ之ヲ爲スヘシ

過料ノ處分ハ其ノ金額及納期日ヲ決定シ決定書ノ正本ヲ義務者ニ交付シテ之ヲ爲スヘシ

第七條　行政執行法第五條ノ費用ハ事務費ノ所屬ニ從ヒ國庫又ハ府縣經濟ヨリ之ヲ支出シ其ノ徵收金及過料ハ事務費ノ所屬ニ從ヒ國庫又ハ府費經濟ニ收入スヘシ

前項ノ規定ハ行政執行法第三條ノ費用ニ付之ヲ準用ス但シ本人又ハ媒合者ヲシテ病院ニ辨償セシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

附　則

第八條　他ノ法令ノ規定ニ依リ行政官廳ニ於テ行政處分ヲ强制スル爲豫メ戒告ヲ爲ストキ、自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ若ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スル時又ハ行政處分ヲ强制スル爲過料ニ處スル時ハ第五條第六條及第七條第一項ノ規定ヲ準用ス

代書人規則

（大正九年十一月二十五日内務省令第四十號）

第一條　本令ニ於テ代書人ト稱スルハ他ノ法令ニ依ラスシテ他人ノ囑託ヲ受ケ官公署ニ提出スヘキ書類其ノ他權利義務又ハ事實證明ニ關スル書類ノ作製ヲ業トスル者ヲ謂フ

第二條　代書人タラムトスル者ハ本籍、住所、氏名、年齡及履歷竝事務所ノ位置ヲ具シ主タル事務所所在地所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　代書人其ノ業務ノ爲補助員ヲ使用セムトスルトキハ本人ノ本籍、住所、氏名、年齡及履歷ヲ具シ主タル事務所所在地所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　代書人ハ其ノ事務所ニ代書人某事務所ト記載シタル表札ヲ揭クヘシ

第五條　代書人ハ事務所以外ノ場所ニ於テ其ノ業務ニ從事スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ警察官署ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條　代書人ハ代書料額ヲ定メ主タル事務所所在地所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキハ亦同シ

前項ノ代書料ハ事務所內見易キ場所ニ揭示スヘシ

第七條　代書人ハ前條代書料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ其ノ業務ニ關シ報酬ヲ受クルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ警察官署ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　代書人ハ正當ノ事由アルニ非サレハ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條　代書人及其ノ補助員ハ左記名號ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一　法令ノ規定ニ依ルニ非スシテ他人ノ訴願訴訟又ハ非訟事件ニ關シ代理、鑑定、勸誘、紹介又ハ仲裁其ノ他之ニ類スル行爲ヲ爲スコト

二　囑託セラレタル事件ニ付利害ヲ異ニスル他ノ者ノ爲ニ代書ヲ爲ハコト

三　業務上知得シタル事項ヲ他人ニ漏泄スルコト

四　書類ノ納數ヲ增加スル目的ヲ以テ故ラニ文句ニ冗長ニシ若ハ必要以外ノ書類ヲ作製スルコト

五　代書囑託者ノ印顆又ハ其ノ署名捺印若ハ捺印シタル白紙ヲ領置スルコト

六　事務所ヲ他人ノ法律事務所ニ貸與シ又ハ之ヲ他人ノ法律事務所ニ置クコト

第十條　代書人ハ其ヲ代書シタル書類ノ末尾又ハ欄外ニ署名捺印スヘシ
但シ法令ニ別段ノ規定アルモノ又ハ書翰ノ類ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　代書人ハ左ノ各號ノ場合ニ於テハ五日以内ニ主タル事務所所在地所轄警察官署ニ届出ツヘシ
一　本人又ハ補助員ノ本籍住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキ
二　事務所ヲ變更、増設又ハ廢止シタルトキ
三　補助員死亡シ又ハ之ヲ廢罷シタルトキ
四　廢業シタルトキ
代書人死亡シタル場合ニ於テハ戸主又ハ同居ノ家族ヨリ五日以内ニ主タル事務所所在地所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第十二條　代書人ハ代書事件簿ヲ備ヘ代書ヲ爲シタル都度嘱託ヲ受ケタル事件ノ名稱、年月日、書類ノ概要、代書料及嘱託者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ
代書人ハ代書事件簿閉鎖後一年間之ヲ保存スヘシ代書人業務ノ許可ヲ取消サレ又ハ廢業シタルトキハ亦同シ
代書人死亡シタルトキハ前項ノ規定ヲ家督相續人ニ準用ス

第十三條　警察官署ハ必要ト認ムルトキハ警察官吏ヲシテ代書人ノ事務所ニ臨檢シ又ハ代書事件簿ヲ檢閲セシムルコトヲ得

第十四條　代書人業務上ノ義務ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害スト認メラルルトキ又ハ六月以上所在不明ナルトキハ主タル事務所所在地所轄警察官署ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ノ認可ヲ受ケ業務ノ停止ヲ命シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十五條　補助員業務上ノ義務ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スト認メラルルトキハ主タル事務所所在地所轄警察官署ハ使用ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第十六條　第二條、第三條、第十四條及第十五條ノ規定ニ依ル警察官署ノ處分ハ其ノ所屬廳府縣ノ管内ニ效力ヲ有ス

第十七條　本令其ノ他ノ法令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ代書ノ業ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
一　第七條、第九條ノ規定ニ違反シタル者
二　代書事件簿ニ虚僞ノ記載ヲ爲シ若ハ第十三條ノ規定ニ依ル警察官吏ノ臨檢又ハ檢閲ヲ拒ミタル者
三　第十四條ノ規定ニ依ル業務停止ノ處分ヲ受ケ其ノ期間中業務ヲ營ミタルモノ
四　第十五條ノ規定ニ依ル警察官署ノ處分ニ違反シテ補助員ヲ使用シタル者

第十九條　第三條乃至第六條、第八條、第十條乃至第十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第二十條　代書人ハ其ノ業務ニ關シ補助員ノ爲シタル行爲ニ付自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

附　則

第二十一條　本令ハ大正十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條　本令施行ノ際現ニ許可ヲ受ケ代書ヲ業トスル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

治安警察法第十八條ニ依リ戎器其他ノ物件携帶禁止ノ件

（大正十年二月二十六日　内務省令第七號）

治安警察法第十八條ニ依リ戎器其ノ他ノ物件携帶禁止ノ件左ノ通定メ大正十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

炭坑稼人及炭坑稼人使用者ハ沖繩縣八重山郡竹富村字西表ニ於テ戎器、爆發物及戎器ヲ仕込ミタル物件ヲ携帶スルコトヲ得ス但シ職業ノ爲爆發物ヲ携帶スルハ此ノ限ニ在ラス

治安維持法

（大正十四年四月二十一日　法律第四十六號）

第一條　國體ヲ變革シ又ハ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シ又ハ情ヲ知リテ之ニ加入シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二條　前條第一項ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三條　第一條第一項ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ヲ煽動シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第四條　第一條第一項ノ目的ヲ以テ騷擾、暴行其ノ他生命、身體又ハ財産ニ害ヲ加フヘキ犯罪ヲ煽動シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第五條　第一條第一項及第三條ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ目的トシテ金品其ノ他ノ財産上ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス情ヲ知リテ供與ヲ受ケ又ハ其ノ要求若ハ約束ヲ爲シタル者亦同シ

第六條　前五條ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

第七條　本法ハ何人ヲ問ハス本法施行區域外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス

附　則

大正十二年勅令第四百三號ハ之ヲ廢止ス

懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖方法提供ノ行爲制限方

（明治四十二年八月十日　内務省令第二十號）

懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖ノ方法ヲ用ヰムコトヲ提供シ又ハ投票ヲ募集スルノ行爲ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムル者ハ廳府縣長官（東京府ニ於テハ警視總監）ニ於テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項禁止又ハ制限ヲ命セラレタル場合ニ於テ其ノ命令ニ違背シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以内ノ罰金情ヲ知リテ其ノ行爲ニ附隨シテ寄贈ヲ申出又ハ提供ヲ應諾シ若ハ投票ヲ行ヒ又ハ投票ノ結果ニ依リ彰表物ヲ受ケタル者ハ科料ニ處ス

本令ハ明治四十二年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年内務省令第二十六號ハ之ヲ廢止ス

射倖行爲取締ニ關スル件

（大正十四年四月二十三日　内務省通牒發警第一二號）

明治四十二年當省令第二十號ハ射倖ノ方法ヲ用ヰムコトヲ提供スル行爲ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルモノヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得ル趣旨ニシテ「ショヤチウインガム」等ノ製造、卸賣ハ射倖行爲ノ提供者カ使用スヘキ材料ヲ製造シ又ハ供給スルモノナルモ其レ自體射倖ノ爲メ提供又ハ其ノ豫約ノ提供ニアラサルヲ以テ同省令ニ基キ禁止スルコトヲ得サルモノト被爲存候

暴利ヲ目的トスル賣買ノ取締ニ關スル件

（大正六年九月一日　農商務省令第二十號）

【沿革】大正七年二月省令第三號、同年六月同第一九號改正

第一條　急激ナル市價ノ變動ヲ誘起シ因テ暴利ヲ得ルノ手段トシテ左ニ掲クル物品ノ買占又ハ賣惜ヲ爲シ又ハ爲サムトスル者ト認ムルトキハ農商務大臣ハ期間ヲ定メテ其ノ行爲ヲ爲スヘカラサル旨ヲ戒告シ且必要ト認ムルトキハ同一物品ノ賣買ニ付條件ヲ附スルコトヲ得他人ヲシテ其ノ行爲ヲ爲サシメ又ハ爲サシメムトスル者ト認ムルトキ亦同シ

一　米穀類及穀粉類
二　鐵類
三　石炭
四　綿絲及綿布
五　紙類
六　染料
七　藥品
八　肥料

第二條　前條ノ戒告ニ違反シテ買占若ハ賣惜ヲ爲シ又ハ戒告ニ附シタル條件ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

未成年者飲酒禁止法

（大正十一年三月二十九日　法律第二十號）

第一條　未成年者ハ酒類ヲ飲用スルコトヲ得ス

未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者若ハ親權者ニ代リテ之ヲ監督スル者未成年者ノ飲酒ヲ知リタルトキハ之ヲ廢止スヘシ

營業者ニシテ其ノ業態上酒類ヲ販賣又ハ供與スル者ハ未成年者ノ飲用ニ供スルコトヲ知リテ酒類ヲ販賣又ハ供與スルコトヲ得ス

第二條　未成年者カ其ノ飲用ニ供スル目的ヲ以テ所有又ハ所持スル酒類及其ノ器具ハ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ沒收シ又ハ廢棄其ノ他ノ必要ナル處置ヲ爲サシムルコトヲ得

第三條　第一條第二項、第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第四條　營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

明治三十三年法律第五十二號ハ本法ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附　則

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

未成年者喫煙禁止法

（明治三十三年三月七日　法律第三十三號）

第一條　未成年者ハ煙草ヲ喫スルコトヲ得ス

第二條　前條ニ違反シタル者アルトキハ行政ノ處分ヲ以テ喫煙ノ爲ニ所持スル煙草及器具ヲ沒收ス

第三條　未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者情ヲ知リテ其ノ喫煙ヲ制止セサルトキハ一圓以下ノ科料ニ處ス

親權ヲ行フ若ハ代リテ未成年者ヲ監督スル者亦前項ニ依リテ處斷ス

第四條　未成年者ニ其ノ自用ニ供スルモノナルコトヲ知リテ煙草又ハ器具ヲ販賣シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

娼妓取締規則

（明治三十三年十月二日　内務省令第四十四號）

【沿革】大正元年十二月省令第一七號改正

第一條　十八歲未滿ノ者ハ娼妓タルコトヲ得

第二條　娼妓名簿ニ登錄セラレサル者ハ娼妓稼ヲ爲スコトヲ得ス

娼妓名簿ハ娼妓所在地所轄警察官署ニ備フルモノトス

娼妓名簿ニ登錄セラレタル者ハ取締上警察官署ノ監督ヲ受クルモノトス

第三條　娼妓名簿ノ登錄ハ娼妓タラントスル者自ラ警察官署ニ出頭シ左ノ事項ヲ具シタル書面ヲ以テ之ヲ申請スヘシ

一　娼妓ト爲ルノ事由
二　生年月
三　同一戶籍內ニ在ル最近尊族親、尊族親ナキトキハ戶主ノ承諾ヲ得タルコト若シ承諾ヲ與フヘキ者ナキトキハ其ノ事實
四　未成年者ニ在テハ前號ノ外實父、實父ナキトキハ實母、實父母ナキトキハ實祖父、實父母、實祖父ナキトキハ實祖母ノ承諾ヲ得タルコト
五　娼妓稼ヲ爲スヘキ場所
六　娼妓名簿登錄後ニ於ケル住居
七　現在ノ生業但シ他人ニ依リテ生計ヲ營ム者ハ其ノ事實
八　娼妓タリシ事實ノ有無竝ニ嘗テ娼妓タリシ者ハ其ノ稼業ノ開始廢止ノ年月日、場所、娼妓タリシトキノ住居及稼業廢止ノ事由
九　前各號ノ外廳府縣令ヲ以テ定メタル事項

前項ノ申請ニハ戶籍吏ノ作リタル戶籍謄本、前項第三號第四號ノ承諾書及市區町村長ノ作リタル承諾者印鑑證明書ヲ添付スヘシ

娼妓名簿登錄申請者ハ登錄前廳府縣令ノ規定ニ從ヒ健康診斷ヲ受クヘキモノトス

第四條　娼妓稼業ヲ禁止セラレタル者ハ娼妓名簿ヨリ削除セラルルモノトス

前項ノ外娼妓名簿ノ削除ハ娼妓ヨリ之ヲ申請スルモノトス但シ未成年者ニ在テハ前條第一項第三號及第四號ニ掲クル者ヨリモ之ヲ申請スルコトヲ得

第五條　娼妓名簿削除ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テスヘシ

前項ノ申請ハ自ラ警察官署ニ出頭シテ之ヲ爲スニ非サレハ受理セサルモノトス但シ申請書ヲ郵送シ又ハ他人ニ托シテ之ヲ差出ス場合ニ於テ警察官署カ申請者自ラ出頭スルコト能ハサル事由アルト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

警察官署ニ於テ娼妓名簿削除申請ヲ受理シタルトキハ直ニ名簿ヲ削除スルモノトス

第六條　娼妓名簿削除申請ニ關シテハ何人ト雖妨害ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　娼妓ハ廳府縣令ヲ以テ指定シタル地域外ニ住居スルコトヲ得ス

娼妓ハ法令ノ規定若クハ官廳ノ命令ニ依リ又ハ警察官署ニ出頭スルカ爲外出スル場合ノ外警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ外出スルコトヲ得ス但シ廳府縣令ノ規定ニ依リ一定ノ地域内ニ於テ外出ヲ許ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　娼妓稼ハ官廳ノ許可シタル貸座敷内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　娼妓ハ廳府縣令ノ規定ニ從ヒ健康診斷ヲ受クヘシ

第十條　警察官署ノ指定シタル醫師又ハ病院ニ於テ疾病ニ罹リ稼業ニ堪ヘキル者又ハ傳染性疾患アル者ト診斷シタル娼妓ハ治療ノ上健康診斷ヲ受クルニ非サレハ稼業ニ就クコトヲ得ス

第十一條　警察官署ハ娼妓名簿ノ登錄ヲ拒ムコトヲ得

廳府縣長官ハ娼妓稼業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトヲ得

第十二條　何人ト雖娼妓ト通信、面接、文書ノ閲讀、物件ノ所持、購買其ノ他ノ自由ヲ妨害スルコトヲ得ス

第十三條　左ノ事項ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　虚僞ノ事項ヲ具シ娼妓名簿ヲ申請セシメタル者
二　第六條第十二條ニ違背シタル者
三　第十條ニ依リ稼業ニ就クコトヲ得サル者又ハ稼業停止中ノ娼妓ヲシテ强テ稼業ニ就カシメタル者
四　本人ノ意ニ反シテ强テ娼妓名簿ノ登錄申請又ハ登錄削除申請ヲ爲サシメタル者

第十三條ノ二　左ノ事項ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　虚僞ノ事項ヲ具シ娼妓名數登錄ヲ申請シタル者
二　第七條第九條第十條ニ違背シタル者
三　第八條ニ違背シタル者及官廳ノ該可シタル貸座敷外ニ於テ娼妓稼業ヲ爲サシメタル者
四　第十一條ノ停止命令ニ違背シタル者

第十四條　本令ノ外必要ナル事項ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條　本令施行ノ際現ニ娼妓タル者ハ申請ヲ待タスシテ娼妓名簿ニ登錄セラレルモノトス

勞働者募集取締令

（大正十三年十二月二十九日　内務省令　第三十六號）

第一條　本令ニ於テ募集主トハ募集シタル勞働者ノ雇主タルヘキ者ヲ謂ヒ、募集從事者トハ募集主ノ委託ヲ受ケ又ハ自ラ雇傭セムカ爲勞働者ノ募集ニ從事スル者ヲ謂フ

第二條　本令ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外職工、鑛夫又ハ土工夫其ノ他ノ人夫ノ募集ニ之ヲ適用ス

一　廳募者就業ノ爲住居ヲ變更スル必要ナキトキ
二　單ニ廣告ニ依リ募集シ就業場ニ於テノミ募集ノ取扱ヲ爲ストキ
三　移民保護法ニ依ル募集ヲ爲ストキ

第三條　募集主ハ募集開始前左記事項ヲ記載シタル就業案内又ハ雇傭契約書案ヲ應募者ノ就業場所在地所轄地方長官ニ届出ツヘシ

一　募集主ノ住所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及代表者ノ氏名
二　應募者ノ就業場ノ名稱及所在地
三　短期ノ事業ニ在リテハ其ノ事業ノ開始及終了時期
四　應募者ノ就業スヘキ事業ノ種類
五　就業時間、休憩時間、休日及夜業ニ關スル事項
六　賃金ニ關スル事項
七　宿舍、食事ノ費用、往復旅費等ノ負擔ニ關スル事項
八　制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項
九　雇傭期間及解雇ニ關スル事項
十　負傷、疾病又ハ死亡ノ場合ニ於ケル扶助救濟ニ關スル事項

募集主前項ノ就業案内又ハ雇傭契約書案ノ外募集ニ關シ配布スヘキ文書アルトキハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ届出ツヘシ

前二項ノ規定ニ依リ届出タル就業案内、雇傭契約書案其ノ他ノ文書ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク之ヲ届出ツヘシ

第四條　勞働者ノ募集ニ從事セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ其ノ寫眞二葉ヲ添ヘ募集主ノ連署ヲ以テ其ノ住所地所轄地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

一　募集主ノ住所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及代表者ノ氏名
二　募集從事者ノ本籍、住所、氏名、職業及生年月日
三　募集從事者ノ履歴
四　募集從事期間
五　募集從事區域
六　應募者ノ就業場ノ名稱、所在地及事業ノ種類

募集從事期間ハ三年以内トス

第一項　規定ニ依ル許可ヲ受ケタル者更ニ他ノ募集主ノ爲ニ募集ニ從事セムトスルトキハ從來ノ募集主ノ承諾書ヲ添ヘ第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ申請スヘシ

第五條　地方長官前條ノ規定ニ依ル許可ヲ爲シタルトキハ樣式第一號ニ依ル募集從事者證ヲ交付スヘシ

募集從事者募集從事者證ヲ滅失、紛失又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交付ヲ申請スヘシ

募集從事者證ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ募集從事者ハ遲滯ナク其ノ書換ヲ申請スヘシ

前二項ノ申請ハ募集從事者ノ寫眞二葉ヲ添ヘ許可ヲ爲シタル地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

第六條　募集從事者ハ應募者若ハ應募セムトスル者又ハ本人ヲ保證スル者ノ請求アリタルトキハ其ノ募集從事者證ヲ提示スヘシ

第七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ募集主ハ第四條ノ許可ヲ爲シタル地方長官ニ遲滯ナク之ヲ届出ツヘシ

一　募集主事業ヲ廢止シタルトキ

二　募集主募集從事者ニ對シ募集ノ委託ヲ解キタルトキ

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ募集從事者ハ許可ヲ爲シタル地方長官ニ遲滯ナク募集從事者證ヲ返納スヘシ

一　募集ニ從事スルコトヲ廢シタルトキ

二　募集從事期間滿了シタルトキ

三　募集從事者ノ許可ヲ取消サレタルトキ

四　前條各號ノ一ニ該當スルトキ

募集從事者死亡シタルトキハ戸籍法第百十七條ノ届出義務者募集從事者證ヲ添付シ許可ヲ爲シタル地方長官ニ遲滯ナク其ノ旨届出ツヘシ

第九條　募集從事者募集ニ著手セムトスルトキハ豫メ第三條ノ就業案内、雇傭契約書案其ノ他募集ニ關シ配布スヘキ文書ヲ添付シ左記事項ヲ募集地所轄警察官署ニ届出ツヘシ

一　募集從事者ノ住所、氏名

二　募集從事中ノ居所及事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ所在地

三　當該警察官署管内ニ於ケル募集從事期間

四　當該警察官署管内ニ於テ募集セムトスル勞働者ノ男女別豫定人員

五　應募者ノ集合ヲ定メタルトキハ其ノ所在地

前項各號ノ事項又ハ前項ノ規定ニ依リ添付スヘキ文書ニ變更アリタルトキハ遲滯ナク之ヲ届出ツヘシ

第十條　募集從事者ハ應募セムトスル者ニ對シ第三條ノ就業案内又ハ雇傭契約書案ヲ交付シ其ノ主旨ヲ明示スヘシ

第十一條　募集從事者ハ樣式第二號ニ依リ應募者名簿ヲ調製シ、募集從事中之ヲ携帶シ又ハ第九條ノ規定ニ依リ届出タル居所若ハ事務所ニ備付クヘシ

第十二條　募集從事者ハ左ニ掲クル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一　募集從事者證ヲ他人ニ讓渡若ハ貸與シ又ハ募集ヲ他人ニ委託スルコト

二　募集ニ關シ事實ヲ隱蔽シ誇大虛僞ノ言辭ヲ弄シ其ノ他不正ノ手段ヲ用ヰルコト

三　應募ヲ强要スルコト

四　應募シ又ハ應募セムトスル女子ニ對シ風俗ヲ紊ル虞アル行爲ヲ爲スコト

五　應募者又ハ應募セムトスル者ニ對シ遊興ヲ勸誘シ又ハ其ノ案内ヲ爲スコト

六　濫ニ應募者ノ外出、通信若ハ面接ヲ妨ケ其ノ他應募者ノ自由ヲ拘束シ又ハ苛酷ナル取扱ヲ爲スコト

七　濫ニ應募者ニ對シ其ノ所持品ノ保管ヲ求メ又ハ保管シタル所持品ノ返還ヲ拒ムコト

八　應募者ヲ募集從事者證記載ノ募集主以外ノ者ニ周旋スルコト

九　應募者又ハ應募者ヲ保護スル者ヨリ手數料、報酬等何等ノ名義ヲ問ハス金錢其ノ他ノ財物ヲ受クルコト

十　當該官吏又ハ應募者ヲ保護スル者ニ對シ應募者ノ所在ヲ隱蔽シ又ハ之ヲ僞ルコト

第十三條　應募從事者ハ未成年者、禁治產者、準禁治產者又ハ妻ニ付テハ其ノ法定代理人、後見人、保佐人又ハ夫ノ承諾アルニ非サレハヲ之募集スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事由ニ因リ承諾ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テ本人ヲ保護スル者ノ承諾アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　募集從事者應募者ヲ引卒シテ出發セムトスルトキハ其ノ出發三日前迄ニ左記事項ヲ記載シ募集地所轄警察官署ニ届出ツヘシ

一　應募者ノ住所、氏名及生年月日

二　出發ヨリ就業場到著迄ノ旅行豫定

前項各號ニ掲クル事項ニ變更アリタルトキハ遲滯ナク之ヲ届出ツヘシ

第十五條　募集從事者應募者ト共ニ汽車、汽船其ノ他ノ交通機關以外ノ場所ニ於テ宿泊セムトスルトキハ豫メ宿泊所所在地所轄警察官署ニ左記事項ヲ届出ツヘシ

一　宿泊所

二　應募者ノ男女別員數

三　宿泊所到著及出發ノ日時

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ應募者ノ請求アルトキハ應募者就業場ニ到著前ニ於テハ募集從事者、到著後ニ於テハ募集主應募者ノ歸鄉ノ爲必要ナル措置ヲ爲スヘシ

一　就業案内又ハ雇傭契約書案ニ記載シタル事項カ事實ト相當相違シタルトキ

二　募集主、募集從事者又ハ就業場ノ監督者應募者ヲ虐待シ又ハ凌辱シタルトキ

三　考試、身體檢査其ノ他募集主ノ都合ニ依リ應募者ヲ採用セサルトキ

四　其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ依リ歸鄉ヲ必要トスルニ至リタルトキ

第十七條　當該官吏ハ募集從事者ニ對シ募集從事者證、應募者名簿其ノ他募集ニ關スル書類ノ提示ヲ命スルコトヲ得

第十八條　許可ヲ爲シタル地方長官募集從事者ヲ不適當ナリト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

募集地所轄地方長官募集從事者ヲ不適當ナリト認ムルトキハ其ノ募集ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第十九條　募集主ハ勞働者ノ事業ニ付樣式第三號ノ定ムル所ニ依リ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分ヲ取纒メ翌年二月十五日迄ニ就業場所在地所轄地方長官ニ之ヲ届出ツヘシ

第二十條　募集主又ハ募集從事者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　第三條ノ規定ニ依リ届出テタル就業案内雇傭、契約書案其ノ他募集ニ關シ配布スヘキ文書ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタルトキ

二　第三條ノ規定ニ依ル届出ナキ募集案内、雇傭契約書案其ノ他ノ文書ヲ募集ニ關シ配布シタルトキ

三　第三條、第五條第三項、第七條、第九條乃至第十六條又ハ第十九條ノ規定ニ違反シタルトキ

四　募集者名簿ノ記載ヲ怠リ又ハ之ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタルトキ

五　第十七條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサルトキ

六　第十八條第二項ノ規定ニ依ル募集ノ停止中募集ニ從事シタルトキ

第二十一條　第四條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケス又ハ募集從事者證記載事項ノ範圍外ニ亘リ勞働者ノ募集ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二十二條　工場法第十八條ニ規定スル工場管理人又ハ鑛業法施行細則第五十四條ニ規定スル鑛業代理人ハ本令ノ適用ニ付募集主ト看做ス但シ第三條第一項第一號、第四條第一項第一號及樣式第一號ノ記載ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　募集主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テハ本令ノ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法人ノ代表者ニ之ヲ適用ス

第二十四條　募集主ハ其ノ代理人、戶主、家族、司居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ募集主ニ關スル本令ノ規定ニ違背スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附　則

第二十五條　本令ハ大正十四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十六條　本令中地方長官トアルハ東京府ニ在リテハ警視總監トス第三條及第十九條ノ就業場所在地所轄地方長官トアルハ鑛業及砂鑛業ニ在リテハ就業場所在地所轄山監督局長トス

第二十七條　應募者ノ就業場所在地又ハ募集從事者ノ住所カ本令施行區域外ニ在ル場合ニ於テハ第三條若ハ第十九條ノ規定ニ依ル屆出又ハ第四條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ主タル募集地所轄地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

第二十八條　本令施行ノ際勞働者募集取締ニ關スル廳府縣ノ命令ニ依リ募集ニ從事スルコトノ許可ヲ受ケタル者ハ本令施行後二月間ハ許可ヲ爲シタル地方長官管轄區域內ニ限リ本令第四條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

廣告物取締法（明治四十四年四月七日法律第七十號）

第一條　行政官廳ハ美觀又ハ風致ヲ保存スル爲必要ナリト認ムルトキハ命令ヲ以テ廣告物ノ表示其ノ他之ニ關スル物件ノ設置ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得

第二條　前條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル物件ニ對シ行政官廳ハ除却ヲ命シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第三條　廣告物、看板其ノ他之ニ關スル物件ニシテ危險ノ虞アリ又ハ安寧秩序ヲ害シ若ハ風俗ヲ紊ルノ虞アリト認ムルモノハ行政官廳ニ於テ除却ヲ命シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第四條　第二條、第三條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二章　銃砲火藥

銃砲火藥類取締法（明治四十三年四月十三日法律第五十三號）

【沿革】　大正六年七月法律第二號、同十一年三月同第二號改正

第一條　銃砲ノ製造又ハ火藥類ノ製造、變形若ハ修理ハ其ノ營業者又ハ行政官廳ノ許可若ハ委託ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ理化學上ノ實驗、鳥獸ノ捕獲及驅除、射的練習等ノ用ニ供スル火藥類ニ付命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　火藥、爆藥ノ製造ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル會社ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル場合、行政官廳ノ許可ヲ受ケ新規發明ニ係ル火藥、爆藥ヲ一定ノ期間試驗ノ爲製造スル場合又ハ前條但書ノ規定ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　銃砲、火藥類ノ製造又ハ販賣ノ業ヲ營マムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ製造業者カ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥類ノ卸賣ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

相續ニ依リ前項ノ營業ヲ繼續スル場合ハ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

銃砲ノ修繕又ハ改造ノ業ヲ營ム者ハ銃砲製造營業者ト看做シ火藥類ノ變形又ハ修理ノ業ヲ營ム者ハ火藥類製造業者ト看做ス

第四條　行政官廳ハ銃砲販賣業者及火藥類販賣業者ノ道府縣ニ於ケル定員ヲ設クルコトヲ得

製造業者及行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ委託額以上ノ同種類ノ火藥類ヲ製造スル者ニシテ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥類ノ販賣業ヲ兼ヌルモノハ前項ノ定員ニ算入セス

第五條　銃砲、火藥類ノ製造、變形、修理又ハ販賣ニ關シ許可ヲ受ケタル者行政官廳ニ於テ指定シタル期間內ニ其ノ事業ヲ開始セス若ハ事業開始後一年以上其ノ事業ヲ休止シタルトキ又ハ法令ニ違反シタルトキ又ハ安寧秩序ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

第六條　軍用銃砲、火藥類ノ讓渡又ハ讓受ハ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ製造若ハ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　銃砲、火藥類ハ之ヲ行商シ又ハ市場若ハ露店其ノ他屋外ニ於テ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第八條　銃砲、火藥類ノ輸出ハ其ノ製造若ハ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　銃砲、火藥類ノ輸入ハ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル者若ハ其ノ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　行政官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ銃砲、火藥類ノ製造所、貯藏所其ノ他銃砲、火藥類ヲ收藏スルノ疑アル場所ニ臨檢シ又ハ銃砲、火藥類及之ヲ收藏スルノ疑アル物件若ハ營業上ノ帳簿其ノ他ノ書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

行政官廳ハ危害豫防ノ爲銃砲、火藥類ノ製造所若ハ火藥類ノ貯藏所ノ改築若ハ修繕ヲ命シ又ハ火藥類ニ關シ若ハ其ノ貯藏、運搬其ノ他ノ取扱ニ關シ取締上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條　行政官廳ハ保安上軍事上、又ハ外交上必要アリト認ムル場合ニ於テ銃砲、火藥類ヲ輸出若ハ輸入ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十二條　行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スル爲必要アリト認ムルトキハ銃砲、火藥類ノ授受、運搬、携帶ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十三條　前二條ノ場合ニ於テ行政官廳ニ銃砲、火藥類ノ假領置ヲ爲スコトヲ得

第十四條　左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

一　本法ノ適用ヲ受クヘキ銃砲、火藥類ノ範圍及新規發明ニ係ル火藥類ヲ一定ノ期間試驗ノ爲製造スル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ許可ヲ

受ケ又ハ營業トシテ製造、變形又ハ修理シ得ル普通火藥類ノ範圍

二　銃砲、火藥類ノ取引、授受、使用、運搬、貯藏其ノ他ノ取扱

三　銃砲、火藥類ノ取扱人及火藥類ノ作業主任者ニ關スル事項

四　銃砲、火藥類製造所及火藥類貯藏所ニ關スル事項

五　火藥類ヲ要スル工事又ハ工業ニ關スル事項

第十五條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ全部又ハ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ銃砲、火藥類ニ非サル他ノ戎器又ハ爆發質物品ニ關シ之ヲ準用スルコトヲ得

本法ノ一部ヲ適用スルノ必要ナシト認ムル銃砲、火藥類ニ關シテハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十六條　第一條、第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ、許可ヲ受ケスシテ第三條ノ營業ヲ爲シ又ハ第五條若ハ第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ又ハ第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル場合ニ於テハ未遂罪ヲ罰ス

第十七條　第十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　第十條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ第十條第一項若ハ第十三條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ職務ノ執行ノ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者又ハ其ノ執行ニ際シ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　第六條又ハ第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條　營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲、火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　營業者又ハ政行官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲、火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ營業又ハ事業ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十二條　前二條ノ場合ニ於テハ罰金、科料又ハ沒收以外ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第二十三條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十四年三月勅令第一五號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行）

刑法施行第二十五條第一項中第一號ヲ削リ以下各號順次繰上ク

爆發物取締罰則ハ本法ノ爲其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

附　則（大正十一年三月法律第二號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十二年四月勅令第一七五號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行）

銃砲火藥類取締法施行規則

（明治四十四年三月十日勅令第十六號）

【沿革】大正六年十月勅令第一八四號、同十二年四月同第一七六號改正

第一條　銃砲火藥類取締法ニ於テ銃砲ト稱スルハ軍用銃砲及非軍用銃砲ヲ謂フ

軍用銃砲トハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ於テ軍用銃砲トシテ指定シタル銃砲及千米突以上ノ距離ニ有效ニ彈著スヘキ裝置ヲ有シ陸軍又ハ海軍ノ用ニ供シ得ヘキ銃砲ヲ謂ヒ非軍用銃砲トハ其ノ他ノ銃砲ヲ謂フ

第二條　銃砲火藥類取締法ニ於テ火藥類ト稱スルハ左ニ揭クル火藥、爆藥及火工品ヲ謂フ

一　火藥　硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥、硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥又ハ硝化纖素トナイトログリセリントノ結合物ヲ主トスル無煙火藥ノ類

二　爆藥　雷酸鹽、雷汞類起爆ノ用途ニ供スル窒化物、窒化鉛其ノ他ノ起爆劑、ナイトログリセリン及之ヲ主トスル爆發藥、各種ダイナマイトノ類、硝酸鹽、鹽素酸鹽若ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆發藥又ハ爆發ノ用途ニ供スル棉火藥、芳香系列ノ硝化物、ナイトロベンジン、ナイトロナフサリン、ナイトロトリユオール、ピクリン酸及テトラナイトロメチールアニリンノ類、之ヲ主トスル混和物ノ類

三　火工品　實包、藥筒、藥筒、藥包、彈藥筒、火藥若ハ爆藥ヲ裝塡シタル彈丸若ハ水雷、雷管、信管、爆管、門管、緩燃導火線（一尺ノ燃燒時間十秒以上ヲ要スルモノ）速燃導火線又ハ煙火其ノ他火藥若ハ爆藥ヲ使用シタル火工品但シ玩具用普通火工品ヲ除ク

雷管又ハ信管ヲ裝置シタル導火線ハ雷管又ハ信管ト看做ス

第三條ノ二　新規發明ニ係ル火藥類ヲ一定ノ期間試驗ノ爲製造スル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ製造、變形又ハ修理シ得ル普通火藥類ハ左ニ揭クルモノニ限ル

一　火藥　硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥又ハ硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥

二　爆藥　雷酸鹽、雷汞類、ナイトログリセリン及之ヲ主トスル爆發藥、各種ダイナマイトノ類、硝酸アンモニア若ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆發藥、爆發ノ用途ニ供スル棉火藥、芳香系列ノ硝化物、ナイトロベンジン、ナイトロナフサリン、ナイトロスリユオール、ピクリン酸及テトラナイトロメチールアニリンノ類、及之ヲ主トスル混和物又ハ煙火原料用爆藥

三　火工品全部

第三條ノ三　左ニ揭クル場合ニ於テハ行政官廳ノ許可ハ之ヲ受クルコトヲ要セス

一　理化學上ノ實驗トシテ小量ノ火藥類ヲ製造、變形又ハ修理スル場合

二　乙種符號免狀ノ下付ヲ受ケタル者又ハ學術研究若ハ有害鳥獸驅除

ノ爲銃器ヲ使用シテ鳥獸ノ捕獲スルノ許可ヲ受ケタル者其ノ所要ノ銃用實包一日百箇以内ヲ製造スル場合

三　有害鳥獸或嚇ノ爲銃用空包發射ノ許可ヲ受ケタル者其ノ所要ノ銃用空包一日百箇以内ヲ製造スル場合

四　射的ノ練習又ハ競技ノ爲成年者タル練習者、競技者又ハ射的場ノ職員カ射的内場ニ於テ練習者又ハ競技者一人ニ付其ノ所要ノ非軍用銃用實包又ハ狹窄射擊用銃用實包一日三十箇以内ヲ製造スル場合

五　學校ノ發火演習ニ際シ其ノ職員カ校内ニ於テ學生又ハ生徒一人ニ付其ノ所要ノ銃用空包三十箇以内ヲ製造スル場合

六　學校ノ運動會又ハ競技會ニ際シ其ノ職員カ校内ニ於テ其ノ所要ノ信號用ノ銃用空包二百箇以内ヲ製造スル場合

第三條　銃砲火藥類取締法又ハ本令ニ於テ軍用火藥類ト稱スルハ專ラ陸軍又ハ海軍ノ用ニ供スル火藥類ヲ謂ヒ普通火藥類ト稱スルハ其ノ他ノ用ニ供スル火藥類ヲ謂フ

第四條　銃砲ノ製造又ハ火藥類ノ製造、變形若ハ修理ニ付行政官廳ノ委託ヲ受ケタル者ハ事業開始前製造スヘキ銃砲又ハ製造若ハ變形修理スヘキ火藥類ノ種類、數量、委託ノ年月日、委託ノ條件及委託官廳名ヲ其ノ官廳ノ證明書ヲ添附シテ作業地廳府縣長官ニ届出ツヘシ

第五條　軍用銃砲又ハ火藥滓ハ爆藥煙火原料用火藥又ハ爆藥ヲ除クノ製造ノ許可ハ作業地廳府縣長官ヲ經由シ陸軍ノ用ニ供スル銃砲火藥類ニ付テハ内務大臣及陸軍大臣ニ、海軍ノ用ニ供スル銃砲火藥類ニ付テハ内務大臣及海軍大臣ニ、其ノ他ノ火藥類ニ付テハ内務大臣ニ之ヲ申請スヘシ

第六條　非軍用銃砲ノ製造、煙火原料用火藥若ハ爆火ノ製造、火藥若ハ爆發ノ變形修理又ハ火工品ノ製造若ハ變形修理ノ許可ハ作業地廳府縣長官ニ、銃砲火藥類ノ販賣營業ノ許可ハ營業地廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

第七條　行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ銃砲火藥類ヲ製造又ハ變形修理スル者ハ其ノ事業ニ要スル設備ニ付許可ヲ爲シタル行政官廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル廳縣府長官ノ檢査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス其ノ變更ニ付亦同シ

第八條　銃砲火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ委託スル場合ニ於テハ委託行政官廳ハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ定ムルモノノ外取締上必要ナル設備又ハ事項ヲ命スルコトヲ得

前項ノ設備ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第九條　前二條ノ規定ハ危害豫防ニ關スル警察官ノ職權ヲ行使スルコトヲ妨ケス

第十條　第七條又ハ第八條ノ規定ニ依リ檢査ヲ受ケタル設備又ハ許可ノ條件トシテ若ハ第八條ノ規定ニ依リ命令セラレタル事項ヲ變更セムトスル者ハ許可又ハ委託ヲ爲シタル行政官廳ノ許可ヲ受リヘシ

前項ノ許可申請ハ第五條ノ主務大臣ニ之ヲ爲ス場合ニ於テハ作業地廳府縣長官ヲ經由スヘシ

第十一條　銃砲火藥類取締法第三條ノ規定ニ依リ火藥類販賣業者ニ與フル許可ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種ノ許可ヲ受ケタル火藥類販賣業者ハ火藥類ニ關スル各種ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得

乙種ノ許可ヲ受ケタル火藥類販賣業者ハ火藥類ヲ輸入シ之ヲ官廳又ハ火藥類販賣業者ニ賣渡スノ外火藥類ニ關スル他ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條　銃砲販賣業者及前條ノ火藥類販賣業者ノ道府縣ニ於ケル定員ハ内務大臣之ヲ定ム

第十三條　火藥類販賣業者ハ火藥庫ヲ備フルコトヲ要ス

第十四條　火藥類販賣業者ノ火藥類取扱ハ火藥類取扱免狀ヲ有スル者之ニ任スルコトヲ要ス一年間二千貫以上ノ火藥又ハ千貫以上ノ爆藥ヲ消費スル者ニ付亦同シ

前項ノ規定ハ火藥及爆藥ヲ共ニ消費スル場合ニ於テハ爆藥一貫ヲ火藥二貫ト看做シ合算シタル數量ニ付之ヲ適用シ消費ノ場所二箇以上アル場合ニ於テハ各消費場所ニ付之ヲ適用ス

第十五條ノ二　火藥類取扱免狀ニ關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第十五條ノ二　火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ爲ス作業所ニハ火藥類ノ作業主任者ヲ置クコトヲ要ス

火藥類ノ作業主任者資格ニ關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第十六條　火藥類讓渡ノ許可ハ所轄廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

火藥類讓渡ノ許可ハ消費地廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ但シ消費地定マラス若ハ二箇所以上ニ亙リ又ハ銃砲火藥類取締法施行區域外ニ係ル場合ハ所轄廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

第十七條　左ノ各號ノ火藥類ノ讓渡及讓受ニ付テハ内務大臣ノ定メタル場合ニ限リ前條ノ區分ニ依リ警察官署ニ之ヲ申請スルコトヲ得

一　火藥　三貫以内

二　爆藥　一貫三百匁以内

三　工業用雷管　二千箇以内

四　信管　千箇以内

五　爆管　千箇以内

六　門管　千箇以内

七　導火線　五百間以内

第十八條　軍用銃砲又ハ左ノ各號ノ火藥類ノ讓渡及讓受ノ許可ハ所轄警察官署ニ之ヲ申請スヘシ

一　火藥　一貫三百匁以内

二　銃用實包　千貫以内

三　銃用空包　千箇以内

四　銃用實包又ハ充用空包ニ要スル雷管又ハ雷管附藥莢　二千箇以内

第十九條　前條ノ許可ハ二箇月間其ノ效力ヲ有ス

前三條ノ許可ハ許可ヲ爲シタル行政官廳取締上必要ト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

前三條ノ規定ニ依ル讓受ノ許可ハ讓受ヲ要スル事由ノ消滅ニ依リ其ノ效力ヲ失フ

第二十條　軍用銃砲又ハ火藥類ノ讓渡ハ公賣又ハ競賣法若ハ民事訴訟法ニ依ル競賣ノ場合ニ於テハ許可ヲ要セサルモノトス

第二十一條　鑛業法ニ依リ鑛物ノ試掘若ハ採掘ヲ爲ス者又ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ工事若ハ工業ノ爲火藥類消費ノ許可ヲ受ケタル者カ其ノ消費スル火藥類ヲ讓受クル場合ニ於テハ第十七條各號ノ火藥類ニ限リ、狩獵免許ヲ受ケタル者カ其ノ消費スル火藥類ヲ讓受クル場合ニ於テハ第十八條各號ノ火藥類ニ限リ行政官廳ノ許可ヲ要セサルモノトス

第二十二條　火藥類ハ左ニ掲クル者カ其ノ火藥類ヲ所持スル場合ノ外之ヲ所持スルコトヲ得ス

一　火薬類販賣業者
二　火薬類製造業者又ハ委託若ハ許可ヲ受ケ火薬類ノ製造若ハ變形修理ヲ爲ス者
三　第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ火薬類譲受ノ許可ヲ受ケタル者
四　前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケスシテ火薬類ヲ譲受ケタル者
五　第二十三條ノ規定ニ依リ火薬類ノ輸入又ハ輸出ノ許可ヲ受ケタル者
六　運送業者
七　相續又ハ遺贈ニ因リ火薬類ノ所有權ヲ取得シタル者
八　法人ノ合併ニ因リ火薬類ノ所有權ヲ取得シタル者
九　前各號ニ掲クル者ノ家族又ハ從業者

火藥類ヲ所持スル者廢業、許可ノ取消其ノ他ノ事由ニ因リ前項各號ニ該當セサルニ至リタルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ譲渡其ノ他必要ナル處分ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ハ第十八條各號ノ火藥類ニ之ヲ適用セス

第二十三條　銃砲火藥類取締法第八條ノ許可ハ輸出港、同法第九條ノ許可ハ輸入港ヲ管轄スル廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ許可ハ軍用銃砲及軍用火藥類ニ付テハ輸出港又ハ輸入港ヲ管轄スル廳府縣長官ヲ經由シ陸軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及陸軍大臣ニ、海軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及海軍大臣ニ之ヲ申請スヘシ

第二十四條　前條ノ許可ハ一年間其ノ效力ヲ有ス但シ許可ヲ爲シタル行政官廳取消上必要ト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第二十五條　輸入若ハ譲受ノ許可ヲ受ケタル火藥類ハ其ノ許可ヲ爲シタル行政官廳、第二十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケスシテ譲受ケタル火藥類ハ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケル火藥類ノ製造若ハ變形修理ヲ爲ス者

第二十六條　銃砲火藥類取締法第十一條ノ規定ニ依ル銃砲火藥類ノ輸出若ハ輸入ノ禁止又ハ制限ハ内務大臣之ヲ行フ但シ陸軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及陸軍大臣、海軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及海軍大臣之ヲ行フ

第二十七條　火藥類ハ第十八條各號ノ一ニ該當スルモノ及左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外火藥庫又ハ倉庫以外ノ場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得ス

一　土工其ノ他一時ノ事業ニ要スル火藥類ヲ其ノ事業中假貯藏所ニ貯藏スル場合
二　一月以内ニ完了スヘキ土工其ノ他ノ事業ニ要スル火藥額ニシテ第十七條各號ノ一ニ該當スルモノヲ其ノ事業中十日以内ヲ限リ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケ其ノ指定シタル安全ノ場所ニ貯藏スル場合
三　火藥ヲ裝塡セサル雷管附藥莢ヲ安全ナル場所ニ貯藏スル場合

第二十八條　火藥類貯藏所ニ貯藏スル火藥類ハ左ノ數量ヲ超過スルコトヲ得ス

火藥類ノ種類 ＼ 貯藏所ノ種類	火藥庫	倉庫	假貯藏所
火藥	一萬貫	十二貫	五千貫
爆藥	五千貫	三貫	二千五百貫
銃用實包	二千萬箇	三萬箇	千萬箇
銃用空包	二千萬箇	三萬箇	千萬箇
銃用雷管	五千萬箇	十萬箇	五百萬箇
工業用雷管	三百萬箇	一萬箇	三十萬箇
信管、爆管、門管	無制限	三萬箇	無制限

前項ニ掲ケサル火工品ハ其ノ原料タル火藥又ハ爆藥ノ數量ニ依リ前項ノ規定ヲ適用ス但シ雷管附藥莢及導火線ハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　内務大臣ハ安全ナル位置ニ於テ特別ノ設備ヲ爲シタル火藥庫ニ付危險ノ虞ナシト認ムル程度ニ於テ前條ノ數量ヲ超過スル火藥類ノ貯藏ヲ許可スルコトヲ得

第三十條　火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ爲ス作業所ニ存置シ得ヘキ火藥類ノ數量ハ其ノ其設備ニ應シ製造若ハ變形修理ヲ委託若ハ許可シ又ハ其ノ營業ヲ許可シタル行政官廳之ヲ指定ス

第三十一條　火藥類ハ内務大臣ノ定ムル區別ニ依リ各別棟ノ火藥類貯藏所ニ之ヲ貯藏スヘシ但シ倉庫ニ在リテハ不燃質物ヲ以テ造リタル隔壁ニ依リ遮斷スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條　火藥類貯藏所ノ新設ハ所在地廳府縣長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ增築、改築、修繕又ハ模樣替ノ工事ヲ爲ストキ亦同シ

工事ヲ竣リタル火藥類貯藏所ハ警察官ノ檢査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三十三條　第二十八條ノ規定ニ依リ火藥類貯藏所ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ最大數量ノ火藥類ノ貯藏ニ付テハ倉庫ヲ除クノ外其ノ外壁ヨリ左ノ距離ヲ保存スヘシ

一　宮城、離宮、御用邸又ハ神宮ヘ二十町以上
二　皇陵、社寺、學校、公園、電氣瓦斯若ハ石油ノ工場、電力若ハ火力ヲ使用スル工場、發火質物件ヲ蓄積スル場所、鐵道、軌道、汽船ノ常航路若ハ繫留所又ハ市街地ヘ四町以上
三　宅地、國道、縣道、電線、瓦斯ノ傳導管、火ヲ取扱フ場所、蓄積シタル燒燒物其ノ他内務大臣ノ指定シタル箇所ヘ五十間以上

前項ノ距離ハ貯藏數量ノ增減ニ從ヒ貯藏數量ノ平方根ニ比例シテ之ヲ增減スル但シ各距離ノ五分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

倉庫ハ其ノ外壁ノ周圍ニ一間以上ノ空地ヲ保有スヘシ但シ貯藏數量ヲ減少シ特ニ廳府縣長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

廳府縣長官ハ必要ト認ムルトキハ假貯藏所ニ付第一項及第二項ノ規定ニ依ル距離以上ニ於テ特ニ其ノ距離ヲ指定スルコトヲ得

第三十四條　内務大臣ハ天然又ハ人造ノ掩體ノ狀態其ノ他土地又ハ設備ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムル程度ニ於テ前條ニ定ムル距離ノ減少ヲ許可スルコトヲ得

第三十五條　第二十九條及前條ノ許可ノ狀況ノ變更ニ依リ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第三十六條　第二十八條ノ規定ニ依リ倉庫ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ數量ヲ超過スル火藥類ハ所轄警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ同時ニ之ヲ運搬スルコトヲ得ス

第三十七條　火藥類ハ他ノ物件ト混包シ又ハ變裝若ハ假裝シテ之ヲ所持運搬又ハ託送スルコトヲ得ス

前項ノ物件ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官ニ之ヲ屆出ツヘシ

第三十八條　地發又ハ物件ヲ破碎スルノ目的ヲ以テ火藥又ハ爆藥ヲ使用セムトスル者ハ使用地警察官署ノ許可ヲ受クヘシ但シ內務大臣カ特ニ定メタル場合又ハ鑛業法ニ依ル鑛物ノ試掘若ハ採掘ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條　拳銃、短銃又ハ仕込銃ハ職務又ハ銃砲ニ關スル營業ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外所轄警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ授受運搬又ハ携帶スルコトヲ得ス

前項ノ規程ハ仕込刀劍其ノ他變裝シタル戎器ニ之ヲ準用ス

第四十條　拳銃、短銃又ハ仕込銃ハ業務又ハ修學ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外未成年者之ヲ所持シ又ハ未成年者ヲシテ之ヲ所持セシムルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ仕込刀劍其ノ他ノ戎器ニ之ヲ準用ス

第四十一條　火藥類ハ運搬、所持其ノ他ノ取扱ハ未成年者之ヲ爲シ又ハ未成年者、白痴者若ハ瘋癲者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ス但シ第十八條各號ノ火藥類ニ付テハ十五歲以上ノ者ニ限リ之ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十二條　營業者ハ許可ヲ受ケサル者ニ銃砲火藥類又ハ第三十九號ノ戎器ヲ讓リ渡コトヲ得ス但シ讓受ニ付許可ヲ要セサル場合及銃砲火藥類取締法施行區域外ニ居住スル者ニシテ當該行政官廳ニ依リ移入ノ許可ヲ受ケタルモノニ對シ銃砲火藥類ヲ移出讓渡スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條　試驗ノ結果不良品ト認定セラレタル火藥類ハ內務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ所持者ニ於テ直ニ必要ナル處置ヲ爲スヘシ

第四十四條　第十一條乃至第十五條、第二十二條、第二十七條、第二十九條及第三十一條乃至第三十六條ノ規定ハ緩燃導火線ニ之ヲ適用セス

銃砲火藥類取締法第六條、第八條及第九條並本令第十一條乃至第十五條、第二十二條、第二十七條乃至第二十九條及第三十一條乃至第三十六條ノ規定ハ煙火及遞信大臣カ船舶備付用ノ爲特ニ指定シタル煙火類似ノ火工品ニ之ヲ適用セス

緩燃導火線及煙火ニ付必要ナル規定ハ廳府縣長官之ヲ定ム

第二項ノ船舶備付用火工品ニ付必要ナル規定ハ遞信大臣之ヲ定ム

第四十五條　第七條、第八條第二項、第十條第一項、第十三條、第十四條、第十五條ノ二第一項、第二十二條、第二十五條、第二十七條、第二十八條、第三十一條、第三十二條、第三十六條、第三十七條第一項第三十八條、第四十二條及第四十三條ノ規定ニ違反シタル者、第三十三條ノ規定ニ違反シ又ハ本令ニ依ル許可若ハ指定ノ範圍ヲ超エテ火藥類ヲ貯藏シタル者並本令ニ基キテ發スル內務大臣ノ命令ノ規定ニ適合セサル火藥類貯藏所ニ火藥類ヲ貯藏シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條　第三十九條乃至第四十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第四十七條　第四條又ハ第三十七條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十八條　銃砲火藥類取締法第十條乃至第十三條及第十六條乃至第十八條ノ規定ハ銃砲火藥類ニ非サル他ノ戎器及爆發質物品ニ之ヲ準用ス

第四十九條　公賣又ハ鬻賣法若ハ民事訴訟法ニ依ル競賣ヲ爲ス者ハ銃砲火藥類取締法及本令ノ適用ニ付テハ之ヲ讓渡人ト看做ス

第五十條　左ノ事項ハ內務大臣之ヲ定ム但シ鐵道ニ依ル輸送ニ關スル事項ハ鐵道大臣、郵便及船舶ニ依ル輸送及船舶ニ於ケル常用火藥類ノ貯藏ニ關スル事項ハ遞信大臣之ヲ定ム

一　火藥類ノ貯藏、收納、荷造其ノ他ノ取扱ノ方法及制限

二　第四十三條ノ規定ニ依ル火藥類試驗及不良品處置方法

三　火藥類運搬ノ方法及制限

四　火藥類作業所及火藥類貯藏所ノ設置

五　火藥類作業所及火藥類貯藏所ニ於テ遵守スヘキ事項

第五十一條　前條ノ規定ニ依ル命令ハ鑛業法第七十一條ノ規定ニ依リ農商務大臣ノ發スル命令ノ效力ヲ妨クルコトナシ

附　則

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十三條及第十四條ノ規定ハ仍二年間之ヲ適用セス

本令施行前火藥商又ハ甲種火藥商ノ許可ヲ受ケタル者ハ甲種火藥類販賣業者、輸入及卸賣ノ營業ニ限リ許可ヲ受ケタル者又ハ乙種火藥商ノ許可ヲ受ケタル者ハ乙種火藥類販賣業者トシテ各其ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

本令施行ノ際本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ適合セサル火藥類貯藏所ハ所在地廳府縣長官ノ指定シタル期間ニ於テ之ヲ改造スヘシ

附　則（大正十二年四月勅令第一七六號）

本令ハ大正十一年法律第二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三章　消防

消防組規則（明治二十七年二月十日勅令第十五號）

【沿革】明治三十年十一月勅令第四〇八號、同四十三年三月同第一二八號、大正二年十月同第二九六號、同八年七月同第三五五號、同十年六月同第二五三號改正

第一條　府縣知事ハ職權又ハ市町村ノ申請ニ依リ火災ノ警戒防禦ノ爲メ消防組ヲ施設スルコトヲ得

第二條　消防組ノ設置區域ハ市町村ノ區域ニ依ルヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ市町村內ニ於テ適宜區域ヲ定ムルコトヲ得

第三條　消防組ハ組頭一人小頭若干人及消防手若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

組頭及小頭ハ警察部長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長之ヲ命免ス

消防手ハ警察署長之ヲ命免ス

第四條　組頭ハ警察官ノ命ヲ承ケ部下ノ指揮取締ニ任シ庶務ニ從事ス

小頭ハ組頭ヲ助ケ組頭差支アルトキハ之ニ代ルモノトス

第五條　府縣知事ハ市町村會ニ諮問シ消防組ヲ數部ニ分ツコトヲ得

第六條　消防組ハ府縣知事ニ於テ指定シタル警察署長之ヲ指揮監督ス

消防組ハ警察官ノ指揮ニ從ヒ進退スヘシ但シ火災ニ際シ警察官ノ臨場スル迄町村長又ハ組頭若ハ小頭之カ指揮ヲ爲スコトヲ得

第七條　消防組ハ其ノ區域外ノ火災ト雖警察署長ノ指揮ニ從ヒ其ノ警防ニ應援スヘシ

危急ノ場合ニ於テ警察署長前項ノ指揮ヲ爲スノ暇ナキトキハ他ノ警察官警察署長ニ代リ其ノ指揮ヲ爲スコトヲ得

第八條　警察部長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケテ其ノ地方全體ノ消防組ヲ指揮監督ス

消防組ハ火災警防ノ爲メニアラサレハ集合若クハ運動スルコトヲ得ス

但警察部長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長ニ於テ儀式訓練及他ノ災害ノ爲メニ集合運動ヲ命シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　消防組ノ服務規律及懲戒ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十條　消防組ノ擧動治安ニ妨害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ之ヲ解クコトヲ得

第十一條　消防組員ノ手當並ニ被服等ハ市町村會ニ諮問シ府縣知事之ヲ定ム

第十二條　消防組ニ必要ナル器物及建物ハ府縣知事市町村會ニ諮問シ之ヲ定ム

前項ノ器具及建物ハ市町村ニ於テ之ヲ設備スヘシ

第十三條　消防組ニ關スル費用ハ其ノ市町村ノ負擔トス

第十四條　（削除）

條十五條　（削除）

第十六條　此ノ規則ヲ施行スル爲メニ必要ナル細則ハ府縣知事之ヲ定ム

第十七條　府縣知事ハ地方ノ狀況ニ依リ此規則ノ全部若クハ一部ヲ準用シ水災ノ警戒防禦ノ爲メ水防組ヲ設ケ又ハ消防組ヲシテ水災警防ノ事務ヲ兼ネシムルコトヲ得

第十八條　北海道ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ北海道廳長官之ヲ行フ

東京府郡ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ警視總監之ヲ行ヒ消防部長ノ職務ハ警察署長之ヲ行フ

第十九條　此ノ規則中市ニ關スル規定ハ市町村組合並北海道及神繩縣ノ區ニ、町村ニ關スル規定ハ町村組合ニ之ヲ準用ス

第二十條　第七條ヲ除クノ外此ノ規則ハ警視廳官制又ハ特設消防署規程ニ依リ設置スル消防署ノ管轄區域ニハ之ヲ適用セス

消防組點檢規則

（明治三十三年五月二十三日　内務省訓令　第十六號）

【沿革】　大正三年四月訓令第五號改正

廳府縣（東京府ヲ除ク）

第一條　消防組ノ點檢ハ人員、服裝、姿勢、動作及機械器具其ノ他携帶品ノ操法、分解構成、保存ノ適否ヲ檢査スルモノトス

第二條　點檢ヲ行フトキハ所屬警察署長警察分署長又ハ其ノ代理者ヲ點檢官トシ組頭又ハ小頭ヲ指揮者トス但シ所轄警察署長警察分署長又ハ其ノ代理者在ラサルトキハ組頭ヲ點檢者トシ小頭ヲ指揮者トス

第三條　消防組員ノ集合整頓ノ方法ハ巡査點檢規則ヲ準用ス

第四條　指揮者タラサル小頭ハ前列右翼ニ若シ餘員アルトキハ同左翼ニ列シ尙ホ餘員アルトキハ後列ノ中央二歩ノ距離ニ於テ押伍ト爲ルヘシ

第五條　點檢ノ際列員ハ一定ノ服裝ヲ爲シ手袋アルトキハ之ヲ著用スヘシ但シ頭巾ヲ携フルトキハ其ノ紐ヲ頭ニ掛ケ之ヲ背部ニ負フヘシ

第六條　點檢ハ消防組當番員出務ノ際、現場引上ノ際及演習ノ際此ヲ行フモノトス

當番員出務ノ際ニ於ケル點檢ニ付テハ機械ノ分解構成ニ關スル檢査、現場引上ノ際ニ在テハ動作及機械器具携帶品ノ操法、分解構成、保存ノ檢査ヲ省略スルモノトス但シ現場引上ノ際ニハ機械器具、被服其ノ他携帶品破損ノ有無ヲ特ニ嚴重檢査スヘシ

第七條　機械、器具ニシテ使用シタルモノハ洗滌ノ後修繕シタルモノハ竣工ノ後警察官ニ於テ點檢スヘシ其ノ在ラサルトキハ組頭又ハ小頭ニ於テ點檢スヘシ

第八條　喞筒其ノ他ノ機械ニシテ組立タルモノハ毎年行フヘキ演習ノ内其ノ一回ニ限リ之ヲ分解シ内部ノ檢査ヲ行フモノトス

第四章　狩獵

狩獵法

（大正七年四月二日　法律第三十二號）

【沿革】　大正十一年四月法律第七四號改正

第一條　狩獵鳥獸以外ノ鳥獸ハ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス

狩獵鳥獸ノ種類ハ主務大臣之ヲ定ム

主務大臣ハ特殊ノ狩獵鳥獸保護蕃殖ノ爲必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ其ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第二條　狩獵鳥獸ノ雛及鳥獸ノ卵ハ主務大臣ノ定ムルモノヲ除クノ外之ヲ捕獲又ハ採取スルコトヲ得ス

第三條　狩獵鳥獸ハ狩獵免許ヲ受クルニ非サレハ主務大臣ノ定ムル銃器網、竿繩、竿、鉤又ハ罠ヲ使用シテ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス但シ柵、籠其ノ他ノ圍障アル邸宅地域内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ捕獲スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　地方長官必要ト認ムルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ前條ノ規定ニ依ル獵具ノ使用以外ノ方法ヲ以テスル狩獵鳥獸ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第五條　狩獵免許ハ甲乙ノ二種トシ狩獵免許狀ヲ下付ス

甲種狩獵免狀ハ銃器ノ使用以外ノ方法ヲ以テ狩獵ヲ爲ス者ニ、乙種狩獵免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ之ヲ下付ス

狩獵免狀ノ有效期間ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トス但シ北海道ニ於テハ九月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トス

主務大臣ハ特殊ノ狩獵鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲必要ト認ムルトキハ前項ノ期間内ニ於テ特ニ其ノ狩獵ノ期間ヲ限定スルコトヲ得

前二項ノ期間内ニ非サレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ罰金ニ處セラレタル者ハ一年ヲ經過スルニ非サレハ狩獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

第七條　未成年者、白痴者又ハ瘋癲者ハ乙種狩獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

乙種狩獵免許ヲ受ケタル者白痴者又ハ瘋癲者ト爲リタルトキハ地方長官ハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

第八條　狩獵免許ヲ受クル者ハ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

一等	所得稅二百圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族	五十圓
二等	所得稅ヲ納ムル者又ハ其ノ家族	三十圓
三等	一等及二等以外ノ者	十五圓

前項ノ免許稅ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第九條　主務大臣又ハ地方長官ハ鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲又ハ土地所有者ノ

出願其ノ他ノ事由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ十年以内ノ期間ヲ定メ禁獵區ヲ設クルコトヲ得

第十條　地方長官ハ危險豫防ノ爲其ノ他必要ト認ムルトキハ銃獵禁止區域ヲ設クルコトヲ得

第十一條　左ニ揭クル場所ニ於テハ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

一　御獵場
二　禁獵區
三　公道
四　公園
五　社寺境内
六　墓地

第十二條　學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲其ノ他特別ノ事由ニ因リ主務大臣又ハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ前數條ノ規定ニ拘ラス鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取スルコトヲ得

主務大臣又ハ地方長官前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ許可證ヲ下付ス

第十三條　前條第一項ノ規定ニ依リ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル鳥類ノ卵ハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス但シ警察官署ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　國、道府縣、郡又ハ市町村ハ命令ノ定ムル所ニ依リ獵區ヲ設定スルコトヲ得

第十五條　爆發物、劇藥、毒藥、据銃又ハ危險ナル罠若ハ陷穽ヲ使用シテ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

第十六條　日出前若ハ日沒後、市街其ノ他人家稠密ノ場所若ハ衆人群集ノ場所ニ於テ又ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル人畜、建物、汽車、電車若ハ艦船ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條　柵欄其ノ他ノ圍障又ハ作物アル土地ニ於テハ占有者、共同狩獵地ニ於テハ免許ヲ受ケタル者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ狩獵又ハ第十二條第一項ノ規定ニ依ル鳥獸ノ捕獲ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條　獵區ニ於テハ獵區設定者ノ承認ヲ得ルニ非サレハ狩獵又ハ第十二條第一項ノ規定ニ依ル鳥獸ノ捕獲ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條　狩獵免許ヲ受ケタル者又ハ第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥獸ノ卵ヲ採取セムトスルトキハ狩獵免狀又ハ許可證ヲ携帶スヘシ

警察官吏、憲兵、森林官吏又ハ市町村長ハ前項ノ規定ニ依リ携帶スヘキ狩獵免狀若ハ許可證又ハ捕獲シタル鳥獸若ハ採取シタル鳥獸ノ卵ヲ檢査スルコトヲ得

第二十條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル鳥獸ノ卵ハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第三條、第十一條、第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ違反シタル者
二　詐欺ノ行爲ヲ以テ狩獵免許又ハ第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者

第三條又ハ第十五條ノ規定ニ違反スル犯罪ノ用ニ供シタル物件及其ノ犯罪ニ因リテ得タル獵獲物ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收ス

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第十七條ノ規定ニ違反シタル罪ハ占有者又ハ共同狩獵地ノ免許ヲ受ケタル者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

一　第一條第一項、第二條、第五條第五項、第十三條、第十七條、第十八條又ハ第二十條ノ規定ニ違反シタル者
二　第一條第三項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者
三　銃獵禁止區域ニ於テ銃獵ヲ爲シタル者
四　正當ノ事由ナクシテ第十九條第二項ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミタル者
五　狩獵免狀又ハ第十二條第二項ノ許可證ヲ他人ニ使用セシメタル者

第二十三條　御獵場、禁獵區、銃獵禁止區域、獵區又ハ共同狩獵地ノ標識ヲ移轉、汚損、毀壞又ハ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四條　狩獵免許又ハ第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ罰金ニ處セラレタルトキハ其ノ狩獵免許又ハ效力ヲ失フ

第二十五條　第十九條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第二十六條　本法中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス
本法中市町村又ハ市町村長トアルハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

附　則

第二十七條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正八年八月勅令第三八一號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

第二十八條　明治三十年法律第七號ハ之ヲ廢止ス

第二十九條　舊法ニ依リ爲シタル許可ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
舊法ニ依リ設ケタル禁獵區又ハ銃獵禁止ノ區域ハ之ヲ本法ニ依リ設ケタル禁獵區又ハ銃獵禁止區域ト看做ス

第三十條　本法施行前爲シタル共同狩獵地ノ免許ハ仍其ノ效力ヲ有ス
前項免許ノ期間ハ申請ニ因リ之ヲ更新スルコトヲ得

第三十一條　狩獵免許ヲ受ケタル者舊法第二十一條乃至第二十三條ノ規定ニ依リ處罰セラレタルトキハ其ノ狩獵免許ハ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ一年ヲ經過スルニ非サレハ狩獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

狩獵法施行規則

（大正八年八月十六日農商務省令第二十八條）

【沿革】大正十年三月省令第三號、同十一年十月同第一九號、同十二年八月同第二一號、同十四年十月令林第二四號、同十五年九月同第二二號改正

第一條　狩獵鳥獸ノ種類左ノ如シ

あはうどり	う		どゐさぎ
あをさぎ	わし		くまたか
はやぶさ	みさご		きじ
やまどり	うづら		えぞやまどり
てつけい	かも		こじゅけい
くひな	あいさ		がん
ばん	だいぜん		
むなぐろ	ちどり		しぎ
はと	ひよどり		つぐみ（とらつぐみ及ろつぐみヲ除ク）
しろばら	まみちやじない		からす（ほしがらすヲ除ク）
かけす（ろりかけすル除ク）	しめ		いかる
いすか	ましこ		あとり
ひわ	かばらひわ		うそ
すずめ	にふないすずめ		ほほじろ

みやまほほじろ　あとじ　くろじ
かしらだか　のじこ

獸類各種但シかもしか及あまみのくろうさぎヲ除ク

第一條ノ二　左ノ鳥獸ハ農林大臣ノ指定シタル區域ニ於テ捕獲スル場合ヲ除クノ外之ヲ捕獲スルコトヲ得ス

こじゆけい　てつけい　牝じか

農林大臣前項ノ規定ニ依ル指定ヲ爲シタルトキハ鳥獸ノ名稱及區域ヲ告示スヘシ

第二條　左ノ鳥類ノ狩獵期間ハ十一月一日ヨリ翌年二月末日迄トス

きじ　やまどり

左ノ獸類期間ハ十二月一日ヨリ翌年二月末日迄トス

あなぐま　いたち　かはたそ
きつね　しか　たぬき
てん　おささび　りす

第三條　農林大臣狩獵法第一條第三項ノ規定ニ依リ第一條ノ二第一項ノ規定ニ依ル鳥獸以外ノ狩獵鳥獸ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限シタルトキハ鳥獸ノ名稱、禁止又ハ制限シタル獵法、期間及區域ヲ告示スヘシ

地方長官狩獵法第四條ノ規定ニ依リ狩獵鳥獸ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限シタルトキ亦前項ニ同シ

第四條　狩獵法第三條ノ規定ニ依ル獵具左ノ如シ

一　銃器　裝藥銃其ノ他瓦斯力ニ依リ彈丸ヲ發射スル銃器、散彈ヲ使用シ得ヘキ空氣銃及刺撥銃身ノ空氣銃

二　網　無網、霞網其ノ他ノ張網、突網及投網

三　繩　流鏑及張鏑

四　鏑　高鏑及千本鏑

五　鉤　流鉤

六　罠　括罠、箱罠、箱落、壓及虎挾

第五條　狩獵免許ヲ受ケムトスル者ハ地方長官ニ出願シ狩獵免狀ノ下付ヲ受クヘシ

前項ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載シ一等免狀ヲ受ケムトスル者ヲ除クノ外狩獵法第八條第一項ニ定ムル稅額ニ關スル證明書ヲ添付スヘシ

一　免許ノ種類及等級

二　出願者ノ身分、職業、氏名、住所及生年月日

三　狩類法又ハ本則ノ規定ニ依リ罰金ニ處セラレタルコトノ有無及罰金ニ處セラレタルコトアルトキハ其ノ年月日

第六條　狩獵法第八條第二項ノ收入印紙ハ之ヲ前條ノ願書ニ貼附シ消印ヲ爲サスシテ差出スヘシ

第七條　狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ飼養又ハ有害鳥獸ノ驅除ヲ目的トスル場合ニ於テハ地方長官ニ、其ノ他ノ場合ニ於テハ農林大臣ニ出願シ鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受クヘシ

前項ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　出願者ノ職業、氏名、住所及生年月日

二　捕獲スヘキ鳥獸又ハ採取スヘキ卵ノ種類及員數

三　捕獲又ハ採受ノ目的、期間、區域及方法並學術研究ヲ目的トスルモノニ在リテハ研究ノ事項及方法

狩獵法第十一條ニ掲クル場所又ハ獲區內ニ於テ鳥獸ヲ捕獲シ若ハ卵ヲ採取セムトスル場合ニ於テハ前項ノ外其ノ旨ヲ記載スヘシ

第八條　狩獵免許又ハ狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者其ノ住所若ハ氏名ヲ變更シタルトキハ二週間內ニ其ノ旨ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

新住所地カ他ノ地方長官ノ管轄ニ屬スルトキハ前項ノ期間內ニ免許ノ種類及等級並身分、職業、氏名、住所及生年月日ヲ新住所地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第九條　狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受ケタル者之ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シ遲滯ナク當初之ヲ下付シタル官廳ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ農林大臣又ハ地方長官ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第十條　狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ其ノ再渡ヲ請求スルコトヲ得

狩獵免狀ノ再渡ヲ受ケムトスル者ハ收入印紙ヲ以テ手數料金二圓ヲ納ムヘシ

第十一條　狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受ケタル者ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日內ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ之ヲ返納スヘシ

前項ノ規定ニ依リ狩獵免狀ヲ返納スル場合ニ於テハ其ノ捕獲シタル鳥獸ノ道府縣別種類別員數ヲ、鳥獸捕獲許可證ヲ返納スル場合ニ於テハ其ノ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル卵ノ種類別員數及其ノ處置ヲ届出ツヘシ

前項ノ規定ハ失效前ノ狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ヲ返納スル場合ニ付之ヲ準用ス

第十一條ノ二　飼鳥ノ賣買ヲ業トスル者ハ左ノ鳥類ニ關スル受渡簿ヲ備

（其ノ閉鎖ノ時ヨリ五年間之ヲ保存スヘシ

なしどり　くろこう　ほととぎす
かはせみ　みみづく　ふくろう
きつつき　ありすひ　ひばり
せきれい　びんずい　たひばり
ひたき　るり　とらつぐみ
くろつぐみ　あかはら　まみじろ
いそひよどり　あかひげ　こまどり
のごま　よしきり　せっか
うぐひす　めぼそ　きくいただき
みそさざい　れんじやく　もず
ごじふから　しじふから　やまがら
ひがら　こがら　えなが
ほしがらす　るりかけす　なが
むくどり　めじろ

前項ノ受渡簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　讓受ケタル鳥類ノ種類及員數、讓受人ノ職業、氏名、住所及其ノ捕獲者ナリヤ否ヤノ別並讓受ノ年月日

二　讓渡シタル鳥類ノ種類、員數及讓渡ノ年月日

三　前二號以外ノ事由ニ因ル鳥類ノ員數ノ異動、其ノ事由及年月日

四　鳥類ノ員數ノ異動アリタル日ニ於ケル鳥類ノ種類別差引現在員數

第十一條ノ三　地方長官ハ鳥獸又ハ獵具ノ地方名稱ニシテ第一條、第二條、第四條又ハ前條ノ施行ノ爲必要ト認ムルモノハ之ヲ告示スヘシ

第十二條　禁獵區ハ御料地又ハ國有地ヲ其ノ區域トセス且其ノ區域二府

縣以上ニ亙ラサル場合ニ於テハ地方長官其ノ他ノ場合ニ於テハ農林大臣之ヲ設ク

農林大臣必要ト認ムルトキハ前項前段ノ場合ニ於テモ禁獵區ヲ設クルコトヲ得

第十三條　農林大臣又ハ地方長官禁獵區ヲ設ケタルトキハ其ノ區域及存續期間ヲ告示スヘシ禁獵區ヲ廢止シ又ハ其ノ區域若ハ存續期間ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十四條　農林大臣又ハ地方長官ハ禁獵區ヲ表示スル爲其ノ周圍ノ隅角及見易キ場所ニ百二十間ヲ超エサル間隔ヲ以テ木標ヲ設クヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ其ノ區域分明ナル場合ニ於テハ木標ノ間隔ヲ延長シ又ハ制札ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

土地所有者ノ出願ニ依リ設ケタル禁獵區ニ付テハ農林大臣又ハ地方長官ハ出願者ヲシテ前項ノ木標又ハ制札ヲ設ケシムルコトヲ得

第十五條　地方長官ハ銃獵禁止區域ヲ表示スル爲其ノ場所ニ制札ヲ設クヘシ

第十六條　獵區ノ存續期間ハ二十年以內トス

前項ノ期間ハ農林大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ更新スルコトヲ得

第十七條　獵區ハ三百町歩以上ノ面積タルコトヲ要ス但シ農林大臣ニ於テ特別ノ事由アリト認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　獵區ハ其ノ區域內ノ土地ノ上ニ登記シタル權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス

第十九條　獵區設定者第二十四條及第二十六條ノ規定ニ依リ狩獵者ノ員數ヲ制限シタル場合ニ於テ狩獵法第十八條ノ規定ニ依ル狩獵ノ承認ヲ受ケムトスル者ノ員數其ノ制限ヲ超過シタルトキハ抽籤ノ方法ニ依ルニ非サレハ狩獵者ヲ定ムルコトヲ得ス

第二十條　獵區設定者ハ正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ狩獵法第十八條ノ規定ニ依ル承認ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十一條　獵區設定者狩獵法第十八條ノ規定ニ依ル承認ヲ爲シタルトキハ承認證ヲ交付スヘシ

第三十二條　獵區設定者ハ狩獵法第十八條ノ規定ニ依ル承認ヲ受クル者ヲシテ承認料ヲ納付セシムルコトヲ得

前項ノ承認料ハ一日ニ付五圓ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ規定ハ狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケ學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲鳥獸ノ捕獲ヲ爲ス者ニ對シテハ之ヲ適用セス

第二十三條　獵區內ニ於テ狩獵又ハ狩獵法第十二條第一項ノ規定ニ依ル鳥獸ノ捕獲ヲ爲サムトスルトキハ第二十一條ノ承認證ヲ携帶スヘシ

第二十四條　獵區設定者ハ狩獵日、狩獵者ノ員數又ハ狩獵者ニ對シ其ノ捕獲スヘキ鳥獸ノ種類及員數、獵具、獵法、捕獲區域其ノ他狩獵ニ關スル制限ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　獵區ヲ設定セムトスル者ハ入獵規程ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一　獵區ノ名稱

二　獵區ト爲サムトスル土地ノ地目別面積、水面ノ面積及其ノ面積三百町歩ニ滿タサルトキハ其ノ事由

三　獵區ノ存續期間

四　獵區ト爲サムトスル區域ニ於ケル過去一年ノ季節別鳥獸棲息狀況及其ノ以前ニ於ケル概況

五　一狩獵期間當ノ月別狩獵者(甲、乙種別)及捕獲鳥獸(種類別)見込數

六　鳥獸ノ保護蕃殖ヲ爲スヤ否ヤノ別及之ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ方法

七　獵區內ニ棲息スル鳥獸ニ因ル損害ノ補償ニ關スル事項

八　獵區設定ニ要スル費用及一年當收支概算

九　第二十二條第二項但書ノ規定ニ依ル承認料ヲ納付セシムルモノニ在リテハ其ノ事由

十　管理者又ハ巡守ヲ置クヤ否ヤノ別及之ヲ置クモノニ在リテハ其ノ員數

前項ノ書面ニハ獵區ノ區域及位置ヲ示ス圖面、第十八條ノ同意ヲ證スル書面竝獵區設定ニ關スル決議ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

獵區設定者第一項第三號、第六號又ハ第七號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條　入獵規程ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　事務所ノ位置

二　獵區ノ區域

三　第二十四條ノ規定ニ依ル制限

四　入獵申込ノ手續

五　第十九條ノ規定ニ依ル抽籤ノ方法

六　入獵承認ノ通知方法

七　第二十二條ノ規定ニ依ル承認料及其ノ納付ノ方法

八　承認證ノ交付、携帶及提示ニ關スル事項

九　案內者又ハ勢子ヲ置クモノニ在リテハ之ニ關スル事項

十　入獵者、其ノ從者、獵區管理者、巡守、案內者又ハ勢子ニ徽章ヲ佩用セシムルモノニ在リテハ其ノ旨及雛形

十一　退獵ノ手續

十二　入獵規程違反者ニ對スル處置

獵區設定者前項第二號、第三號、第五號、第七號、第九號又ハ第十二號ノ事項ヲ變更シ又ハ新ニ設ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農林治臣ノ認可ヲ受クヘシ

前條第一項第二號、第四號、第五號、第八號及第二項ノ規定ハ第一項第二號ノ事項ヲ變更セムトスル場合ニ於ケル認可ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第二十七條　第十六條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ申請セムトスルトキハ更新ノ期間ヲ定メ申請書ニ第十八條ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ期間滿了ノ日ヨリ三月前ニ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

第二十八條　入獵規程ヲ變更シタルトキハ第二十六條第二項ニ揭クル事項ニ關スルモノヲ除クノ外遲滯ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ屆出ツヘシ第二十五條第一項第一號又ハ第十號ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二十九條　農林大臣獵區ノ設定又ハ其ノ存續期間ノ更新ノ認可ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ告示スヘシ告示シタル事項ニ付變更ヲ生シタルトキ亦同シ

一　獵區ノ名稱

二　事務所ノ位置

三　獵區ノ區域

四　獵區ノ存續期間

五　承認料

六　狩獵ニ關スル制限

第三十條　獵區設定者ハ其ノ獵區ニ管理者又ハ巡守ヲ置クコトヲ得

獵區設定者管理者又ハ巡守ヲ置キタルトキハ其ノ氏名及住所ヲ農林大臣ニ届出テ且證票ヲ携帶セシムヘシ

第三十一條　獵區管理者又ハ巡守ハ何時ニテモ獵區内ニ於テ鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥獸ノ卵ヲ採取スル者ニ對シ第二十一條ノ承認證ノ提示ヲ求ムルコトヲ得

第三十二條　獵區設定者ハ獵區ノ區域ヲ表示スル爲必要ナル標識ヲ設クヘシ

第三十二條ノ二　獵區設定者ハ前年四月十六日ヨリ其ノ年四月十五日迄ノ間ニ於ケル獵區ノ成績ヲ樣式第一號及第二號ニ依リ毎年四月三十日迄ニ農林大臣ニ報告スヘシ

第三十二條ノ三　獵區設定者ハ農林大臣ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間狩獵ノ停止ヲ爲スコトヲ得

前項ノ期間ヲ變更セムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前二項ノ認可ヲ爲シタルトキハ農林大臣ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十三條　獵區設定者獵區ヲ廢止セムトスルトキハ廢止ノ日ヨリ三十日前ニ其ノ事由ヲ具シ農林大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ農林大臣ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十四條　農林大臣必要ト認ムルトキハ獵區設定者ニ對シ獵區設定ノ認可ヲ取消シ第二十五條第一項第三號、第六號、第七號、第十號ノ事項又ハ入獵規程ノ變更、有害鳥獸ノ驅除、一定ノ期間ノ狩獵ノ停止ヲ命シ其ノ他必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

農林大臣獵區設定ノ認可ヲ取消シ又ハ狩獵ノ停止ヲ命シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十五條　第九條第一項、第十一條又ハ第十一條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第三十六條　本則ニ依リ農林大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第三十七條　本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

附　則

第三十八條　本則ハ狩獵法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十九條　共同狩獵地ノ免許期間ノ更新ヲ申請セムトスル者ハ其ノ更新ノ期間ヲ定メ申請書ニ區域内ノ土地所有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ期間滿了ノ日ヨリ三月前ニ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

第四十條　共同狩獵地ニ付テハ前條ノ外仍從前ノ例ニ依ル

第四十一條　禁獵區及銃獵禁止區域ノ木標又ハ制札ニシテ本則施行前設ケタルモノハ本則ニ依リ之ヲ設ケタルモノト看做ス

附　則（大正十四年十月農林省令第二四號）

本令ハ大正十四年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條第一號中刻拔銃身ノ空氣銃ニ關スル規定ハ大正十九年四月十五日迄、第十一條ノ二ノ規定ハ大正十四年十一月三十日迄之ヲ適用セス

飼鳥ノ賣買ヲ業トスル者第十一條ノ二ニ掲グル鳥類ヲ飼養スルトキハ同條ノ規定ニ依ル受渡簿ニ其ノ鳥類ノ大正十四年十一月三十日現在ノ種類別員數ヲ記載スヘシ

本令施行ノ際現ニ存スル獵區ノ設定者ハ大正十四年十二月十五日迄ニ入獵規程及第二十五條第一項第七號ノ事項ヲ定ムルモノニ在リテハ之ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

獵區ニ於ケル狩獵ノ制限ニシテ本令施行ノ際現ニ効力ヲ有スルモノハ入獵規程ニ付前項ノ認可アル迄仍其ノ効力ヲ有ス

（樣式略ス）

第五章　模　造

通貨及證券模造取締法

（明治二十八年四月五日法律第二十八號）

第一條　貨幣、政府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、國債證券及地方債權證券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第二條　前條ニ違犯シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條　第一條ニ掲ケタル物件ハ刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破毀スヘシ

第四條　第一條ニ掲ケタル物件ニハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス

紙幣類似證券取締法

（明治三十九年五月八日法律第五十一號）

第一條　一樣ノ形式ヲ具ヘ箇々ノ取引ニ基カスシテ金額ヲ定メ多數ニ發行シタル證券ニシテ紙幣類似ノ作用ヲ爲スモノト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ其ノ發行及流通ヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ規定ハ一樣ノ價格ヲ表示シテ物品ノ給付ヲ約束スル證券ニ付之ヲ準用ス

第二條　前條ニ依リ證券ノ發行及流通ヲ禁止シタルトキハ主務大臣ハ直ニ其ノ旨ヲ公告ス

禁止ノ公告後ニ發行シ又ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル證券ハ無效トス

第三條　禁止ニ違反シテ證券ヲ發行シ又ハ其ノ證券ヲ授受シタル者ハ一年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ證券ヲ沒收ス

禁止ニ違反シテ證券ヲ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第四條　禁止ノ公告後ニ發行シ又ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル證券ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ヲ除クノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

印紙模造取締規則

（大正五年七月二十日大藏省令第十八條）

帝國政府ノ發行スル印紙又ハ印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノハ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ製造、輸入、移入販賣、頒布又ハ使用スルコトヲ得ス

前項ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ五圓以上ノ科料ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六章　出版

出版法

（明治二十六年四月十四日　法律第十五號）

第一條　凡ソ機械舍密其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖畫ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其ノ文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若ハ圖畫ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當トスル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條　新聞紙又ハ定期ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖畫ノ出版ハ總テ此法律ニ依ルヘシ但シ專ラ學術、技藝、統計、廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ハ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得

第三條　文書圖畫ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日ヲ除キ三日前ニ製本二部ヲ添ヘ內務省ニ屆出ツヘシ

第四條　官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版スルトキハ其官廳ヨリ發行前ニ製本二部ヲ內務省ニ送付スヘシ

第五條　出版屆ハ著作者又ハ其ノ相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ但シ非賣品ハ著作者又ハ發行者ノミニテ屆出ルコトヲ得

版權ノ保護ナキ文書圖畫ヲ出版スルトキ若ハ著作者又ハ其ノ相續者ヲ知ルヘカラサルトキハ其ノ由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其ノ學校、會社、協會等ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ屆出ツヘシ

第六條　文書圖畫ノ發行者ハ文書圖畫ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但シ著作者又ハ其ノ相續者ハ發行者ヲ兼ヌルコトヲ得

第七條　文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第八條　文書圖畫ノ印刷者ハ其ノ氏名、住所及村刷ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載シ住所ト印刷者ト同シカラサルトキハ印刷所ヲモ記載スヘシ

印刷所若數人ノ共有ニ係ルトキハ營業上其ノ印刷所ヲ代表スル者ヲ以テ印刷者トス

前二項ノ印刷所ニシテ若營業上慣行ノ名稱アルモノハ其ノ名稱ヲモ記載スヘシ

第九條　書簡、通信、報告、社則、塾則、引札、諸藝ノ番附諸種ノ用紙證書ノ類及寫眞ハ第三條第六條第七條第八條ニ據ルヲ要セス但シ第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ關ルル者ハ此ノ法律ニ於テ處分ス

第十條　文書圖畫ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其ノ都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ雜誌類ニ在テハ內務大臣ノ許可ヲ經テ其ノ手續ニ省略スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ十二箇月間一回ヲモ發行セサルトキ廢刊シタルモノト看做スヘシ

第十一條　一タヒ出版屆ヲ爲シタル文書圖畫ノ再版ハ出版屆ヲ要セスト雖若改正增減シ又ハ註解、附錄、繪畫等ヲ加ヘタルトキハ仍第三條ニ依ルヘシ

第十二條　演說若ハ講議ノ筆記ハ演說者若ハ講義者ヲ以テ著作者トス但シ筆記者ニ於テ演說者若ハ講義者ノ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ出版スルトキハ筆記者ヲ著作者ト看做スヘシ此ノ場合ニ於テ記載ノ事項第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ルトキハ內務大臣ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其ノ剽版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十條　外國ニ於テ印刷シタル文書圖畫ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ內務大臣ハ其ノ文書圖畫ノ內國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其ノ印本ヲ差押スルコトヲ得

第二十一條　軍事ノ機密ニ關スル文書圖畫ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十二條　第三條ノ屆出ヲ爲サスシテ文書圖畫ヲ出版シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　第六條ヲ犯ス者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條　發行者自己ノ氏名、住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ發行スル文書圖畫ニ記載セス其ノ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條　印刷者自己ノ氏名、住所又ハ發行ノ年月日ヲ其ノ印刷スル所ノ文書圖畫ニ記載セス若ハ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ罰前條ニ同シ

住所ト印刷所ト同シカラサルトキ及印刷所ニシテ營業上慣行ノ名稱アルトキ印刷所及名稱ヲ記載セサル者亦前項ニ同シ

第二十六條　政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂セムトスル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者、印刷者ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十七條　風俗ヲ壞亂スル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ルトキハ演說者若ハ講義者筆記者ト同ク其ノ罪ヲ論ス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ヲ新聞紙若ハ雜誌ノ通信者ニ於テ筆記シ其ノ新聞紙若ハ雜誌ニ記載シタルモノ及總テ演說者講義者ノ承諾ヲ經スシテ其筆記ヲ出版シタル者ニ關シテハ演說者若ハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ノ外ハ講義者又ハ演說者ノ許諾ヲ經ルニ非サレハ他人ニ於テ其ノ筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但シ本項ニ違フ者ハ版權法ニ據リ其ノ責ニ任セシム

第十三條　二種以上ノ著作若ハ演說講議ノ筆記ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲ストキハ編纂者ヲ著作者ト看做スヘシ

前條第一項ノ末段及第二項第三項ハ本條ニ適用スヘシ

第十四條　翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十五條　學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其ノ出版屆ニ署名シタル代表者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十六條　犯罪ヲ曲庇シ又ハ刑事ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ若ハ賞恤スルノ文書ヲ出版スルコトヲ得ス

第十七條　重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス

傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ事項ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十八條　外交軍事其ノ他官廳ノ機密ニ關シ公ニセサル官ノ文書及官廳ノ議事ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ之ヲ版出スルコトヲ得ス

第十九條　安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖畫

第二十八條　第十六條第十七條第十八條第二十一條ニ觸ルル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日以上一年以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條第二十條ニ依リ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖畫ヲ發賣頒布シタル者罰前項ニ同シ其ノ未タ發賣頒布セサル文書圖畫ハ之ヲ沒收ス

第二十九條　第二十六條第二十七條第二十八條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢事ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得

第三十條　前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其ノ差押フヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ

第三十一條　文書圖畫ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ私行ニ渉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得若之ヲ證明シタルトキハ其ノ罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條　此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第三十三條　此ノ法律ニ關スル公訴ノ時效ハ一年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十四條　此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ其ノ記載ノ事項第二條ノ範圍外ニ渉ルトキハ內務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ出版スルコトヲ差止ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ一箇年ヲ經ルニ非サレハ更ニ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得ス

第三十五條　文書圖畫ヲ印刷スルトキハ直ニ發賣頒布セスト雖其ノ目的發賣頒布ニ在ルモノハ總テ此ノ法律ニ依ル

出版法ニ據リ刻版印本ヲ差押ヘタルトキ取扱處分方

（明治二十九年二月五日內務省訓令第二號）

廳府縣（東京府ヲ除ク）

新聞紙條例第二十條及出版法第十九條ニ據リ新聞紙若クハ刻版及印本差押ヘタルトキハ當該官廳ニ於テ嚴密ニ封印ヲ施シ發行人若クハ發行者刻版所有者ヲシテ看守セシムルコトヲ得若發行人若クハ發行者及刻版所有者ノ承諾ヲ得タルトキハ警察官立合ノ上其新聞紙若クハ刻版及印本ヲ棄セシムルモ妨ナシ但明治二十一年（一月）第四五號訓令第二項中第五及第四項ハ自今消滅シタルモノト心得ヘシ

豫約出版法

（明治四十三年四月十六日法律第五十五號）

第一條　代金ノ全部又ハ一部ヲ前收シ文書圖畫ノ頒布ヲ豫約スル出版ニ對シテハ出版法ニ依ルノ外尙本法ヲ適用ス

第二條　發行者ハ左ノ事項ヲ記載シ內務大臣ニ屆出ツヘシ

一　題號

二　發行ノ年月日及順次發行ノ場合ハ其ノ豫定年月日

三　著作者ノ氏名

四　內容、製本及紙數ノ概要

五　豫約定價及代金前收ノ方法

六　發行所

七　發行者ノ氏名、生年月日、法人ナルトキハ其ノ名稱及代表者ノ氏名

前項ノ屆出ハ書面ヲ以テシ發行者又ハ其ノ法定代理人ヨリ豫約手續ニ著手ノ日ヨリ十日以前ノ管轄地方官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第三條　豫約出版物ニ付出版法ニ依リテ爲ス出版屆書ニハ第二條ニ依リテ屆出ヲ爲シタルコト及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

第四條　發行者又ハ其ノ法定代理人ハ第二條ノ屆出ト同時ニ保證金トシテ管轄地方官廳ニ左ノ金額ヲ納ムヘシ

一　豫約定價十圓未滿ハ金五百圓

二　豫約定價十圓以上ハ千圓

保證金ハ命令ヲ以テ定ムル種類ノ有價證券ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第五條　發行所、發行者ノ法定代理人、發行者法人ナルトキハ其ノ名稱及代表者ニ變更アリ又ハ發行者能力ヲ失ヒ死亡若ハ解散シ又ハ死亡若ハ解散ニ因リ法律上豫約出版ヲ廢絕スルノ已ムヲ得サルニ至リタルトキハ十日以內ニ內務大臣ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出ハ書面ヲ以テシ發行者又ハ其ノ法定代理人、其ノ死亡ニ係ルトキハ相續人、相續人定マラス又ハ相續人ナキトキハ戶主若ハ同居ノ親族、法人ノ合併ニ因ル解散ニ係ルトキハ其ノ法人ノ權利及義務ヲ承繼シタル法人、破產ニ因ル解散ニ係ルトキハ破產管財人ヨリ管轄地方官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第六條　法律上已ムヲ得サルニ非サル豫約出版ノ廢絕又ハ第二第一項第一號乃至第五號ノ事項ノ變更及死亡若ハ解散ニ因ラサル發行者ノ變更ハ新舊發行者又ハ其ノ法定代理人ヨリ其ノ事由ヲ具シタル書面ヲ以テ豫メ管轄地方官廳ニ經由シ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ハ豫約當事者ノ解除權行使ヲ妨ケラルルコトナシ

第七條　相續人又ハ法人ノ合併ニ因リ其ノ權利及義務ヲ承繼シタル法人ハ豫約出版ニ關スル權利及義務ヲ承繼ス

第八條　保證金ニ對スル權利及義務ハ發行者變更ノ場合ニ於テ承繼發行者之ヲ承繼ス

第九條　保證金ハ適法ニ豫約出版ヲ廢絕シ又ハ完全ニ豫約ヲ履行シタル後ニ非サレハ其ノ還付ヲ請求シ又ハ其ノ債權ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ國稅徵收法及之ヲ準用スル法令ヲ適用シ又ハ豫約解除若ハ豫約不履行ニ因リ代金返還若ハ損害賠償ヲ命スル判決ヲ執行スルハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　第十一條ノ罰金又ハ刑事訴訟費用ヲ完納セサルトキハ檢事ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ之ニ充ツルコトヲ得

第十條　發行者又ハ其ノ法定代理人ハ保證金ノ闕額ヲ生シタル場合ニ於テ之ヲ塡補スヘシ

第十一條　第二條、第四條ノ規定ニ依ラスシテ豫約手續ニ著手シ又ハ第六條若ハ第九條ニ違反シ又ハ管轄地方官廳ノ督促ヲ受ケタル後七日以內ニ保證金ヲ塡補セラル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條又ハ第五條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　明治三十三年法律第五十二號ハ前條ノ犯罪ニ之ヲ準用ス

第十三條　本法ハ新聞紙出版法第二條但書ニ依ル雜誌及官廳ニ於テ出版スル文書圖畫ニ之ヲ適用セス

第七章　新聞紙

新聞紙法（明治四十二年五月六日法律第四十一號）

第一條　本法ニ於テ新聞紙ト稱スルハ一定ノ題號ヲ用ヰ時期ヲ定メ又ハ六箇月以内ノ期間ニ於テ時期ヲ定メスシテ發行スル著作物及定時期以外ニ本著作物ト同一題號ヲ用ヰテ臨時發行スル著作物ヲ謂フ

同一題號ノ新聞紙ヲ他ノ地方ニ於テ發行スルトキハ各別種ノ新聞紙ト看做ス

第二條　左ニ掲クル者ハ新聞紙ノ發行人又ハ編輯人タルコトヲ得ス

一　本法ヲ施行スル帝國領土内ニ居住セサル者

二　陸海軍軍人ニシテ現役若ハ召集中ノ者

三　未成年者、禁治産者及準禁治産者

四　懲役又ハ禁錮ノ刑ノ執行中又ハ執行猶豫中ノ者

第三條　印刷所ハ本法ヲ施行スル帝國領土外ニ之ヲ設クルコトヲ得ス

第四條　新聞紙ノ發行人ハ左ノ事項ヲ内務大臣ニ屆出ツヘシ

一　題號

二　掲載事項ノ種類

三　時事ニ關スル事項ノ掲載ノ有無

四　發行ノ時期、若時期ヲ定メタルトキハ其ノ旨

五　第一回發行ハ年月日

六　發行所及印刷所

七　持主ノ氏名、若法人ナルトキハ其ノ名稱及代表者ノ氏名

八　發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齢但シ編輯人二人以上アルトキハ其ノ主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ノ氏名年齢

前項ノ屆出ハ持主又ハ其ノ法定代理人ノ連署シタル書面ヲ以テシ第一回發行ノ日ヨリ十日以前ニ管轄地方官廳ニ差出スヘシ

第五條　前條第一項第一號乃至第三號ノ事項ノ變更ハ變更ノ日ヨリ十日以前ニ第四號若ハ第六號ノ事項又ハ持主、編輯人、印刷人ノ變更ハ變更前又ハ變更後七日以内ニ前條ノ手續ニ依リ發行人ヨリ之ヲ内務大臣ニ屆出ツヘシ但シ持主變更ノ屆出ニハ死亡ニ因ル場合ノ外新書持主又ハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス

第六條　死亡シ又ハ第二條ニ該當スルニ至リタル發行人ノ權利及義務ヲ承繼シタル發行人ノ其ノ發行人ト爲リタル日ヨリ七日以内ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ノ外發行人ノ變更ハ變更ノ日ヨリ十日以前ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　新聞紙ハ屆出ヲ爲シタル發行時期又ハ發行休止ノ日ヨリ起算シテ百日間、三回發行ノ期間ヲ通シテ百日ヲ超ユル新聞紙ニ在リテハ三回發行ノ期間之ヲ發行セサルトキハ其ノ發行ヲ廢止シタルモノト看做ス

第八條　發行人若ハ編輯人死亡シ又ハ第二條ニ該當スルニ至リ後任ノ發行人若ハ編輯人ヲ定メサル間又ハ發行人若ハ編輯人一箇月以上本法ヲ施行スル帝國領土外ニ旅行スル場合ニ於テハ假發行人若ハ假編輯人ヲ設クルニ非サレハ新聞紙ノ發行ヲ爲スコトヲ爲ス

發行人及編輯人ニ關スル本法ノ規定ハ假發行人及假編輯人ニ之ヲ準用ス

第九條　編輯人ノ責任ニ關スル本法ノ規定ハ左ニ掲クル者ニ之ヲ準用ス

一　編輯人以外ニ於テ實際編輯ヲ擔當シタル者

二　掲載ノ事項ニ署名シタル者

三　正誤書、辯駁書ノ事項ニ付テハ其ノ掲載ヲ請求シタル者

第十條　新聞紙ニハ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名及發行所ヲ掲載スヘシ

第十一條　新聞紙ハ發行ト同時ニ内務省ニ二部、管轄地方官廳、地方裁判所檢事局及區裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十二條　時事ニ關スル事項ヲ掲載スル新聞紙ハ管轄地方官廳ニ保證トシテ左ノ金額ヲ納ムルニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

一　東京市、大阪市及其ノ市外三里以内ノ地ニ於テハ二千圓

二　人口七萬以上ノ市又ハ區及其ノ市又ハ區外一里以内ノ地ニ於テハ千圓

三　其ノ他ノ地方ニ於テハ五百圓

前項ノ金額ハ一箇月三回以下發行スルモノニ在リテハ其ノ半額トス

保證金ハ命令ヲ以テ定ムル種類ノ有價證券ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十三條　保證金ニ對スル權利及義務ハ發行人變更ノ場合ニ於テ後任發行人之ヲ承繼スルモノトス

第十四條　保證金ハ發行ヲ廢止シタルトキニ非サレハ其ノ還附ヲ請求シ又ハ其ノ債權ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ國稅徵收法及之ヲ準用スル法令ヲ適用シ又ハ名譽ニ對スル罪ニ因ル損害賠償ノ判決ヲ執行スルハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　保證金ヲ納ムル新聞紙ニ關シ發行人又ハ編輯人罰金又ハ刑事訴訟費用ノ言渡確定ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ完納セサルトキハ檢事ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ充ツルコトヲ得

第十六條　保證金ハ其ノ闕額ヲ生シタル場合ニ於テ之ヲ塡補スルニ非サレハ其ノ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得ス但シ闕額ヲ生シタル日ヨリ七日以内ノ此ノ限ニ在ラス

第十七條　新聞紙ニ掲載シタル事項ノ錯誤ニ付其ノ事項ニ關スル本人又ハ直接關係者ヨリ正誤又ハ正誤書、辯駁書ノ掲載ヲ請求シタルトキハ其ノ請求ヲ受ケタル後次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲ爲シ又ハ正誤書、辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ

正誤、辯駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ウヘシ

正誤、辯駁ノ趣旨法令ニ違反スルトキ又ハ請求者ノ氏名住所ヲ明記セサルトキハ之ヲ掲載スルコトヲ要セス

正誤書、辯駁書ノ字數原文ノ字數ヲ超過シタルトキハ其ノ超過ノ字數ニ付發行人ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ料金ヲ要求スルコトヲ得

第十八條　官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄錄セシ事項ニシテ官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤シ又ハ正誤書、辯駁書ヲ掲載シタルトキハ本人又ハ直接關係者ノ請求ナシト雖其ノ官報又ハ新聞紙ヲ得タル後前條ノ例ニ依リ正誤シ又ハ正誤書、辯駁書ヲ掲載スヘシ但シ料金ヲ要求スルコトヲ得ス

第十九條　新聞紙ハ公判ニ付スル以前ニ於テ豫審ノ内容其ノ他檢事ノ差止メタル搜査又ハ豫審中ノ被告事件ニ關スル事項又ハ公開ヲ停メタル訴訟ノ辯論ヲ掲載スルコトヲ得ス

第二十條　新聞紙ハ官署、公署又ハ法令ヲ以テ組織シタル議會ニ於テ公ニセサル文書又ハ公開セサル會議ノ議事ヲ許可ヲ受ケスシテ掲載スルコトヲ得ス請願書又ハ訴願書ニシテ公ニセラレサルモノ亦同シ

第二十一條　新聞紙ハ犯罪ヲ煽動若ハ曲庇シ又ハ犯罪人若ハ刑事被告人

ヲ賞恤若ハ救護シ又ハ刑事被告人ヲ陷害スルノ事項ヲ掲載スルコトヲ得ス

第二十二條　第四條乃至第六條ノ届出ヲ爲サス若ハ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセス又ハ保證金ヲ納メ若ハ之ヲ塡補スヘキ場合ニ於テ之ヲ納メ若ハ之ヲ塡補セスシテ發行シタルトキハ正當ノ届出ヲ爲シ又ハ保證金ヲ納メ若ハ之ヲ塡補スル迄管轄地方官廳ニ於テ新聞紙ノ發行ヲ差止ムヘシ

第二十三條　内務大臣ハ新聞紙掲載ノ事項ニシテ安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ發賣及頒布ヲ禁止シ必要ノ場合ニ於テハ之ヲ差押フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ内務大臣ハ同一主旨ノ事項ノ掲載ヲ差止ムルコトヲ得

第二十四條　内務大臣ハ外國若ハ本法ヲ施行セサル帝國領土ニ於テ發行シタル新聞紙掲載ノ事項ニシテ安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ本法施行ノ地域内ニ於ケル發賣及頒布ヲ禁止シ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ差押フルコトヲ得

新聞紙ニ對シ一年以内ニ二回以上前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ内務大臣ハ其ノ新聞紙ヲ本法施行ノ地域内ニ輸入又ハ移入スルヲ禁止スルコトヲ得

第二十五條　前條第二項ニ依ル禁止ノ命令ニ違反シテ輸入又ハ移入シタル新聞紙及第四十三條ニ依ル禁止ノ裁判ニ違反シテ發賣又ハ頒布スルノ目的ヲ以テ印刷シタル新聞紙ハ管轄地方官廳ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得

第二十六條　本法ニ依リ差押ヘタル新聞紙ニシテ二年以上其ノ差押ヲ解除セラレサルトキハ差押ヲ執行シタル行政官廳ニ於テ之ヲ處分スルコトヲ得

第二十七條　陸軍大臣、海軍大臣及外務大臣ハ新聞紙ニ對シ命令ヲ以テ軍事若ハ外交ニ關スル事項ノ掲載ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第二十八條　第二條ニ該當スル者ニシテ事實ヲ詐リ發行人又ハ編輯人ト爲リタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　第三條ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　第四條乃至第六條ノ届出ヲ爲サス若ハ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセス又ハ第四條第一項第一號、第四號乃至第六號ニ關シ届出ノ事項ニ違反シタル行爲ヲ爲シ又ハ第十一條ニ違反シタルトキハ發行人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十一條　第四條第一項第二號又ハ第三號ニ關シ届出ノ事項ニ違反シタル行爲ヲ爲シタルトキハ發行人及編輯人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十二條　第八條第一項ニ違反シタルトキハ發行人死亡シ又ハ第二條ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ實際發行ヲ爲シタル者、其ノ他ノ場合ニ於テハ發行人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十三條　第十條ニ違反シ又ハ掲載ニ實ヲ以テセサルトキハ發行人及編輯人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十四條　第十二條第一項、第二項、第十六條ニ違反シ又ハ第二十二條ニ依ル差止ノ命令ニ違反シタル時ハ發行人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條　第十七條第一項、第二項又ハ第十八條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ私事ニ係ル場合ニ於テ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十六條　第十九條、第二十條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條　第二十一條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ三月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條　第二十三條ニ依ル禁止若ハ差止ノ命令、第二十四條ニ依ル禁止ノ命令、第四十三條ニ依ル禁止ノ裁判ニ違反シタルトキハ發行人編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知リテ其ノ新聞紙ヲ發賣又ハ頒布シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條　第二十三條第一項、第二十四條第一項、第二十五條ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條　第二十七條ニ依ル禁止又ハ制限ノ命令ニ違反シタルトキハ發行人、編輯人ヲ二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スル事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人、編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條　皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變改シ又ハ朝憲ヲ紊亂セムトスルノ事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人、編輯人、印刷人ヲ二年以下ノ禁錮及三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條　第四十條乃至第四十二條ニ依リ處罰スル場合ニ於テ裁判所ハ其ノ新聞紙ノ發行ヲ禁止スルコトヲ得

第四十四條　本法ニ定メタル犯罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セス

第四十五條　新聞紙ニ掲載シタル事項ニ付名譽ニ對スル罪ノ公訴ヲ提起シタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若其ノ證明ノ確立ヲ得タルトキハ其ノ行爲ハ之ヲ罰セス公訴ニ關聯スル損害賠償ノ訴ニ對シテハ其ノ義務ヲ免ル

附　則

新聞紙條例ハ之ヲ廢止ス

本法施行前ヨリ發行スル新聞紙ニシテ本法ノ規定ニ依リ保證金ニ闕額ヲ生スルニ至リタルトキハ本法施行ノ日ヨリ三年間其ノ塡補ヲ猶豫ス

第二十六條ノ規定ハ本法施行前ノ差押ニ係ル新聞紙ニ之ヲ準用ス

第八章　古物商及質屋

古物商取締法（明治二十八年三月六日法律第十三號）

【沿革】明治三十三年三月法律第六〇號、同三十八年二月同第二四號改正

第一條　古物商トハ主トシテ一度使用シタル物品若ハ其ノ取品ニ幾部ノ手入ヲ爲シタルモノヲ賣買交換スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ云フ

第二條　古物商ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ其ノ物品ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條　古物商ハ免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄内ニ店舗ヲ設ケタルトキハ其ノ旨行政廳ニ届出ツヘシ

第四條　免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケムトスルトキハ更ニ其ノ地行政廳ノ免許ヲ受クヘシ

管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設クルニ非スシテ賣買若ハ交換

シタルトキハ古物商ニ非サル者ヨリ買受ケ若ハ讓受ケタル場合ニ限リ其ノ品目ヲ其地ノ行政廳ニ届出ヘシ但官衙公署ノ公賣品及質業名ヨリ買受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　左ニ記載シタルモノニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

一　古物ノ市場、行商、露店及露賣

二　刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具其ノ他危險ノ虞アル物品ノ賣買交換

第六條　古物商物品ヲ買受ケ若ハ交換セムトスルトキハ賣主、讓渡主ニ於テ其ノ物品ヲ處分スルノ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第七條　住所、氏名ノ詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス但住所、氏名ノ詳ナル若其證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ買受ケ又ハ讓受クルコトヲ得ス

前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未タ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシム其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ官沒ス

第九條　贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十條　贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ買受ケ又ハ交換シ若ハ寄藏ヲ受ケ若ハ其ノ以前ニ之ヲ得タル儘所持シタルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ

第十一條　古物商物品ヲ賣買シ若ハ交換シタルトキハ其ノ物品及賣主、讓渡主ヲ帳簿ニ記載シ又買主、讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

其ノ他帳簿ニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第十二條　物品ノ賣買交換ヲ記載シタル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條　警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ物品及帳簿ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

第十四條　古物商法律命令ニ違犯シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得禁止及停止ノ效力ハ全國ニ及フ

第十五條　禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ古物商營業ヲ爲シ又ハ古物商ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其期限内亦同シ

第十六條　行政廳ハ何時タリトモ營業禁止ヲ解クコトヲ得

第十七條　古物商ノ買受ケ又ハ交換シタル物品ニシテ遺失物若クハ贓物ニ係ルトキハ營業者ヨリシタルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ徵集シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後被徵收者ニ還付スヘシ

第十八條　他ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換シ特ニ此ノ法律ニ適用スルノ必要アルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十三條ノ場合ニ於テ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ毀損亡失シタル者

二　第二條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者

三　禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者

四　第十五條ニ違犯シタル者

第二十條　第三條第四條第六條第七條第八條第十條第十一條及第十二條ニ違犯シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第二十二條　營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス

第二十三條　此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一　附　則

第二十四條　此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス

第二十五條　明治十六年第五十號布告古物商取締條例ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

古物商取締法細則

（明治二十八年七月二十六日　内務省令第八號）

第一條　古物商取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ

警視總監、北海道廳長官、府縣（東京府ヲ除ク以下之ニ倣フ）知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但シ營業ヲ禁止若クハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　左ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買、交換スルトキハ古物商取締法及此ノ細則ヲ遵守スヘシ

呉服商　金物商　袋物商　小間物商　鎧甲商　時計商

飾商　書籍商

其ノ他廳府縣令ヲ以テ定メタル商業

第三條　二箇以上ノ營業所又ハ店舗ヲ設クルトキハ營業主自ラ之ヲ管理スルモノノ外ハ管理人ヲ定メ其ノ地行政廳ニ届出ヘシ

第四條　營業ノ廢止營業所又ハ店舗ノ閉鎖、移轉營業者及後見人ノ族籍住所、此名ノ異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届出ヘシ

後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ届出ヘシ但シ死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ヘシ

後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第五條　古物商取締法第三條第四條第二項及前二條ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ古物商取締法第四條第二項ニ依リ品目ノ届出ヲ要スル物品ヲ其賣受ケ若クハ讓受ケタル日ヨリ十日以内ニ他所ニ運搬シ又ハ他人ニ交附セントスル場合ニ於テハ其品目届出ハ運搬又ハ交附ノ行爲ニ先ツヘシ又相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ

第六條　帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第七條　帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ疏明シ行政廳ニ届出ヘシ

第八條　古物商ニシテ行商ヲ爲シ又ハ露店ヲ出サントスル者ハ行政廳ニ

鑑札ヲ受ケ之ヲ携帶スヘシ

家屬又ハ同居ノ雇人ニ限リ行商ヲ爲サシメ又ハ露店ヲ出サシムルコトヲ得此場合ニ於テハ前項ノ手續ニ依リ鑑札ヲ受ケ之ヲ携帶セシムヘシ

鑑札ハ他人ニ貸與スルコトヲ得ス

第九條　古物ノ市場ヲ開設セントスル者ハ規約書ヲ添ヘ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

規約書ニハ開閉ノ時間、場所及參集スヘキ營業者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

規約書ノ變更ハ其ノ都度行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十條　行商、露店及市場ノ取引ニ付テ別ニ帳簿ノ規程ヲ要スルトキハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第十一條　古物ノ類賣ヲ爲サントスル豫メ其ノ日時並場所ヲ行政廳ニ届出ヘシ

第十二條　古物商ハ露店、途上其ノ他公ノ場所ニ於テ古物商ニ非サル者ヨリ古物品ヲ買取リ讓受ケ又交換スルコトヲ得ス

第十三條　古物商ハ行商ニ依リ又ハ露店市場ニ於テ刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ヲ賣買交換スルコトヲ得ス

第十四條　第三條第四條第一項第二項第七條第八條第九條第十一條第十二條及第十三條ニ違背シタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　此編則ニ規定シタルモノノ外警視總監、北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

質屋取締法（明治二十八年三月十三日法律第十四號）

【沿革】明治三十三年三月法律第六一號、同三十八年二月同第二五號、同同十三年三月同第四三號改正

第一條　質屋營業ヲ爲サムトスル者ハ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ支店ヲ設クルトキ亦同シ

廢業シタルトキハ行政廳ニ届出ヘシ

第二條　質屋ハ店舗ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三條　質屋物品ヲ質ニ取ラムトスルトキハ質置主ニ於テ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第四條　住所、氏名ノ詳カナラサル者ヨリ物品ヲ質ニ取ルコトヲ得ス但住所、氏名ノ詳カナル者其ノ證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　質屋ハ質契約及質物處分ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

質屋ハ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スヘシ

帳簿、質札及通帳ノ製方及樣式ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第六條　質屋ハ左ノ事項ヲ見易キ場所ニ掲示スヘシ

一　利子割合

一　流質期限

一　質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨方

一　質物出入時間

第七條　傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ質ニ取ルコトヲ得ス

前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未タ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシメ命ニ從ハサレハ之ヲ官沒ス

第八條　質屋ハ質物ヲ使用シ若ハ貸付スルコトヲ得ス

轉質ハ必要ノ場合ニ限リ命令ヲ以テ制限シ若クハ禁止スルコトヲ得

第九條　質屋ハ左ニ掲クル制限内ノ利子ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ金錢ヲ領收スルコトヲ得ス

貸金貳拾五錢以下ハ一箇月一錢、一圓以下ハ一箇月百分ノ四、五圓以下ハ一箇月百分ノ三、十圓以下ハ一箇月百分ノ二半

本條ニ違反シタル質契約ハ其ノ違反セル部分ニ限リ無效トス

第十條　質置主ハ流質期限前ハ何時タリトモ元利金ヲ辨濟シテ其ノ質物ヲ受戻スコトヲ得

第十一條　質屋ハ流質期限經過ノ後何時タリトモ其ノ質物ヲ處分スルコトヲ得

第十二條　質屋ハ何人ニ拘ラス質札又ハ通帳ヲ所持スル者ニ其ノ質物ヲ返還スルコトヲ得

第十三條　贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ニ於テ必要アリト認ムルモノハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十四條　贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ質ニ取リ若クハ質物トシテ占有セルコトヲ覺知スルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ

第十五條　警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若クハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ質物及帳簿ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ十日以内ヲ限リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

第十六條　質物ニシテ遺失物若クハ盜品ニ係ルトキハ警察官之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後被徵收者ニ還付スヘシ

第十七條　營業ニ關スル帳簿ヲ廢業セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條　質屋法法命令ニ違反シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止又ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ效力ハ全國ニ及フ

第十九條　禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ質屋營業ヲ爲シ又ハ質屋營業者ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十條　質屋廢業シ若クハ營業ヲ禁止セラレタルトキト雖其ノ以前ニ成立シタル質契約及其ノ質物ニ付テハ尙ホ此ノ法律ヲ適用ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十一條　行政廳ハ何時タリトモ營業ノ禁止ヲ解クコトヲ得

第二十二條　左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十五條ノ場合ニ於テ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ毀損亡失シタル者

二　第一條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者

三　禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者

四　第八條第一項及第十九條ニ違反シタル者

第二十四條　第一條第二項第二條第三條第四條第五條第一項及第二項第

六條第七條第一項第十四條及第十七條ニ違反シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條　此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第二十五條　質屋營業上ニ就テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス

第二十六條　此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第二十七條　此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス

第二十八條　此ノ法律施行以前ニ係ル質契約ニ付テハ契約當時ノ法令ヲ適用ス

第二十九條　明治十七年第九號布告質屋取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

質屋取締法細則（明治二十八年七月二十六日内務省令第九號）

第一條　質屋取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監、北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ

警視總監、北海道廳長官、府縣（東京府ヲ除ク以下之ヲ倣フ）知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但シ營業ヲ禁止若クハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　支店ヲ設クルトキハ管營人ヲ定メ行政廳ニ屆出ヘシ

第三條　店舗ノ移轉營業者及後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ屆出ヘシ支店ヲ閉鎖スルトキ亦同シ

後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ屆出ヘシ但シ死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ屆出ヘシ

後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ屆出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第四條　前二項ノ屆出及廢業ノ屆出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ屆出ルハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ

第五條　帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第六條　帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ疏明シ行政廳ニ屆出ヘシ

第七條　質札及通帳ニハ適當ノ箇所ニ質置主ノ氏名ヲ記載シ營業者又ハ支店管理人記名捺印シ質契約ヲ爲ス毎ニ貸金額、質物ノ種類、員數、番號、年月日ヲ記載スヘシ其ノ製方及樣式ハ廳府縣令ヲ以テ定ムルコトヲ得

第八條　第二條第三條第一項第二項第六條及第七條ニ違背シタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ヲ處ス

第九條　此細則ニ規定シタルモノノ外警視總監、北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

公益質屋法（昭和二年三月三十日法律第三十五號）

第一條　市町村又ハ公益法人ハ本法ニ依リ公益質屋ヲ經營スルコトヲ得

公益法人公益質屋ヲ經營スル場合ニ於テハ業務所ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二條　本法ニ依ル公益質屋ニ非サレハ其ノ名稱中ニ公益質屋タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

第三條　國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ市町村又ハ公益法人ニ對シ公益質屋ノ設備ニ要スル經費ノ二分ノ一以内ヲ補助ス

第四條　貸付金額ハ一口ニ付十圓、一世帶ニ付五十圓ヲ超ユルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　貸付利率ハ一月ニ付百分ノ一・二五ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事情アル地方ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

利子ノ計算ニ關スル期間ニ付テハ月ヲ以テ計算シ民法第百四十條乃至第百四十三條ノ規定ヲ適用ス但シ一月ニ滿チサル日數カ十六日以上ナルトキハ之ヲ一月トシ其ノ十六日未滿ナルトキハ之ヲ半月トシテ計算ス

第六條　貸付金ニ對スル利子ニシテ一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ其ノ全額一錢未滿ナルトキハ之ヲ一錢トス

第七條　公益質屋ニ於テハ其ノ質契約ニ關シ元金及利子ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ質置主ヨリ金錢其ノ他ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

第八條　流質期限ハ質契約成立ノ日ヨリ四月未滿ノ期間内ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得ス四月未滿ノ期間内ニ於テ之ヲ定メタルトキハ其ノ期間ヲ四月トス

第九條　流質期限到來前ニ於テ質物ノ交換又ハ質物ノ一部ノ受戻ヲ爲シタルトキト雖モ利子ノ計算及流質期限ニ付テハ質契約ノ變更ナキモノト看做ス

第十條　質置主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一部辨濟ヲ爲スコトヲ得

第十一條　流質物ハ競爭入札ニ依リ之ヲ賣却スヘシ

特別ノ事情アル場合ニ於ケル流質物ノ處分ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　流質物處分前ニ於テ質置主カ元金、利子及流質期限經過後質契約カ存續シタリトセハ支拂フコトヲ要スヘキ利子ニ相當スル金額ヲ支拂ヒタルトキハ流質物ハ之ヲ返還スヘシ

第十三條　流質物ノ賣却代金ヨリ元金及利子ニ相當スル金額竝ニ命令ヲ以テ定ムル手數料ヲ控除シタル殘餘金ハ之ヲ質置主ニ交付スヘシ

流質物ヲ一括シテ賣却シタル場合ニ於ケル各流質物ニ對スル代金ノ計算ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　前條第一項ノ規定ニ依リ交付スヘキ殘餘金額ハ之ヲ質置主ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ發シタル日ヨリ六月ヲ經過シタルトキハ殘餘金ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ス

第十五條　質屋取締法第二條乃至第八條、第十條乃至第十七條及第二十條ノ規定ハ公益質屋ニ之ヲ準用ス

質屋取締法第十二條ノ規定ハ第十二條ノ流質物ノ返還及第十三條第一項ノ殘餘金ノ交付ニ之ヲ準用ス

第十六條　本法ニ違反スル質契約ニシテ質置主ニ不利ナルモノハ其ノ不利ナル部分ニ限リ之ヲ爲ササルモノト看做ス

第十七條　公益法人ノ經營スル公益質屋ノ監督上必要アルトキハ地方長官ハ其ノ業務ニ關スル儲數ノ報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ヲ徵シ及業務

又ハ會計ヲ檢閲スルコトヲ得

第十八條　第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第十九條　公益質屋ヲ經營スル公益法人ノ理事又ハ從業員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十五條ノ規定ニ依リ準用スル質屋取締法第二條乃至第四條、第五條第一項第二項、第六條、第七條第一項、第八條第一項、第十四條又ハ第十七條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　第十五條ノ規定ニ依リ準用スル質屋取締法第十五條ノ場合ニ於テ虚僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品若ハ帳簿ニ毀損亡失シタルトキ

第二十條　本法中町村ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ市町村又ハ公益法人ノ經營スル公益質屋ハ本法ニ依ル公益質屋ト看做ス

市町村又ハ公益法人ノ經營スル公益質屋ニ於テ本法施行前ニ爲シタル質契約ハ本法ニ拘ラス仍其ノ效力ヲ有ス

第九章　遺失物及拾得物

遺失物法（明治三十三年三月二十四日法律第八十七號）

【沿革】大正二年四月法律第四號改正

第一條　他人ノ遺失シタル物件ヲ拾得シタル者ハ速ニ遺失者又ハ所有者其ノ他物件回復ノ請求權ヲ有スル者ニ其ノ物件ヲ返還シ又ハ警察官署ニ之ヲ差出スヘシ但シ法令ノ規定ニ依リ私ニ所有所持スルコトヲ禁シタル物件ハ返還スルノ限ニアラス

物件ヲ警察官署ニ差出シタルトキハ警察官署ハ物件ノ返還ヲ受クヘキ者ニ之ヲ返還スヘシ若シ返還ヲ受クヘキ者ノ氏名又ハ居所ヲ知ルコト能ハサルトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ公告ヲ爲スヘシ

第二條　警察官署ハ其ノ保管ノ物件滅失又ハ毀損ノ虞アルトキ又ハ其ノ保管ニ不相當ノ費用若ハ手數ヲ要スルトキハ命令ノ定ムル方法ニ從ヒ之ヲ賣却スルコトヲ得

賣却ノ費用ハ賣却代金ヨリ支辨ス

賣却費用ヲ控除シタル賣却代金ノ殘額ハ拾得物ト看做シテ之ヲ保管ス

賣却處分ニ對シテハ出訴スルコトヲ得ス

第三條　拾得物ノ保管費公告費其ノ他必要ナル費用ハ物件ノ返還ヲ受クル者又ハ物件ノ所有權ヲ取得シ之ヲ引取ル者ノ負擔トシ民法第二百九十五條乃至第三百二條ノ規定ヲ適用ス

第四條　物件ノ返還ヲ受クル者ハ物件ノ價格百分ノ五ヨリ少カラス二十ヨリ多カラサル報勞金ヲ拾得者ニ給スヘシ但シ國庫其ノ他公ノ法人ハ報勞金ヲ請求スルコトヲ得ス

第五條　第二條ニ依リ賣却シタル物件ニ付テハ賣却代金ノ額ヲ以テ物件ノ價格トス

第六條　第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ハ物件ヲ返還シタル後一箇月ヲ過クルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第七條　拾得者ハ遅メ申告シテ拾得物ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄シ義務ヲ免ルルコトヲ得

第八條　物件ノ返還ヲ受クヘキ者ハ其ノ權利ヲ拋棄シテ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金辨償ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

物件ノ返還ヲ受クヘキ各權利者其ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ拾得者其ノ物件ノ所有權ヲ取得ス但シ拾得者其ノ取得權ヲ拋棄シ第一項ノ例ニ依ルコトヲ得

法令ノ規定ニ依リ私ニ所有所持スルコトヲ禁シタル物件ヲ拾得シタル者ハ所有權ヲ取得スルノ限ニアラス

第九條　拾得物其ノ他本法ノ規定ヲ準用スル物件ヲ横領シタルニ依リ處罰セラレタル者及拾得ノ日ヨリ七日内ニ第一條第一項又ハ第十一條第一項ノ手續ヲ爲ササル者ハ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ヲ受クルノ權利竝ニ拾得物ノ所有權ヲ取得スルノ權利ヲ失フ

第十條　管守者アル船車建築物其ノ他公衆ノ通行ヲ禁シタル構内ニ於テ他人ノ物件ヲ拾得シタル者ハ其ノ物件ヲ管守者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ船車建築物等ヲ占有者ヲ以テ拾得者トス自已ノ守スル場合ニ於テ他人ノ物件ヲ拾得シタル者亦同シ

本條ノ場合ニ於テ報勞金ハ前項ノ占有者ト現ニ物件ヲ拾得シタル者ト折半スヘシ

第十一條　犯罪者ノ置去リタルモノト認ムル物件ヲ拾得シタル者ハ速ニ其ノ物件ヲ警察官署ニ差出スヘシ

前項ノ物件ニ關シテハ法律ノ規定ニ依リ沒收スルモノヲ除ク外本法及民法第二百四十條ノ規定ヲ準用ス但シ公訴權消滅ノ日ヨリ一箇年間還付ヲ受クル者ナキトニ限リ拾得者ニ於テ所有權ヲ取得ス

犯罪搜査ノ爲必要ナルトキハ警察官ニ於テ公訴權消滅ノ日マテ公告ヲ爲ササルコトヲ得

第十二條　誤テ占有シタル物件他人ノ置去リタル物件又ハ逸走ノ家畜ニ關シテハ本法及民法第二百四十條ノ規定ヲ準用ス但シ誤テ占有シタル物件ニ關シテハ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ヲ請求スルコトヲ得ス

第十三條　埋藏物ニ關シテハ第十條ヲ除クノ外本法ノ規定ヲ準用ス

學術技藝若ハ考古ノ資料ニ供スヘキ埋藏物ニシテ其ノ所有者知レサルトキハ其ノ所有權ハ國庫ニ歸屬ス此ノ場合ニ於テハ國庫ハ埋藏物ノ發見者及埋藏物ヲ發見シタル土地ノ所有者ニ通知シ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ給スヘシ

埋藏物ノ發見者ト埋藏物ヲ發見シタル土地ノ所有者ト異ルトキハ前項ノ金額ハ折半シテ之ヲ給スヘシ

本條ノ金額ニ不服アル者ハ第二項ノ通知ノ日ヨリ六箇月内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十四條　本法及民法第二百四十條第二百四十一條ノ規定ニ依リ物件ノ所有權ヲ取得シタル者取得ノ日ヨリ六箇月内ニ物件ヲ警察官署ヨリ引取ラサルトキハ所有權ヲ喪失ス

第十五條　本法ノ規定ニ依リ警察官署ニ保管スル物件ニシテ交付ヲ受ク

ル者ナキトキハ其ノ所有權國庫ニ歸屬ス

第十六條（削除）

附　則

第十七條　明治九年第五十六號布告遺失物取扱規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

遺失物法施行細則

（明治三十二年四月八日　内務省令第四號）

第一條　遺失物法第一條ニ定メタル公告ハ物件ノ名稱、種類、數量、形狀、模樣及拾得ノ場所、日時等成ルヘク其ノ物件ヲ知得スルニ足ルヘシト思料スル事項ヲ詳記シ十四日間最寄掲示場ニ掲示シ仍貴重ノ物件ト認ムルトキハ官報又ハ新聞紙ニ掲載スルモノトス

第二條　遺失物法第十條ニ依リ管守者物件ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ヲ警察官署ニ送付スルト同時ニ便宜最寄ノ場所ニ於テ物件ノ名稱、種類、數量、形狀、模樣及拾得ノ場所、日時ヲ掲示スヘシ但シ掲示ノ場所ヲ有セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　遺失物法第二條ニ依リ賣却ヲ要スル物件ニシテ高價ナリト認ムルモノハ公告シテ競賣ニ付スヘシ但シ即時ニ賣却セサレハ滅失又ハ毀損ノ虞アル物件又ハ公告ノ後競買人ナキ物件ハ此ノ限ニアラス

公告ハ其ノ地方慣行ノ方式ニ從ヒ之ヲ爲シ且公告ニハ競賣ニ付スル物件ノ名稱、種類、數量、擔任官吏ノ氏名、執行ノ場所、日時ヲ記スルヲ要ス

第四條　賣却物件ノ引渡ハ代金ト引換ヘ之ヲ爲ス競賣ノ場各ニ於テ最高價競買人競賣當日ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ物件ノ引渡ヲ求メサルトキハ更ニ其ノ物件ヲ競賣スヘシ此ノ場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競買ニ加ハルコトヲ得ス

第五條　拾得ノ物件國庫ノ所有ニ歸シタルトキハ遺失物法第三條ニ依リ警察費ヨリ支辨シタル保管費公告費其ノ他必要ナル費用ハ國庫ヨリ之ヲ支辨ス

拾得届出ニ係ル郵便爲替及小爲替券處理ニ關スル件

（大正十二年八月四日　内務省通牒發警第七四號）

標記ノ件ニ關シ大正六年十二月三日内務省閣警第六號通牒中第二項受領人無指定ニ係ル郵便小爲替ノ取扱方ニ付テハ今後左記ニ依リ御處理相成度候

受取人無指定郵便小爲替證書拾得届出アリタル場合ノ取扱方

一　警察官署ニ於テ有效期間内ニ於ケル郵便小爲替證書ノ拾得届出アリタルトキハ其ノ記號番號振出局名、同月日竝ニ金額等相當臺帳ニ登錄シ直ニ該證書ヲ貯金局ニ送付スルコト

二　貯金局ニ於テ前項ノ爲替證書ニ對シ有效期間内ニ再證書ノ發行又ハ爲替金拂戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求者ニ對シ爲替證書ハ警察署ニ拾得届出アル旨ヲ通知シ一面警察官署ニ對シ當該證書ヲ送付スルコト

三　貯金局ニ於テハ第一項ノ爲替證書ニ對シ有效期間經過後再度證書ノ發行若クハ爲替金拂戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ警察官署ニ其ノ旨通知シ一面請求人ニ對シテハ警察官署ニ拾得届出アルモノニ付警察官署ニ出頭ノ上相當措置ヲ了スヘキ旨ヲ通知スルコト

四　警察官署ニ於テ前二項ノ通知ヲ受ケタルトキ再度證書ノ發行又ハ爲替金拂戻請求者ト拾得者トノ間ニ措置ヲ了セシメタル上貯金局ニ其ノ旨ヲ通知スルコト此ノ場合ニ於テハ該請求者ヲシテ拾得者ニ對シ遺失物法ノ規定ニ準シ報勞金ヲ贈與セシムルコト

五　貯金局ニ於テ前項通知ヲ受ケタルトキハ一般ノ例ニ依リ相當措置ス

六　第一項ノ場合ニ於テ警察官署ヨリ爲替證書ノ送付前貯金局ニ於テ既ニ再度證書ノ發行ヲ爲シ又ハ爲替金ノ拂戻ヲナシタルモノハ直ニ警察官署ニ其ノ旨ヲ通知シ警察官署ハ拾得者ニ其ノ届出ニ係ル小爲替證書無效ノ旨ヲ通知スルコト

七　小爲替證書ノ有效期間ヲ經過シタルモノノ拾得届出アリタル場合ニ於テハ警察官署ハ其ノ無效ナル旨ヲ拾得者ニ指示シ之カ害用ノ弊ヲ防ク爲任意警察官署ニ提供セシメ直チニ貯金局ニ送付スルコト

八　警察官署ニ於テ有效期間ヲ經過セサル爲替證書拾得ノ届出後一年ヲ經過シタルトキハ遺失物ニ依ル取扱ヲ爲サス拾得者ニ對シテハ郵便爲替法トノ關係ヲ告知シ警察官署ニ於テ臺帳ノ登錄事項ヲ抹消セス其ノ儘處理シ置クコト

九　前項ノ場合ニ於テ警察官署ニ於テ第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遺失物法ノ規定ニ準シ第四項ト同一ノ措置ヲ了セシムルコト

一〇　再度證書ノ發行又ハ爲替金拂戻ノ請求ナクシテ爲替證書ノ有效期間經過後三年間ヲ經過シタルトキハ爲替法ノ規定ニ依リ郵便官署ニ於テ爲替金ノ國庫歸屬處分ヲナスヘキニ付警察官署ニ於テハ臺帳中之ニ該當スヘキ爲替證書ヲ調査シ臺帳記載事項ヲ抹消シ事件ノ結了トナスコト

拾得金貨取扱方

（大正十年十一月二十六日　内務省通牒阪警第四三號）

廳府警長官宛

遺失物中金貨ヲ其ノ所持ノ方法トシテ環ニ嵌メ込或ハ鎖鑰ノ施シ難キ容器ニ收メタル場合等有之金貨タルコトヲ認メ文字紋章等ニ對シ何等變改毀損ヲ加ヘサル場合ノ取扱方ハ金貨ニアラサル物件トシテ處理可然ト存候

拾得物件ノ時效ニ關スル件

（大正十三年三月四日　内務省通牒阪警第一二號）

廳府縣長官宛

拾得物件引取期間ノ滿了ハ日曜日其ノ他ノ休日ニ遺失物ノ引渡ヲ爲ササルノ習慣アルニ於テハ其ノ翌日ニ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ民法第百四十二條ノ規定ニ從ヒ何處理相成可然モノト存候

第十章　自動車取締

自動車取締令

（大正八年一日十一日　内務省令第一號）

【沿革】　大正十二年十二月省令第四四號改正

第一條　本令ニ於テ自動車ト稱スルハ原動機ヲ用ヰ軌道ニ依ラスシテ運

轉スル車輛ヲ謂フ

第二條　自動車ノ通行スル道路、區域又ハ時間ニ關スル制限ハ地方長官之ヲ定ム

第三條　自動車ノ最高速度ハ一時間十六哩トス但シ地方長官ハ道路、區域、時間又ハ自動車ノ種類ヲ指定シテ之ニ異ナル速度ヲ定ムルコトヲ得

第四條　自動車ハ左ノ各號ノ構造裝置ヲ具備スルコトヲ要ス

一　轍ハ護謨製ノモノタルヘキコト但シ貨車ニ在リテハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ之ニ異ナルモノヲ用ウルコトヲ得

二　各獨立ニ作用スヘキ二箇以上ノ制動機ヲ備フヘキコト

三　變速機ヲ備ヘ且運轉手ノ諸易キ箇所ニ速度計ヲ備フヘキコト

四　蒸氣、瓦斯又ハ油其ノ他爆發性若ハ可燃性ノモノヲ容ルヘキ匱、管及氣筩並電氣裝置等ハ堅牢ニ依リ漏洩又ハ危險ノ虞ナキモノタルヘキコト

五　運動ニ際シ甚シキ騷響ヲ發シ又ハ有臭若ハ有害ノ瓦斯若ハ煤煙ヲ多量ニ發散セサル構造タルヘキコト

六　車輛ノ總重量八百封度以上ノ自動車ハ短半徑ヲ以テ容易ニ方向ヲ轉シ及進行シ得ヘキ裝置ヲ有スヘキコト

七　適當ナル音響器ヲ備フヘキコト

八　車輛ノ前面ニハ二箇以上、後面ニハ一箇以上ノ相當光力ヲ有スル燈火ヲ備ヘ後面燈火ハ運轉手ノ座席ヨリ消燈シ得サル樣裝置スヘキコト

第五條　營業用又ハ自家用ノ爲自動車ヲ使用セムトスル者ハ主タル使用地ノ地方長官ニ願出テ其ノ檢査ヲ受クヘシ

商品トシテ自動車ヲ所持スル者ハ自動車所在地ノ地方長官ノ檢査ヲ受クルコトヲ得

檢査ニ合格シタルトキハ檢査ノ證明ヲ爲シ車輛番號ヲ指示ス

檢査證明ノ爲檢査證ヲ交付セラレタルトキハ車體內部ニ之ヲ標示スヘシ

第六條　自動車ノ主タル使用地ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨後ノ使用地ノ地方長官ニ屆出テ更ニ車輛番號ノ指示ヲ受クヘシ

檢査ニ合格シタル自動車ヲ讓受又ハ相續シタル者ハ其ノ旨主タル使用地商品トシテ讓受又ハ相續シタルモノニ在リテハ其ノ所在地ノ地方長官ニ屆出ツヘシ其ノ主タル使用地商品トシテ讓受又ハ相續シタルモノニ在リテハ其所在地ノ檢査ヲ受ケタル地ト異ナルトキハ更ニ車輛番號ノ指示ヲ受クヘシ

第七條　自動車ノ構造裝置ニシテ左ノ各號ノ部分ヲ變更シタルトキハ更ニ地方長官ノ檢査ヲ受クヘシ

一　原動機

二　爆發性若ハ可燃性ノモノヲ容ルヘキ匱、管

三　氣筩及曲柄

四　制動機、變速機及換向機

五　電氣裝置電路ヲ除ク

六　車臺

七　車體

第八條　檢査ニ合格シタル自動車ニ非サレハ使用スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ定ムル所ニ依リ檢査又ハ試運轉若ハ運搬等ノ爲一時自動車ヲ使用スルハ此ノ限ニ在ラス

第九條　當該地方長官ハ定期又ハ臨時ニ自動車ノ檢査ヲ行ヒ必要ト認メタルトキハ使用ノ禁止ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ使用ノ禁止ヲ命シタルトキハ檢査證ヲ返納シ其ノ他檢査證明ノ取消ヲ受クヘシ

第十條　營業用又ハ自家用ノ爲自動車ヲ使用スル者ハ其ノ構造裝置ニ付危害ヲ防止スルニ必要ナル注意ヲ爲スヘシ

第十一條　營業用又ハ自家用ノ爲自動車ヲ使用スル者其ノ使用ヲ廢止シタルトキハ地方長官ニ屆出テ檢査證ヲ返納シ其ノ他檢査證明ノ取消ヲ受クヘシ

第十二條　自動車ニ依リ運輸ノ業ヲ營マムトスル者ニシテ一定ノ路線又ハ區間ニ據ルモノハ營業地ノ地方長官其ノ他ノモノハ營業所所在地ノ地方長官ニ願出テ其ノ免許ヲ受クヘシ

第十三條　前條ノ規定ニ依リ營業ノ免許ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓受又ハ相續スルコトヲ得ス

第十四條　營業ヲ廢止シタルトキハ遲滯ナク地方長官ニ屆出ツヘシ但シ一定ノ路線又ハ區間ニ據ルモノニ在リテハ廢止前營業地ノ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第十五條　運轉手タラムトスル者ハ主タル就業地ノ地方長官ニ願出テ其ノ免許ヲ受クヘシ免許ヲ與ヘタルトキハ免許證ヲ交付ス

運轉手免許證ハ甲乙ノ二種トシ甲種免許證ヲ有スル運轉手ハ各種ノ自動車ヲ運轉スルコトヲ得乙種免許證ヲ有スル運轉手ハ特定又ハ特種ノ自動車ニ非サレハ之ヲ運轉スルコトヲ得ス

運轉手免許ノ有效期間ハ五年トス

第十六條　運轉手ノ免許ハ試驗ニ合格シ左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニ之ヲ與フ

一　十八歲未滿ノ者

二　精神病者、聾者、啞者又ハ盲者

三　其ノ他地方長官ニ於テ不適當ト認ムル者

運轉手ノ試驗ハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ自動車ノ構造、取締規則及實地ノ技能ニ關シ之ヲ行フ

第十六條ノ二　現ニ運轉手タル者ニシテ運轉手免許ノ有效期間滿了後仍ホ引續運轉手タラムトスル者ニ付テハ前條第一項各號ノ一ニ該當セス且相當技量アリト認メタル者ニ限リ前條ノ規定ニ拘ラス試驗ノ全部又ハ一部ヲ省略シテ免許ヲ與フルコトヲ得

第十七條　運轉手免許證ハ就業中之ヲ携帶スヘシ

第十八條　自動車檢査證又ハ運轉手免許證ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交付ヲ地方長官ニ願出ツヘシ

自動車ノ檢査證明ヲ毀損シタルトキハ地方長官ニ願出テ更ニ其ノ證明ヲ受クヘシ

第十九條　左ニ揭クル場合ニ於テハ運轉手ハ遲滯ナク免許證ヲ返納スヘシ

一　第二十七條ニ依リ免許ヲ取消又ハ就業ヲ停止セラレタルトキ

二　免許ノ有效期間ヲ經過シタルトキ

運轉手死亡シ又ハ行衞不明ト爲リタルトキハ其ノ雇主、戶主又ハ家族ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條　運轉手其ノ主タル就業地ヲ變更シタルトキハ五日內ニ免許證ノ寫ヲ添ヘ後ノ就業地ノ地方長官ニ屆出ツヘシ

第二十一條　前條ノ屆出ヲ受ケタル場合ニ於テ當該地方長官必要ト認ム

ルトキハ第十六條第二項ニ依リ試驗ヲ行フコトヲ得

前項ノ試驗ニ合格セサルトキハ其ノ道府縣内ニ於ケル就業ヲ停止スルコトヲ得

第二十二條　運轉手ヲ雇入レタル者ハ五日内ニ免許證ノ寫ヲ添ヘ運轉手ノ氏名及住所ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

運轉手ヲ解雇シタル者ハ十日内ニ運轉手ノ氏名ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第二十三條　車輛番號ハ車輛ノ前面及後面睹易キ箇所ニ標示スヘシ

後面車輛番號ハ夜間三十間ノ距離ニ於テ明瞭ニ認メ得ヘキ燈火ヲ以テ照射スヘシ

第二十四條　檢査證及車輛番號ハ他ノ車輛ニ使用スルコトヲ得ス

第二十五條　自動車ニ依リ人ヲ傷害シ又ハ物件ヲ損壞シタルトキハ運轉手ハ直ニ其ノ運轉ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ運轉手及其ノ他ノ從業員ハ被害者ノ救護其ノ他ニ付必要ナル應急ノ措置ヲ爲スヘシ但シ警察官吏在ルトキハ其ノ指示ニ從フヘシ

運轉手其ノ他ノ從業員ハ前項ノ措置ヲ了シ且各本人、雇主、自動車使用者ノ氏名、住所法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及車輛番號ヲ警察官吏ニ申告シ、警察官吏在ラサルトキハ被害者若ハ其ノ同伴者ニ同一事項ヲ通告スルニ非サレハ自動車ノ運轉ヲ繼續スルコトヲ得ス

前項後段ノ規定ニ從ヒ自動車ノ運轉ヲ爲シタルトキハ運轉手其ノ他ノ從業員ハ遲滯ナク前各項ノ事實ヲ警察官吏ニ申告スヘシ

乘用者ハ運轉手其ノ他ノ從業員カ第四項ノ措置ヲ爲スニ付之ヲ妨クルコトヲ得ス

第二十六條　地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第十二條ノ規定ニ依ル營業免許ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトヲ得

一　正當ノ事由ナクシテ許可ノ日ヨリ百二十日以内ニ營業ヲ開始セサルトキ

二　營業ヲ繼續スルニ適セスト認メタルトキ

三　公安上危害ヲ生スルノ虞アリト認メタルトキ

四　營業免許ノ條件ニ違反シタルトキ

五　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第二十七條　地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ運轉手ノ免許ヲ取消シ又ハ其ノ就業ヲ停止スルコトヲ得

一　自動車ニ依リ人ヲ傷害シ又ハ物件ヲ損壞シタルトキ

二　第十六條第一項第二號又ハ第三條ニ該當スルニ至リタルトキ

三　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第二十八條　第八條、第十二條、第十三條、第十五條第一項第二項、第二十五條ノ規定ニ違反シタル者、又ハ第九條第一項、第二十六條及第二十七條ニ基ク地方長官ノ處分ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金若ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二十九條　過失ニ因リ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第三十條　故意又ハ過失ニ因リ第五條第四項、第六條、第七條、第九條第二項、第十條、第十一條、第十四條、第十七條、第十九條、第二十條、第二十二條乃至第二十四條ノ規定又ハ第二條、第二十一條第二項ニ基ク地方長官ノ命令若ハ處分ニ違反シ又ハ第三條及第四條ニ基キテ地方長官ノ定メタル速度ヲ超過シテ自動車ヲ運轉シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

地方長官ノ定メタル期日ニ自動車ノ檢査ヲ受クルコトヲ怠リタル者亦同シ

第三十一條　營業用又ハ自家用自動車ノ使用者ニシテ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ヲ適用スヘキ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條　法人ノ代表者其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第三十三條　自轉車サイトカー附及オートベツドノ類ニ付テハ其ノ運轉者ニ對シ第三條、第二十五條及其ノ罰則ノ規定ヲ適用スルノ外本令ヲ適用セス

前項ノ外特種ノ自動車ニ付テハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ第四條ノ規定ニ依ル構造裝置ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

第三十四條　本令ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

附　則

第三十五條　本令ハ大正八年二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第三十六條　本令施行前ニ於テ自動車營業ノ免許ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行前ニ於テ自動車ノ檢査又ハ運轉手ノ免許ヲ受ケタル者ハ本令施行後東京府ニ在リテハ六箇月内ニ、其ノ他ノ地方ニ在リテハ三箇月内ニ本令ニ依リ檢査又ハ免許ヲ受クヘシ

前項ニ依リ運轉手ノ免許ヲ願出テタル者ニ對シテハ地方長官ハ第十六條第二項ノ規定ニ依ル試驗ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

第三十七條　東京府ニ在リテハ地方長官ノ職員ハ警視總監之ヲ行フ

第十一章　精神病院

精神病院法（大正八年三月二十六日法律第二十五號）

第一條　主務大臣ハ北海道又ハ府縣ニ對シ精神病院ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第二條　地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル精神病者ヲ前條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ニ入院セシムルコトヲ得

一　精神病者監護法ニ依リ市區町村長ノ監護スヘキ者

二　罪ヲ犯シタル者ニシテ司法官廳特ニ危險ノ虞アリト認ムルモノ

三　療養ノ途ナキ者

四　前各號ニ揭クル者ノ外地方長官特ニ入院ヲ必要ト認ムル者

前項ノ規定ニ依リ精神病者ヲ入院セシムルニハ命令ノ定ムル所ニ依リ醫師ノ診斷アルコトヲ要ス

第三條　國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ノ經費ニ對シ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス

第四條　第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ノ長ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ入院者ニ對シ監護上必要ナル處置ヲ行フコトヲ得

第五條　地方長官ハ入院者ヨリ入院費ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得地方長官入院者ヨリ徵收スルコトヲ得スト認ムルトキハ其ノ扶養義務者ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項費用ノ徵收方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　道府縣ニ於テ設置スル精神病院ニシテ地方長官ノ具申ニ依リ主務大臣ニ於テ適當ト認ムルモノハ第一條ノ規定ニ依リ設置スルモノト看做ス

第七條　主務大臣必要ト認ムルトキハ期間ヲ指定シ適當ト認ムル公私立精神病院ヲ其ノ承諾ヲ得テ第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ニ代用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス

第八條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ執行ニ關シ行政官廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各條ニ付之ヲ定ム

精神病院法施行令（大正十二年六月二十九日 勅令第三百二十五號）

第一條　國庫ハ精神病院法第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ノ經費ニ對シ左ノ區別ニ依リ補助ス

一　創設費及擴張費竝之ニ伴フ初度調辦費　支出額ノ二分ノ一

二　其ノ他ノ諸費　支出額ノ六分ノ一

前項ノ支出額トハ事業ニ伴フ收入又ハ寄附金ノ額ヲ控除シタル支出精算額ヲ謂フ

第二條　國庫ハ北海道地方費又ハ府縣カ精神病院法第七條ノ規定ニ依ル代用精神病院ニ對シ支出シタル入院費ノ精算額ノ六分ノ一ヲ北海道地方費又ハ府縣ニ補助ス

前項ノ精算額トハ北海道地方費又ハ府縣ノ受クル入院費又ハ之ニ充ツヘキ寄附金ノ額ヲ控除シタルモノヲ謂フ

第三條　精神病院法第五條第一項又ハ第七條ノ規定ニ依リ徵收スル入院費ニシテ指定期限內ニ納付ナキモノニ付テハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第四條　入院費ノ徵收ハ必要アルトキハ納付義務者ノ居住地又ハ財產所在地ノ地方長官ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第五條　精神病者入院中死亡シタルトキハ其ノ遺留財產ヲ以テ入院費ノ全部又ハ一部ニ充ツルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

精神病院法施行規則（大正十二年六月三十日 內務省令第十七號）

第一條　精神病院法第一條ノ規定ニ依リ精神病院ノ設置ヲ命セラレタル北海道又ハ府縣ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ精神病院ノ位置設計及其ノ收容人員ヲ定ムヘシ其ノ變更ニ付亦同シ

第二條　市町村長又ハ町村制ヲ施行セサル地ニアリテハ町村長ニ準スヘキ者ハ精神病者監護法ノ規定ニ依リ監護スヘキ精神病者ノ入院ヲ地方長官ニ申請スルコトヲ得

第三條　精神病者ノ監護義務者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ精神病者ノ入院ヲ地方長官ニ出願スルコトヲ得

第四條　精神病院法第二條第二項ノ規定ニ依ル診斷ハ地方長官ノ指定シタル醫師ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第五條　地方長官ハ入院者在院ノ必要ナシト認ムルトキハ速ニ退院セシムヘシ此ノ場合ニ於テハ兼メ當該精神病院ノ長ノ意見ヲ徵スルコトヲ要ス

第六條　入院者ノ監護義務者ハ入院者ノ退院ヲ地方長官ニ出願スルコトヲ得

第七條　精神病院法第四條ノ規定ニ依リ精神病院ノ長ノ入院者ニ對シテ行フヘキ監護上必要ナル處置ニ付テハ內務大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第八條　精神病院法第二條及本令ノ規定ニ依ル地方長官ノ職務ハ東京府ニ在リテハ東京府知事及警視總監之ヲ行フ

第九條　本令第二條乃至第八條ノ規定ハ精神病院法第七條ノ規定ニ依ル代用精神病院ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二章　衛　生

第一節　醫　師

醫　師　法（明治三十九年五月二日 法律第四十七號）

【沿革】明治四十二年七月法律第四四號、大正三年四月同第三八號、同八年四月同第五七號、同十二年三月同第一號改正

第一條　醫師タラムトスル者ハ左ノ資格ヲ有シ內閣大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一　大學令ニ依ル大學ニ於テ醫學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ官立、公立若ハ文部大臣ノ指定シタル私立醫學專門學校醫學科ヲ卒業シタル者

二　醫師試驗ニ合格シタル者

三　外國醫學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ醫師免許ヲ得タル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者

醫師試驗ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ醫學專門學校ヲ卒業シ若ハ外國醫學校ニ於テ四箇年以上ノ醫學課程ヲ修了シタル者ニ非サシハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第二條　左ニ揭クル者ハ免許ヲ受クルコトヲ得ス

一　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　未成年者、禁治產者、準禁治產者、聾者、啞者及盲者

第三條　六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者ニハ免許ヲ與ヘサルコトアルヘシ

第四條　內務省ニ醫籍ヲ備ヘ醫師免許ニ關スル事項ヲ登錄ス

登錄スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　醫師ハ自ラ診療セスシテ診斷書、處方箋ヲ交付シ若ハ治療ヲ爲シ又ハ檢案セスシテ檢案書若ハ死產證書ヲ交付スルコトヲ得ス

但シ診療中ノ患者死亡シタル場合ニ交付スル死亡診斷書ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六條　醫師ハ醫療箴ヲ備ヘ十箇年間之ヲ保存スヘシ

第七條　醫師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス業務上學位、稱號及專門科名ヲ除クノ外其ノ技能、療法又經歷關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　醫師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ郡市區醫師ヲ設立スヘシ

郡市區醫師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道府縣醫師會ヲ設立スヘシ

郡市區醫師會及道府縣醫師會ハ法人トス勅令ノ定ムル所ニ依リ醫事衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第九條　縣市區醫師會ハ命令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外郡市又ハ北海道若ハ沖繩縣ノ區ヲ區域トス

公私立ノ診察所若ハ治療所又ハ其ノ出張所ニ於テ診察又ハ治療ニ從事スル醫師ハ其ノ診察所、治療所又ハ出張所ノ所在地ヲ區域トスル郡市區醫師會ノ會員トス

第九條ノ二　道府縣醫師會ハ道府縣ヲ區域トス

道府縣內ニ在ル郡市區醫師會ハ其ノ道府縣ヲ區域トスル道府縣醫師會ノ會員トス

第九條ノ三　郡市區醫師會又ハ道府縣醫師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會員ヨリ徵收スヘキ收入ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九條ノ四　前四條ニ規定スルモノノ外郡市區醫師會及道府縣醫師會ノ設立ノ手續、機關ノ組織、經費ノ負擔、監督、會員ノ懲戒其ノ他必要ナル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條ノ五　道府縣醫師會ハ日本醫師會ヲ設立スルコトヲ得

日本醫師會ハ內地ヲ區域トス

道府縣醫師會ハ日本醫師會ノ會員トス

第八條第三項及前二項ノ規定ハ日本醫師會ニ付之ヲ準用ス

第十條　醫師第二條各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

醫師六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタルトキ又ハ業務ニ關シ罰金ニ處セラレ若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ醫業ヲ停止スルコトアルヘシ其ノ事免許前ニ係ル場合亦同シ

本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第二條第二號ノ原因止ミタルトキ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ與フルコトアルヘシ

本條ノ處分ハ內務大臣之ヲ行フ但シ第二項及第三項後段ノ場合ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス

第十一條　免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲シタル者、停止中醫業ヲ爲シタル者又ハ第五條、第六條、第七條若ハ第十三條第三項但書ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス

附　則

第十二條　本法ハ明治三十九年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條　本法施行前ノ醫術開業免狀ハ本法施行ノ後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス

本法施行前第一條第一項第一號ニ該當セサル官立、府縣立醫學校ヲ卒業シタル者ニハ第一條第一項ノ資格ヲ有セサルモ免許ヲ與フルコトアルヘシ

本法施行前醫術假開業免狀ヲ得タル者ハ本法施行ノ後ト雖醫業ヲ爲スコトヲ得但シ免許地域外ニ診察所、治療所又ハ其ノ出張所ヲ設クルコトヲ得ス

前項但書ノ規定ハ往診治療ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十四條　本法施行後八箇年間ハ第一條第二項ノ規定ヲ適用セス醫術開業試驗規則ニ依リ醫術開業試驗ヲ擧行ス

前項ニ依リ醫術開業前期試驗ニ合格シタル者ハ大正三年十月三十一日迄ニ届出ヲ特ニ定メタル醫術開業後期受驗資格名簿ニ登錄スルヲ要ス

受驗資格名簿ニ登錄シタル者ニ限リ大正五年九月迄醫術開業試驗ヲ擧行ス

前三項ノ試驗ニ合格シタル者ハ第一條第一項ノ資格ヲ有スル者ト看做ス

附　則（大正八年四月法律第五七號）

本令施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正八年九月勅令第四二八號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

本法ノ適用ニ付テハ帝國大學醫科大學醫學科ヲ卒業シタル者ハ大學令ニ依ル大學ニ於テ醫學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者ト看做ス

本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ、同法ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ト看做ス

本法施行ノ際現ニ存スル醫師會ハ本法施行ノ日ヨリ六月內仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

附　則（大正三年三月法律第一號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十二年五月勅令第二七一號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）

醫師法施行規則

（明治三十九年九月三日　內務省令第二十七號）

【沿革】明治四十二年七月省令第一七號、大正八年九月同第一五號改正

第一條　醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格並住所、氏名ヲ記載シタル申請書ニ戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ提出スヘシ

內務大臣ハ免許ヲ與フルトキハ醫籍ニ登錄シ醫師免許證ヲ下付ス

第二條　醫籍ニ登錄スヘキ事項左ノ如シ

一　登錄番號及登錄年月日

二　族籍（外國人ナルトキハ其ノ國籍）氏名、生年月日及女子ナルトキハ其ノ旨

三　醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格及資格ヲ取得シタル年月

四　免許ノ取消醫業ノ停止其ノ事由、期間及年月日

五　免許證ノ再下付其ノ事由及年月日

六　抹消ノ事由及年月日

第三條　醫師前條第二號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證及戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ三十日以內ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ醫籍ノ訂正ヲ申請スヘシ

前條第三號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ醫籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ免許證ヲ書換ヘ下付ス

第四條　醫師免許證ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ三十日以內ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ再下付ヲ申請スヘシ

前項免許證ノ再下付ヲ申請スル者ハ手數料金壹圓ヲ納付スヘシ

亡失シタル免許證ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ其ノ地ノ地方長官ニ提出スヘシ

第五條　第一條、第三條及第四條ノ申請ヲ爲ス者ハ登錄稅又ハ手數料ニ相當スル數入印紙ヲ申請書ニ貼用スヘシ既ニ納付シタル登錄稅又ハ手數料ハ之ヲ還付セス

第六條　醫師醫籍登錄ノ抹消ヲ申請セムトスルトキハ住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スヘシ

醫師失踪ノ宣言ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ戸籍法ニ依ル届出義務者ヨリ三十日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　醫師其ノ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ地方長官ニ届出ヘシ其ノ移轉ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ後ノ住所地ノ地方長官ニ届出ヘシ

後ノ住所地ノ地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ前ノ住所地ノ地方長官ニ通知スヘシ

第八條　醫師自己又ハ他人ノ診察所、治療所若ハ其ノ出張所ニ於テ醫業ヲ開始シタルトキハ十日以内ニ所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ其ノ之ヲ休止シ廢止シ又ハ診察治療ノ場所ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ但シ其ノ異動ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ後ノ所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ

後ノ所在地ノ地方長官前項但書ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ前ノ所在地ノ地方長官ニ通知スヘシ

官立又ハ公立ノ病院ニ於テ診察治療ニ從事スル場合ハ第一項ニ依ルノ限ニ在ラス

診察所又ハ治療所ト稱スルハ公衆ノ需ニ應シ診察又ハ治療ヲ爲ス場所ヲ謂フ

第九條　醫師死體又ハ四箇月以上ノ死産兒ヲ檢案シ異常アリト認ムルトキハ二十四時間以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第九條ノ二　醫師ハ法令ノ規定ニ依リ必要アル者ニ正當ノ事由ナクシテ診斷書檢案書又ハ死産證書ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

開業ノ醫師ハ診察治療ノ需アル場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條ノ三　醫師ハ其ノ診療シタル患者ニ交付スル處方箋ニ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日ヲ記載シ及署名又ハ捺印スヘシ

第九條ノ四　醫師ハ診療簿ニ其ノ治療シタル患者ノ氏名、年齢病名及療法ヲ記載スヘシ但シ其ノ不明ナルモノハ患者治療ノ時其ノ旨ヲ記載スヘシ

第十條　醫師其ノ診察治療スル患者ニ自ラ藥劑ヲ交付スルトキハ容器又ハ包紙ニ其ノ用法患者ノ氏名及診察所、治療所ノ名稱又ハ自己ノ氏名ヲ明記スヘシ

第十一條　地方長官ハ醫師法第十條ノ處分ヲ必要ト認ムルトキハ内務大臣ニ具申スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ豫メ道府縣醫師會ノ意見ヲ徵スルコトヲ要ス

第十二條　醫師法第十條ニ依リ免許取消處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スヘシ

第十三條　醫師法第十條ニ依リ停止處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ免許證ヲ住所地ノ地方長官ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ其ノ要旨ヲ免許證ニ裏書シ捺印ノ上領置シ期間滿了ノ後之ヲ還付スヘシ

第十四條　左ニ掲クル場合ニ於テハ族籍、氏名、事由其ノ他必要ト認ムル事項ヲ官報ニ公告ス

一　醫籍ニ登錄シ抹消シタルトキ

一　免許證再下付ノトキ

一　醫師法第十條ノ處分ヲ爲シタルトキ

第十五條　第三條第一項、第四條第一項第三項、第六條第二項、第七條第一項及第八條第一項ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ科料ニ處ス

第十六條　第九條、第九條ノ二、第九條ノ三、第九條ノ四、第十條第十二條及第十三條第一項ニ違背シタル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本則ハ明治三十九年法律第四十七號醫師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十一編　齒科醫師法（明治三十九年五月二日法律第四十八號）

【沿革】明治四十二年七月法律第四五號、大正五年九月同第四四號、同十四年四月同第四五號改正

第一條　齒科醫師タラムトスル者ハ左ノ資格ヲ有シ内務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一　文部大臣ノ指定シタル齒科醫學專門學校ヲ卒業シタル者

二　齒科醫師試驗ニ合格シタル者

三　外國齒科醫學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ齒科醫師免許ヲ得タル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者

第二條　左ニ掲クル者ハ免許ヲ受クルコトヲ得ス

一　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　未成年者、禁治産者、準禁治産者、聾者、啞者及盲者

第三條　六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者ニハ免許ヲ與ヘサルコトアルヘシ

第四條　内務省ニ齒科醫籍ヲ備ヘ齒科醫師免許ニ關スル事項ヲ登錄スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條ノ二　齒科醫師ニ非サル者ノ齒科診察所治療所若ハ技工所ノ開設又ハ管理ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　齒科醫師ハ自ラ診察セスシテ診斷書、處方箋ヲ交付シ又ハ治療ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　齒科醫師又ハ齒科診察所若ハ治療所ノ首長ハ診療簿ヲ備ヘ十箇年間之ヲ保存スヘシ

第七條　齒科醫師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス業務上學位稱號及專門科名ヲ除クノ外其ノ技能、療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　齒科醫師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道府縣齒科醫師會ヲ設立スヘシ

道府縣齒科醫師會ハ日本齒科醫師會ヲ設立スルコトヲ得

齒科醫師ハ土地ノ狀況ニ依リ郡市齒科醫師會ヲ設立スルコトヲ得

道府縣齒科醫師會日本齒科醫師會及郡市齒科醫師會ハ法人トシ勅令ノ定ムル所ニ依リ齒科醫事衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第九條　道府縣齒科醫師會ハ道府縣ヲ區域トス

公私立ノ診察所若ハ治療所又ハ其ノ出張所ニ於テ診察及治療ニ從事スル齒科醫師ハ其ノ診察所治療所又ハ出張所ノ所在地ヲ區域トスル道府縣齒科醫師會ノ會員トス

第九條ノ二　日本齒科醫師會ハ内地ヲ區域トス

日本齒科醫師會ハ道府縣齒科醫師會ヲ以テ會員トス

第九條ノ三　郡市齒科醫師會ハ勅令ニ別段ノ定ムル場合ヲ除クノ外郡市ヲ區域トス

第九條第二項ノ規定ハ郡市齒科醫師會ニ之ヲ準用ス

第九條ノ四　道府縣齒科醫師會日本齒科醫師會若ハ郡市齒科醫師會ハ會員ヨリ徴收スヘキ收入ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九條ノ五　道府縣齒科醫師會日本齒科醫師會及郡市齒科醫師會ノ設立ノ手續機關ノ組織經費ノ負擔監督會員ノ懲戒其ノ他必要ナル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　齒科醫師第二條各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

齒科醫師六年未滿ノ徴役又ハ禁錮ニ處セラレタルトキ又ハ業務ニ關シ罰金ニ處セラレ若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ齒科醫業ヲ停止スルコトアルヘシ其ノ事免許前ニ係ル場合亦同シ

本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第二條第二號ノ原因止ミタルトキ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ與フルコトアルヘシ

本條ノ處分ハ內務大臣之ヲ行フ但シ第二項及第三項後段ノ場合ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス

第十一條　左ニ掲クル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス

一　免許ヲ受ケスシテ齒科醫師ヲ爲シタル者

二　停止中齒科醫業ヲ爲シタル者

三　第四條ノ二第五條第六條若ハ第七條ニ違背シタル者

醫師ニシテ待ニ內務大臣ノ許可ヲ受ケスシテ齒科專門ヲ標榜シ又ハ齒科醫業中金屬充塡、齒筴、義齒、齒冠繼續及架工、齒列矯正竝口蓋補綴ノ技術ニ屬スル行爲ヲ爲シタル者亦前項ニ同シ

第十一條ノ二　醫師ニシテ特ニ內務大臣ノ許可ヲ受ケ齒科專門ヲ標榜シ又ハ齒科醫業中金屬充塡、齒筴、義齒、齒冠繼續及架工、齒列矯正、口蓋補綴ノ技術ニ屬スル行爲ヲ爲ス者ハ第四條ノ二第八條第一項第三項第九條第二項及第九條ノ三第二項ノ適用ニ付テハ之ヲ齒科醫師ト看做ス

附　則

第十二條　本法ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條　本法施行前ノ齒科醫術開業免狀ハ本法施行ノ後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス

附　則（大正五年九月法律第四四號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法公布前一年以上齒科專門ヲ標榜シ引續キ齒科醫業ヲ爲ス醫師ニ對シテハ第十一條第二項ノ規定ヲ適用セス

附　則（大正十四年四月法律第四五號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十五年三月勅令第一二號ヲ以テ同年同月二十日ヨリ施行）

本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ同法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ト看做ス

本法施行ノ際現ニ存スル齒科醫師會ハ本法施行ノ日ヨリ六月內仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

齒科醫師法施行細則

（明治三十九年九月三日內務省令第二十八號）

【沿革】明治四十二年七月省令第一八號、大正八年九月同第一六號改正

第一條　齒科醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ齒科醫師法第一條規定ノ資格竝住所氏名ヲ記載シタル申請書ニ戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ提出スヘシ

內務大臣ハ免許ヲ與フルトキハ齒科醫籍ニ登錄シ齒科醫師免許證ヲ下付ス

第二條　齒科醫籍ニ登錄スヘキ事項左ノ如シ

一　登錄番號及登錄年月日

二　族籍（外國人ナルトキハ其ノ國籍）、氏名、生年月日及女子ナルトキハ其ノ旨

三　齒科醫師法第一條規定ノ資格及資格ヲ取得シタル年月

四　免許ノ取消、齒科醫業ノ停止、其ノ事由、期間及年月日

五　免許證ノ再下付其ノ事由及年月日

六　抹消ノ事由及年月日

第三條　齒科醫師前條第二號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證及戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ三十日以內ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ齒科醫籍ノ訂正ヲ申請スヘシ

前條第三號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ齒科醫籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ免許證ヲ書換ヘ下付ス

第四條　齒科醫師免許證ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ三十日以內ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ再下付ヲ申請スヘシ

前項免許證ノ再下付シ申請スル者ハ手數料金壹圓ヲ納付スヘシ

亡失シタル免許證ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ其ノ地ノ地方長官ニ提出スヘシ

第五條　第一條、第三條及第四條ノ申請ヲ爲ス者ハ登錄稅又ハ手數料ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用スヘシ

既ニ納付シタル登錄稅又ハ手數料ハ之ヲ還付セス

第六條　齒科醫師齒科醫籍登錄ノ抹消ヲ申請セムトスルトキハ住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ內務大臣ニ返納スヘシ

齒科醫師失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ戸籍法ニ依ル届出義務者ヨリ三十日以內ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　齒科醫師其ノ住所ヲ變更シタルトキハ十日以內ニ住所地ノ地方長官ニ届出ヘシ其ノ移轉ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ後ノ住所地ノ地方長官ニ届出ヘシ

後ノ住所地ノ地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ前ノ住所地ノ地方長官ニ通知スヘシ

第八條　齒科醫師自已又ハ他人ノ診察所、治療所若ハ其ノ出張所ニ於テ齒科醫業ヲ開始シタルトキハ十日以內ニ所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ其ノ之ヲ休止シ廢止シ又ハ診察治療ノ場所ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ但シ其ノ異動ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ後ノ所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ

後ノ所在地ノ市方長官前項但書ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ前ノ所在地ノ地方長官ニ通知スヘシ

官立又ハ公立ノ病院ニ於テ診察治療ニ從事スル場合ハ第一項ニ依ルノ限ニ在ラス

診察所又ハ治療所ト稱スルハ公衆ノ需ニ應シ診察又ハ治療ヲ爲ス場所ヲ謂フ

第八條ノ二　齒科醫師ハ法令ノ規定ニ依リ必要アル者ニ正當ノ事由ナクシテ診斷書ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス開業ノ齒科醫師ハ診察治療ノ需ア

ル場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條ノ三　齒科醫師ハ其ノ診察シタル患者ニ交付スル處方箋ニ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日ヲ記載シ及署名又ハ捺印スヘシ

第八條ノ四　齒科醫師ハ診察簿ニ其ノ治療シタル患者ノ氏名、年齢、病名及療法ヲ記載スヘシ但シ其ノ不明ナルモノハ患者廢療ノ時其ノ旨ヲ記載スヘシ

第九條　齒科醫師其ノ診察治療スル患者ニ自ラ藥劑ヲ交付スルトキハ容器又ハ包紙ニ其ノ用法患者ノ氏名及診察所、治療所ノ名稱又ハ自己ノ氏名ヲ明記スヘシ

第十條　地方長官ハ齒科醫師法第十條ノ處分ヲ必要ト認ムルトキハ內務大臣ニ具申スヘシ

前項ノ場合ニ於テ道府縣齒科醫師會アルトキハ豫メ其ノ意見ヲ徵スルコトヲ要ス

第十一條　齒科醫師法第十條ニ依リ免許取消處分ヲ受ケタル者ハ五日以內ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ內務大臣ニ返納スヘシ

第十二條　齒科醫師法第十條ニ依リ停止處分ヲ受ケタル者ハ五日以內ニ免許證ヲ住所地ノ地方長官ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ其ノ要旨ヲ免許證ニ裏書シ捺印ノ上領置シ期間滿了ノ後之ヲ還付スヘシ

第十三條　左ニ掲クル場合ニ於テ族籍、氏名、事由其ノ他必要ト認ムル事項ヲ官報ニ公告ス

一　齒科醫籍ニ登錄シ又ハ抹消シタルトキ

二　免許證再下付ノトキ

一　齒科醫師法第十條ノ處分ヲ爲シタルトキ

第十四條　第三條第一項、第四條第一項第三項、第六條第二項、第七條第一項及第八條第一項ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ科料ニ處ス

第十五條　第八條ノ二、第八條ノ三、第八條ノ四、第九條、第十一條及第十二條第一項ニ違背シタル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本則ハ明治三十九年法律第四十八號齒科醫師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

齒科醫師法第一條第三號ノ資格ニ關スル件

（大正十五年三月十七日勅令第十三號）

第一條　齒科醫師法第一條第三號ノ資格ニ依リ齒科醫師ノ免許ヲ受クルコトヲ得ル者左ノ如シ

一　內務大臣ノ指定シタル外國ノ國籍ヲ有シ其ノ國ニ於テ齒科醫師ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ內務大臣ニ於テ適當ト認定シタル資格ヲ有スル者

二　外國ノ齒科醫學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ齒科醫師免許ヲ受ケタル帝國臣民ニシテ內務大臣ニ於テ適當ト認定シタル者

第二條　前條第一號ノ規定ニ依リ指定ヲ爲スハ帝國ノ齒科醫師ニ對シ試驗ヲ要セス齒科醫師ノ免許ヲ爲ス國タルコトヲ要ス

附　則

本令ハ大正十四年法律第四十五號施行ノ日ニリ之ヲ施行ス（大正十五年三月二十日ヨリ施行）

明治三十九年勅令第二百四十五號ハ之ヲ廢止ス

醫師會令

（大正八年九月二十三日勅令第四百二十九號）

【沿革】大正十一年八月勅令第三一八號、同十二年五月同第二七二號改正

第一條　醫師法第九條第二項ノ醫師ハ郡市區醫師會ヲ設立スヘシ

郡市區醫師會ハ道府縣醫師會ヲ設立スヘシ

第二條　本令ニ於テ醫師會ト稱スルハ郡市區醫師會又ハ道府縣醫師會ヲ謂フ

第三條　本令ニ依リ設立シタル醫師會ニ非サレハ郡、市、區、道、府又ハ縣ノ文字ヲ冠スル醫師會ノ名稱ヲ附スルコトヲ得ス

第四條　郡市區醫師會ノ設立ハ會員ト爲ルヘキ者五人以上設立委員ト爲リ會則案ヲ定メ設立總會ノ議決ヲ經ヘシ

設立總會ノ招集及議事整理ハ設立委員之ヲ行フ

設立總會ニ於テハ郡市區醫師會ノ會員ト爲ルヘキ者半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ設立總會ニ出席スルコト能ハサル者ハ豫メ書面ヲ以テ出席者ニ委任シテ表決權ヲ行フコトヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ之ヲ設立總會ニ出席シタル者ト看做ス

第五條　道府縣醫師會ノ設立ハ道府縣廳所在地ノ郡市區醫師會ノ會長設立委員ト爲リ會則案ヲ定メ設立總會ノ議決ヲ經ヘシ

設立總會ノ招集及議事整理ハ設立委員之ヲ行フ

設立總會ニ於テハ道府縣醫師會ノ會員ト爲ルヘキ郡市區醫師會カ其ノ會員中ヨリ選擧シタル委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ニ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

前條第三項但書ノ規定ハ前項ノ會議及議決ニ之ニ準用ス

第三項ノ委員ノ數ハ會員二十人以內ノ縣市區醫師會ニ在リテハ一人トシ會員二十人ヲ超ユルモノニ在リテハ會員三十人又ハ其ノ端數ヲ加フル毎ニ一人ヲ加フ但シ第八條ノ規定ニ依ル市ヲ區域トスル醫師會ニ在リテハ會員ノ數ヲ拘ラス二人トス

第六條　醫師會ノ設立總會ニ於テ醫師會設立ノ議決ヲ爲シタルトキハ設立委員ハ會則案ヲ添ヘ速ニ其ノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ

醫師會ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第九條ノ規定ニ依リ會則ノ設立アリタル時成立スルモノトス

第七條　醫師會成立シメルトキハ地方長官ハ醫師會ノ名稱、區域、事務所ノ所在地及成立ノ年月日ヲ告示スヘシ其ノ告示シタル事項ニ變更アリタルトキハ亦同シ

第八條　市制第六條ノ市ニシテ內務大臣ノ指定シタルモノニ於テハ市ヲ區域トスル醫師會及市內ノ區ヲ區域トスル醫師會ヲ設立スヘシ

前項ノ規定ニ依ル市ヲ區域トスル醫師會ノ設立竝其ノ役員及總會ニ關シテハ道府縣醫師會ノ設立竝其ノ役員及總會ニ關スル規定ノ例ニ依ル

此ノ場合ニ於テハ市ヲ區域トスル醫師會ハ道府縣醫師會ニ、區ヲ區域トスル醫師會ハ郡市區醫師會ニ該當スルモノトス

第一項ノ規定ニ依ル區ヲ區域トスル醫師會ハ第五條第一項ノ適用ニ付テハ之ヲ郡市區醫師會ニ非サルモノト看做ス

第九條　地方長官ハ醫師會設立ノ義務ノ生シタル時ヨリ六月內ニ第四條、第五條又ハ第八條ノ規定ニ依ル醫師會設立ノ議決ナキトキハ醫師會ノ會員ト爲ルヘキ者ニ設立委員ヲ命シ、會則ノ設定ヲ爲シ其ノ他設

立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十條　醫師會ノ會則ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一　名稱及區域

二　事務所ノ所在地

三　役員ノ種類、數、職務權限、選任、解任及任期ニ關スル規定

四　道府縣醫師會ニ在リテハ議員又ハ豫備議員ノ選任、解任及任期ニ關スル規定

五　代議員ヲ設クル郡市區醫師會ニ在リテハ代議員ノ選任、解任及任期ヲ關スル規定

六　總會其ノ他會議ニ關スル規定

七　經費ノ分賦徴收ニ關スル規定

八　財産及營造物ノ管理及處分ニ關スル規定

九　庶務及會計ニ關スル規定

第十一條　醫師會ノ會則ノ變更ハ總會ノ議決ヲ經テ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條　郡市區醫師會ノ總會ハ其ノ郡市區醫師會ノ會員ヲ以テ之ヲ組織ス會員百人以上ナルトキハ會則ノ定ムル所ニ依リ會員中ヨリ選擧シタル代議員ヲ以テ之ヲ組織スルコトヲ得

第十三條　道府縣醫師會ノ總會ハ道府縣醫師會ノ會員タル郡市區醫師會カ其ノ會員中ヨリ選擧シタル道府縣醫師會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

前項ノ議員事故アルトキハ郡市區醫師會カ其ノ會員中ヨリ選擧シタル道府縣醫師會豫備議員道府縣醫師會會則ノ定ムル所ニ依リ之ヲ代理スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ選擧スヘキ議員ノ數ハ第五條第五項ノ委員ノ數ノ例ニ依ル但シ道府縣醫師會會則ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十四條　醫師會ノ總會ニ於テ左ニ掲クル事項ヲ議決スル場合ニ於テハ其ノ會員、代議員又ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一　會則變更ノ議決

二　第二十一條又ハ第二十二條ノ議決

三　第二十八條第三項ノ議決

第四條第三項但書ノ規定ハ前項ノ會議及議決ニ之ヲ準用ス

第十五條　醫師會ニハ左ノ役員ヲ置クヘシ

會　長　一人

副會長　一人又ハ二人

前項ノ外會則ノ定ムル所ニ依リ必要ナル役員ヲ置クコトヲ得

第十六條　郡市區醫師會ノ役員ハ其ノ會員中ヨリ、道府縣醫師會ノ役員ハ其ノ議員中ヨリ各其ノ總會ニ於テ之ヲ選擧スヘシ但シ道府縣醫師會ノ役員ニシテ前條第二項ノ規定ニ依ルモノニ付テハ會則ノ定ムル所ニ依リ當該醫師會ノ會員タル郡市區醫師會ノ會員中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選擧スルコトヲ得

第一回總會ニ於テ前項ノ役員ノ選任アル迄醫師會ハ會則ヲ以テ假役員ヲ定メ會務ヲ處理セシムルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ役員ヲ選擧シタルトキハ速ニ其ノ氏名ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第十七條　會長ハ會務ヲ總理シ醫師會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第十七條ノ二　會長及會長ノ職務ヲ代理スル者故障アルトキハ地方長官ハ會員又ハ議員中ヨリ假役員ヲ定メ臨時會務ヲ處理セシムルコトヲ得

第十八條　醫師會ニ於テ議決シ又ハ施行シ得ル事項左ノ如シ

一　法令又ハ會則ニ規定スル事項

二　醫事衛生ニ關シ行政廳ヨリ諮問セラレタル事項

三　醫事衛生ニ關シ行政廳ニ建議スル事項

四　醫事衛生ノ研究及施設ニ關スル事項

五　救療ニ關スル事項

第十九條　行政官廳ハ醫事衛生ニ關スル報告又ハ調査ヲ醫師會ニ命スルコトヲ得

第二十條　醫師會ノ經費及醫師會設立ニ關スル經費ハ其ノ會員ノ負擔トス

第二十一條　醫師會ハ郡市區醫師會ノ會員中醫師法第二條第二號ニ該當シ又ハ業務ニ關シ不正ノ行爲アリ免許取消又ハ醫業停止ノ處分ヲ必要ト認ムル者アルトキハ總會ノ議決ニ依リ其ノ意見ヲ地方長官ニ具申スルコトヲ得醫師法第十條第三項ニ該當スル者アリト認ムルトキ亦同シ

第二十二條　郡市區醫師會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ總會ノ議決ヲ經テ左ノ各號ノ一ニ掲クル懲戒ヲ行フコトヲ得但シ特別ノ事由アルトキハ之ヲ併セ行フコトヲ妨ケス

一　譴責

二　五百圓以下ノ過怠金

三　三年内議員、豫備議員及役員ノ選擧權及被選擧權並代議員ノ被選擧權ノ停止

代議員、議員、豫備議員又ハ役員タル者前項第三號ノ規定ニ依リ被選擧權ヲ停止セラレタルトキハ解任セラレタルモノトス

第二十三條　醫師會ノ會則及議決ハ其ノ會員ヲ羈束ス

第二十四條　地方長官ハ醫師會ノ議決若ハ選擧又ハ施行スル事項カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其ノ議決若ハ選擧ヲ取消シ又ハ其ノ施行スル事項ノ廢止、停止若ハ變更ヲ命スルコトヲ得

地方長官ハ醫師會ノ役員又ハ假役員ノ行爲カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ役員又ハ假役員ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ解任セラレタル者ハ三年間醫師會及日本醫師會ノ役員ト爲ルコトヲ得ス

第二十五條　醫師法第十條ノ規定ニ依リ醫業ヲ停止セラレタル者ハ其ノ停止中醫師會ノ總會ニ出席シ若ハ總會ニ於ケル表決權ヲ行ヒ又ハ醫師會ノ役員タルコトヲ得ス

第二十六條　醫師會ハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ毎年度ノ豫算、決算及會務ノ狀況ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第二十七條　地方長官必要ト認ムルトキハ郡市又ハ北海道若ハ沖繩縣ノ區ノ區域ニ依ラス郡市區醫師會ノ區域ヲ定ムルコトヲ得

第二十八條　道府縣縣市若ハ第八條ノ市内ノ區又ハ北海道若ハ沖繩縣ノ區ノ廢置分合ニ依リ又ハ前條ノ規定ニ依リ醫師會ノ區域ニ變更ヲ生シタル爲醫師會存立セサル區域ヲ生シタルトキハ其ノ區域ノ醫師會ノ會員タルヘキ者ハ其ノ區域ニ依リ醫師會ヲ設立シタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ假ニ會則ヲ定メ假役員又ハ假議員ヲ選任シテ役員又ハ議員ノ選任アル迄會務ヲ處理セシムヘシ

第一項ノ規定ニ依リ設立シタル醫師會ハ會則ヲ議決シ其ノ認可ヲ設立ノ時ヨリ二月内ニ地方長官ニ申請スヘシ

第二十九條　醫師會ノ區域ニ變更ヲ生シタル爲財産處分ヲ要スルトキハ關係醫師會ノ協議ニ依リ財産處分方法ヲ定メ關係醫師會ノ區域カ道府縣ヲ同シクスル場合ニ於テハ地方長官ニ、異ニスル場合ニ於テハ内務大臣ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ

醫師會ノ區域ニ變更ヲ生シタル爲消滅シタル舊醫師會ハ前項ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍之ヲ存續スルモノト看做ス

第一項ノ協議ヲ爲サス又ハ協議調ハサル場合ニ於ケル財産處分方法ハ關係醫師會ノ區域カ道府縣ヲ同シクスル場合ニ於テハ地方長官、異ニスル場合ニ於テハ内務大臣之ヲ定ム

第三十條　醫師會ハ本令ニ依リ地方長官ノ爲シタル處分ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得訴願スル場合ニ於テハ總會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第二十四條第二項ノ規定ニ依リ解任セラレタル役員又ハ假役員其ノ解任ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第三十一條　北海道、沖繩縣及島地ニ關シ本令中ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ地方長官別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第三十二條　日本醫師會ノ設立ハ五以上ノ道府縣醫師會ノ會長設立委員ト爲リ會則案ヲ定メ道府縣醫師會三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ設立總會ヲ開キ其ノ議決ヲ經ヘシ

設立總會ノ招集及議事整理ハ設立委員之ヲ行フ

設立總會ニ於テハ道府縣醫師會カ其ノ會員タル郡市區醫師會ノ會員中ヨリ選擧シタル委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四條第三項但書ノ規定ハ前項ノ會議及議決ニ之ヲ準用ス

第三項ノ委員ノ數ハ會員タル郡市區醫師會ノ會員總數二百人以内ノ道府縣醫師會ニ在リテハ一人、二百人ヲ超エ五百人以内ノモノニ在リテハ二人トシ五百人ヲ超ユルモノニ在リテハ五百人又ハ其ノ端數ヲ加フル毎ニ一人ヲ加フ

第三十三條　本令ニ依リ設立シタル日本醫師會ニ非サレハ日本醫師會ノ名稱又ハ之ニ類スル名稱ヲ附スルコトヲ得ス

第三十四條　日本醫師會ノ總會ハ道府縣醫師會カ其ノ會員タル郡市區醫師會ノ會員中ヨリ選擧シタル日本醫師會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

前項ノ議員事故アルトキハ道府縣醫師會カ其ノ會員タル郡市區醫師會ノ會員中ヨリ選擧シタル日本醫師會豫備議員日本醫師會會則ノ定ムル所ニ依リ之ヲ代理スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ選擧スヘキ議員ノ數ハ第三十二條第五項ノ委員ノ數ノ例ニ依ル但シ日本醫師會會則ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨ケス

第三十五條　内務大臣ハ日本醫師會ノ議決又ハ施行スル事項カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其ノ議決ヲ取消シ、其ノ施行スル事項ノ廢止、停止若ハ變更ヲ命シ又ハ其ノ解設ヲ命スルコトヲ得

内務大臣ハ日本醫師會ノ選擧カ法令又ハ會則ニ違反スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其ノ選擧ヲ取消スコトヲ得

第三十六條　日本醫師會ハ解散セムトスルトキハ總會ノ議決ニ依リ道府縣醫師會三分ノ二以上ノ同意ヲ得事由ヲ具シ内務大臣ノ認可ヲ受ク

前項總會ノ會議及議決ハ第十四條ノ例ニ依ル

第三十七條　日本醫師會ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

日本醫師會解散シタルトキハ會長及副會長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ會則ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ選任シタル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ内務大臣清算人ヲ選任ス清算人闕ケタルトキ亦同シ

清算人ハ日本醫師會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

清算方法及財産處分ニ付テハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

内務大臣必要ト認ムルトキハ清算方法及財産處分ノ變更ヲ命シ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三十八條　第六條、第七條、第十條、第十一條、第十四條乃至第二十條、第二十三條、第二十四條第二項第三項、第二十五條、第二十六條及第三十條中醫師會ニ關スル規定及道府縣醫師會ニ關スル規定ハ日本醫師會ニ之ヲ準用ス但シ同條中地方長官又ハ行政官廳トアルハ内務大臣、當該醫師會ノ會員タル郡市區醫師會トアルハ郡市區醫師會トス

附　則

本令ハ大正八年法律第五十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十二年五月勅令第二七二號）

本令ハ大正十二年法律第一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

齒科醫師會令（大正十五年三月十七日勅令第十四號）

第一條　本令ニ於テ齒科醫師會ト稱スルハ道府縣齒科醫師會、日本齒科醫師會又ハ郡市齒科醫師會ヲ謂フ

第二條　本令ニ依リ設立シタル齒科醫師會ニ非サレハ郡、市、道、府、縣又ハ日本ノ文字ヲ冠スル齒科醫師會ノ名稱又ハ之ニ類スル名稱ヲ附スルコトヲ得ス

第三條　齒科醫師法第九條第二項及第十一條ノ二ノ規定ニ依リ道府縣齒科醫師會ノ會員タルヘキ者ハ道府縣齒科醫師會ヲ設立スヘシ

第四條　土地ノ狀況ニ依リ郡市齒科醫師會ノ區域ハ郡市ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

第五條　道府縣齒科醫師會及郡市齒科醫師會ノ設立ハ會員ト爲ルヘキ者五人以上設立委員ト爲リ會則案ヲ定メ設立總會ノ議決ヲ經ヘシ

設立總會ノ招集及議事整理ハ設立委員之ヲ行フ

設立總會ニ於テハ道府縣齒科醫師會又ハ郡市齒科醫師會ノ會員ト爲ルヘキ者半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

但シ設立總會ニ出席スルコト能ハサル者ハ豫メ書面ヲ以テ出席者ニ委任シテ表決權ヲ行フコトヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ之ヲ設立總會ニ出席シタル者ト看做ス

第六條　日本齒科醫師會ノ設立ハ五以上ノ道府縣齒科醫師會ノ會長設立委員ト爲リ會則案ヲ定メ道府縣齒科醫師會三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ設立總會ヲ開キ其ノ議決ヲ經ヘシ

設立總會ノ招集及議事整理ハ設立委員之ヲ行フ

設立總會ニ於テハ道府縣商科醫師會カ其ノ會員中ヨリ選擧シタル委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ各數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

前條第三項但書ノ規定ハ前項ノ會議及議決ニ之ヲ準用ス

第三項ノ委員ノ數ハ會員總數二百人以内ノ道府縣商科醫師會ニ在リテハ一人、二百人ヲ超エ五百人以内ノモノニ在リテハ二人トシ五百人ヲ超ユルモノニ在リテハ五百人又ハ其ノ端數ヲ加フル毎ニ一人ヲ加フ

第七條　商科醫師會ノ設立總會ニ於テ商科醫師會設立ノ議決ヲ爲シタルトキハ設立委員ハ會則案ヲ添ヘ遽ニ其ノ認可ヲ主務官廳ニ申請スヘシ

主務官廳前項ノ規定ニ依リ郡市商科醫師會ノ設立ヲ認可スル場合ニ於テハ兼メ道府縣商科醫師會ノ意見ヲ徵スヘシ

商科醫師會ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第九條ノ規定ニ依リ會則ノ設定アリタル時成立スルモノトス

第八條　商科醫師會成立シタルトキハ主務官廳ハ商科醫師會ノ名稱、區域、事務所ノ所在地及成立ノ年月日ヲ告示スヘシ其ノ告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第九條　地方長官ハ道府縣商科醫師會設立ノ義務ノ生シタル時ヨリ六月以内ニ第五條ノ規定ニ依ル道府縣商科醫師會設立ノ議決ナキトキハ道府縣商科醫師會ノ會員ト爲ルヘキ者ハ設立委員ヲ命シ、會則ノ設定ヲ爲シ其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十條　商科醫師會ノ會則ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一　名稱及區域
二　事務所ノ所在地
三　役員ノ種類、數、職務權限、選任、解任及任期ニ關スル規定
四　日本商科醫師會ニ在リテハ議員、豫備議員ノ選任、解任及任期ニ關スル規定
五　代議員ヲ設クル道府縣商科醫師會及郡市商科醫師會ニ在リテハ代議員ノ選任、解任及任期ニ關スル規定
六　總會其ノ他會議ニ關スル規定
七　經費ノ分賦徵收ニ關スル規定
八　財產及營造物ノ管理及處分ニ關スル規定
九　庶務及會計ニ關スル規定

第十一條　商科醫師會ノ會則ノ變更ハ總會ノ議決ニ依リ、主務官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條　道府縣商科醫師會及郡市商科醫師會ノ總會ハ其ノ會員ヲ以テ之ヲ組織ス但シ會則ノ定ムル所ニ依リ會員中ヨリ選擧シタル代議員ヲ以テ之ヲ組織スルコトヲ得

第十三條　日本商科醫師會ノ總會ハ道府縣商科醫師會カ其ノ會員中ヨリ選擧シタル日本商科醫師會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

前項ノ議員故障アルトキハ道府縣商科醫師會カ其ノ會員中ヨリ選擧シタル日本商科醫師會豫備議員日本商科醫師會會則ノ定ムル所ニ依リ之ヲ代理スルコト得

第一項ノ規定ニ依リ選擧スヘキ議員ノ數ハ第六條第五項ノ委任ノ數ノ例ニ依ル但シ日本商科醫師會會則ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十四條　商科醫師會ノ總會ニ於テ左ニ掲クル事項ヲ議決スル場合ニ於テハ其ノ會員、代議員又ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開

クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一　會則變更ノ議決
二　第二十一條又ハ第二十二條第一項ノ議決
三　第二十七條第三項ノ議決
四　第三十條ノ議決
第五條第三項但書ノ規定ハ前項ノ會議及議決ニ之ヲ準用ス

第十五條　商科醫師會ニハ左ノ役員ヲ置クヘシ

會長　一人
副會長　一人又ハ二人

前項ノ外會則ノ定ムル所ニ依リ必要ナル役員ヲ置クコトヲ得

第十六條　道府縣商科醫師會及郡市商科醫師會ノ役員ハ其ノ會員中ヨリ日本商科醫師會ノ役員ハ道府縣商科醫師會ノ會員中ヨリ各其ノ總會ニ於テ之ヲ選擧スヘシ

第一回總會ニ於テ前項ノ役員ノ選任アル迄商科醫師會ハ會則ヲ以テ假役員ヲ定メ會務ヲ處理セシムルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ役員ヲ選擧シタルトキハ遽ニ其ノ氏名ヲ主務官廳ニ屆出ツヘシ

第十七條　會長ハ會務ヲ總理シ商科醫師會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長故障アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

會長及會長ノ職務ヲ代理スル者故障アルトキハ主務官廳ハ道府縣商科醫師會及郡市商科醫師會ニ在リテハ其ノ會員中ヨリ、日本商科醫師會ニ在リテハ道府縣商科醫師會ノ會員中ヨリ假役員ヲ定メ臨時會務ヲ處理セシムルコトヲ得

第十八條　商科醫師會ニ於テ議決シ又ハ施行シ得ル事項左ノ如シ

一　法令又ハ會則ニ規定スル事項
二　商科醫師會ハ衛生ニ關シ行政廳ヨリ諮問セラレタル事項
三　商科醫師會ハ衛生ニ關シ行政廳ニ建議スル事項
四　商科醫師會ハ衛生ノ研究及施設ニ關スル事項
五　救療ニ關スル事項

第十九條　主務官廳ハ商科醫師會ハ衛生ニ關スル報告又ハ調査ヲ商科醫師會ニ命スルコトヲ得

第二十條　商科醫師會ノ經費及商科醫師會設立ニ關スル經費ハ其ノ會員ノ負擔トス

第二十一條　道府縣商科醫師會及郡市商科醫師會ハ其ノ會員中商科醫師法第二條第二號ニ該當スル者アリ又ハ同法第十條第二項ノ規定ニ依リ免許取消若ハ商科醫業停止ノ處分ヲ必要トスル者アリト認ムルトキハ總會ノ議決ニ依リ其ノ意見ヲ地方長官ニ具申スルコトヲ得商科醫師法第十條第三項ノ規定ニ依リ再免許ヲ與フルヲ適當トスル者アリト認ムルトキ亦同シ

第二十二條　道市縣商科醫師會及郡市商科醫師會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ總會ノ議決ニ依リ左ノ各號ノ一ニ掲クル懲戒ヲ行フコトヲ得但シ特別ノ事由アルトキハ之ヲ併セ行フコトヲ妨ケス

一　譴責
二　五百圓以下ノ過怠金
三　三年以内議員、豫備議員及役員ノ選擧權及被選擧權並代議員ノ被選擧權ノ停止

代議員、議員、豫備議員又ハ役員タル者前項第三號ノ規定ニ依リ被選

事ヲ停止セラレタルトキハ解任セラレタルモノトス

第二十三條　齒科醫師會ノ會則及議決ハ其ノ會員ヲ覊束ス

第二十四條　主務官廳ハ齒科醫師會ノ議決若ハ選擧又ハ其ノ施行スル事項カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其ノ議決若ハ選擧ヲ取消シ又ハ其ノ施行スル事項ノ廢止、停止若ハ變更ヲ命スルコトヲ得

主務官廳ハ日本齒科醫師會若ハ郡市齒科醫師會ノ議決又ハ其ノ施行スル事項カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其ノ解散ヲ命スルコトヲ得

主務官廳ハ齒科醫師會ノ役員又ハ假役員ノ行爲カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ役員又ハ假役員ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ解任セラレタル者ハ三年間齒科醫師會ノ役員ト爲ルコトヲ得ス

第二十五條　齒科醫師法第十條第二項ノ規定ニ依リ齒科醫業ヲ停止セラレタル者ハ其ノ停止中齒科醫師會ノ總會ニ出席シ若ハ總會ニ於ケル表決權ヲ行ヒ又ハ齒科醫師會ノ役員タルコトヲ得ス

第二十六條　齒科醫師會ハ主務官廳ノ定ムル所ニ依リ毎年度ノ豫算、決算及會務ノ狀況ヲ主務官廳ニ屆出ツヘシ

第二十七條　道府縣ノ廢置分合ニ依リ道府縣齒科醫師會ノ區域ニ變更ヲ生シタル爲道府縣齒科醫師會存立セサル區域ヲ生シタルトキハ其ノ區域ノ道府縣齒科醫師會ノ會員タルヘキ者ハ其ノ區域ニ依リ道府縣齒科醫師會ヲ設立シタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ假ニ會則ヲ定メ假役員ヲ選任シテ役員ノ選任アル迄會務ヲ處理セシムヘシ

第一項ノ規定ニ依リ設立シタル道府縣齒科醫師會ハ會則ヲ議決シ其ノ認可ヲ設立ノ時ヨリ二月以内ニ地方長官ニ申請スヘシ

第二十八條　道府縣齒科醫師會又ハ郡市齒科醫師會ノ區域ニ變更ヲ生シタル爲財産處分ヲ要スルトキハ關係齒科醫師會ノ協議ニ依リ財産處分方法ヲ定メ關係齒科醫師會ノ區域カ道府縣ヲ同シクスル場合ニ於テハ地方長官ニ、異ニスル場合ニ於テハ内務大臣ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ

道府縣齒科醫師會又ハ郡市齒科醫師會ノ區域ニ變更ヲ生シタル爲消滅シタル舊齒科醫師會ハ前項ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第一項ノ協議ヲ爲サス又ハ協議調ハサル場合ニ於ケル財産處分方法ハ關係齒科醫師會ノ區域カ道府縣ヲ同シクスル場合ニ於テハ地方長官、異ニスル場合ニ於テハ内務大臣之ヲ定ム

第二十九條　齒科醫師會ハ本令ニ依リ主務官廳ノ爲シタル處分ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得訴願スル場合ニ於テハ總會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第二十四條第三項ノ規定ニ依リ解任セラレタル役員又ハ假役員其ノ解任ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第三十　日本齒科醫師會又ハ郡市齒科醫師會解散セムトスルトキハ總會ノ議決ニ依リ事由ヲ具シ主務官廳ノ認可ヲ受クヘシ、但シ日本齒科醫師會ニ在リテハ道府縣齒科醫師會三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第三十一條　日本齒科醫師會又ハ郡市齒科醫師會ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

日本齒科醫師會又ハ郡市齒科醫師會解散シタルトキハ會長及副會長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ會則ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ選任シタル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナルトキハ主務官廳清算人ヲ選任ス清算人闕ケタルトキ亦同シ

清算人ハ日本齒科醫師會又ハ郡市齒科醫師會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

清算方法及財産處分ニ付テハ主務官廳ノ認可ヲ受クヘシ

主務官廳必要ト認ムルトキハ清算方法及財産處分ノ變更ヲ命シ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三十二條　本令ニ於テ主務官廳トアルハ郡市齒科醫師會及道府縣齒科醫師會ニ在リテハ地方長官、日本齒科醫師會ニ在リテハ内務大臣トス

附　則

本令ハ大正十四年法律第四十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十五年三月二十日ヨリ施行）

死亡診斷書死體檢案書竝死産證書

胎檢案書記載方ノ件

（大正十三年五月二十三日
内務省通牒閣衛第一五號）

人口動態調査ノ資料タル人口動態調査票中死亡票ノ職業欄及死産票ノ父母ノ職業欄ニ記入サル可キ職業明治三十三年内務省令第四十一號ニ擬リ添付ス可キ醫師ノ作爲スル死亡診斷書、死體檢案書竝醫師産婆ノ作爲スル死産證書、死胎檢案書ヲ作ルコトヲ相成居リ同書記載ノ職業名ハ明治三十三年内務省訓令第二十八號ニ依リ總テ職業名ハ商又ハ工等單ニ汎稱ニ依ラスシハ何商又ハ何工等可成細密ニ記ス可キ旨規定セラレ居ルニ拘ラス之ヲ屆出ニ際シテハ單ニ農工商等ノ汎稱又ハ會社職工等ノ略稱ヲ記載スルモノ多ク職業分類上支障多ク候間此等證書ニハ少クトモ該訓令ニ依ル小分類ニ分類シ得ル程度ニ職業ノ種類ヲ詳細記載方醫師産業ニ徹底候樣御取計相成候

第二節　獸醫、産婆、看護婦

獸醫師法

（大正十五年四月六日
法律第五十三號）

第一條　獸醫師タラムトスル者ニ農林大臣ノ免許ヲ受ケ獸醫師名簿ニ登錄ヲ受クヘシ

獸醫師ノ免許ヲ受クルニハ左ノ各號ノ一ニ該當スル資格ヲ有スルコトヲ要ス

一　大學令ニ依ル大學ニ於テ獸醫學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者、東京帝國大學農學部獸醫學實科ヲ卒業シタル者又ハ官立公立ノ專門學校若ハ文部大臣カ之ト同等以上ト認メ指定シタル學校ニ於テ獸醫學ヲ修メ之ヲ卒業シタル者

二　獸醫師試驗ニ合格シタル者

三　外國ノ獸醫學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ獸醫師ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者

第一項ノ登錄及前項第二號ノ獸醫師該驗ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　農林大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ獸醫師ノ免許ヲ爲スコトヲ得ス

一　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　未成年者、禁治產者又ハ準禁治產者

三　精神病者、聾者、聾者又ハ盲者

第三條　農林大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ獸醫師ノ免許ヲ爲サザルコトヲ得

一　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者

二　獸醫事ニ關シ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ不正ノ行爲アリタル者

第四條　獸醫師ニ非サレハ家畜ノ疾病ニ關スル診察又ハ治療ヲ業務ト爲スコトヲ得ス

前項ノ家畜ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　獸醫師ハ自ラ診察セスシテ診斷書ヲ交付シ又ハ檢案セスシテ檢案書若ハ死產證書ヲ交付スルコトヲ得ス但シ診療中斃死シタル場合ニ交付スル斃死診斷書ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六條　開業ノ獸醫師ハ診察又ハ治療ノ需アル場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

獸醫師ハ法令ノ規定ニ依リ必要アル者ニ正當ノ事由ナクシテ診斷書、檢案書又ハ死產證書ノ交付ヲ拒ムルコトヲ得ス

第七條　獸醫師ハ診療簿ヲ備ヘ三年間之ヲ保存スヘシ

第八條　獸醫師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス業務上學位、稱號及專門科名ヲ除クノ外其ノ技能、療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　獸醫師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道府縣獸醫師會ヲ設立スヘシ

道府縣獸醫師會ハ日本獸醫師會ヲ設立スルコトヲ得

道府縣獸醫師會ハ日本獸醫師會ノ會員トス

道府縣獸醫師會及日本獸醫師會ハ法人トス勅令ノ定ムル所ニ依リ獸醫事衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

道府縣獸醫師會ハ道府縣ヲ日本獸醫師會ハ內地ヲ區域トス

第十條　道府縣獸醫師會及日本獸醫師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會員ヨリ徵收スヘキ收入ニ關シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十一條　本法ニ規定スルモノノ外道府縣獸醫師會及日本獸醫師會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　獸醫師第二條各號ノ一ニ該當スルトキハ農林大臣ハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

獸醫師第三條各號ノ一ニ該當スルトキハ農林大臣ハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ其ノ業務ヲ停止スルコトヲ得

前二項ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第二條第二號又ハ第三號ノ原因止ミタルトキ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ爲スコトヲ得

農林大臣第二項ノ處分ヲ行フ場合及改悛ノ情顯著ナル者ニ對シ前項ノ再免許ヲ爲ス場合ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第四條ノ規定ニ違反シタル者

二　業務停止中ノ獸醫師ニシテ其ノ業務ヲ爲シタル者

三　第五條又ハ第八條ノ規定ニ違反シタル者

第十四條　第六條又ハ第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和二年四月勅令第七十二號ヲ以テ同年同月十日ヨリ施行）

獸醫免許規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前獸醫免狀ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ獸醫師ノ免許ヲ受ケ獸醫師名簿ニ登錄ヲ受ケタル者ト看做ス

前項ノ規定ニ該當スル者ニ付テハ未成年者タルノ故ヲ以テ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得ス

本法施行前交付シタル獸醫假免狀ハ本法施行後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス

前項ノ假免狀ノ有效期間ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

本法ノ規定ハ獸醫假免狀ヲ受ケタル者ニ付之ヲ準用ス

本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ獸醫免狀ヲ受クル資格ヲ有スル者及本法施行後十二年內ニ從前ノ規定ニ依ル獸醫免狀ヲ受クル資格ヲ得タル者ハ第一條第二項ノ規定ニ拘ラス獸醫師ノ免許ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ未成年者タルコトヲ妨ケス

本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ、同法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

獸醫師法施行規則

（昭和二年四月九日農林省令第六號）

第一條　獸醫師ノ免許及登錄ヲ受ケムトスル者ハ獸醫師法第一條第二項又ハ附則第八項ノ資格、資格ヲ取得シタル年月及住所氏名ヲ記載シタル申請書ニ戶籍ノ謄本又ハ抄本ヲ添ヘ之ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

農林大臣免許ヲ爲シ獸醫師名簿ニ登錄シタルトキハ獸醫師免許證ヲ下付ス

第二條　獸醫師名簿ニ登錄スヘキ事項左ノ如シ

一　登錄番號及登錄年月日

二　氏名、生年月日及女子ナルトキハ其ノ旨

三　獸醫師法第一條第二項又ハ附則第八項ノ資格及資格ヲ取得シタル年月

四　業務ノ停止、其ノ事由、期間及年月日

五　免許證ノ再下付、其ノ事由及年月日

六　登錄抹消ノ事由及年月日

第三條　前項第二號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ免許證及戶籍ノ謄本又ハ抄本ヲ添ヘ三十日以內ニ農林大臣ニ登錄ノ變更ヲ申請スヘシ

前條第三號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ免許證ヲ添ヘ農林大臣ニ登錄ノ變更ヲ申請スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ免許證ヲ書換ヘ下付ス

第四條　免許證ヲ毀損又ハ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ毀損ノ場合ニ於テハ其ノ免許證ヲ添ヘ三十日以內ニ農林大臣ニ再下付ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ニ依リ免許證ノ再下付ヲ申請スル者ハ手數料五十錢ヲ納付スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ免許證ノ再下付ヲ申請シタル後亡失シタル免許證

ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ農林大臣ニ返納スヘシ

第五條　第一條又ハ前二條ノ申請ヲ爲ス者ハ登錄稅又ハ手數料ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用スヘシ

既ニ納付シタル登錄稅又ハ手數料ハ之ヲ還付セス

第六條　獸醫師登錄ノ抹消ヲ受ケムトスルトキハ免許證ヲ添ヘ農林大臣ニ申請スヘシ

獸醫師死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ戸籍法ニ依ル死亡又ハ失踪ノ届出義務者ニ於テ三十日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　獸醫師其ノ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ住所地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ受ケタル地方長官前ノ住所地ノ地方長官ト異ナル場合ニ於テハ前ノ住所地ノ地方長官ニ通知スヘシ

第八條　獸醫師開業シタルトキハ十日以内ニ其ノ診察所若ハ治療所又ハ其ノ出張所ノ所在地ノ地方長官ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ休業シ又ハ廢業シ若ハ診察治療ノ場所ヲ變更シタルトキ亦同シ

前條第二項ノ規定ハ診察治療ノ場所ノ變更ヲ届出アリタル場合ニ付之ヲ準用ス

第九條　獸醫師ハ診療簿ニ其ノ治療シタル患者ノ種類、性、年齢ノ明ルモノハ其ノ年齢、名號アルモノハ其ノ名號、所有者又ハ管理者ノ住所氏名、病名及療法ヲ記載スヘシ但シ其ノ不明ナルモノハ患畜廢棄ノ時其ノ旨ヲ記載スヘシ

第十條　地方長官獸醫師法第十二條第一項及第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ必要ト認ムルトキハ農林大臣ニ具申スヘシ

第十一條　獸醫師法第十二條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ免許ノ取消サレタル者ハ五日以内ニ免許證ヲ農林大臣ニ返納スヘシ

第十二條　獸醫師法第十二條第二項ノ規定ニ依リ業務ヲ停止セラレタル者ハ五日以内ニ免許證ヲ住所地ノ地方長官ニ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依リ提出シタル免許證ハ業務停止期間滿了ノ後之ヲ還付スヘシ

第十三條　左ニ掲クル場合ニ於テハ氏名、事由其ノ他必要ト認ムル事項ヲ官報ニ公告ス

一　獸醫師名簿ニ登錄シ又ハ登錄ヲ抹消シタルトキ

二　免許取消又ハ業務停止ノ處分ヲ爲シタルトキ

第十四條　本則ニ依リ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ住所地ノ異方長官ヲ經由スヘシ

第十五條　第九條、第十一條又ハ第十二條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十六條　第三條第一項、第四條第一項若ハ第三項、第六條第二項、第七條第一項又ハ第八條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ獸醫師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和二年四月十日ヨリ施行）

本令施行ノ際現ニ開業セル獸醫師ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第八條第一項ノ届出ヲ爲スヘシ

本令ハ獸醫師假免許狀ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

獸醫師會令（昭和二年四月八日勅令第七十五號）

第一條　本令ニ於テ獸醫師會ト稱スルハ道府縣獸醫師會又ハ日本獸醫師會ヲ謂フ

第二條　本令ニ依リ設立シタル獸醫師會ニ非サレハ道、府、縣若ハ日本ノ文字ヲ冠スル獸醫師會ノ名稱又ハ之ニ關スル名稱ヲ附スルコトヲ得ス

第三條　公私立ノ診察所若ハ治療所又ハ其ノ出張所ニ於テ診察又ハ治療ニ從事スル獸醫師ハ其ノ診察所、治療所又ハ出張所ノ所在地ヲ區域トスル道府縣獸醫師會ノ會員トス

前項以外ノ獸醫師ハ其ノ住所地ヲ區域トスル道府縣獸醫師會ノ會員ト爲ルコトヲ得

第四條　道府縣獸醫師會ヲ設立セントスルトキハ會員ト爲ルヘキ者五人以上設立委員ト爲リ會則案ヲ定メ設立總會ノ議決ヲ經ヘシ

設立委員設立總會ヲ招集セントスルトキハ少クトモ十四日前ニ會議ノ日時、場所及目的タル事項ヲ會員ト爲ルヘキ者ニ通知スヘシ

設立總會ニ於テハ第一回總會ニ於テ役員ノ選任アル迄獸醫師會ノ會務ヲ處理スル爲會員ト爲ルヘキ者ノ中ヨリ假役員ヲ選任シ左ニ掲クル事項ヲ議決スヘシ

一　初年度經費ノ收支豫算

二　設立費ノ分賦徵收方法

設立總會ニ於テハ會員ト爲ルヘキ者半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

會員ト爲ルヘキ者ハ豫メ書面ヲ以テ出席者ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席シタル者ト看做ス

前條第二項ノ獸醫師ニシテ設立委員ニ對テ會員タラントスル意思ヲ表示シタル者ハ第二項乃至前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ會員ト爲ルヘキ者ト看做ス

第五條　日本獸醫師會ヲ設立セントスルトキハ五以上ノ道府縣獸醫師會ノ會長設立委員ト爲リ會則案ヲ定メ道府縣獸醫師會三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ設立總會ヲ開キ其ノ議決ヲ經ヘシ

設立委員設立總會ヲ招集セントスルトキハ少クトモ三十日前ニ會議ノ日時、場所及目的タル事項ヲ會員ト爲ルヘキ者ニ通知スヘシ

設立總會ニ於テハ第一回總會ニ於テ役員ノ選任アル迄獸醫師會ノ會務ヲ處理スル爲道府縣獸醫師會ノ委員中ヨリ假役員ヲ選任シ左ニ掲クル事項ヲ議決スヘシ

一　初年度經費ノ收支豫算

二　設立費ノ分賦徵收方法

設立總會ニ於テハ道府縣獸醫師會カ其ノ會員中ヨリ選任シタル委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ノ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

前條第五項ノ規定ハ前項ノ會議及議決ニ之ノ準用ス

第四項ノ委員ノ數ハ會員總數百人以内ノ道府縣獸醫師會ニ在リテハ一人、百人ヲ超エ二百人以内ノモノニ在リテハ二人トシ二百人ヲ超エルモノニ在リテハ二百人又ハ其ノ端數ヲ加フル毎ニ一人ヲ加フ

第六條　獸醫師會ノ設立總會ニ於テ會則案ヲ議決シタルトキハ設立委員ハ其ノ認可ヲ主務官廳ニ申請スヘシ

獸醫師會ハ前項ノ認可アリタル時又ハ第八條ノ規定ニ依リ會則ノ設定アリタル時成立スルモノトス

第七條　獸醫師會成立シタルトキハ主務官廳ハ獸醫師會ノ名稱、區域、事

務所ノ所在地及成立ノ年月日ヲ告示スヘシ告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第八條　地方長官ハ道府縣獸醫師會設立ノ義務ノ生シタル時ヨリ六月以内ニ第四條第一項ノ規定ニ依ル議決ナキトキハ道府縣獸醫師會ノ會員ト爲ルヘキ者ニ設立委員ヲ命シ、會則ノ設定ヲ爲シ其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條　獸醫師會ノ會則ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一　名稱及區域
二　事業
三　事務所ノ所在地
四　役員ノ種類、數、職務權限、選任、解任及任期ニ關スル規定
五　日本獸醫師會ニ在リテハ議員、豫備議員ノ選任、解任及任期ニ關スル規定
六　代議員ヲ設クル道府縣獸醫師會ニ在リテハ代議員ノ選在、解任及任期ニ關スル規定
七　總會其ノ他會議ニ關スル規定
八　經費ノ分賦徴收ニ關スル規定
九　財産及營造物ノ管理及處分ニ關スル規定
十　庶務及會計ニ關スル規定

第十條　獸醫師會ノ會則ノ變更ハ總會ノ議決ニ依リ、主務官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條　道府縣獸醫師會ノ總會ハ其ノ會員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十二條　道府縣獸醫師會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會員中ヨリ選擧シタル代議員ヲ以テ組織スル總代會ヲ以テ總會ニ代フルコトヲ得

道府縣獸醫師會ノ總會ニ關スル規定ハ總代會ニ之ヲ準用ス

第十三條　日本獸醫師會ノ總會ハ道府縣獸醫師會カ其ノ會員中ヨリ選任シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス

前項ノ議員故障アルトキハ道府縣獸醫師會カ其ノ會員中ヨリ選任シタル豫備議員日本獸醫師會會則ノ定ムル所ニ依リ之ヲ代理スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ選任スヘキ議員ノ數ハ第五條第六項ノ委員ノ數ノ例ニ依ル但シ日本獸醫師會會則ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十四條　獸醫師會ノ總會ニ於テ左ニ掲クル事項ヲ議決スル場合ニ於テハ其ノ會員又ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

其議決ハ出席者三分ノ三以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スニトヲ得ス

一　會則變更ノ議決
二　第二十一條又ハ第二十二條第一項ノ議決
三　第二十六條第三項ノ議決
四　第二十九條ノ職決
第四號第五項ノ規定ハ前項ノ會議及議決ニ之ヲ準用ス

第十五條　獸醫師會ニハ左ノ役員ヲ置クヘシ

會長　一人
副會長　一人又ハ二人

前項ノ役員ノ外會則ノ定ムル所ニ依リ必要ナル役員ヲ置クコトヲ得

第十六條　道府縣獸醫師會ノ役員ハ其ノ會員中ヨリ、日本獸醫師會ノ役員ハ其ノ議員中ヨリ各其ノ總會ニ於テ之ヲ選任スヘシ

第十七條　會長ハ會務ヲ總理シ獸醫師會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長故障アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

會長及會長ノ職務ヲ代理スル者故障アルトキハ主務官廳ハ道府縣獸醫師會ニ在リテハ其ノ會員中ヨリ、日本獸醫師會ニ在リテハ其ノ議員中ヨリ假役員ヲ定メ臨時會務ヲ處理セシムルコトヲ得

第十八條　獸醫師會ニ於テ議決シ又ハ施行シ得ル事項左ノ如シ

一　法令又ハ會則ニ規定スル事項
二　獸醫事衛生ニ關シ行政廳ヨリ諮問セラレタル事項
三　獸醫事衛生ニ關シ行政廳ニ建議スル事項
四　獸醫事衛生ノ研究及施設ニ關スル事項
五　救療ニ關スル事項

第十九條　主務官廳ハ獸醫事衛生ニ關スル報告又ハ調査ヲ獸醫師會ニ命スルコトヲ得

第二十條　獸醫師會ノ經費及獸醫師會設立ニ關スル經費ハ其ノ會員ノ負擔トス

第二十一條　道府縣獸醫師會ハ其ノ會員中獸醫師法第二條第二號若ハ第三號ニ該當スル者アリ又ハ同法第十二條第二項ノ規定ニ依リ免許取消又ハ業務停止ノ處分ヲ必要トスル者アリト認ムルトキハ總會ノ議決ニ依リ其ノ意見ヲ地方長官ニ具申スルコトヲ得獸醫師會法第十二條第三項ノ規定ニ依リ再免許ヲ爲スヲ適當トスル者アリト認ムルトキ亦同シ

第二十二條　道府縣獸醫師會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ總會ノ議決ニ依リ左ノ各號ノ一ニ掲クル懲戒ヲ行フコトヲ得但シ特別ノ事由アルトキハ之ヲ併セ行フコトヲ妨ケス

一　譴責
二　三百圓以下ノ過怠金
三　三年以内議員、豫備議員及役員ノ選擧權及被選擧權ノ停止

代議員、議員、豫備議員、役員又ハ假役員タル者前項第三號ノ規定ニ依リ被選擧權ヲ停止セラレタルトキハ解任セラレタルモノトス

第一項第三號ノ規定ニ依リ被選擧權ヲ停止セラレタル者ハ其ノ期間内假役員ト爲ルコトヲ得ス

第二十三條　主務官廳ハ獸醫師會ノ議決若ハ選擧又ハ其ノ施行スル事項カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其ノ議決若ハ選擧ヲ取消シ又ハ其ノ施行スル事項ノ廢止、停止若ハ變更ヲ命スルコトヲ得

農林大臣ハ日本獸醫師會ノ議決又ハ其ノ施行スル事項カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其ノ解散ヲ命スルコトヲ得

主務官廳ハ獸醫師會ノ役員及ハ假役員ノ行爲カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スヲ認ムルトキハ其ノ役員又ハ假役員ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ解任セラレタル者ハ三年間獸醫師會ノ役員又ハ假役員ト爲ルコトヲ得ス

第二十四條　獸醫師法第十二條第二項ノ規程ニ依リ業務ヲ停止セラレタル者ハ其ノ停止中獸醫師會ノ總會ニ出席シ若ハ總會ニ於ケル議決權ヲ行ヒ又ハ獸醫師會ノ役員若ハ假役員タルコトヲ得ス

第二十五條　獸醫師會ハ主務官廳ノ定ムル所ニ依リ毎年度ノ豫算、決算

及會務ノ狀況ヲ主務官廳ニ報告スヘシ

第二十六條　道府縣ノ廢置分合ニ因リ道府縣獸醫師會ノ區域ニ變更ヲ生シタル爲道府縣獸醫師會存立セサル區域ヲ生シタルトキハ其ノ區域ノ道府縣獸醫師會ノ會員タルヘキ者ハ其ノ區域ニ依リ道府縣獸醫師會ヲ設立シタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ假ニ會則ヲ定メ會員中ヨリ假役員ヲ選任シ役員ノ選任アル迄會務ヲ處理セシムヘシ

第一項ノ規定ニ依リ設立シタル道府縣獸醫師會ハ會則ヲ議決シ其ノ認可ヲ設立ノ時ヨリ二月以內ニ地方長官ニ申請スヘシ

第二十七條　道府縣獸醫師會ノ區域ニ變更ヲ生シタル爲財產處分ヲ要スルトキハ關係道府縣獸醫師會ノ協議ニ依リ財產處分方法ヲ定メ農林大臣ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ

道府縣獸醫師會ノ區域ニ變更ヲ生シタル爲消滅シタル舊道府縣獸醫師會ハ前項ノ目的ノ範圍內ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第一項ノ協議ヲ爲サス又ハ協議調ハサル場合ニ於ケル財產處分方法ハ農林大臣之ヲ定ム

第二十八條　獸醫師會本令ニ依リ主務官廳ノ爲シタル處分ニ不服アルトキハ農林大臣ニ訴願スルコトヲ得訴願スル場合ニ於テハ總會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第二十三條第三項ノ規定ニ依リ解任セラレタル役員又ハ假役員其ノ解任ニ不服アルトキハ農林大臣ニ訴願スルコトヲ得

第二十九條　日本獸醫師會解散セントスルトキハ總會ノ議決ニ依リ、道府縣獸醫師會三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ事由ヲ具シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十條　日本獸醫師會ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍內ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

日本獸醫師會解散シタルトキハ會長及副會長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ會則ニ別段ノ定メアルトキ又ハ總會ニ於テ選任シタル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ農林大臣清算人ヲ選任ス清算人闕ケタルトキ亦同シ

清算人ハ日本獸醫師會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

清算方法及財產處分ニ付テハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

農林大臣必要ト認ムルトキハ清算方法及財產處分ノ變更ヲ命シ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三十一條　本令ニ於テ主務官廳トアルハ道府縣獸醫師會ニ在リテハ地方長官、日本獸醫師會ニ在リテハ農林大臣トス

附則

本令ハ獸醫師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和二年四月十日ヨリ施行）

本令施行ノ際現ニ存スル獸醫師ノ團體ニ對シテハ本令施行ノ日ヨリ六月間第二條ノ規定ヲ適用セス

產婆規則

（明治三十二年七月十九日勅令第三百四十五號）

【沿革】明治四十三年五月勅令第二一八號、大正六年七月同第七二號、昭和二年三月同第三九號改正

第一條　產婆タラントスル者ハ二十年以上ノ女子ニシテ左ノ資格ヲ有シ產婆名簿ニ登錄ヲ受クルコトヲ要ス

一　產婆試驗ニ合格シタル者

二　內務大臣ノ指定シタル學校又ハ講習所ヲ卒業シタル者

三　外國ノ學校若ハ講習所ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ產婆免許ヲ得タル者ニシテ內務大臣ノ適當ト認メタル者

第二條　產婆試驗ハ地方長官之ヲ擧行ス

第三條　一箇年以上產婆ノ學術ヲ修業シタル者ニ非サレハ產婆試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第四條　產婆名簿ハ地方長官之ヲ管理ス

產婆名簿ニ登錄ヲ受ケントスル者ハ產婆試驗合格證書、卒業證書又ハ免許證ヲ添ヘ地方長官ニ願出ツヘシ

產婆名簿ノ登錄事項ニ異動ヲ生シタルトキハ二十日以內ニ產婆名簿ノ訂正ヲ願出ツヘシ

產婆名簿ノ登錄事項ハ內務大臣之ヲ定ム

第五條　產婆其ノ住所ヲ移シタル爲管轄地方廳ヲ異ニスルトキハ直ニ前ノ管轄地方廳ニ產婆名簿取消ノ登錄ヲ願出テ後ノ管轄地方廳ニ產婆名簿ノ登錄ヲ願出ツヘシ

前項ノ登錄換ヲ爲ササル者ハ產婆ノ業務ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　產婆廢業シタルトキハ二十日以內ニ地方長官ニ產婆名簿取消ノ登錄ヲ願出ツヘシ

產婆失踪又ハ死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル屆出義務者ヨリ二十日以內ニ地方長官ニ產婆名簿取消ノ登錄ヲ願出ツヘシ

第七條　產婆ハ姙婦產婦、褥婦又ハ胎兒生兒ニ異常アリト認ムルトキハ醫師ノ診療ヲ請ハシムヘシ自ラ其ノ處置ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　產婆ハ姙婦產婦、褥婦又ハ胎兒生兒ニ對シ外科手術ヲ行ヒ產科器械ヲ用ヒ藥品ヲ投與シ又ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス但シ消毒ヲ行ヒ臍帶ヲ切リ灌腸ヲ施ス類ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　產婆ハ產婆名簿ニ登錄ヲ受ケサル者ニ姙婦產婦、褥婦又ハ胎兒生兒ノ取扱ヲ專任スルコトヲ得ス

第九條ノ二　產婆ハ自ラ檢案セスシテ死產證書又ハ死胎檢案書ヲ交付スルコトヲ得ス

第十條　產婆ニシテ墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタルトキハ地方長官ハ產婆ノ業ヲ禁止シ又ハ一年以內之ヲ停止スルコトヲ得產婆名簿登錄前ニ犯シタル罪ニ付テモ亦同シ

第十一條　試驗ニ關スル規定ニ違背シタル者アルトキハ其ノ試驗ヲ無效トスルコトヲ得若シ已ニ登錄ヲ受ケタルトキハ其ノ登錄ヲ取消スコトヲ得

第十二條　地方長官ハ產婆ノ業ヲ禁止シ又ハ停止シタル後本人ノ行狀ニ依リ其ノ禁止又ハ停止ヲ解除スルコトヲ得

第十三條　產婆試驗ヲ受ケントスル者又ハ產婆名簿ニ登錄ヲ願出ツル者ニシテ試驗又ハ登錄ノ以前墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタル者又ハ試驗ニ關スル規程ニ違資シタル者ナルトキハ試驗又ハ登錄ヲ許可セサルコトヲ得

第十四條　產婆ニシテ三箇年間其ノ業ヲ營トサルトキ又ハ瘋癲白痴癲疾ト爲リ其ノ業ヲ營ムニ堪ヘスト認ムルトキハ地方長官ハ產婆名簿ノ登錄ヲ取消スコトヲ得

第十五條　產婆名簿ノ登錄、登錄ノ取消、主要ナル登錄事項ノ訂正竝ニ

婆業ノ禁止又ハ停止及其ノ解除ハ地方長官之ヲ告示スヘシ

第十五條ノ二　産婆試驗及産婆名簿ニ關スル費用ハ樺太ニ於ケルモノヲ除クノ外北海道地方費及府縣ノ負擔トス

第十六條　左ニ掲クル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　産婆名簿ニ登錄ヲ受ケスシテ産婆ノ業務ヲ爲シタル者

二　産婆名簿ノ登錄ヲ取消サレタル後産婆ノ業務ヲ爲シタル者

三　産婆ノ業ヲ禁止又ハ停止セラレタル後産婆ノ業務ヲ爲シタル者

四　第三條ニ關シ虛僞ノ證明又ハ陳述ヲ爲シタル者

五　第七條乃至第九條ノ二ニ違背シタル者

第十七條　第四條第三項第五條第二項及第六條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

第十七條ノ二　本令ノ樺太ニ於ケル適用ニ付テハ内務大臣トアルハ内閣總理大臣、地方長官トアルハ樺太廳長官トス

附　則

第十八條　本令施行以前内務省又ハ地方廳ヨリ産婆ノ免狀又ハ鑑札ヲ受ケ現ニ其ノ業ヲ營ム者ハ本令施行後六箇月以内ニ地方長官ニ願出テ産婆名簿ニ登錄ヲ受クルコトヲ得

第十九條　地方長官ハ産婆ニ乏シキ地ニ限リ當分ノ内出願者ノ履歷ニ依リ業務ノ地域及五箇年以内ノ期定ヲ定メ産婆ノ業ヲ免許スルコトヲ得

前項ノ免許ヲ受ケタル者ハ産婆ニ準シ本令ヲ適用ス但シ産婆名簿ニ登錄スル限ニ在ラス

第二十條　本令ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

看護婦規則

（大正四年六月三十日内務省令第九號）

【沿革】　大正十一年九月省令第二三號、同十四年八月同第一四號改正

第一條　本令ニ於テ看護婦ト稱スルハ公衆ノ需ニ應シ傷病者又ハ褥婦看護ノ業務ヲ爲ス女子ヲ謂フ

第二條　看護婦タラムトスル者ハ十八年以上ニシテ左ノ資格ヲ有シ地方長官（東京府ニ於テハ警視總監以下之ニ倣フ）ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一　看護婦試驗ニ合格シタル者

二　地方長官ノ指定シタル學校又ハ講習所ヲ卒業シタル者

三　大正五年四月關東都督府令第十六號看護婦規則第二條第一號又ハ第二號ノ資格ヲ有スル者

四　大正十一年五月朝鮮總督府令第七十六號看護婦規則第一條第一項第一號乃至第三號ノ資格ヲ有スル者

五　大正十二年十二月樺太廳令第五十六號看護婦規則第二條第一號又ハ第二號ノ資格ヲ有スル者

六　大正十三年二月臺灣總督府令第十八號看護婦規則第二條第一號乃至第三號ノ資格ヲ有スル者

地方長官免許ヲ與フルトキハ看護婦免狀ヲ下付ス

第三條　精神病者、傳染性ノ疾患アル者又ハ素行不良ト認ムル者ニハ免許ヲ與ヘサルモノトス

第四條　看護婦試驗ハ地方長官之ヲ施行ス

試驗科目ハ左ノ如シ

一　人體ノ構造及主要器官ノ機能

二　看護方法

三　衛生及傳染病大意

四　消毒方法

五　繃帶術及治療器械取扱法大意

六　救急處置

第五條　一年以上看護ノ學術ヲ修業シタル者ニアラサレハ看護婦試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第六條　看護婦ハ主治醫師ノ指示アリタル場合ノ外被看護者ニ對シ治療器械ヲ使用シ又ハ藥品ヲ授與シ若ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス但臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　看護婦其ノ住所ヲ他ノ道府縣ニ移シタルトキハ十日内ニ免狀ノ寫ヲ添ヘ後ノ住所地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ後ノ住所地ノ地方長官ハ其ノ旨ヲ前ノ住所地ノ地方長官ニ通知スヘシ

第八條　看護婦免狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ二十日内ニ住所地ノ地方長官ニ再下付ヲ願出ツヘシ但毀損ノ場合ニハ毀損シタル免狀ヲ添付スヘシ

族稱氏名ニ變更ヲ生シ又ハ生年月日ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ事由ヲ記シ二十日内ニ免狀ヲ添ヘ地方長官ニ書換ヲ願出ツヘシ

亡失シタル免狀ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第九條　看護婦廢業シタルトキハ二十日内ニ免狀ヲ住所地ノ地方長官ニ返納スヘシ

看護婦三年以上其ノ業務ヲ營マサルトキハ廢業シタルモノト看做ス

看護婦死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ戸籍法ニ依ル届出義務者ヨリ十日内ニ免狀ヲ返納スヘシ

第一項及第三項ノ場合ニ於テ免狀ヲ返納スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ届出ツヘシ

第十條　看護婦第三條ニ該當シ又ハ業務ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ住所地ノ地方長官ハ期日ヲ定メ其ノ業務ヲ停止シ又ハ免許ヲ取消シ免狀ヲ返納セシムルコトアルヘシ

本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖モ疾病治癒シ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ與フルコトヲ得

第十一條　免許ヲ受ケスシテ看護ノ業務ヲ爲シ若ハ停止中其ノ業務ヲ爲シタル者又ハ第六條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　第七條第一項第八條又ハ第九條ノ規定ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ大正四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前地方長官ニ於テ與ヘタル免狀、免許狀、免許證ハ本令ニ依リ下付シタル看護婦免狀ト看做ス

本令施行ノ際現ニ地方廳ノ看護婦名簿ニ登錄ヲ受ケ居ル者ハ本令ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做シ看護婦免狀ヲ下付ス

本令發布ノ際現ニ看護ノ業務ヲ爲ス者ニシテ本令施行後三月内ニ願出ツルトキハ地方長官ハ履歷ヲ審査シ試驗ヲ要セス免許ヲ與フルコトヲ得

前項ノ免許ハ本令第二條ニ依ル免許ト同一ノ效力ヲ有スルモノトス

地方長官ハ第二條ノ資格ヲ有セサル者ニ對シ當分ノ内其ノ履歷ヲ審査シ看護ノ業務ヲ免許シ准看護婦免狀ヲ下付スルコトヲ得

准看護婦及男子タル看護人ニ對シテハ本令ノ規定ヲ準用ス

第三節　藥劑師

藥劑師法（大正十四年四月十三日法律第四十四號）

第一條　藥劑師トハ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ處方箋ニ依リ調劑ヲ爲ス者ヲ謂フ

藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得

第二條　藥劑師タラムトスル者ハ內務大臣ノ免許ヲ受ケ藥劑師名簿ニ登錄ヲ受クヘシ

前項ノ免許ヲ受クルニハ左ノ各號ノ一ニ該當スル資格ヲ有スルコトヲ要ス

一　大學令ニ依ル大學ニ於テ藥學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者、官立公立ノ藥學專門學校、醫科大學附屬藥學專門部若ハ醫學專門學校藥學科ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認メ指定シタル學校ヲ卒業シタル者

二　藥劑師試驗ニ合格シタル者

三　外國ノ藥學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ藥劑師ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ令令ノ規定ニ該當スルモノ

第一項ノ登錄及前項第二號ノ藥劑師試驗ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　內務大臣ハ在ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ藥劑師ノ免許ヲ爲スコトヲ得ス

一　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ期ニ處セラレタル者

二　未成年者、禁治產者又ハ準禁治產者

三　精神病者、瘖啞者又ハ盲者

第四條　內務大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ藥劑師ノ免許ヲ爲ササルコトヲ得

一　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者

二　藥事ニ關シ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ不正ノ行爲アリタル者

第五條　藥劑師ニ非サレハ販賣又ハ授與ノ目的ヲ以テ調劑ヲ爲スコトヲ得ス

藥劑師販賣又ハ授與ノ目的ヲ以テ調劑ヲ爲ス場合ニ於テハ藥局ニ於テ之ヲ行フヘシ

第六條　藥劑師ニ非サレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

藥局ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　藥劑師ニ非サレハ藥局ヲ管理スルコトヲ得ス藥劑師ト雖二以上ノ藥局ヲ管理スルコトヲ得ス

第八條　藥劑師ハ調劑ノ需アル場合ニ於テハ晝夜ヲ問ハス正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條　藥劑師ハ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ依リ調劑スヘキモノトス但シ處方箋中疑ハシキ廉アルトキハ其ノ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ニ質シ證明ヲ得ルニ非サレハ調劑ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　藥劑師ハ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ處方箋ニ記載セラレタル藥品ニ付之ヲ省略シ又ハ他ノ藥品ヲ以テ之ニ代ヘ調劑ヲ爲スコトヲ得ス

但シ藥品ニシテ缺乏セルモノアル場合ニ於テ其ノ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　藥劑師毒藥又ハ劇藥ヲ配伍シタル調劑ヲ爲シタルトキハ處方箋ニ捺印シ其ノ日附ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ但シ處方箋ニ指定スル使用期間ニ對スル調劑ノ全部ヲ了ラサルトサハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ處方箋ニ調劑ノ年月日及調劑量ヲ記入シ記名捺印スヘシ

第十二條　藥局開設者ハ藥局ニ調劑錄ヲ備フヘシ

藥劑師調劑ヲ爲シタルトキハ直ニ調劑錄ニ調劑ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

調劑錄ハ三年間之ヲ保存スヘシ

第十三條　藥劑師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道府縣藥劑師會ヲ設立スヘシ

道府縣藥劑師會ハ日本藥劑師會ヲ設立スルコトヲ得

道府縣藥劑師會及日本藥劑師會ハ法人トス勅令ノ定ムル所ニ依リ藥事衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

道府縣藥劑師會ハ道府縣ヲ日本藥劑師會ハ內地ヲ區域トス

第十四條　道府縣藥劑師會及日本藥劑師會ハ勅令ノ定ウル所ニ依リ其ノ會員ヨリ徵收スヘキ收入ニ關シ民事訴訟ヲ提起スシコトヲ得

第十五條　本法ニ規定スルモノノ外道府縣藥劑師會及日本藥劑師會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　藥劑師第三條各號ノ一ニ該當スルトキハ內務大臣ハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

藥劑師第四條各號ノ一ニ該當スルトキハ內務大臣ハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ其ノ業務ヲ停止スルコトヲ得

前二項ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第三條第二號又ハ第三號ノ原因止ミタルトキ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ爲スコトヲ得

內務大臣第二項ノ處分ヲ行フ場合及改悛ノ情顯著ナル者ニ對シ前項ノ再免許ヲ爲ス場合ニ於テハ中央衛生會ノ案議ヲ經ルコトヲ要ス

第十七條　第五條第一項、第六條第一項、第七條若ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ業務停止中ノ藥劑師ニシテ其ノ業務ヲ爲シタルモノハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十八條　第五條第二項、第八條若ハ第十條乃至第十二條ノ規定ニ違反シタル者又ハ誤リテ調劑ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十五年三月勅令第一五號ヲ以テ同年同月二十日ヨリ施行）

藥品營業並藥品取扱規則中第一條乃至第十五條、第十六條乃至第十九條、第四十一條ノ五、第四十三條第一項、第四十四條、第四十六條、第四十六條ノ二第一項及第三項並之ニ伴フ罰則ノ規定ハ之ヲ廢止ス

醫師、齒科醫師又ハ獸醫ハ其ノ診療ニ用フヘキ藥品ニ限リ命令ノ定ムル所ニ依リ第五條第一項ノ規定ニ拘ラス調劑ヲ爲スコトヲ得

本法施行ノ際現ニ藥劑師タル者ハ本法ニ依リ藥劑師ノ免許ヲ受ケ藥劑師名簿ニ登錄ヲ受ケタル者ト看做ス

本法ノ適用ニ付テハ帝國大學豫科大學藥學科ヲ卒業シタル者ハ大學令ニ依ル大學ニ於テ藥學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者、高等中學校醫學部藥學科又ハ高等學校醫學部藥學科ヲ卒業シタル者ハ官立藥學專門學校ヲ卒業シタル者ト看做ス

本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ、同法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

藥劑師法施行規則

（大正十五年三月十八日　內務省令第六號）

第一條　藥劑師ノ免許及登錄ヲ受ケムトセル者ハ藥劑師法第二條第二項ノ資格、資格ヲ取得シタル年月及住所氏名ヲ記載シタル申請書ヲ戶籍抄本ヲ添ヘ（住所地ノ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ倣フ）ヲ經由シ之ヲ內務大臣ニ提出スヘシ

內務大臣免許ヲ爲シ藥劑師名簿ニ登錄シタルトキハ藥劑師免許證ヲ下付ス

第二條　藥劑師名簿ニ登錄スヘキ事項左ノ如シ

一　登錄番號及登錄年月日

二　族籍（外國人ナルトキハ其ノ國籍）、氏名、生年月日及女子ナルトキハ其ノ旨

三　藥劑師法第二條第二項ノ資格及資格ヲ取得シタル年月

四　業務ノ停止其ノ事由期間及年月日

五　免許證ノ再下付其ノ事由及年月日

六　登錄抹消ノ事由及年月日

第三條　前條第二號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ免許證及戶籍抄本ヲ添ヘ三十日以內ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ登錄ノ變更ヲ申請スヘシ

前條第三號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ免許證ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ提出スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ免許證ヲ書換ヘ下付ス

第四條　免許證ヲ毀損又ハ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ毀損ノ場合ニ於テハ其ノ免許證ヲ添ヘ三十日以內ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ再下付ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ニ依リ免許證ノ再下付ヲ由請スル者ハ手數料金一圓ヲ納付スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ免許證ノ再下付ヲ申請シタル後亡失シタル免許證ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ其ノ地ノ地方長官ニ提出スヘシ

第五條　第一條又ハ前二條ノ申請ヲ爲ス者ハ登錄稅又ハ手數料ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用スヘシ

既ニ納付シタル登錄稅又ハ手數料ハ之ヲ還付セス

第六條　藥劑師登錄ノ抹消ヲ受ケムトスルトキハ免許證ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ申請スヘシ

藥劑師死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ戶籍法ニ依ル死亡又ハ失踪ノ屆出義務者ニ於テ三十日以內ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　藥劑師其ノ住所ヲ變更シタルトキハ十日以內ニ後ノ住所地ノ地方長官ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出ヲ受ケタル地方長官前ノ住所地ノ地方長官ト異ナル場合ニ於テハ前ノ住所地ノ地方長官ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第八條　藥劑師法第六條第一項但書ノ規定ニ依リ藥局ヲ開設スルコトヲ得ル者左ノ如シ

一　公共團體

二　地方長官ニ於テ特ニ必要ト認許メ可シタル者

第九條　藥局ヲ開設シタルトキハ藥局ノ所在地及名稱並藥局ヲ自ラ管理セサル場合ニ於テハ管理者タル藥劑師ノ氏名ヲ具シ十日以內ニ藥局所在地ノ地方長官ニ屆出ツヘシ藥局ヲ廢止シ又ハ藥局ノ名稱若ハ管理者ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十條　藥局ハ其ノ採光換氣ヲ十分ナラシメ且淸潔ヲ保ツヘシ

第十一條　藥局ニハ冷暗所ヲ設クヘシ

第十二條　藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ

第十三條　藥局ニハ感量十ミリグラムノ天秤及感量五百ミシグラムノ上皿天秤其ノ他調劑ニ必要ナル器具ヲ備フヘシ

第十四條　地方長官必要アリト認ムルトキハ第十條、第十一條及前條ニ規定スル藥局ノ設備ニ關シ其ノ新設、變更ヲ命シ若ハ其ノ使用ヲ停止シ又ハ藥局ノ淸潔保持ニ付必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第十五條　藥劑師法第十二條第二項ノ規定ニ依リ調劑錄ニ記載スヘキ事項左ノ如シ

一　處方箋ニ記載セル事項

二　調劑ノ年月日

三　調劑者ノ氏名

四　處方箋ニ指定スル使用期間ニ對スル調劑ノ全部ヲ了ラサルトキハ調劑量

五　藥劑師法第九條但書ノ規定ニ依リ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ證明ヲ得タルトキハ其ノ旨

六　藥劑師法第十條但書ノ規定ニ依リ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ同意ヲ得テ調劑ヲ爲シタルトキハ其ノ旨竝藥品名及分量

第十六條　藥劑師販賣又ハ授與ノ目的ヲ以テ調劑ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ藥劑ノ容器又ハ被包ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　處方箋ニ記載セル患者ノ氏名竝用法及用量

二　藥局ノ所在地及名稱竝調劑者ノ氏名

三　調劑ノ年月日

第十七條　地方長官藥劑師法第十六條第一項乃至第三項ノ規定ニ依ル處分ヲ必要ト認ムルトキハ內務大臣ニ具申スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ豫メ道府縣藥劑師會ノ意見ヲ徵スヘシ但シ藥劑師法第十六條第一項ノ規定ニ依ル處分ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　藥劑師法第十六條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ免許取消ノ處分ヲ受ケタル者ハ五日以內ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ內務大臣ニ返納スヘシ

第十九條　藥劑師法第十六條第二項ノ規定ニ依リ業務停止ノ處分ヲ受ケタル者ハ五日以內ニ免許證ヲ住所地ノ地方長官ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ免許證ノ裏面ニ處分ノ要旨ヲ記載シ期間滿了ノ後之ヲ還付スヘシ

第二十條　左ニ揭クル場合ニ於テハ族籍、氏名、事由其ノ他必要ト認ムル事項ヲ官報ニ公告ス

一　藥劑師名簿ニ登錄シ又ハ登錄ヲ抹消シタルトキ

二　免許證ヲ再下付シタルトキ

三　業務停止ノ處分ヲ爲シタルトキ

第二十一條　第十二條、第十六條、第十八條若ハ第十九條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ第十四條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタルモノハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十二條　第三條第一項、第四條第一項、第三項、第六條第二項、第七條第一項又ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ藥劑師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

藥劑師法附則第三項ノ規定ニ依リ醫師、齒科醫師又ハ獸醫ニ於テ調劑ヲ爲ス場合ニ關シテハ第十條、第十一條、第十三條及第十四條並其ノ罰則ノ規定ヲ準用ス

地方長官ハ監視員ヲシテ前項ノ調劑ヲ爲ス場所ヲ巡視セシムルコトヲ得ス

藥劑師會令（大正十五年三月十七日勅令第十七號）

第一條　本令ニ於テ藥劑師會ト稱スルハ道府縣藥劑師會又ハ日本藥劑師會ヲ謂フ

第二條　本令ニ依リ設立シタル藥劑師會ニ非サレハ道、府、縣又ハ日本ノ文字ヲ冠スル藥劑商會ノ名稱又ハ之ニ類スル名稱ヲ附スルコトヲ得ス

第三條　藥劑師ハ道府縣藥劑師會ヲ設立スヘシ

第四條　藥局ヲ開設シ若ハ管理シ又ハ調劑ニ從事スル藥劑師ハ其ノ藥局又ハ藥劑師法附則第三項ノ規定ニ依ル調劑ノ場所ノ所在地、藥品營業又ハ賣藥營業ニ從事スル藥劑師ハ其ノ營業所ノ所在地ヲ區域トスル道府縣藥劑師會ノ會員トス

前項以外ノ藥劑師ハ其ノ住所地ヲ區域トスル道府縣藥劑師會ノ會員ト爲ルコトヲ得

第五條　道府縣藥劑師會ハ日本藥劑師會ノ會員トス

第六條　道府縣藥劑師會ノ設立ハ會員ト爲ルヘキ者五人以上設立委員ト爲リ會則案ヲ定メ設立總會ノ議決ヲ經ヘシ

設立總會ノ招集及議事整理ハ設立委員之ヲ行フ

設立總會ニ於テハ道府縣藥劑師會ノ會員ト爲ルヘキ者半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ設立總會ニ出席スルコト能ハサル者ハ豫メ書面ヲ以テ出席者ニ委任シテ表決權ヲ行フコトヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ之ヲ設立總會ニ出席シタル者ト看做ス

第七條　日本藥劑師會ノ設立ハ五以上ノ道府縣藥劑師會ノ會長設立委員ト爲リ會則案ヲ定メ道府縣藥劑師會三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ設立總會ヲ開キ其ノ議決ヲ經ヘシ

設立總會ノ招集及議事整理ハ設立委員之ヲ行フ

設立總會ニ於テハ道府縣藥劑師會カ其ノ會員中ヨリ選擧シタル委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以タスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

前條第三項但書ノ規定ハ前項ノ會議及議決ニ之ヲ準用ス

第三項ノ委員ノ數ハ會員總數二百人以内ノ道府縣藥劑師會ニ在リテハ一人、二百人ヲ超エ五百人以内ノモノニ在リテハ二人トシ五百人ヲ超ユルモノニ在リテハ五百人又ハ其ノ端數ヲ加フル毎ニ一人ヲ加フ

第八條　藥劑師會ノ設立總會ニ於テ藥劑師會設立ノ議決ヲ爲シタルトキハ設立委員ハ會則案ヲ添ヘ速ニ其ノ認可ヲ主務官廳ニ申請スヘシ

藥劑師會ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第十條ノ規定ニ依リ會則ノ設定アリタル時成立スルモノトス

第九條　藥劑師會成立シタルトキハ主務官廳ハ藥劑師會ノ名稱、區域、事務所ノ所在地及成立ノ年月日ヲ告示スヘシ其ノ告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第十條　地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ）ハ道府縣藥劑師會設立ノ義務ノ生シタル時ヨリ六月以内ニ第六條ノ規定ニ依ル道府縣藥劑師會設立ノ議決ナキトキハ道府縣藥劑師會ノ會員ト爲ルヘキ者ニ設立委員ヲ命シ、會則ノ設定ヲ爲シ其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條　藥劑師會ノ會則ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　名稱及區域

二　事務所ノ所在地

三　役員ノ種類、數、職務權限、選任、解任及任期ニ關スル規定

四　日本藥劑師會ニ在リテハ議員、豫備議員ノ選任、解任及任期ニ關スル規定

五　代議員ヲ設クル道府縣藥劑師會ニ在リテハ代議員ノ選任、解任及任期ニ關スル規定

六　總會其ノ他會議ニ關スル規定

七　經費ノ分賦徵收ニ關スル規定

八　財産及營造物ノ管理及處分ニ關スル規定

九　庶務及會計ニ關スル規定

第十二條　藥劑師會ノ會則ノ變更ハ總會ノ議決ニ依リ、主務官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條　道府縣藥劑師會ノ總會ハ其ノ道府縣藥劑師會ノ會員ヲ以テ之ヲ組織スヘシ但シ會則ノ定ムル所ニ依リ會員中ヨリ選擧シタル代議員ヲ以テ之ヲ組織スルコトヲ得

第十四條　日本藥劑師會ノ總會ハ道府縣藥劑師會カ其ノ會員中ヨリ選擧シタル日本藥劑師會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

前項ノ議員故障アルトキハ道府縣藥劑師會カ其ノ會員中ヨリ選擧シタル日本藥劑師會豫備議員日本藥劑師會會則ノ定ムル所ニ依リ之ヲ代理スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ選擧スヘキ議員ノ數ハ第七條第五項ノ委員ノ數ノ例ニ依ル但シ日本藥劑師會會則ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十五條　藥劑師會ノ總會ニ於テ左ニ揭クル事項ヲ議決スル場合ニ於テハ其ノ會員、代議員又ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス其ノ議決ハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一　會則變更ノ議決

二　第二十二條又ハ第二十三條第一項ノ議決

三　第二十八條第三項ノ議決

四　第三十一條ノ議決

第六條第三項但書ノ規定ハ前項ノ會議及議決ニ之ヲ用フ

第十六條　藥劑師會ニハ左ノ役員ヲ置クヘシ

會長　一人

副會長　一人又ハ二人

前項ノ外會則ノ定ムル所ニ依リ必要ナル役員ヲ置クコトヲ得

第十七條　道府縣藥劑師會ノ役員ハ其ノ會員中ヨリ、日本藥劑師會ノ役員ハ道府縣藥劑師會ノ會員中ヨリ各其ノ總會ニ於テ之ヲ選擧スヘシ

第一回總會ニ於テ前項ノ役員ノ選任アル迄藥劑師會ハ會則ヲ以テ假役員ヲ定メ會務ヲ處理セシムルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ役員ヲ選擧シタルトキハ速ニ其ノ氏名ヲ主務官廳ニ届出ツヘシ

第十八條　會長ハ會務ヲ總理シ藥劑師會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長故障アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

會長及會長ノ職務ヲ代理スル者故障アルトキハ主務官廳ハ道府郡藥劑師會ニ在リテハ其ノ會員中ヨリ、日本藥劑師會ニ在リテハ道府縣藥劑師會ノ會員中ヨリ假役員ヲ定メ臨時會務ヲ處理セシムルコトヲ得

第十九條　藥劑師會ニ於テ議決シ又ハ施行シ得ル事項左ノ如シ

一　法令又ハ會則ニ現定スル事項

二　藥事衛生ニ關シ行政廳ヨリ諮問セラレタル事項

三　藥事衛生ニ關シ行政廳ニ建議スル事項

四　藥事衛生ノ研究及施設ニ關スル事項

五　施藥ニ關スル事項

第二十條　主務官廳ハ藥事衛生ニ關スル報告又ハ調査ヲ藥劑師會ニ命スルコトヲ得

第二十一條　藥劑師會ノ經費及藥劑師會設立ニ關スル經費ハ其ノ會員ノ負擔トス

第二十二條　道府縣藥劑師會ハ其ノ會員中藥劑師法第三條第二號若ハ第三號ニ該當スル者アリ又ハ同法第十六條第二項ノ第定ニ依リ免許取消若ハ業務停止ノ處分ヲ必要トスル者アリト認ムルトキハ總會ノ議決ニ依リ其ノ意見ヲ地方長官ニ具申スルコトヲ得

藥劑師法第十六條第三項ノ項定ニ依リ再免許ヲ爲スヲ適當トスル者アリト認ムルトキ亦同シ

第二十三條　道府縣藥劑師會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ總會ノ議決ニ依リ左ノ名號ノ一ニ揭クル懲戒ヲ行フコトヲ得但シ特別ノ事由アルトキハ之ヲ併セ行フコトヲ妨ケス

一　譴責

二　五百圓以下ノ過怠金

三　三年以内議員、豫備議員及役員ノ選擧權及被選擧權並代議員ノ被選擧權ノ停止

代議員、議員、豫備議員又ハ役員タル者前項第三號ノ規定ニ依リ被選擧權ヲ停止セラレタルトキハ解任セラレタルモノトス

第二十四條　藥劑師會ノ會則及議決ハ其ノ會員ヲ覊束ス

第二十五條　主務官廳ハ藥劑師會ノ議決若ハ選擧又ハ其ノ施行スル事項カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其ノ議決若ハ選擧ヲ取消シ又ハ其ノ施行スル事項ノ廢止、停止若ハ變更ヲ命スルコトヲ得

内務大臣ハ日本藥劑師會ノ議決又ハ其ノ施行スル事項カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ理由ヲ示シテ其解散ヲ命スルコトヲ得

主務官廳ハ藥劑師會ノ役員又ハ假役員ノ行爲カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ役員又ハ假役員ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ解任セラレタル者ハ三年間藥劑師會ノ會員ト爲ルコトヲ得ス

第二十六條　藥劑師法第十六條第二項ノ規定ニ依リ業務ヲ停止セラレタル者ハ其ノ停止中藥劑師會ノ總會ニ出席シ若ハ總會ニ於ケル表決權ヲ行ヒ又ハ藥劑師會ノ役員タルコトヲ得ス

第二十七條　藥劑師會ハ主務官廳ノ定ムル所ニ依リ毎年度ノ豫算、決算及會務ノ狀況ヲ主務官廳ニ届出ツヘシ

第二十八條　道府縣ノ廢置分合ニ依リ道府縣藥劑師會ノ區域ニ變更ヲ生シタル爲道府縣藥劑師會存立セサル區域ヲ生シタルトキハ其ノ區域ノ道府縣藥劑師會ノ會員タルヘキ者ハ其ノ區域ニ依リ道府縣藥劑師會ヲ設立シタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ假ニ會則ヲ定メ假役員ヲ選任シテ役員ノ選任アル迄會務ヲ處理セシムヘシ

第一項ノ規定ニ依リ設立シタル道府縣藥劑師會ハ會則ヲ議決シ其ノ認可ヲ設立ノ時ヨリ二月以内ニ地方長官ニ申請スヘシ

第二十九條　道府縣藥劑師會ノ區域ニ變更ヲ生シタル爲財産處分ヲ要スルトキハ關係道府縣藥劑師會ノ協議ニ依リ財産處分方決ヲ定メ内務大臣ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ

道府縣藥劑師會ノ區域ニ變更ヲ生シタル爲消滅シタル舊道府縣藥劑師會ハ前項ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第一項ノ協議ヲ爲サス又ハ協議調ハサル場合ニ於ケル財産處分方法ハ内務大臣之ヲ定ム

第三十條　藥劑師會ハ本令ニ依リ主務官廳ノ爲シタル處分ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得訴願スル場合ニ於テハ總會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第二十五條第三項ノ規定ニ依リ解任セラレタル役員又ハ假役員其ノ解任ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第三十一條　日本藥劑師會解散セムトスルトキハ總會ノ議決ニ依リ、道府縣藥劑師會三分ノ二以上ノ同意ヲ得事由ヲ具シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十二條　日本藥劑師會ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

日本藥劑師會解散シタルトキハ會長及副會長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ會則ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ選任シタル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ内務大臣清算人ヲ選任ス清算人闕ケタルトキ亦同シ

清算人ハ日本藥劑師會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

清算方法及財産處分ニ付テハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

内務大臣必要ト認ムルトキハ清算方法及財産處分ノ變更ヲ命シ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三十三條　本令ニ於テ主務官廳トアルハ道府縣藥劑師會ニ在リテハ地方長官、日本藥劑師會ニ在リテハ内務大臣トス

附　則

本令ハ藥劑師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ限現ニ存スル藥劑師會ニ對シテハ本令施行ノ日ヨリ六月間第二條ノ規定ヲ適用セス

第四節　藥品

賣藥法（大正三年三月三十一日法律第十四號）

【沿革】大正五年六月法律第四一號改正

第一條　本法ニ於テ賣藥營業者ト稱スルハ賣藥ヲ調製又ハ輸入若ハ移入シテ販賣スル者ヲ謂フ

原料品ニ加工セスシテ賣藥ト爲スモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ賣藥ノ調製ト看做ス

第二條　賣藥營業者賣藥ヲ發賣セムトスルトキハ方名、原料品名及其ノ分量、調製ノ方法、用法、用量竝效能ヲ記載シ主タル營業所所在地ノ地方長官ノ免許ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ日本藥局方ニ記載セサル原料品ヲ使用セムトスル者ハ其ノ見本品ヲ提出スヘシ

第三條　賣藥營業者二箇所以上ノ營業所ヲ設ケタルトキハ營業所毎ニ所在地ノ地方長官ニ屆出ツヘシ

第四條　賣藥ニハ毒藥、劇藥及其ノ性狀又ハ配伍ノ結果ニ依リ危害ヲ生スルノ虞アル藥品ヲ使用スルコトヲ得ス但シ毒藥、劇藥ハ其ノ用法、用量ニ依リ行政官廳ニ於テ危害ヲ生スルノ虞ナシト認メタルモノハ此限リニアラス

第五條　賣藥ノ原料品ハ日本藥局方ニ記載スルモノハ其ノ所定ノ性狀品質、之ニ記載セサルモノハ第二條第二項ノ見本品ト同樣ノ性狀品質ヲ具備スルコトヲ要ス

第六條　藥劑師、藥劑師ヲ使用スル者又ハ藥師ニ非サレハ賣藥ヲ調製シテ販賣スルコトヲ得ス但シ獸醫ニシテ家畜用ノ賣藥ヲ調製販賣スルハ此ノ限リニ在ラス

第七條　賣藥免許ハ前條ニ揭クル者ニ限リ之ヲ讓受ケ又ハ相續スルコトヲ得

第八條　賣藥ノ效能ニ關シテハ文書、言語其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス免許ヲ得タル事項ヲ說明スルノ外之ヲ誇張シテ告示スルコトヲ得ス

第九條　賣藥ニ關スル廣告、賣藥ノ容器若ハ被包又ハ賣藥ニ添附シ若ハ添附セスシテ頒布スル文書ニハ左記ノ事項ヲ記載スルコトヲ得ス

一　猥ニ渉ル記事又ハ圖畫

二　避姙又ハ墮胎ヲ暗示スル記事

三　虛僞誇大ノ證明若ハ醫師其ノ他ノ者カ效能ヲ保證シタルモノト世人ヲシテ誤解セシムル虞アル記事

四　醫治ノ無效ヲ暗示シ或ハ暗ニ醫師ヲ誹謗スルカ如キ記事

第十條　地方長官ハ衛生上危害ヲ生スルノ虞アリト認ムルトキハ賣藥營業者ニ對シ其ノ免許ヲ得タル事項ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十一條　賣藥營業者ニシテ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル處分ニ違反シタル者ニ付地方長官ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十二條　行政官廳ハ當該官吏ヲシテ賣藥ヲ調製シ若ハ販賣スル場所ニ臨檢セシメ又ハ賣藥ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條　行政官廳ハ試驗ノ用ニ供スル爲必要ナル分量ニ限リ當該官吏ヲシテ賣藥又ハ其ノ原料品ヲ無償ニテ收去セシムルコトヲ得

第十四條　第二條第一項若ハ第五條ノ規定又ハ第十條ノ處分ニ違反スル賣藥ハ地方長官其ノ所有者ヲシテ之ヲ廢棄セシメ又ハ直接ニ廢棄シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得但シ所有者又ハ所持者ニ於テ衛生上危害ヲ生スル虞ナキ方法ニ依リ處置セムコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第十五條　第二條第一項、第五條若ハ第六條ノ規定又ハ第十條ノ處分ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ當該官吏ノ臨檢若ハ檢査ヲ拒ミタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　第三條又ハ第二十條第二項ノ規定ニ違反シタルモノハ科料ニ處ス

第十八條　賣藥營業者又ハ賣藥請賣營業者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此限ニ在ラス

賣藥營業者又ハ賣藥請賣營業者ハ其ノ代理人戶主家族同居者雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第十九條　用治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十條　輸出又ハ移出スル賣藥ニ付テハ第二條乃至第十一條、第十四條及第十五條ノ規定ヲ適用セス其取締上必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ賣藥ヲ調製セムトスル者ハ營業所毎ニ之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

附　則

第二十一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正三年八月勅令第一六一號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

第二十二條　賣藥規則ハ之ヲ廢止ス

他ノ法令中賣藥規則トアルハ本法ヲ指シタルモノト看做ス

第二十三條　從前ノ規定ニ依リ受ケタル賣藥免許ハ之ヲ本法ニ依リ受ケタル賣藥免許ト看做ス

第二十四條　本法公布ノ際現ニ賣藥營業者タル者ハ第六條又ハ第七條ノ規定ニ拘ラス賣藥ヲ調製シテ販賣シ又ハ賣藥免許ヲ讓受ケ若ハ相續スルコトヲ得但シ賣藥ヲ輸入若ハ移入シテ販賣スル者又ハ法人ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　本法公布前免許ヲ受ケタル賣藥ニシテ毒藥、劇藥又ハ藥品營業並藥品取扱規則ノ指定藥品ヲ含有セサルモノニ付テハ第六條及第七條ノ規定ヲ適用セス

第二十六條　第三條及第二十條ノ屆出ハ賣藥稅法ノ適用ニ付テハ之ヲ免許ト看做ス

賣藥法施行規則（大正三年八月十三日内務省令第十六號）

第一條　賣藥發賣免許ノ申請書ニハ賣藥法第二條第一項ニ揭ケタル事項ノ外氏名、生年月又ハ法人ノ名稱、住所及營業所（調製又ハ販賣ノ場所ヲ云フ）ヲ記載シ賣藥法第六條又ハ第二十四條規定ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘ

第二條　地方長官賣藥法第二條ノ規定ニ依リ賣藥發賣免許ヲ與フルトキハ別雛形ノ賣藥免許證ヲ下付ス

第三條　免許事項變更ノ申請書ニハ變更セムトスル事項、方名、氏名又ハ法人ノ名稱及住所ヲ記スヘシ但シ方名ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ免許證ヲ添附スヘシ

方名變更ノ免許ヲ與フルトキハ免許證ヲ書換下付ス

第四條　前條第二項規定ノ場合ヲ除クノ外賣藥免許證ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ三十日內ニ主タル營業所所在地ノ地方長官ニ其ノ書換ヲ申請スヘシ但シ賣藥法第二十五條規定ノ賣藥ヲ除クノ外賣藥免許ヲ讓受ケ又ハ相續シタル場合ニ於テハ賣藥法第六條又ハ第二十四條規定ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第五條　賣藥ニ關シ左ノ手數料ヲ徵收ス

一　發賣免許手數料　一方ニ付金一圓
二　變更免許手數料　一方ニ付金七十錢
三　免許證再下付又ハ書換手數料　一方ニ付金五十錢

第三條第二項規定ノ書換ニ付テハ前項第二號規定ノ手數料ヲ徵收シ前項第三號規定ノ書換手數料ハ之ヲ徵收セス

第六條　地方長官ハ賣藥法第二條第二項ノ規定ニ依リ賣藥營業者ノ提出シタル見本品ノ性狀品質ヲ記シ保存スヘシ

第七條　賣藥法第三條規定ノ届出ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日內ニ之ヲ爲スヘシ

賣藥發賣免許申請書ニ記載セル營業所ニシテ主タル營業所所在地ノ道府縣ト同一區域內ニ在ルモノニ付テハ其ノ申請書ニ於ケル營業所ノ記載ヲ以テ賣藥法第三條規定ノ届出ト看做ス

賣藥營業者其營業所ヲ變更シ又ハ廢止シタルトキハ十日內ニ營業所所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第八條　賣藥營業者二箇所以上ノ調製所ヲ設ケタルトキハ藥劑師若ハ醫師タル營業者又ハ賣藥法第二十四條規定ノ營業者カ自ラ管理スル一箇所ヲ除クノ外調製所毎ニ藥劑師ヲ置キ管理ヲ爲サシムヘシ但シ調製所所在地地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキ又ハ賣藥法第二十五條規定ノ賣藥ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

賣藥營業者前項規定ノ藥劑師ヲ置キタルトキハ其ノ氏名ヲ營業所所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第九條　賣藥營業者ハ賣藥法第六條又ハ本令第八條第一項ノ規定ニ依リ使用スル藥劑師ニ異動ヲ生シタルトキハ二十日內ニ營業所所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第十條　賣藥法第六條又ハ本令第八條第一項ノ規定ニ依リ使用スル藥劑師ハ之ヲ使用スル賣藥營業者ノ營業所以外ニ於テ藥劑師ノ資格ニ伴フ業務ニ從事セサル者タルコトヲ要ス但シ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　賣藥免許證ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ三十日內ニ主タル營業所所在地ノ地方長官ニ再下付ヲ申請スヘシ但シ毀損ノ場合ニハ毀損シタル免許證ヲ添附スヘシ

亡失シタル免許證ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ主タル營業所所在地ノ地方長官ニ提出スヘシ

第十二條　賣藥營業者廢業シタルトキハ三十日內ニ免許證ヲ主タル營業所所在地ノ地方長官ニ返納スヘシ

賣藥營業者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ營業ヲ承繼スル者ナキトキハ戶籍法ニ依ル死亡又ハ失踪ノ届出義務者ヨリ前項ノ規定ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條　賣藥ヲ請賣セムトスル者ハ營業所毎ニ地方行政廳ニ届出ツヘシ

第十四條　賣藥請賣營業者廢業シ又ハ氏名若ハ法人ノ名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキハ地方行政廳ニ届出ツヘシ

第十五條　賣藥營業者並賣藥請賣營業者自ラ行商シ又ハ賣子ヲシテ行商セシメムトスルトキハ地方行政廳ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ廢止シタルトキ亦同シ

第十六條　賣藥營業者免許ヲ取消サレタルトキハ請賣營業者亦其ノ賣藥ヲ販賣スルコトヲ得ス

第十七條　賣藥ノ發賣ヲ免許シタルトキ又ハ賣藥法第三條ノ規定ニ依ル届出アリタルトキハ免許若ハ届出事由發生ノ年月日、方名、氏名、生年月又ハ法人ノ名稱、住所及營業所ヲ、賣藥請賣若ハ賣藥行商ノ届出アリタルトキハ届出事由發生ノ年月日、氏名又ハ法人ノ名稱、住所及營業所ヲ當該地方行政廳ヨリ所轄稅務署ニ通知スヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ

第十八條　行政官廳賣藥法第十二條ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢又ハ檢査ヲ爲サシムルトキハ制服ヲ著スル者ノ外別記雛形ノ證票ヲ携帶セシムヘシ

第十九條　賣藥法第十三條ノ規定ニ依リ物品ヲ收去スルトキハ當該官吏ハ營業者ニ證書ヲ交付スヘシ若シ營業者ノ求アルトキハ事實ノ許ササル場合ヲ除クノ外其ノ物品ノ一部ニ封緘ヲ施シ之ヲ交付スヘシ

第二十條　賣藥法第十二條ノ規定ニ依ル臨檢又ハ檢査ハ日出前日沒後ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ營業時間中ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　第八條第一項第十條第十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十二條　第四條第七條第三項第八條第二項第九條第十一條乃至第十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

第二十三條　本令ハ賣藥法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正三年十月一日ヨリ施行）

阿片法（明治三十年三月三十日法律第二十七號）

【沿革】大正六年七月法律第二六號、同八年四月同第四三號改正

第一條　阿片ヲ製造セムトスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

阿片製造人ハ地方長官ノ定ムル期日迄ニ毎年其製造シタル阿片ヲ政府ニ納付スヘシ

前項ノ阿片ハ政府ニ於テ試驗ヲ施シ其ノ莫兒比涅含量所定ノ度ニ適スルモノニハ賠償金ヲ交付シ其ノ不適品ハ無償ニテ燒却ス

第三條　阿片ハ政府ニ於テ醫藥用品及製藥用品ニ限リ封緘ヲ施シ之ヲ賣下ケ又ハ交付スルモノトス

阿片ハ政府ノ賣下ケタルモノ又ハ交付シタルモノニ非サレハ之ヲ賣買授受所有又ハ所持スルコトヲ得ス

第三條ノ二　阿片ハ內務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外之ヲ輸入スルコトヲ得ス

第四條　第二條ニ依リ賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫兒比涅含量及賠償金額竝ニ第三條ニ依リ賣下クヘキ醫藥用阿片ノ價格ハ內務大臣之ヲ告示ス

賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫兒比涅含量ヲ增加シ又ハ賠償金額ヲ低減セムトスルトキハ一箇年以前ニ告示スヘシ

第五條　醫藥用阿片ハ地方長官ヲシテ其ノ管內藥劑師藥種商中相當ノ人員ヲ限リ醫藥用阿片販賣人ヲ指定シテ賣下ケシム

第六條　醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑師又ハ製藥者醫藥用阿片ヲ要スルトキハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ證明ヲ受ケ醫藥用阿片販賣人ニ賣渡ヲ請求スヘシ

醫藥用阿片販賣人販賣用ノ阿片ヲ販賣ノ目的以外ニ供セムトスルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第六條ノ二　地方長官必要ト認ムルトキハ內務大臣ノ認可ヲ受ケ醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑師又ハ製藥者ニ對シ醫藥用阿片ヲ賣下クルコトヲ得

第七條　醫藥用阿片ハ第六條第一項若ハ前條ニ依ル場合又ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外醫師、齒科醫師又ハ獸醫ノ處方箋ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第七條ノ二　醫藥用阿片販賣人ハ第六條第一項ニ依ル請求ヲ受ケタル場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ醫藥用阿片ノ讓渡ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條ノ三　醫藥用阿片販賣人ハ政府ノ定メタル價格ヲ超エテ醫藥用阿片ヲ販賣スルコトヲ得ス

第八條　醫藥用阿片販賣人ハ政府ノ封緘ヲ施シタル醫藥用阿片ノ容器ヲ開披シ若ハ改裝シ又ハ封緘ヲ破毀スルコトヲ得ス

醫藥用阿片販賣人ハ政府ノ封緘ヲ施シタル醫藥用阿片ニシテ封緘ノ無效トナリタルモノ又ハ容器ヲ改裝シタルモノヲ販賣スルコトヲ得ス

第八條ノ二　製藥用阿片ノ賣下ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ニ依リ賣下ヲ受ケタル阿片ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第八條ノ三　官廳又ハ官立ノ病院若ハ學校ニ於テ阿片ヲ要スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付ヲ受クヘシ

第九條　第三條第二項又ハ第三條ノ二ニ違背シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

阿片ヲ輸入シタル者罰前項ニ同シ

第十條　第三條第二項ニ違背シテ所有又ハ所持スル阿片ハ之ヲ沒收ス

第十條ノ二　第一條、第六條第二項、第七條乃至第八條又ハ第八條ノ二第二項ニ違背シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　第二條第一項ニ違背シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　（削除）

第十二條ノ二　藥品營業者又ハ阿片製造人未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スル罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條ノ三　藥品營業者又ハ阿片製造人ハ其ノ代理人戶主家族同居者雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第十二條ノ四　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發

スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第十二條ノ五　第十二條ノ二又ハ第十二條ノ三ニ依ル場合ニ於テハ懲役禁錮又ハ拘留ニ處スルコトヲ得ス

第十二條ノ六　第十二條ノ二乃至第十二條ノ四ノ規定ハ第九條ノ犯罪ニ付之ヲ適用セス

第十三條　阿片製造人又ハ醫藥用阿片販賣人此ノ法律又ハ其ノ施行ニ關スル規則ニ違背シタルトキハ地方長官ハ其ノ許可又ハ指定ヲ取消スコトヲ得

附　則

第十四條　此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第十五條　此ノ法律施行ノ日現ニ阿片製造人タルノ許可ヲ有スル者ハ第一條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十六條　此ノ法律施行以前地方廳ニ預リ置キタル阿片ハ之ヲ銷却ス

第十七條　明治十一年布告第二十一號藥用阿片賣買竝ニ製造規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

附　則（大正八年四月法律第四三號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正八年七月勅令第三五六號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行）

本法施行ノ際現ニ醫藥用阿片卸賣人タル者ハ第五條ニ依リ指定ヲ受ケタル醫藥用阿片販賣人ト看做ス

本法施行ノ際現ニ醫藥用阿片卸賣人ニ非サル藥劑師又ハ藥種商ニシテ醫藥用阿片ヲ所有スルモノハ本法施行ノ日ヨリ三十日內ニ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ買上ヲ請求シ又ハ醫藥用阿片販賣人、醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑師又ハ製藥者ニ讓渡スルコトヲ得

阿片法施行規則

（大正八年六月二十五日內務省令第四號）

【沿革】大正十一年三月省令第五號改正

第一條　阿片製造ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ住所、營業及履歷ヲ具シ地方長官ニ申請スヘシ

第二條　阿片製造人ハ地方長官ノ定ムル期日迄ニ每年罌粟栽培ノ場所及段別ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

前項ノ場所又ハ段別ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ事由ニ具シ速ニ之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第三條　阿片製造人阿片ヲ政府ニ納付セムトスルトキハ其ノ住所、氏名及阿片ノ數量ヲ記シタル納付書ヲ添ヘ之ヲ地方長官ニ提出スヘシ現品ニハ製造人ノ住所、氏名及阿片ノ數量ヲ記シタル木札ヲ付スルコトヲ要ス

第四條　地方長官阿片ノ納付ヲ受ケタルトキハ納付書ヲ添ヘ速ニ之ヲ東京又ハ大阪衛生試驗所ニ送付スヘシ

衛生試驗所阿片ノ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ莫兒比涅含量ヲ試驗シ賠償金交付ノ手續ヲ爲スヘシ但シ五匁未滿ノ納付品ニハ試驗ヲ施スコトヲ要セス

第五條　政府ニ於テ賣下ケ又ハ交付スル醫藥用阿片ハ第一號（五グラム入）、第二號（二十五グラム入）及第三號（四百五十グラム入）ノ容器ニ納メ每容器ニ定價ヲ附シ大阪衛生試驗所ノ證紙ヲ以テ之ヲ封緘ス

第六條　醫藥用阿片販賣人ハ其ノ營業所ニ醫藥用阿片販賣所タル旨ヲ掲示スヘシ

第七條　醫藥用阿片販賣人ハ政府ノ會計年度ニ依リ毎半年ニ賣下ヲ受クヘキ醫藥用阿片ノ數量ヲ豫定シ容器ノ種類及其ノ箇數ヲ記シ二月前ニ地方長官ニ賣下ヲ請求スヘシ但シ必要アルトキハ其ノ事由ヲ具シ臨時請求スルコトヲ得

第八條　醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑師又ハ製藥者ニ於テ醫藥用阿片ヲ要スルトキハ其ノ數量、使用ノ目的竝業務所、職業、氏名及年月日ヲ記シ捺印シタル賣渡請求書ニ付數量五十グラム以下ナルトキハ所轄警察官署、五十グラムヲ超ユルトキハ地方長官ノ證明ヲ受ケ其ノ道府縣內ノ醫藥用阿片販賣人ニ提出シ賣渡ヲ受クヘシ

調劑用トシテ第一號（五グラム入）一箇ヲ要スル場合ハ前項ノ證明ヲ受クルコトヲ要セス但シ一年ヲ通シ五箇ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條　公立ノ病院若ハ學校又ハ法人ニ於テ調劑用トシテ醫藥用阿片ヲ要スルトキハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス學術研究ノ爲ス者ニ於テ醫藥用阿片ヲ要スルトキ亦同シ

第十條　醫藥用阿片販賣人ハ醫藥用阿片ヲ其ノ道府縣以外ニ於テ使用スル者ニ販賣シ又ハ之ヲ其ノ道府縣以外ニ搬出スルコトヲ得ス

第十一條　醫藥用阿片販賣人ハ外國ニ在ル帝國臣民タル醫師、齒科醫師、獸醫又ハ藥劑師ニ於テ調劑用ニ供スル場合ニ限リ內務大臣ノ許可ヲ受ケ醫藥用阿片ヲ輸出スルコトヲ得

前項ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ醫藥用阿片ノ數量、使用ノ目的、輸出先、使用者ノ業務所、職業及氏名ヲ具シ使用者業務所地ノ帝國官憲ノ證明アル注文書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ申請スヘシ

第十二條　醫藥用阿片販賣人阿片法第六條第二項ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ醫藥用阿片ノ數量及使用ノ目的ヲ具シ地方長官ニ申請スヘシ

第十三條　阿片製造人其ノ住所若ハ氏名ヲ變更シ、廢業シ又ハ死亡シタルトキハ本人、戶主若ハ相續人ニ於テ十日內ニ地方長官ニ屆出ツヘシ醫藥用阿片販賣人其ノ營業所若ハ氏名ヲ變更シ又ハ死亡シタルトキ亦同シ

第十四條　醫藥用阿片販賣人醫藥用阿片販賣業ヲ廢止セムトスルトキハ地方長官ニ其ノ指定ノ取消ヲ申請スヘシ

第十五條　阿片製造人廢業シ若ハ死亡シタルトキ又ハ醫藥用阿片販賣人其ノ指定ノ取消ヲ受ケタルトキハ本人、戶主若ハ相續人ニ於テ三十日內ニ既製ノ阿片又ハ販賣殘餘ノ醫藥用阿片ノ買上ヲ地方長官ニ請求スヘシ但シ相續人阿片製造ノ許可ヲ受ケタルトキハ戶主若ハ相續人ヨリ三十日內ニ販賣殘餘ノ醫藥用阿片ノ買上ヲ地方長官ニ請求シ又ハ其ノ道府縣內ノ醫藥用阿片販賣人ニ讓渡スルコトヲ得

第十六條　醫藥用阿片販賣人死亡シタルトキハ戶主若ハ相續人ヨリ三十日內ニ販賣殘餘ノ醫藥用阿片ノ買上ヲ地方長官ニ請求シ又ハ其ノ道府縣內ノ醫藥用阿片販賣人ニ讓渡スルコトヲ得

醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑師又ハ製藥者廢業シ若ハ死亡シタルトキハ本人、戶主若ハ相續人ヨリ三十日內ニ使用殘餘ノ醫藥用阿片ノ買上ヲ地方長官ニ請求シ又ハ醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑師又ハ製藥者ニ讓渡スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ讓渡シタル場合ニ於テハ十日內ニ其ノ數量ヲ具シ地方長官ニ屆出ツヘシ

第九條ニ揭クル者ニ於テ醫藥用阿片ヲ要スル事業ヲ廢止シタルトキ使用殘餘ノ醫藥用阿片ニ付亦前二項ニ準ス

第十七條　前二條ノ規定ニ依ル手續ハ戶主若ハ相續人不在又ハ未定ナルトキハ其ノ財產ヲ管理スル者ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第十八條　地方長官醫藥用阿片販賣人ヲ指定シ若ハ其ノ指定ヲ取消シタルトキハ之ヲ告示スヘシ醫藥用阿片販賣人ノ營業所若ハ氏名ノ變更又ハ死亡ノ屆出ヲ受ケタルトキ亦同シ

第十九條　官廳、官立ノ病院若ハ學校ニ於テ醫藥用阿片ヲ要スルトキハ大阪衛生試驗所ニ其ノ交付ヲ請求スヘシ

第二十條　醫藥用阿片販賣人ハ第八條ノ賣渡請求書ヲ、醫師、齒科醫師、獸醫又ハ藥劑師ハ阿片法第七條ノ處方箋ヲ其ノ日附ヨリ十年間保存スヘシ

第二十一條　藥劑師及製藥者ハ帳簿ヲ備ヘ製劑用ニ供シタル醫藥用阿片ノ數量、製劑ノ品名及年月日ヲ記入シ其ノ日附ヨリ十年間之ヲ保存スヘシ醫師、齒科醫師、獸醫又ハ第九條ニ揭クル者醫藥用阿片ヲ製劑用ニ供シタルトキ亦同シ

第二十二條　醫藥用阿片販賣人ハ帳簿ヲ備ヘ醫藥用阿片ノ受拂高、受拂年月日及賣渡請求人ノ職業、氏名ヲ記入シ其ノ日附ヨリ十年間之ヲ保存スヘシ

第二十三條　醫藥用阿片販賣人ハ政府ノ會計年度ニ依リ毎年度ノ醫藥用阿片受拂高ヲ年度經過後三十日內ニ地方長官ニ屆出ツヘシ

第二十四條　地方長官ハ衛生官吏又ハ警察官吏ヲシテ阿片製造ノ場所ヲ巡視セシメ又ハ第二十條乃至第二十二條ノ書類帳簿ヲ檢査セシムルコトヲ得

第二十五條　阿片法及本令中地方長官ノ職務ハ東京府ニ在リテハ警視總監之ヲ行フ

第二十六條　第二條、第六條、第十三條、第十五條、第十六條第三項、第二十三條又ハ附則第三項ノ規定ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

第二十七條　第十條、第二十條乃至第二十二條ノ規定ニ違背シタル者又ハ第二十四條ノ規定ニ依ル巡視若ハ檢査ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ大正八年法律第四十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

阿片法附則第三項ノ規定ニ依ル醫藥用阿片ノ買上價格ハ大正八年三月內務省告示第十八號ニ揭ケタル定價ニ依ル

阿片法附則第三項ノ規定ニ依リ醫藥用阿片ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ十日內ニ其ノ數量ヲ具シ地方長官ニ屆出ツヘシ

關東州、阿片令

（大正十三年三月二十六日　勅令第五十三號）

第一條　本令ニ於テ阿片トハ生阿片、阿片煙膏及藥用阿片ヲ謂フ

第二條　阿片ハ之ヲ吸食スルコトヲ得ス但シ關東長官ハ當分ノ內阿片癮者ノ救療上必要アリト認ムル場合ニ限リ其ノ吸食ヲ許可スルコトヲ得

第三條　阿片煙膏ハ之ヲ輸出又ハ輸入スルコトヲ得ス

阿片煙膏ハ關東長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ製造、賣買、授受、所有又ハ所持スルコトヲ得ス

第四條　生阿片、藥用阿片又ハ阿片吸食器具ハ關東長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ製造、輸出、輸入、賣買、授受、所有又ハ所持スルコトヲ得ス但シ關東長官ノ定ムル所ニ依リ醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑師若ハ藥種商カ藥用阿片ヲ賣買、授受、所有若ハ所持スル場合又ハ醫師、齒科醫師若ハ獸醫ノ處方箋ヲ以テ藥用阿片ヲ讓受ケ若ハ其ノ藥用阿片ヲ所有若ハ所持スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　阿片煙館ハ之ヲ開設又ハ維持スルコトヲ得ス

第六條　阿片ヲ製造スル目的ヲ以テ罌粟ヲ栽培スルコトヲ得ス

第七條　關東長官ハ必要アリト認ムル事項ニ付第三條第二項若ハ第四條ノ許可ヲ受ケタル者又ハ、醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑師若ハ藥種商ヲシテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

關東長官ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ前項ニ規定スル者ノ製造場、店鋪其ノ他ノ場所ニ立入リ原料、製造品、器具、機械、帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

第八條　第二條但書ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケスシテ阿片ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　第三條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第三條第二項若ハ第四條ノ規定ニ違反シテ阿片ヲ製造、輸出、輸入若ハ販賣シ若ハ販賣ノ目的ヲ以テ買受ケ若ハ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第四條ノ規定ニ違反シテ阿片吸食器具ヲ製造、輸出、輸入若ハ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ買受ケ若ハ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

前二項ノ規定ニ依リ罰スル場合ヲ除クノ外第三條第二項又ハ第四條ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　第五條ノ規定ニ違反シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第十一條　前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十二條　第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　正當ノ理由ナクシテ第七條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ若ハ虛僞ノ報告ヲ爲シ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ若ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十四條　關東州裁判事務取扱令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑法第二編第十四章ノ規定ハ之ヲ適用セス

附　則

本令施行ノ期日ハ關東長官之ヲ定ム（大正十三年八月關東廳令第四九號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

關東州阿片令施行規則

（大正十三年八月十三日　關東廳令第五十號）

第一條　阿片吸食ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ本籍、住所、氏名、年齡及廢業ヲ具シ關東長官ニ願出ツヘシ

第二條　關東長官前條ノ願ヲ受理シタルトキハ其ノ指定シタル醫師ニ於テ阿片癮者ナリト認定シタル支那人ニ限リ之ヲ許可ス

第三條　前條ノ許可ヲ與フルトキハ之ニ一日ノ吸食定量ヲ指シ吸煙證ヲ下付ス

吸食定量ハ之ヲ吸煙證ニ明示ス

關東長官ハ定時又ハ臨時ニ阿片吸食ノ許可ヲ受ケタル者ヲ檢診セシメ吸食定量ノ指定ヲ變更シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第四條　吸煙證ヲ亡失シタルトキハ其ノ再下付ヲ願出ツヘシ

第五條　阿片吸食ノ許可ヲ受ケタル者ハ阿片又ハ阿片吸食器具ヲ讓受クルコトヲ得

阿片吸食ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ指定セラレタル吸食定量ノ十日分以上ノ阿片ヲ讓受クルコトヲ得ス但シ旅行其ノ他已ムヲ得サル事由ニ

因リ所轄警察官署ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

阿片吸食ノ許可ヲ受ケタル者ハ前項ノ制限ヲ超エテ阿片ヲ所持スルコトヲ得ス

第六條　阿片吸食ノ許可ヲ受ケタル者ハ吸煙證ヲ提示スルニ非サレハ阿片又ハ阿片吸食器具ヲ讓受クルコトヲ得ス

第七條　阿片吸食ノ許可ヲ受ケタル者ハ阿片小賣人以外ノ者ヨリ阿片又ハ阿片吸食器具ヲ讓受クルコトヲ得ス

第八條　阿片ノ販賣ヲ爲サムトスル者ハ本籍、住所、氏名、年齡、業務所及履歷ヲ具シ關東長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ業務所ヲ變更シ又ハ支店若ハ出張所ヲ設置セムトスルトキ亦同シ

前項ノ許可ヲ受ケムトスル者法人ナルトキハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地、定款、業務所、代表者ノ氏名及住所ヲ具シ願出ツヘシ

第九條　前條ノ許可ヲ受ケタル者ハ阿片ヲ製造シ又ハ之ヲ輸入スルコトヲ得

第十條　前條ノ阿片販賣人ハ一人ヲ限リ之ヲ許可ス

第十一條　阿片販賣人ハ阿片小賣人又ハ阿片ノ買入ヲ許可セラレタル製藥者以外ノ者ニ生阿片又ハ阿片煙膏ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第十二條　阿片販賣人ハ關東長官ノ指定シタル藥種商ニ限リ藥用阿片ヲ讓渡スルコトヲ得

醫師、齒科醫師、獸醫若ハ藥劑師藥用阿片ヲ要スルトキハ所轄警察官署ノ證明ヲ受ケ指定藥種商ニ其ノ讓渡ヲ請求スヘシ但シ調劑用トシテ一年ヲ通シ二十五瓦以下ヲ讓受ケムトスルトキハ證明ヲ要セス

第十三條　藥用阿片ハ前條ニ依ル場合ノ外醫師、齒科醫師若ハ獸醫ノ處方箋ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第十四條　阿片及阿片吸食器具ハ特ニ許可ヲ受ケタル場合ノ外大連港以外ノ地ヲ經テ之ヲ輸入スルコトヲ得ス

第十五條　阿片販賣人ニ於テ一定期間ニ輸入スヘキ阿片ノ種類及數量ハ關東長官之ヲ指定ス

阿片ヲ輸入セムトスルトキハ其ノ種類、數量、用途、仕出地、輸入取扱者ノ住所、氏名及輸入ノ經路ヲ具シ其ノ都度關東長官ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ阿片ヲ輸入シタルトキハ當該官吏ノ檢査ヲ受クヘシ

第十六條　阿片販賣人ニ於テ販賣スヘキ阿片ノ數量及價格ハ關東長官之ヲ指定ス

第十七條　阿片販賣人ハ帳簿ヲ備ヘ阿片ノ受拂ヲ明確ニ記載スヘシ

前項ノ帳簿ハ十年間之ヲ保存スヘシ

第十八條　阿片販賣人ハ阿片ノ受拂ニ付毎月十日迄ニ其ノ前月分ヲ關東長官ニ報告スヘシ

第十九條　阿片ノ小賣ヲ爲サムトスル者ハ本籍、住所、氏名、年齡、職業、營業所及履歷ヲ具シ關東長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ營業所ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第二十條　前條ノ許可ヲ受ケタル者ハ阿片煙膏及阿片吸食器具ヲ製造シ又ハ阿片吸食器具ヲ輸入スルコトヲ得

第二十一條　阿片小賣人本籍、住所、氏名ヲ變更シ又ハ廢業若ハ死亡シタルトキハ十日內ニ本人又ハ其ノ家族ヨリ關東長官ニ屆出ツヘシ

第二十二條　阿片小賣人ハ阿片販賣人以外ノ者ヨリ阿片ヲ讓受クルコトヲ得ス

第二十三條　阿片小賣人ハ阿片吸食ノ許可ヲ受ケタル者ヨリ吸煙證ヲ提

示シタル場合ノ外阿片吸食器具ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第二十四條　阿片小賣人ハ第五條ノ制限ヲ超エテ阿片ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第二十五條　阿片小賣人及指定藥種商ハ阿片又ハ阿片吸食器具ノ買受帳及賣渡帳ヲ備フヘシ

阿片又ハ阿片吸食器具ノ買受帳ニハ買受ノ都度其ノ種類、數量、價格、年月日ヲ明確ニ記載スヘシ

阿片又ハ阿片吸食器具ノ賣渡帳ニハ賣渡ノ都度其ノ種類、數量、價格、年月日及買受人ノ住所、氏名、年齢其ノ他特ニ關東長官ノ命シタル事項ヲ明確ニ記載スヘシ

第二十六條　阿片小賣人及指定藥種商ハ阿片及阿片吸食器具ノ受拂ニ付毎月五日迄ニ其ノ前月分ヲ所轄警察官署ニ報告スヘシ

第二十七條　阿片販賣人、阿片小賣人及指定藥種商ハ其ノ業務ニ關シ關東長官ノ命シタル事項ヲ遵守スヘシ

第二十八條　第五條第二項第三項、第六條、第七條、第十一條、第十三條、第十四條、第十五條第二項第三項、第二十二條乃至第二十四條及前條ノ規定ニ違反シ又ハ第十五條及第十六條ノ指定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス吸煙證ヲ讓渡シ又ハ貸與シタル者ニ付亦同シ

第二十九條　第十七條、第二十一條及第二十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十條　阿片販賣人又ハ阿片小賣人未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス

第三十一條　阿片販賣人又ハ阿片小賣人ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反シタル者アルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十二條　法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第三十三條　阿片販賣人又ハ阿片小賣人阿片ニ關スル罪ヲ犯シ若ハ業務上不正ノ行爲アリタルトキハ其ノ業務ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

附　則

本令ハ關東州阿片令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前指定ヲ受ケ現ニ阿片輸入販賣人タル者ハ阿片販賣人特許阿片小賣人タル者ハ阿片小賣人トシテ本令ニ依リ其ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第五節　飲食物

清涼飲料水營業取締規則

（明治三十三年六月五日内務省令第三十號）

【沿革】明治三十九年六月省令第九號、同四十三年七月同第二六號、大正十二年三月同第七號改正

第一條　本則ニ於テ清涼飲料水ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル「ラムネ」、「リモナーデ」（果實水、薄荷水及桂皮水ノ類ヲ含ム）曹達水及其ノ他發

酸含有ノ飲料水並果實汁、果實蜜及之ニ類假スル製品ニシテ稀釋シテ飲用ニ供スルモノヲ謂フ

清涼飲料水營業者ト稱スルハ清涼飲料水ノ製造（清涼飲料水ニ供スル鑛泉ノ採取ヲ含ム以下倣之）販賣又ハ請賣ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條　清涼飲料水製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ製造物ノ構造、設備及用水ヲ檢査セシムヘシ

第三條　清涼飲料水營業者ハ飲料水ニ接觸スル部分ヲ銅、鉛又ハ其ノ合金ニテ製シタル調製器容器又ハ量器ヲ使用スルコトヲ得ス但シ鍍錫其ノ他衛生上有害ノ虞ナキ方法ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　清涼飲料水營業者ハ清涼飲料水ノ製造又ハ貯藏ニ有害性「テール」色素、「サッカリン」其ノ他人工甘味質、有害性芳香質又ハ防腐劑ヲ使用スルコトヲ得ス

「テール」色素ハ前項以外ノモノト雖モ製造地地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條　清涼飲料水營業者ハ左ノ清涼飲料水ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若クハ貯藏スルコトヲ得ス

一　腐敗又ハ變敗シタルモノ

二　沈澱物又ハ固形ノ夾雜物アルモノ

三　鹽酸、硝酸及硫酸其ノ他遊離鑛酸ヲ含有スルモノ

四　砒素、安知母組織、鉛、亞鉛、銅、錫ヲ含有スルモノ

五　有害性其ノ他製造地又ハ輸入地地方長官ノ許可ヲ受ケサル「テール」色素ヲ含有スルモノ

六　「サッカリン」其ノ他人工甘味質ヲ含有スルモノ

七　有害性芳香質ヲ含有スルモノ

八　防腐劑ヲ含有スルモノ

果實汁、果實蜜及之ニ類似スル製品ニシテ稀釋シテ飲用ニ供スルモノノ中原料トシテ使用スル果實ノ類、砂糖及水ノ外他物ヲ混和セサル製品ニ就テハ前項第一號及第二號ノ規定ハ原料植物ノ組織及成分ニ基因スル場合ニ限リ之ヲ適用セス但シ變敗シタルモノニ就テハ此ノ限ニ在ラス

第六條　清涼飲料水製造者ハ其ノ氏名、社名、營業所ノ所在並製造年月日ヲ記載シタル票紙ヲ以テ清涼飲料水ヲ販賣スル容器ヲ封緘スヘシ但シ製造地地方長官ニ於テ許可シタルモノニ就テハ此ノ限ニ在ラス

「テール」色素ヲ含有スル清涼飲料水ニハ製造者又ハ輸入者ハ其ノ容器ニ人工著色ノ文字ヲ明記スヘシ

第七條　清涼飲料水營業者ハ清涼飲料水ノ調製器、容器、量器及製造場其ノ他清涼飲料水ヲ取扱ノ場所ヲ常ニ清潔ニ爲スヘシ

第八條　清涼飲料水營業者ハ結核、癩病、傳染病ニ罹レル者ヲシテ清涼飲料水ノ調製若クハ小分ヲ爲サシメ又ハ其ノ場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス清涼飲料水營業者ニシテ其ノ疾病ニ罹レルトキ亦之ニ準ス

第九條　地方長官ハ第三條ノ器具第五條ノ清涼飲料水ニ關シテハ明治三十三年（二月）法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテハ亦同シ

第十條　地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテハ明治三十三年（二月）法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十一條　清涼飲料水營業者虛僞ノ記載ヲ爲シタル封緘票紙ヲ貼用シ若クハ貼用セシメタル者又ハ封緘票紙ニ虛僞ノ改竄ヲ爲シ若クハ爲サシメタル者ハ二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十二條　左ニ揭クル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

一　認可ヲ受ケスシテ第二條ノ營業ヲ爲シタル者

二　第三條乃至第五條ニ違背シタル者

第十三條　第六條乃至第八條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　清涼飲料水營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

清涼飲料水營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附　則

第十五條　本則ハ明治三十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ「ラムネ」ニ關シテハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條　地方長官ハ清涼飲料水ノ製造場ノ構造、設備及管理方法ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十七條　東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

第六節　傳染病、其他

傳染病豫防法（明治三十年四月一日法律第三十六號）

【沿革】明治三十八年三月法律第五六號、大正十一年四月同第三二號改正

第一條　此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ「コレラ」赤痢、皮痢ヲ含ム腸「チフス」、「パラチフス」、痘瘡、發疹「チフス」、猩紅熱、「ヂフテリア」、流行性腦脊髓膜炎及「ペスト」ヲ謂フ

前項ニ揭クル十病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣之ヲ指定ス

主務大臣特別ノ事申アリト認ムルトキハ前項ニ依リ指定スル傳染病ニ對シ命令ヲ以テ此ノ法律ノ一部ヲ限リ適用シ又ハ地域ヲ限リ此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第二條　此ノ法律ハ「コレラ」及「ペスト」ノ疑似症ニ對シ之ヲ適用ス

「コレラ」及「ペスト」以外ノ傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ命令ノ規定ニ從ヒ此ノ法律ノ全部若クハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第二條ノ二　傳染病ノ病原體保有者ハ此ノ法律ノ適用ニ付テハ之ヲ傳染病患者ト看做ス

「コレラ」以外ノ傳染病ノ病原體保有者ニ對シ此ノ法律中傳染病患者ニ關スル規定ニシテ適用シ難キモノニ付テハ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第三條　醫師傳染病患者ヲ診斷シ若クハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ且直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ屆出ヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ

第四條　傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戶主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學校病院、製造所又ハ船舶、會社、各種事務所、貸席、興行場其ノ他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ代理人トス

第五條　傳染病患者アリタル家其他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘシ

前項ノ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘキ義務者ニ付テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六條　清潔方法及消毒方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舍其ノ他適當ノ場所ニ入ラシムヘシ

第八條　當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳染病患者アリタル家其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ノ交通ヲ遮斷シ又ハ病毒感染ノ疑アル者ヲ隔離所其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコトヲ得

第八條ノ二　傳染病患者ハ業態上病毒傳播ノ虞アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

前項ノ業務ノ範圍ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　傳染病患者及其ノ死體ハ當該吏員ノ許可ヲ經ルニ非サレハ他ニ移スコトヲ得ス

第十條　傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用授與移轉遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十一條　傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカラス

傳染病患者ノ死體ハ醫師ノ檢案ニ依リ當該吏員ノ認可ヲ經テ二十四時間內ニ埋葬スルコトヲ得

第十二條　傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

傳染病患者ノ死體ヲ土葬シタルトキハ三箇年ヲ經過スルニ非サレハ他ニ改葬スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由ニ因リ必要アル場合ニ於テ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　死體ヲ既ニ埋葬シ若ハ埋葬セムトスル場合ニ於テ傳染病患者タリシ疑アルトキハ當該吏員ハ死體及家屋其ノ他ニ對シ更ニ相當ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條　傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ其ノ事由ヲ戶主、首長、管理人又ハ代理者ニ告知シ家宅船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルコトヲ得但シ當該吏員タルノ證票ヲ示スヘシ

第十五條　傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市制第八十三條町村制第六十九條ニ依リ傳染病豫防委員ヲ置キ檢疫豫防ノ事ニ從ハシムヘシ但シ市町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラ

豫防委員ニハ醫師ヲ加フヘシ其ノ醫師ヨリ出ツル者ハ市町村長之ヲ選任ス

第十六條　市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市町村内ノ清潔方法及消毒方法ヲ施行シ醫師其ノ他豫防上必要ナル人員ヲ雇入レ及器具藥品其ノ他件ノ物ヲ設備スヘシ

第十六條ノ二　市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ鼠族、昆蟲等ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲スヘシ

第十七條　市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ傳染病院、隔離病舍、隔離所又ハ消毒所ヲ設置スヘシ

傳染病院、隔離病舍、隔離所又ハ消毒所ノ設備及管理ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム

第十七條ノ二　第十九條第七又ハ第八ニ依リ市街村落ノ全部又ハ一部ニ對シ家用水ノ使用ヲ停止シタル場合ニ於テハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ其ノ停止期間家用水ノ供給ヲ爲スヘシ

第十八條　傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ置キ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ擔任セシメ及特ニ船舶汽車電車ノ檢疫ヲ行ハシムルコトヲ得

船舶汽車電車ノ檢疫ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船舶若ハ其船舶汽車電車ノ乘客乘組人ニシテ病毒感染ノ疑アル者ヲ必要ノ日時間停留シ及無償ニテ當該吏員又ハ醫師ヲ船舶汽車中ニ乘込マシムルコトヲ得

船舶汽車電車ノ檢疫ニ於テ發見シタル患者ハ附近市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舍ニ收容治療セシメ及病毒感染ノ疑アル者ヲ附近市町村立ノ隔離所ニ入ラシムルコトヲ得市町村ハ相當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之カ爲特ニ要シタル費用ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得

船舶汽車電車ノ檢疫ヲ施行セサル場合ニ於テ船舶汽車電車中ニ傳染病患者若ハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス在監人出獄スルニ際シ傳染病ニ罹リタル者若ハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキ亦同シ

前各項ノ外檢疫委員ノ設置及船舶汽車電車ノ檢疫ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　地方長官ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

一　健康診斷又ハ死體檢案ヲ行フコト

二　市街村落ノ全部若ハ一部ノ交通ヲ遮斷シ又ハ人民ヲ隔離スルコト

三　祭禮、供養、興行、集會等ノ爲人民ノ群集スルコトヲ制限シ若ハ禁止ルルコト

四　古著、襤褸、古綿其ノ他病毒傳播ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其ノ物件ヲ廢棄其ノ他必要ナル處分ヲ爲シ若ハ爲サシムルコト

五　傳染病毒傳播ノ媒介トナルヘキ飲食物ノ販賣、授受ヲ禁止シ又ハ其ノ飲食物ノ廢棄其ノ他必要ナル處分ヲ爲シ若ハ爲サシムルコト

六　汽車、船舶、煙造所若ハ多人數ノ集合スル場所ニ醫師ノ屋入其ノ他豫防上必要ノ設備ヲ爲サシムルコト

七　清潔方法、消毒方法ノ施行ヲ命シ及井戸、上水、下水、溝渠、井溜、厠圊ノ新設改築變更若ハ廢止ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコト

八　一定ノ場所ノ漁撈、浮泳又ハ其ノ水ノ使用ヲ必要ナル日時間制限シ若ハ停止スルコト

九　鼠族、昆蟲等ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲サシムルコト

第十九條ノ二　傳傳病毒ニ汚染シタル建物ニシテ消毒方法ノ施行ヲ不適當ト認ムルトキハ地方長官ハ關係市町村會ノ意見ヲ聽キ内務大臣ノ認可ヲ得テ其ノ建物ニ對シ別段ノ處分ヲ行ヒ且其ノ處分ノ爲必要ナル土地ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ手當金ヲ交付スヘシ

手當金ノ交付並手當金額ノ決定ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　諸官廳及官立ノ學校、病院、製造所等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ地方長官ト協議シ此ノ法律ニ準シ豫防方法ヲ施行スヘシ

陸海軍所屬ノ部隊、軍艦等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ此ノ法律ニ準シ各其ノ所定ノ規則ニ依リ又必要アル場合ニ於テハ地方長官ト協議シ豫防方法ヲ施行スヘシ

第二十一條　左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス

一　豫防委員ニ關スル諸費

二　市町村ニ於テ施行スル清潔方法、消毒方法及種痘ニ關スル諸費

三　豫防救治ノ爲雇入タル醫師其他ノ人員並豫防上必要ナル器具、藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費

四　傳染病院隔離病舍隔離所及消毒所ニ關スル諸費

五　豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當、療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ救助料、弔祭料

六　第八條ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費及交通遮斷、隔離ノ爲又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費

七　市町村内ニ於テ發見セル傳染病貧民患者並死者ニ關スル諸費

八　市町村ニ於テ施行スル鼠族、昆蟲等ノ驅除及其ノ施設ニ關スル諸費

九　第十七條ノ二ニ依レル家用水ノ供給ニ關スル諸費

十　第十九條ノ二ニ依ル交付スヘキ手當金

其ノ他市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十二條　左ノ諸費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

一　第十八條ニ關スル諸費

二　手當金ヲ除ク外第十九條ノ二ニ關スル諸費

三　第十九條第二ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費、交通遮斷、隔離ノ爲自活シ能ハサル者ノ生活費及隔離所ニ關スル諸費

四　前各號ノ外此ノ法律ニ依リ地方長官ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

其ノ他道府縣ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十三條　地方長官ハ衛生組合ヲ設ケ清潔方法消毒方法其ノ他傳染病ノ豫防救治ニ關シ規約ヲ定メシメ之ヲ履行セシムルコトヲ得

市町村ハ其ノ市町村内ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第二十四條　第二十一條第二十三條第二項ノ支出ニ對シテハ命令ノ規定ニ從ヒ北海道地方費又ハ府縣費ヨリ市町村ニ補助スヘシ

第二十五條　國庫ハ勅令ノ規定ニ從ヒ第二十二條第二十四條ノ北海道地

方費又ハ府縣ノ支出ニ對シ其ノ六分ノ一乃至三分ノ一ヲ補助スルモノトス

第二十六條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ清潔方法消毒方法ヲ施行スヘキ義務者之ヲ施行セス又ハ之ヲ施行スルモ當該吏員ニ於テ充分ナラスト認ムルトキ及必要ノ時限内ニ施行シ得スト認ムルトキハ當該吏員之ヲ施行シ其ノ費用ハ市町村ヲシテ支辨セシムヘシ此ノ場合ニ於テ市町村ハ其ノ費用ヲ義務者ヨリ追徴スルコトヲ得私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國税徴收ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徴收ス

第二十七條　此ノ法律若ハ此法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ私人ニ於テ施爲スヘキ事項ヲ施爲セス若ハ之ヲ施爲スルモ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ時限内ニ施爲シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ施爲シ其ノ費用ヲ市町村又ハ私人ヨリ追徴スルコトヲ得

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國税徴收ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徴收ス

第二十八條　第二十六條第二十七條ノ費用追徴ニ關シ不服アル私人ハ訴願法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第二十九條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限内ニ履行セサル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタル後十二時間以内ニ届出ヲ爲サス又ハ虚僞ノ轉歸届ヲ爲シタルトキハ三百圓以下ノ罰金ヲ處ス

第三十一條　第四條、第五條、第八條ノ二、第九條、第十條、第十一條第一項第十二條ニ違背シタル者、交通遮斷ヲ犯シタル者當該吏員ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者又ハ醫師ニ請託シテ第三條ノ届出ヲ爲サシメス者ハ其ノ届出ヲ妨ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第三十二條　此ノ法律中ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外北海道沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律中市町村ニ關スル規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外市制町村制ヲ施行セサル地ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條　海外諸港及朝鮮臺灣及樺太ヨリ來ル船舶ニ對シ施行スル檢疫ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十四條　此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條　此ノ法律ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス但シ第二十四條及第二十五條ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

第三十六條　明治十三年布告第三十四號傳染病豫防規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

附　則（大正十一年四月法律第三二號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年九月勅令第四二〇號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

種痘法（明治四十二年四月十四日法律第三十五號）

第一條　種痘ハ左ノ定期ニ於テ之ヲ行フ但シ痘瘡ヲ經過シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　第一期　出生ヨリ翌年六月ニ至ル間但シ不善感ナルトキハ翌年六月ニ至ル間ニ更ニ種痘ヲ行フヘシ

二　第二期　數ヘ歳十歳但シ不善感ナルトキ　翌年十二月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フヘシ

定期前二年以内ニ善感シタル種痘ハ第二期ノ種痘ト看做ス

第二條　保護者ハ未成年者ヲシテ種痘ヲ受ケシムルノ義務ヲ負フ

第三條　左ニ掲クル者ハ夫成年ノ生徒、院生若ハ之ニ準スヘキ者又ハ未成年ノ寄寓者ヲシテ種痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムヘシ

一　學校、育兒院又ハ之ニ準スヘキ場所ノ校長、院長其ノ他首長

二　教育、監護又ハ傭使ノ目的ヲ以テ人ヲ寄寓セシムル者

前項各號ニ掲クル者ノ法定代理人アルトキハ法延代理人ニ前項ノ規定ヲ適用ス

第四條　新ニ保護者ト爲リ又ハ新ニ前條ノ關係ヲ生シタルトキハ種痘ヲ受ケサルカ又ハ之ヲ受ケタル證跡不明ナル未成年者ヲシテ六月以内ニ種痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムヘシ

前項ノ期間内ニ其ノ手續ヲ爲シ難キ事由アルトキハ市町村長區長ヲ以テ戸籍吏ニ充ツル市ニ於テハ長以下之ニ準ス ニ届出ツヘシ

未成年者ヲ傭使スル雇主ニ關シテハ其ノ之ヲ寄寓セシメサル場合ト雖

前二項ノ規定ヲ適用ス

前條第二項ノ規定ハ前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　市町村ハ種痘ヲ施行スヘシ

第六條　市町村長ハ種痘定期ニ在ル者ノ種痘期日ヲ指定スヘシ

第七條　疾病其ノ他ノ事故ニ因リテ市町村長ノ指定シタル期日ニ種痘ヲ受ケシムルコト能ハサル場合ニ於テハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ其ノ事由ヲ具シ市町村長ニ猶豫ヲ申請スルコトヲ得

前項ニ依リ種痘ヲ猶豫シタルトキハ市町村長ハ其ノ證ヲ交付スヘシ

第八條　市町村長ハ第一期種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セサルニ至リタル者ヲ戸籍吏ニ通知シ戸籍吏ハ戸籍簿ノ欄外ニ符號ヲ以テ之ヲ記入スヘシ

前項ノ記入ニ關スル事務ニ付テハ戸籍法第五號ノ規定ヲ準用ス

第九條　市町村長ノ指定シタル期日ニ種痘ヲ受ケス其ノ他種痘ヲ怠リ又ハ之ヲ受ケタル證跡不明ナル未成亦者アルトキハ市町村長ハ更ニ期日ヲ指定シテ種痘ヲ受ケシメ又ハ直ニ種痘ヲ行フヘシ

第十條　種痘ヲ怠リタル者又ハ種痘ヲ受ケタル證跡不明ナル者ノ定期外ニ受ケタル種痘ハ第一條第二項ノ場合ヲ除クノ外其ノ定期種痘ト看做ス

第十一條　第五條ノ種痘ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ市町村長ノ指定シタル期日ニ於テ檢診ヲ受ケシムヘシ但シ其ノ期日ニ檢診ヲ受ケシムルコト能ハサル事由アルトキハ市町村長ニ届出ツヘシ

市町村長ハ前項ノ檢診ヲ經タル者ニ種痘濟證ヲ交付スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ痘漿ヲ採取スルコトヲ得

第十二條　醫師定期種痘ヲ施シタル者ヲ檢診シタルトキハ種痘證ヲ交付

スヘシ

前項ノ場合ニ於テ種痘證ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ十日以内ニ市町村長ニ届出ツヘシ

第十三條　醫師ハ其ノ診療ニ係ル痘瘡患者全治シタルトキハ之ニ痘瘡經過證ヲ交付スヘシ

第十四條　當該吏員ノ請求アルトキハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ種痘書證又ハ種痘證ヲ提示セシムヘシ但シ命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　地方長官ハ痘瘡豫防上必要ト認ムルトキハ種痘ヲ受クヘキ者ノ範圍及期日ヲ指定シテ臨時種痘ヲ命スルコトヲ得

臨時種痘ニ關シテハ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第十六條　醫師虛僞ノ種痘證ヲ交付シ又ハ檢診セスシテ種痘證ヲ交付シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　左ニ掲クル者ハ科料ニ處ス

一　第四條又ハ第十一條第一項ニ違反シタル者

二　保護者又ハ第三條ノ義務者ニシテ市町村長ノ指定シタル期日迄ニ種痘ヲ受ケシメサル者

第十八條　第十二條又ハ第十四條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第十九條　官廳公署及官立公立ノ學校等ニ於テハ第三條第一項及第四條第一項乃至第三項ノ規定ニ準シ其ノ措置ヲ爲スヘシ

第二十條　本法ニ於テ保護者ト稱スルハ未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戸主、戸主未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ戸主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ謂フ

本法中市町村又ハ市町村長トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ該當ス

附　則

本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

種痘規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前數ヘ歳七歳以前ニ種痘ヲ受ケタル者又ハ種痘ヲ受ケタルモ其ノ時期不明ナル者ハ本法ニ依ル第一期ノ種痘、數ヘ歳八歳任後ニ種痘ヲ受ケタル者ハ第二期ノ種痘ヲ受ケタル者ト看做ス

本法施行前第一條第一項ノ種痘定期ヲ經過シタル未成年者ニ付テハ第四條ノ規定ハ生來種痘ヲ受ケサルカ又ハ之ヲ受ケタル證跡不明ナル者ニ關シテ之ヲ適用ス

結核豫防法（大正八年三月二十六日法律第二十六號）

第一條　本法ニ於テ結核ト稱スルハ肺結核又ハ喉頭結核ニシテ病毒傳播ノ危險アルモノヲ謂フ

第二條　醫師結核患者ヲ診斷シ又ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ患者ノ場合ニ在リテハ患者又ハ其ノ居住ノ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者、死體ノ場合ニ在リテハ死體所在ノ場所ノ管理ヲ爲ス者又ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ命令ノ定ムル所ニ依リ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指示スヘシ

前項ノ規定ニ依リ指示ヲ受ケタル者ハ其ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ行フヘシ

第三條　行政官廳ハ結核患者又ハ其ノ死者アリタル場所ニ付家屋物件、消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ施ス所シ又ハ其ノ施行ヲ患者又ハ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ命スルコトヲ得

第四條　行政官廳ハ結核豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ行フコトヲ得

一　業態上病毒傳播ノ虞アル職業ニ從事スル者又ハ病毒蔓延ノ虞アル場所ニ居住シ若ハ其ノ場所ニ於テ職業ニ從事スル者ニ對シ健康診斷ヲ施行スルコト

二　結核患者ニ對シ業態上病毒傳播ノ虞アル職業ニ從事スルヲ禁止スルコト

三　學校、病院、製造所其ノ他ノ多衆ノ集合スル場所又ハ旅店、料理店、理髮店其ノ他ノ客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ付病毒傳播ノ媒介トナルヘキ事項ヲ制限シ若ハ禁止シ又ハ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ對シ結核豫防上必要ナル施設ヲ爲サシムルコト

四　古著、古帶圍、古本、紙屑、襤褸、飲食物其ノ他ノ物件ニシテ病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アルモノノ賣買若ハ授受ヲ制限シ若ハ禁止シ、其ノ物件ノ消毒若ハ廢棄ヲ爲サシメ又ハ其ノ物件ノ廢棄ヲ爲スコト

地方長官ニ於テ前項ノ規程ニ依リ健康診斷ヲ施行シ又ハ物件ノ廢棄ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第五條　地方長官ハ結核豫防上必要ト認ムルトキハ採光、換氣其ノ他ノ關係ニ於テ衛生上不良ナル建物ノ使用ヲ制限シ又ハ禁止スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ニ因リ生シタル損害ニ對シテハ地方長官必要ト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ補償金ヲ交付ス補償金ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第六條　主務大臣ハ結核患者ニシテ療養ノ途ナキモノヲ收容セシムル爲人口五萬以上ノ市又ハ特ニ必要ト認ムル其ノ他ノ公共團體ニ對シテ結核療養所ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第七條　地方長官ハ結核患者ニシテ療養ノ途ナキモノ及豫防上特ニ必要ト認ムルモノヲ前條ノ規定ニ依リ設置スル結核療養所ニ入所セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル入所ノ費用ノ負擔及徴收ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第六條ノ規定ニ依リ結核療養所ヲ設置スル公共團體ニ對シテ其ノ結核療養所ニ關シ公共團體ノ支出スル經費ノ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス

第九條　國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第六條ノ規定ニ依ラスシテ結核療養所ヲ設置スル公共團體又ハ公益法人ニ對シ其ノ結核療養所ニ關シ公共團體又ハ公益法人ノ支出スル經費ノ二分ノ一以内ヲ補助スルコトヲ得

第十條　結核療養所ヲ設置スル公共團體ニシテ第八條又ハ前條ノ規定ニ依ル補助ヲ受クルモノハ他ノ公共團體ノ委託アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ途ナキ結核患者ヲ其ノ結核療養所ニ收容スヘシ

第十一條　北海道地方費又ハ府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第四條第一項第二號ノ規定ニ依ル從業禁止又ハ第七條第一項ノ規定ニ依ル入所ニ因リ生活スルコト能ハサル者ニ對シ其ノ生活費ヲ補給スヘシ

第十二條　國庫ハ第四條第二項、第五條第二項又ハ前項ノ規定ニ依リ支

出ヲ爲ス北海道地方費又ハ府縣ニ對シ其ノ支出額ノ四分ノ一ヲ補助ス

第十三條　官廳、公署、官立公立ノ學校病院製造所等ニ於テハ其ノ長ハ第四條第一項第三號第四號及第五條第一項ノ規定ニ準シ結核豫防ニ關スル事項ヲ施行スヘシ

第十四條　第二條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第三條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十五條　第四條第一項又ハ第五條第一項ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正八年十月勅令第四四九號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行ス）

大正三年法律第十六號ハ之ヲ廢止ス

大正三年法律第十六號ニ依リ設置ヲ命シタル肺結核療養所ハ本法ニ依リ設置ヲ命シタル結核療養所ト看做ス

結核豫防法施行令（大正八年十月二十二日勅令第四百五十號）

第一條　結核豫防法第五條第一項ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ニ因リ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者又ハ使用者ニシテ同條第二項ノ補償金ノ交付ヲ受ケムトスルモノハ制限又ハ禁止アリタル日ヨリ六十日内ニ地方長官ニ文付ラ申請スヘシ

第二條　補償金ノ額ハ建物ノ使用ノ制限又ハ禁止ニ因リ通常生スヘキ損害ヲ限度トシ地方長官ニ於テ三人以上ノ評價人ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定ス

第三條　地方長官前條ノ規定ニ依リ補償金ノ額ヲ決定シタルトキハ之ヲ建物ノ所有者及使用者ニ通知シ且建物所在地ノ市町村長ヲシテ建物ノ所在地及補償金ノ額ヲ所有者及使用者ヲ除タノ外建物ニ關シ權利ヲ有スル者ニ通知セシメ且相當ノ期間公告セシムヘシ但シ其ノ期間ハ一月ヲ下ルコトヲ得ス

第四條　前條ノ規定ニ依ル公告期間ヲ經過シタルトキハ地方長官ハ速ニ補償金ヲ交付スヘシ但シ公告期間内ニ建物ニ關シ權利ヲ有スル者ヨリ申請アリタルトキハ期日ヲ指定シテ其ノ交付ヲ延期スルコトヲ得

第五條　結核豫防法金七條ノ規定ニ依ル入所ノ費用ハ結核療養所ヲ設置スル公共團體ノ負擔トス

第六條　結核療養所ノ管理者ハ前條ノ規定ニ拘ラス本人ヨリ入所ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得管理者本人ヨリ徵收スルコトヲ得スト認ムルトキハ其ノ扶養義務者ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ入所ノ費用ノ徵收ハ必要アルトキハ納付義務者ノ居住地又ハ財産所在地ノ地方長官又ハ市町村長ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第一項ノ入所ノ費用ニシテ指定ノ期間内ニ納付ナキモノニ付テハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第七條　結核豫防法第七條ノ規定ニ依リ入所セシメラレタル結核患者入所中死亡シタルトキハ遺留財産ヲ以テ入所ノ費用ノ全部又ハ一部ニ充ツルコトヲ得

第八條　結核豫防法第八條ノ規定ニ依ル國庫補助ハ左ノ區分ニ依ル

一　結核療養所ノ創設費及擴張費竝ニ之ニ伴フ初度調辨費ハ支出額ノ二分ノ一

二　其ノ他ノ諸費ハ支出額ノ四分ノ一

第九條　結核豫防法第九條ノ規定ニ依ル國庫補助ハ左ノ區分ニ依ル

一　結核療養所ノ創設費及擴張費竝之ニ伴フ初度調辨費ハ支出額ノ四分ノ一乃至二分ノ一

二　其ノ他ノ諸費ハ支出額ノ八分ノ一乃至六分ノ一

第十條　前二條ニ於テ支出額トハ事業ニ伴フ收入、國庫以外ノ補助金又ハ寄附金ノ額ヲ控除シタル支出精算額ヲ謂フ但シ他ノ公共團體ヨリ受ケタル委託患者收容料ノ額ハ之ヲ控除セス

前項ノ支出精算額ノ算出ニ付テハ公益法人ノ場合ニ於テハ寄附金ノ額ヲ控除セサルコトヲ得

第十一條　結核豫防法第十條ノ規定ニ依リ收容スヘキ委託患者ノ數ハ結核療養所ノ豫定收容人員ノ十分ノ一以内トス但シ内務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

委託患者ヲ收容シタル公共團體ハ患者ノ收容ヲ委託シタル公共團體ニ對シ委託患者收容料ヲ請求スルコトヲ得

委託患者收容料ノ額ハ患者ヲ收容スル公共團體ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

第十二條　收容シタル委託患者死亡シタルトキハ受託公共團體ハ其ノ旨ヲ委託公共團體ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受タタル公共團體ハ死亡者ノ相續人、扶養義務者又ハ家族ヲシテ直ニ其ノ死體ヲ引取ラシムヘシ

前項ノ規定ニ依リ死體ヲ引取ルヘキ者引取ヲ爲ササルトキ又ハ死體ノ引取人ナキトキハ委託公共團體ニ於テ其ノ死體ヲ引取ルヘシ此ノ場合ニ於ケル費用ハ其ノ公共團體ノ負擔トス

第十三條　結核豫防法第十一條ノ規定ニ依リ生活費ノ補給ヲ受クヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

一　從業ヲ禁止セラレタル者

二　從業ヲ禁止セラレ又ハ入所セシメラレタル者ノ配偶者又ハ子ニシテ現ニ之ト同一ノ家ニ在ル者但シ養子ハ家督相續人ニ限ル

三　前號ニ掲クル者ヲ除クノ外從業ヲ禁止セラレ又ハ入所セシメラレタル者ニ依リ扶養ヲ受クヘキ者ニシテ從業ヲ禁止セラレ又ハ入所セシメラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

第十四條　生活費ノ補給ハ生活費ノ補給ヲ受ケムトスル者ノ申請ニ依リ地方長官ニ於テ其ノ許否ヲ決定ス

第十五條　生活費ノ補給ハ生活ニ必要ナル限度ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條　生活費補給ノ程度、方法、期間、廢止及停止ニ關スル事項ハ地方長官ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

第十七條　結核豫防法第五條第二項ノ補償金ノ額ノ決定ニ對シ不服アル建物ノ所有者又ハ使用者ハ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ、同法第十一條ノ規定ニ依ル生活費補給ノ申請ヲ拒マレタル者又ハ其ノ生活費ノ補給ヲ廢止若ハ停止セラレタル者ハ處分ヲ受ケタル日ヨリ六十日内ニ内務大臣ニ訴訟スルコトヲ得

第十八條　本令中市町村長トアルハ市制第六條ノ市ニ在リテハ區長、市制町村制ノ施行セサル地ニ在リテハ市町村長ニ準スヘキ者トス

附　則

本令ハ結核豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正八年十一月一日ヨリ施行）

大正四年勅令第百二號ハ之ヲ止廢ス

結核豫防法施行規則（大正八年十月二十三日 内務省令第二十號）

【沿革】大正十二年二月省令第五號改正

第一條　結核豫防法第二條第一項ノ規定ニ依リ醫師ノ指示スヘキ消毒其ノ他ノ豫防方法ハ左ノ各號及第六條ノ規定ニ準據スヘシ

一　唾痰ハ唾壺、布片、紙片又ハ下水、便池其ノ他病毒傳播ノ危險ナキ場所ノ外ニ咯出セサルコト

二　唾壺内ノ唾痰ハ消毒シタル後之ヲ便池ニ投棄シ唾痰ノ附著シタル布片、紙片ハ之ヲ消毒シ又ハ便池ニ投棄スルコト

三　咳嗽、噴嚏ノ際ハ成ルヘク布片、紙片等ニテ口鼻ヲ覆フコト

四　患者ノ食器、手拭、寢具等ハ專用トシ衣服、寢具ハ時々日光ニ曝スコト

五　患者ノ居室ハ採光換氣ニ注意シ掃除ハ濕布ヲ以テ拭淨スル等塵埃ノ飛散ヲ防クコト

六　患者ノ常用シタル衣服、寢具、書籍其ノ他ノ物件ヲ他人ニ交付シ又ハ使用セシメムトスルトキハ消毒スルコト

七　患者居室又ハ住家ヲ轉シタルトキハ其ノ使用シタル居室又ハ住家ニシテ必要ト認ムル場所ヲ消毒スルコト

八　患者死亡シタルトキハ其ノ使用シタル居室、衣服、寢具、書籍其ノ他ノ物件ハ之ヲ消毒スルコト

第二條　學業、病院、製造所又ハ鐵道電車船舶自動車馬車等ノ發著待合所、劇場、寄席、活動寫眞館、旅店、下宿屋、料理店、理髮店、湯屋其ノ他地方長官ノ指定シタル多衆ノ集合スル場所又ハ客ノ來集ヲ目的トスル場所ニハ液體ヲ入レタル適當箇數ノ唾壺ヲ配置スヘシ

警察署長又ハ警察分署長ハ前項ノ規定ニ依リ配置シタル唾壺適當ナラス又ハ其ノ箇數十分ナラスト認ムルトキハ期日ヲ指示シテ其ノ變更又ハ增置ヲ命スルコトヲ得

唾壺内ノ唾痰ハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ投棄スルコトヲ得ス

第三條　前條ノ場所ニ於テハ唾壺以外ニ唾痰ヲ咯出スルコトヲ得ス

第四條　地方長官ノ指定シタル鑛泉場、海水浴場、轉地療養所ニ於ケル旅店ハ左ニ揭クル事項ヲ遵守スヘシ

一　營業ノ用ニ供スル寢具ハ白布ヲ以テ被包スルコト

二　前號ノ白布及貸浴衣ハ使用者ヲ更ムル毎ニ洗濯スルコト

三　結核患者若ハ其ノ疑アル患者ノ宿泊シタル室又ハ使用シタル物件ヲ他人ニ使用セシメムトスルトキハ消毒スルコト

前項ノ規定ハ前項以外ノ旅店及下宿屋、貸座敷其ノ他ノ場所ニシテ地方長官ノ指定シタルモノニ之ヲ準用ス

第五條　病院其ノ他患者ヲ收容スル場所ニ於テハ左ニ揭クル事項ヲ遵守スヘシ

一　結核患者ト他ノ患者トヲ同室ニ收容セサルコト

二　結核患者ヲ收容シタル病室ニハ消毒スルニ非サレハ他ノ患者ヲ收容セサルコト

三　結核病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ使用者ヲ更ムル毎ニ消毒スルコト

第六條　第二條第四條第五條ノ規定ニ依ル消毒ノ方法ハ大正十一年九月内務省令第二十四號ニ依ルヘシ但シ藥物ヲ以テ唾痰ヲ消毒スルニハ豐酸加石炭酸水（防疫用石炭酸五分豐酸一分水九十四分）ヲ使用スヘシ

第七條　結核豫防法第六條ノ規定ニ依リ療養所ノ設置ヲ命セラレタル公共團體ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ療養所ノ位置、設計及其ノ收容人員ヲ定ムヘシ其ノ變更ニ付亦同シ

第八條　結核豫防法第三條行政官廳ノ職務ハ警察署長又ハ警察分署長、同法第四條行政官廳ノ職務ハ内務大臣又ハ地方長官之ヲ行フ

結核豫防法結核豫防法施行令及本令ノ規定ニ依ル地方長官ノ職務ハ東京府ニ在リテハ警視總監之ヲ行フ

附　則

本令ハ結核豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正八年十一月一日ヨリ施行）

花柳病豫防法（昭和二年四月四日 法律第四十八號）

第一條　本法ニ於テ花柳病ト稱スルハ黴毒、淋病及軟性下疳ヲ謂フ

第二條　主務大臣ハ業態上花柳病傳播ノ虞アル者ヲ診療セシムル爲市又ハ特ニ必要ト認ムル其ノ他ノ公共團體ニ對シ診療所ノ設置ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設置スル診療所ニ於ケル診療ノ費用ノ負擔及徵收ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ前條ノ規定ニ依リ診療所ヲ設置スル市其ノ他ノ公共團體ニ對シ其ノ診療所ニ關シ市其ノ他ノ公共團體ノ支出スル經費ノ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス

第四條　主務大臣ハ期間ヲ指定シ適當ト認ムル公私立ノ診療所ヲ其ノ承諾ヲ得テ第二條第一項ノ規定ニ依リ設置スル診療所ニ代用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二條第二項及前條ノ規定ヲ準用ス

第五條　傳染ノ虞アル花柳病ニ罹レルコトヲ知リテ賣淫ヲ爲シタル者ハ三月以下ノ懲役ニ處ス

傳染ノ虞アル花柳病ニ罹レルコトヲ知リ又ハ知ルヘクシテ賣淫ノ媒合又ハ容止ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ場合ニ於テ傳染防止ニ付相當ノ方法ヲ講シタル者ハ其ノ刑ヲ減輕ス

第六條　醫師傳染ノ虞アル花柳病ニ罹レル者ヲ診斷シタルトキハ傳染ノ危險及傳染防止ノ方法ヲ指示スヘシ

第七條　花柳病ニ關スル賣藥ハ其ノ容器又ハ被包ニ其ノ成分及分量、成分不明ナルモノハ其ノ本質及製造法ノ要旨ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ發賣スルコトヲ得ス

賣藝營業者前項ノ規定ニ違反シタルトキハ地方長官ハ其ノ發賣ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第八條　前條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各條ニ付之ヲ定ム

花柳病ニ關スル賣藥ニシテ本法公布前ヨリ發賣シ來レルモノニ關シテハ當分ノ間第七條ノ規定ヲ適用セス

汚物掃除法（明治三十三年三月七日 法律第三十一號）

第一條　市内ノ土地ノ所有者使用者又ハ占有者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

其ノ地域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ

第二條　市ハ本法其ノ他ノ法令ニ依リ別段ノ義務者アル場合ヲ除クノ外其ノ區域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ

第三條　市ハ義務者ニ於テ蒐集シタル汚物ヲ處分スルノ義務ヲ負フ但シ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四條　市ニ於テ前條ノ處分ヲ爲シタル爲生スル收入ハ市ノ所得トス

第五條　地方長官ハ掃除ノ施行及實況ヲ監視セシムル爲必要ナル吏員ヲ市ニ置カシムルコトヲ得

第六條　當該吏員ハ掃除ノ實況ヲ監視シ必要ナル事項ヲ施行スル爲其事由ヲ告知シテ私人ノ土地ニ立入ルコトヲ得

第七條　本法又ハ本法ニ基キ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ當該吏員ニ於テ之ヲ施行シ其ノ費用ハ市ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ必要ノ期限内ニ履行シ得スト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ市ハ市稅ノ例ニ依リ其費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得

第九條　汚物ノ種類汚物掃除竝清潔保持ノ方法及施設ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第十條　本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條　地方長官ハ區町村、町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ町村ニ準スヘキ地又ハ其ノ一部ヲ指定シ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用スルコトヲ得

汚物掃除法施行規則

（明治三十三年三月八日内務省令第五號）

【沿革】明治四十三年四月省令第一三號、大正六年十月同第一一號改正

第一條　汚物掃除法ニ依リ掃除スヘキ汚物ハ塵芥泥汚水及屎尿トス

第二條　市内ノ土地ノ占有者ハ其ノ地域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スヘシ

建物ノ所有者ハ其ノ建物アル土地ノ清潔保持ノ爲必要ナル溝渠ヲ築造修繕スヘシ

建物ナキ土地ノ所有者ハ其ノ土地ノ清潔保持ノ爲必要ナル溝渠ヲ築造修繕スヘシ

第三條　掃除義務者ハ覆蓋アル容器ヲ備ヘ掃除シタル塵芥ヲ其ノ容器ニ蒐集スヘシ

汚泥ハ之ヲ適當ノ容器ニ蒐集スヘシ

土地ニ定著シタル塵芥溷ハ之ヲ設置スルコトヲ得ス

第四條　溝渠ノ汚水ハ之ヲ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排泄スヘシ

地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ前項ニ拘ハラス別段ノ施設ヲ許可スルコトヲ得

地方長官ハ汚水ノ性質ニ依リ公共溝渠ニ排泄セシムヘカラスト認ムルトキハ適當ノ施設ヲ爲サシムヘシ

第五條　市ハ掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ヲ一定ノ場所ニ運搬シ塵芥ハ成可之ヲ燒却スヘシ

戶口稠密ナル地區ニ關シテハ市ハ毎日一回各戶ヨリ汚物ヲ搬出スヘシ

第六條　市ハ第四條ノ溝渠ノ汚水ヲ排泄スル爲必要ナル公共溝渠ヲ築造修繕スヘシ

公共溝渠ノ汚水ハ之ヲ適當ノ場所ニ排泄スヘシ

第七條　公共溝渠ニ沿フタル土地ニ於テ公共溝渠ニ害ヲ及ホスヘキ虞アル行爲ヲ爲ス者ハ其ノ害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲スヘシ

第八條　市ハ公共便所ヲ築造修繕スヘシ

第九條　市ハ其ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除、掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ノ運搬及其ノ汚物ノ處分ニ關シ方法順序ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十條　汚物掃除法第五條ニ依リ市ニ設置スル掃除監視吏員ノ職務ハ左ノ如シ

一　汚物掃除法第二條及第三條ノ事項ニ關シ掃除人ヲ指揮監督ス

二　公共溝渠公共便所塵芥燒却場其ノ他掃除ニ關スル施設ヲ巡視ス

三　汚物掃除法第一條ニ依リ私人ノ履行スル掃除ノ實況及溝渠便所其ノ他掃除ニ關スル私人ノ設置ヲ巡視ス

四　汚物掃除法第七條ニ依リ履行期間ヲ指定シテ私人ニ戒告シ及私人ノ履行スヘキ事項ヲ施行ス

第十一條　市ハ掃除監視吏員ノ職務章程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條　掃除監視吏員汚物掃除法第六條ニ依リ私人ノ土地ニ立入ルハ日出後日沒前ニ於テシ制服ヲ著スル者ノ外證票ヲ携帶スヘシ

第十三條　掃除監視吏員汚物掃除法第七條ニ依リ戒告スルトキハ職務章程ニ別段ノ規定アル場合ノ外市長ノ指揮ヲ受クヘシ

戒告ハ附錄書式ニ依リ書面ヲ以テ義務者ノ家ニ送達スヘシ

第十四條　汚物掃除法第八條ニ依リ市ニ於テ同法第七條ノ費用ヲ議務者ヨリ徵收スルトキハ實費ノ内譯ヲ附シタル令狀ヲ發スヘシ

令狀ノ書式及交付ハ市稅ノ令狀ニ準スヘシ

第十五條　汚物ノ爲又ハ溝渠便所其ノ他掃除ニ關スル施設ノ爲衛生上危害ヲ受クル者ハ掃除監視吏員ニ申告スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ掃除監視吏員ハ職務章程ニ定ムル期間ニ之ヲ臨檢スヘシ

第十六條　本則ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ掃除監視吏員ノ指定シタル期間ニ履行セサル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十七條　公共溝渠ニ塵芥土石ヲ投棄シタル者又ハ屎尿ヲ注流シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附　則

第十八條　下水道ヲ布設シタル地ニハ溝渠ニ關スル本則ノ規定ヲ施行セス

第十九條　公共道路ノ掃除ハ當分ノ内從前ノ成依ニ依ル但シ公共道路ヲ掃除シタル塵芥ニ關シテハ第三條第五條及第九條ヲ適用ス

第二十條　地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ第二條ノ義務ノ負擔區分ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十一條　地方長官ハ郡村ニ接近シタル地區ノ義務者又ハ廣大ナル土地ヲ占有スル義務者ノ掃除シタル汚物ノ處分ニ關シ第三條及第五條ニ拘ハラス別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

汚物掃除法施行前廳府縣令ノ規定ニ依リ一定ノ構造設備ヲ爲シタル塵芥溷ニシテ汚物掃除法施行ノ際現ニ存スルモノハ地方長官ニ於テ當分ノ内其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

第二十二條　屎尿ニハ當分ノ内第五條ノ規定ヲ適用セス掃除義務者ニ於

チ之ヲ處分スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ地方長官ニ於テ必要ト認メタル場合ニハ市ヲシテ處分セシムヘシ

前項但書ノ場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ處分方法ヲ具シ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條　地方長官ハ汚物掃除法施行後一箇年以內ヲ限リ公共便所ニ關スル市ノ義務ヲ延期スルコトヲ得

第二十四條　地方長官ハ本則ニ定ムルモノノ外汚物ノ掃除溝渠便所ノ構造其ノ他清潔保持ノ方法及施設ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第二十五條　東京市及八王子市ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監及東京府知事之ヲ行フ

附　條

一　戒告書

（記載例）

（臺所流ヨリ公共溝渠ニ通スル小溝ノ處處破壞セル部分ヲ修繕スルコト）

（井戸流ノ板ノ腐朽セルヲ改築スルコト又ハ該流ヨリ溝渠迄ノ間ニ水路ナキヲ以テ溝渠ヲ築造スルコト）

（東側ノ緣ニ沿フテ設ケタル洗面所ノ下ノ吸込ミトナリタル場所ニ排水上適當ノ施設ヲ爲スコト）

一　履行スヘキ期限送達ノ日（又ハ時）ヨリ何日（又ハ何時間）以內

右汚物掃除法第七條ニ依リ戒告ス

年　月　日

氏名　殿

年　月　日　時送達

氏名

第九編　社會施設

第十編　會計、幣制、證券

第九編　社會施設

第一章　食糧、住宅、勞働

△米穀法……一
△住宅組合法……一
△住宅組合法施行規則……二
△住宅組合定款例……四
△借地法……七
△借家法……九
△借地法及借家法施行期日及施行地區ニ關スル件……一〇
△借地借家調停法……一一
△借地借家調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件……一三
△借地借家調停ノ手數料ニ關スル件……一三
△借地借家臨時處理法……一四
△借地借家臨時處理法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件一五
△小作調停法……一五
△小作調停法ノ施行期日及施行外地區指定ノ件……一九
△小作調停ノ手數料等ニ關スル件……一九
△勞働爭議調停法……一九
△勞働爭議調停法施行令……二一
△勞働爭議調停法第一條第一項第六號ノ事業ヲ定ムルノ件……二二

第二章　郵便年金

△郵便年金法……二三
△郵便年金令……二四

第三章　救恤及保護

△水難救護法……二六
△水難救護法施行細則……三〇
△北海道舊土人保護法……三一
△北海道舊土人保護法施行規則　三二

第四章　行旅病感化

△行旅病人及行旅死亡人取扱法……三二
△少年法……三四
△感化法……三九
△感化法施行規則……四一
△國立感化院令……四一
△國立感化院規則……四二
△矯正院法……四三

第十編　會計、幣制、證券

第一章　會計

第一節　普通會計

△會計法……一
△會計規則……五

第二節　特別會計

△米穀需給調節特別會計法……二二
△米穀需給調節特別會計規則……二三

第三節　預金

△預金部預金法……二四
△預金部預金取扱規程……二四
△入札又ハ契約ノ保證金ニ關スル件……二六
△政府ニ納ムベキ保證金其ノ他ノ擔保ニ充用スル國債ノ價格ニ關スル件……二八

第四節　國有財産

△國有財産法……二九
△國有財産法施行令……三二
△國有財産法施行規則……三六

第四節　計理士

△計理士法……三六

第二章　幣制

第一節　貨幣

△貨幣法……三八

第二節　銀行券

△兌換銀行券條例……四〇
△横濱正金銀行ノ支那ニ於ケル銀行券ノ發行ニ關スル件……四一

第三章　證券

△有價證券割賦販賣業法……四一
△有價證券割賦販賣業法施行細則……四三

第十編　會計、幣制、證券

第一章　會計

第一節　普通會計

△會計法……一
△會計規則……五

第二節　特別會計

△米穀需給調節特別會計法……二二
△米穀需給調節特別會計規則……二三

第三節　預金

△預金部預金法……二四
△預金部預金取扱規程……二四
△入札又ハ契約ノ保證金ニ關スル件……二八
△政府ニ納ムベキ保證金其ノ他ノ擔保ニ充用スル國債ノ價格ニ關スル件……二八

第四節　國有財産

△國有財産法……二九
△國有財産法施行令……三一
△國有財産法施行規則……三六

第四節　計理士

△計理士法……三六

第二章　幣制

第一節　貨幣

△貨幣法……三八

第二節　銀行券

△兌換銀行券條例……四〇
△横濱正金銀行ノ支那ニ於ケル銀行券ノ發行ニ關スル件……四一

第三章　證券

△有價證券割賦販賣業法……四一
△有價證券割賦販賣業法施行細則……四三

第九編　社會施設

第一章　食糧、住宅、勞働

米穀法（大正十年四月二日法律第三十六號）

【沿革】　大正十四年三月法律第三六號改正

第一條　政府ハ米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節スル爲必要アリト認ムルトキハ米穀ノ買入、賣渡、交換、加工又ハ貯藏ヲ爲スコトヲ得

第二條　政府ハ米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ米穀ノ輸入稅ヲ增減若ハ免除シ又ハ其ノ輸入若ハ輸出ヲ制限スルコトヲ得

第三條　政府ハ帝國內ニ於テ第一條ノ規定ニ依リ米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ爲サムトスルトキハ其ノ價格ヲ告示スヘシ但シ米穀ノ買換、貯藏米穀整理ノ爲ニスル賣渡其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ムヘシ

第四條　政府ハ米穀ノ數量又ハ市價調節上米穀現在高調査ノ必要アリト認ムルトキハ米穀ノ生產者、取引業者、倉庫業者其ノ他占有者ニ對シ調査ニ必要ナル事項ノ報告ヲ命シ又ハ官吏若ハ吏員ヲシテ其ノ營業所、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

第五條　前條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ當該官吏若ハ吏員ノ職務ノ執行ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十年四月四日官報）

住宅組合法（大正十年四月十一日法律第六十六號）

第一條　住宅組合ハ組合員ニ住宅ヲ供給スルヲ以テ目的トス

住宅組合ハ法人トス

第二條　住宅組合ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事項ヲ行フコトヲ得

一　住宅用地ノ取得、造成若ハ借受又ハ組合員ニ對スル貸付若ハ讓渡

二　住宅ノ建設又ハ購入

第三條　本法ニ於テ住宅ト稱スルハ住居ノ用ニ供スル家屋及其ノ附屬設備ヲ謂フ

前項ノ附屬設備ノ種類及範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　組合ノ供給スル組合員ノ住宅ハ一組合員ニ付一戶ニ限ル

第五條　住宅組合ノ供給スル住宅ニ屬スル坪數其ノ他ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　組合員ノ持分ハ之ヲ相續スルコトヲ得

第七條　組合員住宅ノ所有權ヲ取得シタル後出資拂込ノ完了ニ至ル迄ノ間左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ對シ住宅ノ所有權ヲ組合ニ讓渡スルコトヲ請求スルコトヲ得

一　出資拂込ノ義務ヲ怠リタルトキ

二　組合ノ定ムル住宅使用條件ニ違反シタルトキ

第八條　組合員ハ前條ノ規定ニ依リ其ノ住宅ノ所有權ヲ失ヒタルトキハ組合ヲ脫退ス

第九條　組合員出資拂込ノ完了前住宅ノ所有權ヲ取得シタルトキハ組合ハ組合員ヲシテ未拂込出資金額ニ付其ノ住宅ノ上ニ抵當權ヲ設定セシムルコトヲ得

第十條　住宅ハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ火災保險ニ付スヘシ

第十一條　住宅組合ノ住宅ノ建設、購入若ハ住宅用地ノ取得又ハ組合ト組合員トノ間ニ於ケル住宅若ハ其ノ用地ノ所有權移轉ニ關シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

第十二條　北海道地方費、府縣又ハ市町村ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ住宅組合ニ對シ住宅資金ヲ貸付スルコトヲ得

第十三條　國、北海道地方費、府縣、郡又ハ市町村ノ所有ニ屬スル土地ハ隨意契約ニ依リ住宅組合ニ之ヲ賣拂又ハ貸付スルコトヲ得

第十四條　住宅組合ハ主務大臣、地方長官、郡長及市長之ヲ監督ス

第十五條　本法中郡、郡長トアルハ郡長ヲ置カサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトシ市町村、市長トアルハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

第十六條　民法第四十四條第一項、第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第五十九條乃至第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條、第六十五條第一項、第六十六條、第七十條、第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十一條ノ規定ハ同法第四十五條第三項及第四十八條第一項中期間ニ關スル規定ヲ除クノ外住宅組合ニ付之ヲ準用ス

産業組合法ハ第一條、第五條、第十六條、第三十二條、第三十四條、第三十八條、第四十三條、第四十四條、第四十六條乃至第四十六條ノ三、第五十九條、第六十九條、第七十五條、第七十六條乃至第九十二條及第百六條ノ規定ヲ除クノ外住宅組合ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年七月勅令第三〇三號ヲ以テ同年同月十日ヨリ施行）

住宅組合法施行規則

（大正十年七月六日　內務省令第二十一號）

第一條　住宅組合ノ區域ハ住宅ヲ供給スル地域ニ依リ道府縣ノ區域內ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第二條　住宅組合ノ設立許可ノ申請書ニハ定款ノ外事業方法書ヲ添附スヘシ

前項ノ事業方法書ニ記載スヘキ前項ハ地方長官之ヲ定ム

第三條　住宅組合ハ設立當初ノ組合員全員ニ對スル事業計畫ヲ完了スヘキ時期ニ據リ其ノ存立期間ヲ定ムヘシ

第四條　住宅組合法第三條ニ規定スル附屬設備ハ家屋ニ相應スル門、牆塀、物置、井戸其ノ他居住ノ爲必要ナル設備ニ限ル

第五條　住宅組合ノ供給スル住宅ハ一戸ニ付家屋各階ノ床面積合計五十坪ヲ超ユルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條　住宅組合ハ定款ヲ以テ住宅ノ使用及讓渡ノ時期及手續ヲ定ムヘシ

第七條　住宅ノ所有權ノ讓渡ニ關シテハ出資金ヲ以テ其ノ對價トス

第八條　組合員タル資格ニ關スル定款ノ規定ニハ他ノ住宅組合ノ組合員ニ非サルコトヲ要スル旨ヲ定ムヘシ

第九條　住宅組合ハ持分ノ相續又ハ讓受ニ依ル場合ヲ除クノ外新ニ組合員ヲ加入セシムルコトヲ得ス但シ現ニ供給スヘキ住宅アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條　住宅組合法第二條ノ規定ニ依ル住宅用地ノ貸付又ハ讓渡ニ關スル事項ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十一條　出資一口ノ金額ハ二百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條　第一回拂込ノ金額ハ出資一口ニ付其ノ金額ノ二十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ五十分ノ一迄下スコトヲ得

第十三條　事業方法書ヲ變更セムトスルトキハ總會ノ決議ヲ經地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條　住宅組合出資拂込ノ完了ニ至ラサル組合員ニ住宅ノ所有權ヲ讓渡スル場合ニ在リテハ組合ハ之ニ對シ讓渡ノ條件トシテ未拂込出資金額ニ付其ノ住宅ノ上ニ抵當權ヲ設定シ又ハ相當ノ擔保ヲ提供セシムヘシ

第十五條　住宅組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ルヘシ

第十六條　住宅組合ノ理事ハ毎年度豫算及事業計畫書ヲ調製シ年度開始ノ二月前迄ニ總會ノ決議ヲ經ヘシ但シ初年度ノ豫算及事業計畫書ニ付テハ設立許可ノ後二月內ニ總會ノ決議ヲ經ヘシ

第十七條　住宅組合ノ理事ハ毎年度決算書ヲ調製シ次ノ通常總會ノ承認ヲ經ヘシ

第十八條　住宅組合ノ豫算、事業計畫書、決算書及事業報告書ハ總會ノ決議又ハ承認ヲ經タル後一月內ニ地方長官ニ之ヲ提出スヘシ

第十九條　定款變更ノ認可申請書ニハ其ノ變更理由書及總會ノ決議錄ヲ添附スヘシ

定款變更ニシテ總組合員ノ同意ヲ要スル場合ニ在リテハ其ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十條　登記又ハ組合原簿ノ記載ニ關スル届書ニハ理事又ハ清算人署名捺印スヘシ

第二十一條　地方長官ニ提出スル組合原簿ニハ其ノ記載事項ニ付監事ノ證明書ヲ添附スヘシ其ノ記載事項變更ノ届書ニ付亦同シ但シ組合員ノ氏、名又ハ住所ノ變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

無限責任組合ニ於テ住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル產業組合法第十六條ノ六第二項ノ規定ニ依ル組合原簿提出ノ場合ニ在リテハ總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲモ添附スヘシ

第二十二條　理事又ハ監事ノ變更ノ届書ニハ其ノ變更カ總會ノ決議ニ依ル場合ニ在リテハ其ノ決議錄其ノ他ノ場合ニ在リテハ監事ノ證明書ヲ添附スヘシ

第二十三條　出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ認可申請書ニハ第十九條ニ揭ケタル書類ノ外財產目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第二十四條　登記又ハ組合原簿ノ記載ニ關スル届書ニハ住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル產業組合法第四十條第二項及第四十一條第二項ノ手續ヲ要スル場合ニ在リテハ其ノ手續ヲ踐ミタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十五條　住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル產業組合法第五十八條第三項ノ場合ニ於ケル定款變更ノ認可申請書ニハ第二

十三條ニ掲ケタル書類ヲ添附スヘシ

第二十六條　組織變更ニシテ組合員ノ責任ヲ減少スル場合ニ在リテハ其ノ認可申請書ニ第二十三條ニ掲ケタル書類ヲ添附スヘシ

第二十七條　組合員ノ保證金額ヲ減小シ又ハ住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル産業組合法第五十八條第三項ノ規定ニ依ル責任期間ノ短縮ヲ爲シタル場合ニ於テ住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル産業組合法第四十條第二項及第四十一條第二項ノ手續ヲ終リタルトキハ遲滯ナク之ヲ證スル書面ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第二十八條　總會ノ決議ニ因ル解散ノ認可申請書ニハ理由書、總會決議條、財産目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第二十九條　住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル産業組合法第六十二條第一項第一號又ハ第四號ノ事由ニ因ル解散ノ届書ニハ其ノ事由ヲ記載シ證事ノ證明書ヲ添附スヘシ

第三十條　合併ノ認可申請書ニハ第二十三條ニ掲ケタル書類並合併契約書、合併後存續スル住宅組合又ハ合併ニ因リテ設立スル住宅組合ノ定款及設立者ハ各住宅組合ニ於テ選任セラレタル者ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

合併ニ付總組合員ノ同意ヲ要スル場合ニ在リテハ前項ノ書類ノ外其ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十一條　第二十二條ノ規定ハ清算人ノ選任及其ノ變更ノ届書ニ之ヲ準用ス

第三十二條　清算人ハ財産目錄及貸借對照表ニ付總會ノ承認ヲ得タルトキハ遲滯ナク地方長官ニ之ヲ提出スヘシ

第三十三條　清算結了ノ届書ニハ總會ノ承認ヲ經タル決算報告書ヲ添附スヘシ

附　則

本令ハ住宅組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

住宅組合定款例

（大正十年七月二十日官報）

内務省ノ調査ニ係ル住宅組合ノ定款例左ノ如シ（内務省）

住宅組合定款例

有限責任何々住宅組合定款

第一章　總則

第一條　本組合ハ住宅ノ建設又ハ購入ヲ爲シ之ヲ組合員ノ使用ニ供シ及其ノ所有權ヲ護渡スルヲ以テ目的トス

第二條　本組合ハ有限責任何々住宅組合ト稱ス

第三條　本組合ノ組織ハ有限責任トス

第四條　本組合ノ區域ハ何府縣郡市區町村トス

第五條　本組合ノ事務所ハ何府縣郡市區町村番地ニ之ヲ置ク

第六條　本組合ノ公告ハ何々ニ掲示（登載）シテ之ヲ爲ス

第七條　本組合ノ存立時期ハ何年トス

第八條　本組合ノ財産ニ付組合員ノ有スル持分ハ其ノ拂込濟出資金額ニ應シ之ヲ算定ス

第二章　組合員

第九條　本組合ノ組合員ハ左ノ各號ニ該當スル者ニ限ル

一　出ト金完納ノ資力アリ又ハ出資金ノ完納ニ付適當ナル保證人アルコト

二　他ノ住宅組合ノ組合員ニ非サルコト

三　本組合ノ區域内ニ於テ居住ニ適スル住宅ヲ所有セサルコト

第十條　新ニ組合ニ加入セムトスル者ニ對スル承諾ハ總會ノ決議ニ依ル

第十一條　組合長ハ持分ノ相續又ハ讓受ニ依ル加入ノ場合ヲ除クノ外加入者ヲシテ遲滯ナク第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

第十二條　持分ノ相續ヲ爲シタル者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ組合長ニ屆出ツヘシ

第十三條　組合員持分ヲ讓渡セムトスル場合ニ於ケル承諾ハ總會ノ決議ニ依ル但シ讓渡ヲ受ケムトスル者カ組合員ナルトキハ組合長限之ヲ爲スコトヲ得

第十四條　組合員住宅ノ所有權ヲ取得スル前左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ除名ス

一　二月以上出資拂込ノ義務ヲ怠リ組合ノ戒告ヲ受ケタル後一月内ニ其ノ義務ヲ履行セサルトキ

二　第三十二條ニ規定スル住宅使用條件ニ違反シ組合ノ戒告ヲ受クルモ仍之ニ從ハサルトキ

組合員前項ノ規定ニ依リ除名セラレタルトキハ速ニ住宅ノ引渡ヲ爲スヘシ

第十五條　組合員住宅ノ所有權ヲ取得シタル後出資拂込ノ完了ニ至ル迄ノ間前條第一項各號ノ一ニ該當スルトキハ組合長ハ住宅ノ所有權ヲ組合ニ讓渡スルコトヲ請求スヘシ

組合員前項ノ規定ニ依リ住宅ノ所有權讓渡ノ請求ヲ受ケタル時ハ速ニ其ノ所有權ヲ組合ニ讓渡シ且ツ住宅ノ引渡ヲ爲スヘシ

第十六條　組合員除名又ハ住宅組合法第八條ノ事由ニ因リ組合ヲ脱退シタル場合ニ於テモ其ノ脱退ニ至ル迄ノ間ノ出資拂込其ノ他組合ニ對シ負擔シタル義務ハ之ヲ免ルルコトヲ得ス

第十七條　出資拂込ノ完了前ニ脱退シタル組合員ハ脱退後其ノ住宅ノ引渡迄ノ間ニ於ケル住宅使用料ヲ本組合ニ支拂フヘシ

前項使用料ノ額ハ組合員トシテ當該期間ニ拂込ムヘカリシ金額ト同額トス

第十八條　持分ノ讓渡ニ因リテ脱退シタル場合ヲ除クノ外住宅ノ所有權ヲ取得セス又ハ取得後組合ニ之ヲ讓渡シテ脱退シタル組合員ニ對シテハ其ノ住宅ノ供給ヲ受ケタル以前ニ於ケル拂込濟出資金ノ十分ノ八ニ相當スル金額ノ拂戻ヲ爲ス但シ脱退ノ事情ニ依リ總會ノ決議ヲ以テ拂戻金額ヲ增減スルコトアルヘシ

第三章　出資

第十九條　出資一口ノ金額ハ何圓トス

第二十條　組合員ハ出資何口以上何口以下ヲ有スヘシ

第二十一條　出資第一回ノ拂込金額ハ一口ニ付何圓トス

第二十二條　出資第二回以後ノ拂込ハ左ノ區別ニ依リ毎月何日限之ヲ爲スヘシ

一　住宅ノ供給ヲ受クル前ニ在リテハ毎月第一回拂込金額ノ十分ノ一ニ相當スル金額

二　住宅ノ供給ヲ受ケタル後ニ在リテハ出資金額及之ニ對スル利子相當額ノ合算額ヨリ住宅ノ供給ヲ受クル前ニ於ケル拂込金額ヲ控除シタル殘額ヲ組合存立期間滿了迄ノ月數ニ依リ均等ニ分割シタル金額

前項第二號ニ規定スル利子相當額ノ算定方法ハ總會決議ニ依リ之ヲ定ム

第二十三條　前條ノ規定スル拂込金ノ拂込ヲ怠リタルトキハ期限後一日ニ付其ノ拂込ムヘキ金額ノ千分ノ一ノ過怠金ヲ徵收ス

第二十四條　組合員ハ組合長ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ出資口數ノ減少又ハ增加ヲ爲スコトヲ得ス

第四章　事業

第二十五條　本組合ハ第一條ノ目的ヲ達スル爲住宅用地ノ購入、造成又ハ借受ヲ爲シ之ヲ當該住宅ノ供給ヲ受クル組合員ニ貸付シ又ハ讓渡スルコトアルヘシ

第二十六條　組合員本組合ノ貸付又ハ讓渡スル住宅用地以外ノ土地ニ於テ住宅ノ供給ヲ受ケムトスルトキハ組合長ノ承諾ヲ受クヘシ

第二十七條　住宅ノ設計ハ出資金額ニ應シ當該組合員ノ希望ヲ參酌シテ理事之ヲ定ム

第二十八條　住宅供給ノ順位ハ組合員ノ協議ニ依リ之ヲ定ム其ノ協議調ハサルトキハ抽籤ニ依ル

第二十九條　住宅ノ所有權ハ出資金額二分ノ一以上ヲ拂込ミタルトキ之ヲ當該組合員ニ讓渡ス但シ組合及組合員ノ協議ニ依リ出資拂込ノ完了ニ至ル迄之ヲ延期スルコトヲ得

第三十條　出資拂込ノ完了セサル組合員ニ對シ住宅ノ所有權ヲ讓渡スル場合ニ於テハ組合長ハ其ノ組合員ヲシテ未拂込出資金額ニ其ノ住宅ノ上ニ抵當權ヲ設定セシメ所有權移轉ノ登記ト同時ニ其ノ登記ヲ爲サシムヘシ

第三十一條　組合員出資拂込ノ完了前住宅ノ所有權ヲ取得シタルトキハ出資拂込ノ完了ニ至ル迄ノ間之ヲ他ニ讓渡スルコトヲ得ス

第三十二條　住宅ノ供給ヲ受ケタル組合員ハ出資拂込ノ完了ニ至ル迄ノ間其ノ住宅ノ使用ニ關シ左ノ各號ノ條件ヲ遵守スヘシ

一　相當ノ事由アル場合ヲ除クノ外他人ヲシテ其ノ住宅ヲ使用セシメサルコト

二　修繕其ノ他住宅ノ保存上必要ナル管理ヲ爲スコト

三　理事ノ承認ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外住宅ノ模樣替ヲ爲ササルコト

前項各號ノ外特ニ必要ナル條件ハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

第三十三條　本組合ノ貸付ニ係ル住宅用地ノ借賃ハ毎月出資ノ拂込ト同時ニ之ヲ拂込ムヘシ

第三十四條　組合員ニ對スル住宅用地ノ讓渡ハ月賦賣却ノ方法ニ依リ其ノ月割代金ハ毎月出資ノ拂込ト同時ニ之ヲ拂込ムヘシ但シ組合員ノ希望ニ依リ月賦賣却ノ方法ニ依ラサルコトアルヘシ

第三十五條　本組合ノ供給スル住宅ハ本組合ニ於テ之ヲ火災保險ニ付ス其ノ保險金額ハ保險價額ニ依ル

保險料ハ當該組合員ノ負擔トシ月割ヲ以テ毎月出資ノ拂込ト同時ニ之ヲ拂込ムヘシ

第三十六條　本組合ノ經費ハ出資金額ニ應シ組合員之ヲ分擔シ毎月出資ノ拂込ト同時ニ之ヲ拂込ムヘシ

第五章　機關

第三十七條　本組合ニ理事何名監事何名ヲ置ク

第三十八條　理事中一名ヲ組合長トシ理事ノ互選ニ依リ之ヲ定ム

組合長ハ事務ヲ總理シ組合ヲ代表ス組合長事故アルトキハ理事中ノ年長者之ヲ代理ス

第三十九條　理事ノ任期ハ何年監事ノ任期ハ何年トス但シ再選ヲ妨ケス

補闕ニ依リ就任シタル理事又ハ監事ハ前任者殘任期間在任ス理事及監事ハ任期滿了後ト雖後任者ノ就任セル迄仍其ノ職務ヲ行フ

第四十條　理事又ハ監事ハ通常總會ニ於テ之ヲ選任ス但シ猶豫スルコト能ハサル場合ニ限リ臨時總會ニ於テ之ヲ行フ

總會ニ於テ理事又ハ監事ノ解任ニ決議スルトキハ同時ニ其ノ補闕選任ヲ行フ

第四十一條　通常總會ハ毎年一回一月中ニ之ヲ開ク

第四十二條　總會ノ招集ハ書面ヲ以テ之ヲ組合員ニ通知ス

第四十三條　總會ハ組合員ノ半數以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條　總會ハ組合長ヲ以テ議長トス組合長事故アルトキハ理事中ノ年長者之ヲ代理ス

監事ノ招集シタル總會ハ招集シタル監事中ノ年長者ヲ以テ議長トス

第四十五條　組合員ハ何人以上ヲ代理シテ議決權ヲ行フコトヲ得ス

第四十六條　總會ニ於テハ決議錄ヲ作リ會議ノ顚末及出席者ノ員數ヲ記載スヘシ

決議錄ニハ議長及議長ノ指名シタル出席者二名以上署名スヘシ

第六章　解散

第四十七條　解散ノ決議ハ組合員三分ノ二以上出席シタル總會ニ於テ出席者四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四十八條　本組合解散ノ場合ニ於ケル殘餘財產ノ處分方法ハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

第七章　補則

第四十九條　本定款ノ施行ノ爲必要ナル細則ハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

第五十條　本組合設立當時ノ理事及監事ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ第一回ノ總會ニ於テ之ヲ改選ス

理事　何某
理事　何某
理事　何某
監事　何某
監事　何某

備考

一　本定款例ハ有限責任ノ組合ニ關スル例ヲ示セルモノナルヲ以テ無限責任又ハ保證責任ノ組合ノ定款ヲ作成スル場合ニハ本例ニ多少ノ補修ヲ加フルヲ要スヘシ

二　本例ハ可成具體的ノ事例ヲ示スコトトセリ從テ實際定款ヲ作成スル場合ニハ其ノ組合ノ經營振ニ應シ適宜變更ヲ加フルヲ要スル事項アルヘシ

三　本例第三十三條及第三十四條ノ規定ハ實際組合ニ於テ住宅用地ノ貸付又ハ讓渡ノ事業ヲ行フ場合ニ限リ要スル規定ナリ

借地法（大正十年四月七日法律第四十九號）

第一條　本法ニ於テ借地權ト稱スルハ建物ノ所有ヲ目的トスル地上權及賃借權ヲ謂フ

第二條　借地權ノ存續期間ハ石造、土造、煉瓦造又ハ之ニ類スル堅固ノ建物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付テハ六十年、其ノ他ノ建物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付テハ三十年トス但シ建物カ此ノ期間滿了前朽廢シタルトキハ借地權ハ之ニ因リテ消滅ス

契約ヲ以テ堅固ノ建物ニ付三十年以上、其ノ他ノ建物ニ付二十年以上ノ存續期間ヲ定メタルトキハ借地權ハ前項ノ規定ニ拘ラス其ノ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第三條　契約ヲ以テ借地權ヲ設定スル場合ニ於テ建物ノ種類及構造ヲ定メサルトキハ借地權ハ堅固ノ建物以外ノ建物ノ所有ヲ目的トスルモノト看做ス

第四條　借地權消滅ノ報合ニ於テ建物アルトキハ借地權者ハ契約ノ更新ヲ請求スルコトヲ得

土地所有者カ契約ノ更新ヲ欲セサルトキハ時價ヲ以テ建物其ノ他借地權者カ權原ニ因リテ土地ニ附屬セシメタル物ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第五條　當事者カ契約ヲ更新スル場合ニ於テハ借地權ノ存續期間ハ更新ノ時ヨリ起算シ堅固ノ建物ニ付テハ三十年、其ノ他ノ建物ニ付テハ二十年トス此ノ場合ニ於テハ第二條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

當事者カ前項ニ規定スル期間ヨリ長キ期間ヲ定メタルトキハ其ノ定ニ從フ

第六條　借地權者借地權ノ消滅後土地ノ使用ヲ繼續スル場合ニ於テ土地所有カ遲滯ナク異議ヲ述ヘサリシトキハ前契約ト者同一ノ條件ヲ以テ更ニ借地權ヲ設定シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

第七條　借地權ノ消滅前建物カ滅失シタル場合ニ於テ殘存期間ヲ超エテ存續スヘキ建物ノ築造ニ對シ土地所有者カ遲滯ナク異議ヲ述ヘサリシトキハ借地權ハ建物滅失ノ日ヨリ起算シ堅固ノ建物ニ付テハ三十年間、其ノ他ノ建物ニ付テハ二十年間存續ス但シ殘存期間之ヨリ長キトキハ其ノ期間ニ依ル

第八條　前二條ノ規定ハ借地權者カ更ニ借地權ヲ設定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條　前七條ノ規定ハ臨時設備其ノ他一時使用ノ爲借地權ノ設定シタルコト明ナル場合ニハ之ヲ適用セス

第十條　第三者カ賃借權ノ目的タル土地ノ上ニ存スル建物其ノ他借地權者カ權原ニ因リテ土地ニ附屬セシメタル物ヲ取得シタル場合ニ於テ賃貸人カ賃借權ノ讓渡又ハ轉貸ヲ承諾セサルトキハ賃貸人ニ對シ時價ヲ以テ建物其ノ他借地權者カ權原ニ因リテ土地ニ附屬セシメタル物ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第十一條　第二條、第四條乃至第八條及前條ノ規定ニ反スル契約條件ニシテ借地權者ニ不利ナルモノハ之ヲ定メサルモノト看做ス

第十二條　地代又ハ借賃カ土地ニ對スル租稅其ノ他ノ公課ノ增減若ハ土地ノ價格ノ昂低ニ因リ又ハ比隣ノ土地ノ地代若ハ借賃ニ比較シテ不相當ナルニ至リタルトキハ契約ノ條件ニ拘ラス當事者ハ將來ニ向テ地代又ハ借賃ノ增減ヲ請求スルコトヲ得但シ一定ノ期間地代又ハ借賃ヲ增加セサルヘキ特約アルトキハ其ノ定ニ從フ

第十三條　土地所有者又ハ賃貸人ハ辨濟期ニ至リタル最後ノ二年分ノ地代又ハ借賃ニ付當地權者カ其ノ土地ニ於テ所有スル建物ノ上ニ先取特權ヲ有ス

前項ノ先取特權ハ地上權又ハ賃貸借ノ登記ヲ爲スニ因リテ其ノ效力ヲ保存ス

第十四條　前條ノ先取特權ハ他ノ權利ニ對シテ優先ノ效力ヲ有ス但シ國稅徵收法ニ依リ徵收スルコトヲ得ヘキ請求權、共益費用不動產保存不動產工事ノ先取特權及地上權又ハ賃貸借ノ登記前登記シタル質權抵當權ニ依ル

附　則

第十五條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年五月勅令第二〇七號ヲ以テ同年五月十五日ヨリ施行）

第十六條　本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年五月勅令第二〇七號ヲ以テ施行地區指定）

第十七條　本法施行前設定シタル地上權又ハ賃借權ニシテ建物ノ所有ヲ目的トスルモノノ存續期間ハ既ニ經過シタル期間ヲ算入シ堅固ノ建物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付テハ三十年、其ノ他ノ建物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付テハ二十年トス但シ建物カ此ノ期間滿了前朽廢シタルトキハ借地權ハ之ニ因リテ消滅シ堅固ノ建物ニ付三十年ヲ超エ、其ノ他ノ建物ニ付二十年ヲ超ユル存續期間ノ定アル地上權ハ其ノ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス

建物ノ所有ヲ目的トスル地上權又ハ賃借權ニ付存續期間ノ定ナキ場合ニ於テ本法施行前二十年以上ヲ經過シタルトキハ當事者ハ二十年毎ニ契約ヲ更新シタルモノト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第一項ノ規定ハ臨時設備其ノ他一時使用ノ爲設定シタルコト明ナル地上權及賃貸借ニ付之ヲ適用セス

第十八條　前條ニ規定スルモノヲ除クノ外本法施行ノ際現ニ存スル地上權又ハ賃借權ニシテ建物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付亦本法ヲ適用ス

借家法（大正十年四月七日法律第五十號）

第一條　建物ノ賃貸借ハ其ノ登記ナキモ建物ノ引渡アリタルトキハ爾後其ノ建物ニ付物權ヲ取得シタル者ニ對シ其ノ效力ヲ生ス

民法第五百六十六條第一項及第三項ノ規定ハ登記セサル賃貸借ノ目的タル建物カ賣買ノ目的ナル場合ニ之ヲ準用ス

民法第五百三十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二條　賃貸借ノ期間滿了ノ後賃借人カ建物ノ使用又ハ收益ヲ繼續スル場合ニ於テ賃貸人カ遲滯ナク異議ヲ述ヘサリシトキハ前賃貸借ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ賃貸借ヲ爲シタルモノト看做ス

第三條　賃貸人ノ解約申入ハ六月前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

六月未滿ノ期間ノ定アル賃貸借ハ之ヲ期間ノ定ナキモノト看做ス

前條ノ規定ハ賃貸借カ解約申入ニ因リテ終了シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四條　解約申入ニ因リテ終了スヘキ轉貸借アル場合ニ於テ賃貸借カ終了スヘキトキハ賃貸人ハ轉借人ニ對シ其ノ旨ノ通知ヲ爲スニ非サレハ其ノ終了ヲ以テ轉借人ニ對抗スルコトヲ得ス

賃貸人カ前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ轉貸借ハ其ノ通知ノ後六月ヲ經過スルニ因リテ終了ス

第五條　賃貸人ノ同意ヲ得テ建物ニ附加シタル疊、建具其ノ他ノ造作アルトキハ賃貸人ハ賃貸借終了ノ場合ニ於テ其ノ際ニ於ケル賃貸人ニ對シ時價ヲ以テ其ノ造作ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得賃貸人ヨリ買受ケタル造作ニ付亦同シ

第六條　前五條ノ規定ニ反スル特約ニシテ賃借人ニ不利ナルモノハ之ヲ爲ササルモノト看做ス

第七條　建物ノ借賃カ土地若ハ建物ニ對スル租稅其ノ他ノ負擔ノ增減ニ因リ、土地若ハ建物ノ價格ノ昂低ニ因リ又ハ比隣ノ建物ノ借賃ニ比較シテ不相當ナルニ至リタルトキハ契約ノ條件ニ拘ラス當事者ヘ將來ニ向テ借賃ノ增減ヲ請求スルコトヲ得但シ一定ノ期間借賃ヲ增加セサルヘキ特約アルトキハ其ノ定ニ從フ

第八條　本法ハ一時使用ノ爲建物ノ賃貸借ヲ爲シタルコト明ナル場合ニハ之ヲ適用セス

附　則

第九條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年五月勅令第二〇七號ヲ以テ同年五月十五日ヨリ之ヲ施行）

第十條　本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年五月勅令第二〇七號ヲ以テ施行地區指定）

第十一條　本法ハ本法施行前ニ爲シタル建物ノ賃貸借ニ付亦之ヲ適用ス但シ本法施行前ニ賃貸人ノ解約ノ申入アリタル場合ニ於テハ賃貸借ハ既ニ經過シタル期間ヲ算入シ六月ヲ經過スルニ因リテ終了ス

借地法及借家法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件

（大正十年五月十二日勅令第二百七號）

左ノ地區ニハ大正十年五月十五日ヨリ借地法及借家法ヲ施行ス

東京府　東京市

荏原郡ノ內　品川町、大崎町

豐多摩郡ノ內　淀橋町、大久保町、戸塚町、千駄ヶ谷町、澁谷町

北豐島郡ノ內　南千住町、巢鴨町、瀧野川町、高田町、日暮里町、西巢鴨町

南葛飾郡ノ內　吾嬬町、龜戸町、大島町、寺島町、砂村

京都府　京都市

大阪府　大阪市

西成郡ノ內　今宮町、鷺洲町、豐崎町、中津町、傳法町

東成郡ノ內　鶴橋町、中本町、天王寺村

神奈川縣　横濱市

兵庫縣　神戸市

前項ノ地區外ニ跨リテ築造セラレタル建物アル場合ニ於テハ借地法及借家法ハ其ノ建物ノ存スル場所ニ付亦之ヲ適用ス

（大正十三年八月十一日勅令第百七十三號）

左ノ地區ニハ大正十三年八月十五日ヨリ借地法及借家法ヲ施行ス

東京府

荏原郡ノ內

大森町、大井町、入新井町、目黑町、平塚村

豐多摩郡ノ內

中野町、落合町、代々幡町

北豐島郡ノ內

板橋町、王子町、三河島町、尾久町、長崎村

南足立郡ノ內

千住町

南葛飾郡ノ內

隅田町

前項ノ地區外ニ跨リテ築造セラレタル建物アル場合ニ於テハ借地法及借家法ハ其ノ建物ノ存スル場所ニ付亦之ヲ適用ス

（大正十四年四月十日勅令第百二十五號）

左ノ地區ニハ大正十四年四月十五日ヨリ借地法及借家法ヲ施行ス

愛知縣

名古屋市

前項ノ地區外ニ跨リテ築造セラレタル建物アル場合ニ於テハ借地法及借家法ハ其ノ建物ノ存スル場所ニ付亦之ヲ適用ス

借地借家調停法

（大正十一年四月十一日法律第四十一號）

【沿革】大正十三年七月法律第一七號改正

第一條　土地又ハ建物ノ貸借、地代、家賃其ノ他借地借家關係ニ付爭議ヲ生シタルトキハ當事者ハ爭議ノ目的タル土地又ハ建物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

當事者ハ合意ヲ以テ前項ノ區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第一項ニ於テ借地借家ト稱スルハ借地法及借家法ニ於ケル借地借家ヲ謂フ

第二條　調停ノ申立ハ爭議ノ實情ヲ明ニシテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條　當事者義務ノ回避其ノ他不當ノ目的ヲ以テ濫ニ調停ノ申立ヲ爲シタリト認ムルトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得

第四條　爭議ノ目的タル土地又ハ建物カ數個ノ裁判所ノ管轄區域內ニ存スル場合ニ於テ調停ノ申立ヲ受ケタル地方裁判所又ハ區裁判所相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ管轄地方裁判所又ハ管轄區裁判所ニ移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判所カ調停ノ申立ヲ受ケタルトキ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四條ノ二　借地借家關係ノ爭議ニ付訴訟カ繫屬スルトキハ受訴裁判所ハ職權ヲ以テ事件ヲ調停ニ付スルコトヲ得

第五條　調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟カ繫屬スルトキ又ハ前條ノ規定ニ依リ事件カ調停ニ付セラレタルトキハ調停ノ終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止ス

第六條　裁判所ハ期日ヲ定メ調停申立人及相手方ヲ呼出スヘシ此ノ場合ニ於テハ調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ノ參加ヲ求ムルコトヲ得

第七條　當事者及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得

裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第八條　調停手續ハ之ヲ公開セス但シ裁判所ハ相當ト認ムル者ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

第九條　費用ヲ要スル行爲ニ付テハ當事者ノ一方又ハ雙方ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第十條　申立其ノ他ノ申述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ヲ以テ申述ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ

要ス

第十一條　調停ニ付テハ裁判所書記ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第十二條　裁判所ハ調停前調停ノ爲必要ト認ムル處分ヲ命スルコトヲ得

第十四條　裁判所調停ノ申立ヲ受理シタルトキハ調停委員會ヲ開クコトヲ得

當事者雙方ノ申立アルトキハ裁判所ハ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第十五條　調停委員會ハ調停主任一人及調停委員二人以上ヲ以テ之ヲ組織ス

第十六條　調停主任ハ判事ノ中ヨリ毎年豫メ地方裁判所長之ヲ指定ス

調停委員ハ特別ノ知識經驗アル者ニ就キ毎年豫メ地方裁判所長ノ選任シタル者又ハ當事者ノ合意ニ依リ選定セラレタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任之ヲ指定ス

條十七條　調停委員會ハ當事者ノ意見ヲ聽キ適當ト認ムル者ヲシテ調停ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第十八條　調停委員及前條ノ規定ニ依リ調停ノ補助ヲ爲シタル者ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス

第十九條　調停委員會ニ於ケル調停手續ハ調停主任之ヲ指揮ス

第二十條　調停委員會ノ決議ハ調停委員ノ過半數ノ意見ニ依ル可否同數ナルトキハ調停主任ノ決スル所ニ依ル

第二十一條　調停委員會ノ評議ハ之ヲ祕密トス

第二十二條　調停委員ニ於テハ第六條、第七條第一項但書第二項、第八條但書及第十三條ニ規定スル裁判所ノ權限ハ調停委員會ニ屬ス

第二十三條　調停委員會ハ當事者又ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ且必要ト認ムルトキハ證據調ヲ爲スコトヲ得

調停委員會ハ調停主任ヲシテ證據調ヲ爲サシメ又ハ之ヲ區裁判所ニ囑託スルコトヲ得

證據調ニ付テハ民事訴訟法ヲ準用ス

證人及鑑定人ノ受クヘキ旅費、日當及止宿料ニ付テハ民事訴訟費用法ヲ準用ス

第二十四條　期日ニ於テ調停成ラサルトキハ調停委員會ハ爭議ノ目的タル事項及手續ノ費用ニ付適當ト認ムル調停條項ヲ定メ其ノ調書ノ正本ヲ當事者ニ送付スルコトヲ要ス

當事者カ前項ノ正本ノ送付ヲ受ケタル後一月內ニ調停委員會ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ服シメルモノト看做ス

調停委員會ハ申立ニ因リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得

當事者カ異議ヲ述ヘタルトキハ調停委員會ハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スルコトヲ要ス

第二十五條　調停委員會第三條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ調停ヲ爲ササルコトヲ得

第二十六條　調停成リタルトキ又ハ第二十四條第二項ノ規定ニ依リ當事者カ調停ニ服シタルモノト看做サレタルトキハ裁判所ハ調停主任ノ報告ヲ聽キ調停ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

調停認可ヘ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

調停不認可ノ決定ニ對シテハ民事訴訟法ニ從ヒ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　裁判所ハ調停カ著ク公正ナラスト認ムル場合ニ非サレハ調停不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條　調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ調停ハ認可決定アリタルトキニ限リ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十九條　調停ノ申立ヲ爲ストキハ手數料ヲ納付スルコトヲ要ス

第三十條　當事者又ハ利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ記錄ノ閱覽若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ裁判所書記ニ求ムルコトヲ得但シ當事者カ事件ノ繫屬中記錄ノ閱覽又ハ謄寫ヲ爲ス場合ニ於テハ手數料ヲ納付スルコトヲ要セス

第三十一條　第十八條ノ旅費、日當及止宿料竝前二條ノ手數料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條　調停委員會ノ呼出ヲ受ケタル當事者カ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ調停事件ノ繫屬スル裁判所ハ調停委員會ノ意見ヲ聽キ五十圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

非訟事件手續法第二百七條及第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

借地借家調停法ノ施行期日及施行地

（大正十一年七月十一日　勅令第三百三十八號）

左ノ地區ニハ大正十一年十月一日ヨリ借地借家調停法ヲ施行ス

東京府　神奈川縣

京都府　兵庫縣

區ニ關スル件

（大正十四年四月十日　勅令第百二十六號）

左ノ地區ニハ大正十四年四月十五日ヨリ借地借家調停法ヲ施行ス

愛知縣　大阪府

借地借家調停ノ手數料ニ關スル件

（大正十一年七月十一日　勅令第三百三十九號）

第一條　借地借家調停法第二十九條ノ手數料ハ左ノ區別ニ從フ

調停ヲ求ムル事項ノ價格五圓迄　十五錢

同　十圓迄　二十五錢

同　二十圓迄　五十錢

同　五十圓迄　一圓二十錢

同　七十五圓迄　一圓七十錢

同　百圓迄　二圓五十錢

同　二百五十圓迄　五圓

同　五百圓迄　八圓

同　七百五十圓迄　十圓

同　千圓迄　十二圓

同　二千五百圓迄　十七圓

同　五千圓迄　二十圓

同　五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ二圓ヲ加フ

調停ヲ求ムル事項ノ價額ヲ算定スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ハ百

圖ト看做ス

第二條　借地借家調停法第三十條ノ手數料ハ各一件ニ付二十錢トス

第三條　調停委員及借地借家調停法第十七條ノ規定ニ依リ調停ノ補助ヲ爲シタル者ノ日當ハ一日六圓以内、止宿料ハ一日八圓以内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ定ムルニ依ル

第四條　調停委員及借地借家調停法第十七條ノ規定ニ依リ調停ノ補助ヲ爲シタル者ノ旅費ハ鐵道又ハ汽船ヲ通スル水路ニ在リテハ二等旅客運賃、運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃ニ依リ汽船ヲ通セサル水路ニ在リテハ一海里毎ニ十五錢其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ九十錢トス但シ一海里未滿又ハ一里未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

附　則

本令ハ大正十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

借地借家臨時處理法（大正十三年七月二十二日法律第十六號）

第一條　本法ニ於テ借地借家ト稱スルハ借地法及借家法ニ於ケル借地借家ヲ謂フ

第二條　地代、家賃、敷金其ノ他借地借家ノ條件カ著シク不當ナルトキハ當事者ノ申立ニ因リ裁判所ハ鑑定委員會ノ意見ヲ聽キ借地借家關係ヲ衡平ナラシムル爲其ノ條件ノ變更ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ裁判所ハ敷金其ノ他ノ財産上ノ給付ノ返還ヲ命シ又ハ其ノ義務付ヲ地代若ハ家賃ノ前拂ト看做シ其ノ他相當ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第三條　大正十二年九月ノ震災ニ因リテ滅失シタル建物ノ借主ハ其ノ建物ノ敷地又ハ其ノ換地ノ上ニ新ニ築造セラレタル建物ニ付其ノ完成前賃借ノ申出ヲ爲シタルトキハ他ノ者ニ優先シテ之ヲ賃借スルコトヲ得滅失シタル建物ノ敷地又ハ其ノ換地ノ上ニ築造セラレタル假設建築物ノ借主亦同シ

前項ノ申出ヲ受ケタル者申出ヲ受ケタル日ヨリ二週間内ニ拒絶ノ意思ヲ表示セサルトキハ申出ヲ承諾シタルモノト看做ス

第一項ノ申出ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒絶スルコトヲ得ス

第四條　前條ノ場合ニ於テ借家ニ付當事者間ニ協議調ハサルトキハ申立ニ因リ裁判所ハ鑑定委員會ノ意見ヲ聽キ從前ノ賃貸借ノ條件、建物ノ狀況其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ借家關係ヲ定ムルコトヲ得

第五條　新ニ新造セラレタル建物ニ付第三條第一項ノ規定ニ依リ賃借ノ申出ヲ爲シタル者數人アル場合ニ於テ賃借スヘキ建物ノ割當ニ付當事者間ニ協議調ハサルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ從前ノ建物又ハ假設建築物ノ狀況、借主ノ職業其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ其ノ割當ヲ爲ス

前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ裁判所ハ抽籤ノ方法ヲ用ヰテ割當ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ當事者間ノ衡平ヲ維持スル爲必要アリト認ムルトキハ割當ヲ受ケサル借主又ハ著シク不利益ナル割當ヲ受ケタル借主ノ爲割當ニ因リ著シク利益ヲ受ケタル他ノ借主ニ對シ相當ナル出捐ヲ命スルコトヲ得

第六條　大正十二年九月ノ震災ニ因リテ滅失シタル建物ニ居住シタル者カ其ノ建物ノ敷地ノ上ニ假設建築物ヲ築造シタル場合ニ於テ敷地ノ借主カ之ニ同意シタルトキハ其ノ同意ニ付地主ノ承諾ヲ得サリシ場合トハ之ヲ理由トシテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス但シ裁判所ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條　借地ノ上ニ存スル借地人ノ建物カ大正十二年九月ノ震災ニ因リ滅失シタル場合ニ於テハ其ノ借地權ハ借地簿ノ登記及其ノ土地ノ上ニ存スル建物ノ登記ナキモ之ヲ以テ大正十三年七月一日以後其ノ土地ニ付權利ノ取得シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得

第八條　第二條及第四條乃至第六條ノ規定ニ因ル裁判ハ借地又ハ借家ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス

第九條　鑑定委員會ハ五人以上ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十條　鑑定委員ハ特別ノ知識經驗アル者其ノ他適當ナル者ニ就キ毎年數ヘ地方裁判所長ノ選任シタル者又ハ當事者ノ合意ニ依リ選定セラレタル者ノ中ヨリ各事件ニ付裁判所之ヲ指定ス

第十一條　鑑定委員會ノ決議ハ委員ノ過半數ノ意見ニ依ル

第十二條　鑑定委員會ノ評議ハ祕密トス

第十三條　鑑定委員ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス其ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　借地借家調停法第四條ノ二及第五條ノ規定ハ第二條、第四條及第五條ノ規定ニ依ル申立竝第六條ノ規定ニ依ル許可ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ調停ニ付スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十五條　第二條及第四條乃至第六條ノ規定ニ依ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ之ヲ二週間トス

前項ノ即時抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第十六條　本法ニ依ル裁判ニシテ財産上ノ給付ヲ命スルモノハ執行方ヲ有スル債務名義タルノ效力ヲ有ス

第十七條　本法ニ依リ裁判ノ費用ニ付テハ民事訴訟費用法第十六條及民事訴訟用印紙法第十六條ノ規定ニ依ル

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ大正十八年四月三十日迄其ノ效力ヲ有ス

本法失效ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

借地借家臨時處理法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件（大正十三年八月十一日勅令第百七十四號）

借地借家臨時處理法ハ大正十三年八月十五日ヨリ東京府及神奈川縣ノ内借地法及借家法ノ施行地區ニ之ヲ施行ス

前項ノ地區外ニ跨リテ築造セラレタル建物アル場合ニ於テハ借地借家臨時處理法ハ其ノ建物ノ存スル場所ニ付亦之ヲ適用ス

小作調停法（大正十三年七月二十二日法律第十八號）

第一條　小作料其ノ他小作關係ニ付爭議ヲ生シタルトキハ當事者ハ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

當事者ハ合意ヲ以テ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二條　當事者不當ノ目的ヲ以テ濫ニ調停ノ申立ヲ爲シタリト認ムルトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得

第三條　調停ノ申立ハ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長又ハ郡長ヲ經テ之ヲ爲スコトヲ得

第四條　前條ノ規定ニ依ル調停ノ申立アリタルトキハ市町村長又ハ郡長ハ遲滯ナク申立ニ關スル書類ヲ裁判所ニ送付シ且町村長ニ在リテハ郡長ニ、郡長ニ在リテハ町村長ニ申立アリタル旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

爭議ノ目的タル土地カ數郡市町村ニ亙ル場合ニ於テハ調停ノ申立ヲ受ケタル市町村長又ハ郡長ハ遲滯ナク關係市町村長及郡長ニ前項ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第五條　裁判所直接ニ調停ノ申立ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ通知スルコトヲ要ス但シ第八條第一項ノ規定ニ依リ事件ヲ移送スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　調停ノ申立ハ爭議ノ實情ヲ明ニシテ之ヲ爲スヘシ

第七條　調停ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ヲ以テ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ市町村長、郡長又ハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第八條　爭議ノ目的タル土地カ數箇ノ裁判所ノ管轄區域内ニ存スル場合ニ於テ調停ノ申立ヲ受ケタル地方裁判所又ハ區裁判所相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ管轄地方裁判所又ハ管轄區裁判所ニ移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判所カ調停ノ申立ヲ受ケタルトキ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第一項ノ場合ニ於テ事件ノ移送ヲ受ケタル裁判所ハ遲滯ナク爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ其ノ旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第九條　調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟カ繫屬スルトキハ調停ノ終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止ス

第十條　裁判所調停ノ申立ヲ受理シタルトキハ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス但シ爭議ノ實情ニ鑑ミ之ヲ開カスシテ調停ヲ爲スコトヲ得

當事者ノ申立アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス裁判所ハ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第十一條　裁判所事情ニ依リ適當ナル者アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス之ヲシテ勸解ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條　當事者多數ナル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ代表シテ調停ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲サシムル爲總代ヲ選任スルコトヲ得

裁判所前項ノ規定ニ依ル總代ナキ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ總代ノ選任ヲ命スルコトヲ得

總代ハ當事者中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス

第十三條　總代ノ選任ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス

總代ノ解任ハ之ヲ裁判所ニ屆出ツルニ非サレハ其ノ效ナシ

第十四條　裁判所ハ期日ヲ定メ當事者又ハ總代ヲ呼出スコトヲ要ス

前項ノ呼出ヲ受ケタル當事者又ハ總代ハ正當ノ事由ナクシテ出頭ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條　調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ調停ニ參加スルコトヲ得

裁判所ハ調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ノ參加ヲ求ムルコトヲ得

第十六條　當事者、總代及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシメ又ハ輔佐人ヲ同伴スルコトヲ得

裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十七條　爭議ノ目的タル土地ノ所在地又ハ當事者ノ住所地ノ市町村長又ハ郡長ハ裁判所ニ對シ事件ノ經過ニ付陳述ヲ爲スコトヲ得

第十八條　裁判所必要アリト認ムルトキハ小作官、前條ノ市町村長又ハ郡長其ノ他適當ト認ムル者ニ對シ意見ヲ求ムルコトヲ得

第十九條　小作官ハ期日ニ出席シテ又ハ期日外ニ於テ裁判所ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十條　裁判所必要アリト認ムルトキハ事實ノ調査ヲ小作官ニ囑託スルコトヲ得

第二十一條　裁判所ニ於ケル調停手續ハ之ヲ公開セス但シ裁判所ハ相當ト認ムル者ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

第二十二條　裁判所ハ費用ヲ要スル行爲ニ付當事者ノ一方又ハ雙方ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第二十三條　裁判所ニ對スル申立其ノ他ノ申述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ヲ以テ申述ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第二十四條　裁判所ノ調停ニ付テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第二十五條　裁判所ハ調停前調停ノ爲必要ト認ムル措置ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　裁判所ノ調停條項中ニ費用ノ負擔ニ關スル定ヲ爲ササルトキハ各當事者ハ其ノ支出シタル費用ヲ自ラ負擔ス

第二十七條　調停ハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十八條　調停委員會ハ調停主任一人及調停委員二人以上ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十九條　調停主任ハ判事ノ中ヨリ毎年豫メ地方裁判所長之ヲ指定ス

調停委員ハ調停ニ適當ナル者ニ就キ地方裁判所長ノ選任シタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任之ヲ指定ス但シ當事者カ合意ヲ以テ選定シタル者アルトキ又ハ地方裁判所長ノ選任シタル者ニ就キ當事者雙方カ各別ニ選定シタル者アルトキハ其ノ者ノ中ヨリ先ツ之ヲ指定スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ指定セラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十條　調停主任ハ爭議ノ實情ニ鑑ミ適當ト認ムル場所ニ於テ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第三十一條　調停委員會ニ於ケル調停手續ハ調停主任之ヲ指揮ス

第三十二條　調停委員會ノ決議ハ調停委員ノ過半數ノ意見ニ依ル可否同數ナルトキハ調停主任ノ決スル所ニ依ル

第三十三條　調停委員會ノ評議ハ之ヲ祕密トス

第三十四條　第十一條乃至第二十六條ノ規定ハ調停委員會ノ調停手續ニ之ヲ準用ス

第三十五條　調停委員會ハ當事者、總代又ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ且必要ト認ムルトキハ證據調ヲ爲スコトヲ得

調停委員會ハ調停主任ヲシテ證據調ヲ爲サシメ又ハ之ヲ區裁判所ニ囑託スルコトヲ得

證據調ニ付テハ民事訴訟法ヲ準用ス

證人及鑑定人ノ受クヘキ旅費、日當及止宿料ニ付テハ民事訴訟費用法ヲ準用ス

第三十六條　期日ニ於テ調停成ラサルトキハ調停委員會ハ適當ト認ムル調停條項ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ調定條項ヲ定メタル場合ニ於テハ調停委員會ハ其ノ調書ノ正本ヲ當事者、總代アルトキハ總代ニ送付シ且當事者又ハ總代カ其ノ送付ヲ受ケタル後一月内ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ同意シタルモノト看做ス旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

當事者又ハ總代カ前項ノ正本ノ送付ヲ受ケタル後一月内ニ調停委員會ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ同意シタルノト看做ス

調停委員會ハ申立ニ因リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得期間ノ伸長ハ之ヲ相手方總代アルトキハ總代ニ通知スルコトヲ要ス

當事者又ハ總代カ調停條項ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキハ調停委員會ハ其ノ旨ヲ相手方總代アルトキハ總代ニ通知スルコトヲ要ス

第三十七條　調停委員會第二條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ調停ヲ爲ササルコトヲ得

第三十八條　調停成リタルトキ又ハ第三十六條第三項ノ規定ニ依リ調停ニ同意シタルモノト見做サレタルトキハ裁判所ハ調停主任ノ報告ヲ聽キ調停ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

調停認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

調停不認可ノ決定ニ對シテハ當事者又ハ總代ハ民事訴訟法ニ從ヒ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十九條　裁判所ハ調停カ著シク公正ナラスト認ムル場合ニ非サレハ調停不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得ス

第四十條　調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ調停ハ認可決定アリタルトキニ限リ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第四十一條　裁判所調停認可ノ決定ヲ總代ニ告知シタル場合ニ於テハ調停條項ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市役所又ハ町村役場ノ揭示場ニ揭示スルコトヲ要ス

第四十二條　調停委員會必要アリト認ムルトキハ調停ノ經過ヲ公表スルコトヲ得

第四十三條　調停事件終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ結果ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ通知スルコトヲ要ス

第四十四條　當事者又ハ利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ記錄ノ閲覽若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ裁判所書記ニ求ムルコトヲ得但シ當事者カ事件ノ繫屬中記錄ノ閲覽又ハ謄寫ヲ爲ス場合ニ於テハ手數料ヲ納付スルコトヲ要セス

第四十五條　調停委員及第十一條又ハ第三十四條ノ規定ニ依リ勤解ヲ爲シタル者ニハ旅費日當及止宿料ヲ給ス

第四十六條　第四十四條ノ手數料竝前條ノ旅費、日當及止宿料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條　本法中郡トアルハ北海道ニ於テハ北海道廳支廳管轄區域、郡長トアルハ北海道ニ於テハ北海道廳支廳長、島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司トス

本法中町村、町村長又ハ町村役場トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村、町村長、又ハ町村役場ニ準スルモノトス

第四十八條　第三十四條ノ規定ニ依ル呼出ヲ受ケタル者正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ調停事件ノ繫屬スル裁判所ハ調停委員會ノ意見ヲ聽キ五拾圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

非訟事件手續法第二百七條及第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第四十九條　調停委員又ハ調停委員タリシ者故ナク評議ノ顚末又ハ調停主任、調停委員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄シタルトキ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ勅令ヲ以テ指定スル地區ニ之ヲ施行ス

小作調停法ノ施行期日及施行外地區指定ノ件

（大正十三年九月二十五日　勅令第二百一十八號）

【沿革】大正十五年四月勅令第六五號改正

小作調停法ハ大正十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

小作調停法附則第二項ノ規定ニ依リ同法ノ施行セサル地區ヲ指定スルコト左ノ如シ

宮城縣　岩手縣　青森縣　沖繩縣

小作調停ノ手數料等ニ關スル件

（大正十三年十一月一日　勅令第二百五十三號）

大正十一年勅令第三百三十九號第二條乃至第四條ノ規定ハ小作調停法第四十四條ノ手數料竝第四十五條ノ旅費日當及止宿料ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

勞働爭議調停法

（大正十五年四月八日　法律第五十七號）

第一條　左ニ揭クル事業ニ於テ勞働爭議發生シタルトキハ行政官廳ハ當事者ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得當事者ノ請求ナキ場合ト雖行政官廳ニ於テ必要アリト認メタルトキ亦同シ

一　蒸氣、電氣其ノ他ノ動力ヲ使用スル鐵道、軌道又ハ船舶ニ依リ公衆ノ需要ニ應スル運輸事業

二　公衆ノ用ニ供スル郵便、電信又ハ電話ノ事業

三　公衆ノ需要ニ應スル水道、電氣又ハ瓦斯供給ノ事業

四　第一號乃至第三號ノ事業ニ電氣ヲ供給スル事業ニシテ其ノ休止カ第一號乃至第三號ノ事業ノ遂行ヲ著シク阻害スルモノ

五　其ノ他公衆ノ日常生活ニ直接關係アル事業ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノ

六　陸軍又ハ海軍ノ直營ニ係ル兵器艦船ノ製造修理ノ事業ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノ

前項ニ揭クル以外ノ事業ニ於テ勞働爭議發生シタルトキハ行政官廳ハ當事者雙方ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得

第二條　調停委員會ヲ開設セムトスルトキハ行政官廳ハ當事者雙方ニ之ヲ通知スヘシ

第三條　調停委員會ハ九人ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス委員ノ中六人ハ勞働

爭議ノ當事者ヲシテ各同數ヲ選定セシメ他ノ三人ハ當事者ノ選定シタル委員ヲシテ爭議ニ直接利害關係ヲ有セサル者ニ就キ選定セシメ行政官廳之ヲ囑託ス

前項ノ規定ニ依リ囑託セラレタル委員ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第四條　勞働爭議ノ當事者第二條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ三日內ニ前條第一項ノ規定ニ依リ其ノ選定シタル委員ヲ行政官廳ニ屆出ツルコトヲ要ス

當事者前項ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲ササルトキハ行政官廳ハ當事者ニ代リ委員ヲ選定ス此ノ委員ハ當事者ノ選定シタルモノト看做ス

前二項ノ規定ニ依ル手續終リタルトキハ行政官廳ハ直ニ前條第一項ノ規定ニ依リ當事者ノ選定シタル委員ニ於テ選定スヘキ委員ノ選定ヲ要求スヘシ此ノ場合ニ於テハ當事者ノ選定シタル委員ハ四日內ニ之ヲ選定シ行政官廳ニ屆出ツルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依ル屆出ナキトキハ行政官廳ハ當事者ノ選定シタル委員ニ代リ前項ノ規定ニ依リ選定スヘキ委員ヲ選定ス此ノ委員ハ當事者ノ選定シタル委員ニ於テ選定シタルモノト看做ス

第五條　委員中缺員ヲ生シタルトキハ前二條ノ手續ニ準シ之ヲ補充ス

第六條　委員定リタルトキハ行政官廳ハ直ニ調停委員會ヲ招集シ之ヲ開會スヘシ

第七條　調停委員會ニ議長及其ノ代理者ヲ置ク議長及其ノ代理者ハ當事者ノ選定ニ係ル委員ニ於テ選定シタル委員ノ互選ニ依リ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ之ニ充ツ多數ヲ得タル者ナキトキハ抽籤ニ依ル

第八條　調停委員會ハ勞働爭議ノ解決ニ必要ナル調査審理ヲ爲シ其ノ調停ヲ爲スモノトス

第九條　調停委員會ハ開會ノ日ヨリ十五日內ニ調停手續ヲ結了スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ當事者ノ選定シタル委員全員ノ同意アリタルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得

第十條　調停委員會ハ議長又ハ其ノ代理者及各當事者ノ選定シタル委員各二名以上出席スルニ非サルハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第十一條　調停委員會ノ議事ハ本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外過半數ヲ以テ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十二條　調停委員會ノ議事ハ之ヲ公開セス

行政官廳ハ調停委員會ノ承認ヲ得テ當該官吏ヲシテ會議ニ臨席セシムルコトヲ得

第十三條　調停委員會ハ調停ニ必要ナル範圍ニ於テ當事者又ハ其ノ代表者其ノ他利害關係人又ハ參考人ニ對シ出席說明ヲ求メ又ハ說明書類ノ提示ヲ求ムルコトヲ得

第十四條　調停委員會ハ調停ニ必要ナル範圍ニ於テ委員ヲシテ作業所其ノ他爭議ノ關係場所ニ立入リ、作業若ハ設備ヲ視察シ又ハ關係者ニ質問セシムルコトヲ得但シ軍事上秘密ヲ要スル場所ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　委員又ハ委員タリシ者ハ故ナク前二條ノ場合ニ知得タル秘密ヲ漏洩スルコトヲ得ス

第十六條　第九條ニ規定スル調停手續ノ結了ノ場合ニ於テハ調停委員會ハ其ノ顚末ヲ行政官廳ニ報告スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ勞働爭議解決スルニ至ラサリシトキハ調停委員會ハ其ノ報告ニ委員會ノ決議セル爭議調停案及之ニ關スル少數意見ヲ表示スルコトヲ要ス

第十七條　行政官廳ハ前條ノ規定ニ依ル報告ノ要旨ヲ公裁スヘシ但シ勞働爭議解決シタル場合ニ於テ當事者一方ノ選定シタル委員全員カ豫メ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　委員及第十三條ニ規定スル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

第十九條　第一條第一項ニ揭クル事業ニ於ケル勞働爭議ニ關シ第二條ノ規定ニ依ル通知アリタルトキハ現ニ其ノ爭議ニ關係アル使用者及勞働者竝其ノ屬スル使用者團體及勞働者團體ノ役員及事務員以外ノ者ハ第九條ニ規定スル調停手續ノ結了ニ至ル迄左ニ揭クル目的ヲ以テ其ノ爭議ニ關係アル使用者又ハ勞働者ヲ誘惑若ハ煽動スルコトヲ得ス

一　使用者ヲシテ勞働爭議ニ關シ作業所ヲ閉鎖シ、作業ヲ中止シ雇傭關係ヲ破毀シ又ハ勞務繼續ノ申込ヲ拒絕セシムルコト

二　勞働者ノ集團ヲシテ勞働爭議ニ關シ勞務ヲ中止シ、作業ノ進行ヲ阻害シ、雇傭關係ヲ破毀シ又ハ雇傭繼續ノ申込ヲ拒絕セシムルコト

第二十條　故ナク第十三條ニ規定スル出席說明又ハ說明書類ノ提示ヲ爲ササル者ハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十三條ノ場合ニ於テ虛僞ノ說明ヲ爲シタル者

二　故ナク第十四條ノ規定ニ依ル立入、視察ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケ又ハ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者

三　第十五條ノ規定ニ違反シタル者

第二十二條　第十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十五年六月勅令第一九七號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

勞働爭議調停法施行令

（大正十五年六月二十三日　勅令第百九十六號）

第一條　勞働爭議調停法及本令ニ依ル行政官廳ノ職務ハ爭議ノ發生シタル作業所所在地ノ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ）之ヲ行フ

同一ノ爭議カ前項ノ規定ニ依リ二以上ノ地方長官ノ管轄ニ涉ルトキハ內務大臣ハ其ノ一ヲ指定シテ前項ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第二條　內務大臣必要アリト認ムルトキハ前條ニ規定スル行政官廳以外ノ行政官廳ヲ指定シテ前條第一項ノ職務ヲ行ハシメ又ハ自ラ之ヲ行フコトヲ得但シ內務大臣其ノ指揮監督ノ下ニ在ラサル行政官廳ヲ指定セムトスルトキハ豫メ其ノ所管大臣ト協議スルコトヲ要ス

第三條　第一條ニ於テ地方長官トアルハ船員法ノ適用アル船員ノ爭議ニ付テハ遞信局長トシ前二條ニ於テ內務大臣トアルハ船員ノ爭議ニ付テハ遞信大臣トス

第四條　調停委員會開設ノ請求ハ左ノ事項ヲ具シ文書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

一　爭議ノ發生シタル作業所ノ名稱及所在地
二　爭議ニ關係アル勞働者ノ概數
三　代表者ニ依リ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ代表者タルコトヲ示スニ足ルヘキ事項
四　調停委員會ニ關スル通知ヲ受クヘキ場所
五　爭議ノ要求事項
六　爭議ノ經過概要

第五條　當事者ノ一方ヨリ調停委員會開設ノ請求アリタルトキハ行政官廳ハ他ノ當事者ニ之ヲ通知スヘシ

第六條　調停委員會ヲ開設セムトスル旨ノ通知ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

行政官廳前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ公示スヘシ

第七條　調停委員會勞働爭議調停法第九條ノ規定ニ依リ調停手續ヲ結了シタルトキ又ハ其ノ期間ヲ延長シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ行政官廳ニ報告スルコトヲ要ス

前項ノ報告アリタルトキハ行政官廳ハ直ニ其ノ旨ヲ公示スヘシ

第八條　調停委員會ノ議事ニ關スル總テノ書類ハ勞働爭議調停法第十六條ニ規定スル報告ト共ニ之ヲ行政官廳ニ提出スルコトヲ要ス

第九條　勞働爭議調停法第十八條ノ規定ニ依リ辨償ヲ受クルコトヲ得ル費用ハ旅費日當及止宿料トス

前項ノ旅費、日當及止宿料ハ別表ノ定額以内ニ於テ行政官廳之ヲ定ム

附　則

本令ハ勞働爭議調停法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十五年七月一日ヨリ施行）

（別表）

區分	鐵道賃及船賃	車馬賃一里ニ付	日當一口ニ付	止宿料一夜ニ付
委員	二等	九十錢	六圓	八圓
當事者又ハ其ノ代表者其ノ他利害關係人又ハ參考人	二等	七十五錢	三圓	五圓

備考　鐵道賃及船賃ハ運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スル場合ニハ上級ノ運賃トシ其ノ等級ヲ設ケサル場合ニハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃トス

勞働爭議調停法第一條第一項第六號ノ事業ヲ定ムルノ件

（大正十五年七月九日勅令第二百五十三號）

左ニ掲クル部隊又ハ工作廠ニ於ケル兵器艦船ノ製造修理ノ事業ハ之ヲ勞働爭議調停法第一條第一項第六號ノ事業トス

陸軍航空本部
陸軍技術本部
陸軍兵器廠
陸軍造兵廠
海軍工廠
要港部工作部
海軍火藥廠
海軍技術研究所

海軍艦政本部製圖工場

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二章　郵便年金

郵便年金法（大正十五年三月二十九日法律第三十九號）

第一條　郵便年金事業ハ政府之ヲ管掌ス

第二條　郵便年金契約ハ政府カ契約者又ハ第三者ノ生存ニ關シテ其ノ者ニ年金ヲ支拂フヘキコトヲ約シ契約者カ對價トシテ政府ニ掛金ヲ拂込ムヘキコトヲ約スルモノトス

年金契約ノ種類、年金受取人ノ年齢、掛金及年金受取人ノ爲ニ積立ツヘキ金額ノ計算ノ基礎ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　年金ノ額ハ年金受取人一人ニ付年額二千四百圓以下トス

第四條　年金契約ノ申込ヲ承諾シタルトキハ便郵年金證書ヲ年金契約者ニ交付ス

便郵年金證書ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　年金契約ノ效力ハ掛金ヲ拂込ミタル日ニ始マル

第六條　年金受取人カ第三者ナルトキハ其ノ第三者ハ當然年金制約ノ利益ヲ享受ス

第七條　年金契約者ハ年金契約申込ノ際年金受取人ノ死亡又ハ年金契約ノ解除若ハ變更ノ場合ニ於テ拂込掛金ノ返還ヲ請求スル權利ヲ自己又ハ年金受取人タル第三者ノ爲ニ留保スルコトヲ得

返還ヲ請求シ得ヘキ拂込掛金ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　自己ヲ以テ拂込掛金ノ受取人ト爲シタルトキハ年金契約者ハ年金受取人タル第三者ヲ以テ拂込掛金ノ受取人ト爲スコトヲ得

年金受取人タル第三者ヲ以テ拂込掛金ノ受取人ト爲シタルトキハ年金契約者ハ之ヲ變更スルコトヲ得

第九條　年金又ハ第七條ニ規定スル拂込掛金ヲ受取ルヘキ權利ハ之ヲ譲渡スルトヲ得ス

第十條　年金ヲ受取ルヘキ權利ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス但シ年額二百五十圓ヲ超ユル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　年金契約者ハ第三者ヲシテ年金契約者トシテノ權利義務ヲ承繼セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ年金契約者カ年金受取人ニ非サルトキハ年金受取人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ承繼ハ政府ニ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ政府ニ對抗スルコトヲ得ス

第十二條　年金制約者ハ年金支拂ノ事由發生スル迄ハ年金契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ解除ハ將來ニ向テノミ其ノ效力ヲ生ス

第十三條　年金契約者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ年金契約ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

第十四條　年金契約者掛金ヲ拂込マスシテ命令ノ定ムル猶豫期間ヲ經過シタルトキハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ年金制ヲ契既ニ拂込ミタル掛金ニ依ル掛金拂濟年金契約ニ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ掛金拂濟年金契約ニ變更セラレサル年金契約ハ解除

セラレタルモノト看做ス

第十二條第二項ノ規定ハ前項ノ解除ニ之ヲ準用ス

第十五條　第七條ノ規定ニ依リテ拂込掛金ノ返還ヲ請求スル權利ヲ留保シタル場合ニ於テハ年金契約者又ハ年金受取人ノ命令ノ定ムル所ニ依リ拂込掛金ノ範圍内ニ於テ貸付ヲ請求スルコトヲ得

第十六條　年金又ハ第七條ニ規定スル拂込掛金ヲ支拂フヘキ場合ニ於テ其ノ年金契約又ハ之ニ基キテ爲シタル貸付ニ付政府カ辨濟ヲ受クヘキ金額アルトキハ支拂金額ヨリ之ヲ控除ス

第十七條　當該官署カ命令ノ定ムル所ニ依リ年金又ハ年金契約者若ハ年金受取人ニ返還スヘキ金額ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ支拂ハ之ヲ有效トス

第十八條　年金支拂ノ義務及拂込掛金返還ノ義務ハ二年、掛金拂込ノ義務ハ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第十九條　年金契約者又ハ年金受取人カ郵便年金ニ關スル事項ニ付政府ニ對シテ民事訴訟ヲ提起スルニハ簡易生命保險審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

第二十條　前條ノ審査ノ請求ハ時效ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

第二十一條　郵便年金ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

第二十二條　郵便年金ノ事務ニ關スル郵便物ハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十五年八月勅令第二百八十號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

郵便年金令

（大正十五年八月九日勅令第二百八十一號）

第一條　郵便年金ハ即時終身年金及据置終身年金トス

第二條　即時終身年金ニ在リテハ年金制約ノ效力發生シタル日ヨリ年金受取人ノ死亡ニ至ル迄年金ノ支拂ヲ爲スモノトス

第三條　据置終身年金ニ在リテハ年金受取人カ一定ノ年齡ニ達シタル日ヨリ其ノ死亡ニ至ル迄年金ノ支拂ヲ爲スモノトス

第四條　据置終身年金ハ左ノ四種トス

一　五十歲支拂開始据置終身年金

二　五十五歲支拂開始据置終身年金

三　六十歲支拂開始据置終身年金

四　六十五歲支拂開始据置終身年金

第五條　新ニ年金受取人タルコトヲ得ル者ノ年齡ハ即時終身年金ニ在リテハ四十歲以上八十歲以下、据置終身年金ニ在リテハ十二歲以上六十歲以下トス

第六條　年金契約ヲ爲シタル後年金受取人ノ年齡ニ付錯誤アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ郵便年金法第五條ノ掛金拂込ノ日ノ年齡カ前條ノ範圍内ナルトキハ當初ヨリ其ノ年齡ニ基キテ年金契約ヲ爲シタルモノト看做シ年金額ヲ更正ス其ノ年齡カ即時終身年金ニ付四十歲未滿ナルトキハ四十歲ニ達シタル日ニ於テ、据置終身年金ニ付十二歲未滿ナルトキハ十二歲ニ達シタル日ニ於テ年金契約ヲ效力發生シタルモノト看做シ年金額ヲ更正ス

前項ノ規定ニ依リ年金額ヲ更正スル場合ニ於テ其ノ金額カ郵便年金法第三條ニ規定スル制限ヲ超ユルトキハ當初ヨリ最高ノ年金額ニ基キテ年金契約ヲ爲シタルモノト看做ス

第七條　掛金ノ算定ニ關シテハ年金受取人ノ年齡ハ出生ノ月ヨリ年金契約申込ノ月迄月ヲ以テ計算シ一年未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ端數カ七月以上ナルトキハ之ヲ一年ニ切上ケ六月以下ナルトキハ之ヲ切捨ツ

第四條ノ年金支拂開始年齡ハ年金受取人カ年金契約申込ノ日ニ於テ前項ノ規定ニ依リ算出シタル年齡ニ達シタルモノト看做シ之ヲ計算ス

第八條　掛金ノ拂込ハ一時拂及分割拂トス

第九條　年金契約ノ申込ヲ爲スニハ之ト同時ニ掛金一時拂ノモノニ在リテハ掛金ノ全額ヲ、掛金分割拂ノモノニ在リテハ其ノ第一回分ヲ拂込ムコトヲ要ス

第十條　掛金ハ左ノ基礎ニ依リ計算ス

一　明治四十五年内閣統計局ノ發表シタル第二表ノ死亡率ヨリ男子ニ在リテハ男子死亡率ノ二割ヲ、女子ニ在リテハ女子死亡率ノ三割ヲ減シテ作成シタル死亡生殘表

二　掛金一時拂ナルトキハ市場ニ於ケル公債ノ時價ニ準シ遞信大臣ノ定ムル豫定利率

掛金分割拂ナルトキハ年五分ノ豫定利率

年金受取人ノ爲ニ積立ツヘキ金額ノ前項ノ基礎ニ依リ純保險料式ヲ以テ之ヲ計算ス

第十一條　拂込掛金ノ返還ヲ請求スル權利ヲ留保セサル年金契約ニ於テ年金受取人死亡シ又ハ年金契約解除セラレタル場合未タ拂込マサル掛金アルトキハ之ヲ拂込ムコトヲ要セス

第十二條　年金ハ年金支拂ノ事由發生シタル日ヨリ三月毎ニ各其ノ經過シタル期間分ヲ支拂フ但シ期間ノ中途ニ於テ年金受取人死亡シタルトキハ其ノ期間ニ付テハ月賦ヲ以テ計算シ死亡ノ日ヲ含ム月割分迄ヲ支拂フ

第十三條　郵便年金法第七條ノ規定ニ依リ返還スヘキ拂込掛金ノ額ハ左ノ區別ニ依ル

年金受取人死亡シタル場合

死亡ノ日迄ノ拂込掛金（拂込ムヘキモノヲ含ム）ノ額但シ支拂ヒタル年金（支拂フヘキモノヲ含ム）アルトキハ其ノ金額ヲ差引キタル殘額

年金契約解除セラレタル場合

契約解除ノ日迄ノ拂込掛金（拂込ムヘキモノヲ含ム）ノ額ノ百分ノ九十以上ニシテ遞信大臣ノ定ムル額

年金契約變更セラレタル場合

契約變更ノ日迄ノ拂込掛金（拂込ムヘキモノヲ含ム）ノ額ヨリ變更後ノ契約ニ付當初ヨリ變更ノ日迄ニ拂込ムヘカリシ掛金ノ額ヲ差引キタル殘額ノ百分ノ九十五以上ニシテ遞信大臣ノ定ムル額

附　則

本令ハ郵便年金法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十五年十月一日ヨリ施行）

第三章　救恤及保護

水難救護法（明治三十二年三月二十九日　法律第九十五號）

【沿革】明治三十三年三月法律第六六號改正

第一章　遭難船舶

第一條　遭難船舶救護ノ事務ハ最初ニ事件ヲ認知シタル市町村長之ヲ行フ

第二條　遭難船舶アルコトヲ發見シタル者ハ遲滯ナク最近地ノ市町村長又ハ警察官吏ニ報告スヘシ

警察官吏ニ於テ報告ニ接シタルトキハ市町村長ニ通知スヘシ

第三條　遭難船舶アルコトヲ認知シタルトキハ市町村長ハ直ニ現場ニミ救護ニ必要ナル處分ヲ爲スヘシ

第四條　警察官吏ハ救護ノ事務ニ關シ市町村長ヲ助ケ市町村長現場ニ在ラサルトキハ之ニ代リ其ノ職務ヲ執行スヘシ

第五條　救護ハ船長ノ意ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ船長ノ人命ヲ保護スル手段ヲ不充分ナリト認メ又ハ船長ニ惡意アリト認メタル場合ニハ之ヲ適用セス

第六條　市町村長ハ救護ノ爲人ヲ招集シ船舶車馬其ノ他ノ物件ヲ徵用シ又ハ他人ノ所有地ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ招集セラレタル者ハ市町村長ノ指揮ニ從ヒ救護ニ從事スヘシ

第七條　市町村長ハ救護ニ際シ必要ナラスト認ムル者妨害ヲ爲シタル者又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者ヲ退去セシムルコトヲ得

市町村長ハ救護ニ際シ暴行ヲ爲シタル者ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

市町村長前項ノ處分ヲ爲スニ當リ助力ヲ命セラレタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條　市町村長ハ救護ニ際シ遭難物件ヲ隱匿シタル者アリト認ムルトキハ其ノ物件ヲ搜索シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第九條　市町村長ハ遭難船舶其ノ他救上ケタル物件及前條ノ規定ニ依リ差押ヘタル物件ヲ保管スヘシ

前項ノ物件中ニ郵便物アルトキハ市町村長ハ遲滯ナク最近ノ郵便局ニ引渡スヘシ

第十條　船長ハ遭難後遲滯ナク船舶報告書ヲ作リ市町村長ニ差出スヘシ

但シ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ要セサル船舶又ハ湖川港灣ノミヲ限リ航行スル船舶ノ遭難ニ付テハ此ノ限ニアラス

市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査シ相當ト認ムルトキハ船長ノ請求ニ依リ認證ヲ與フヘシ

市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査スル爲船內書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員旅客其ノ他船中ニ在リタル者ヲ呼出シ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十一條　市町村長ハ救上ケタル物件左ニ掲クル事項ノ一ニ該當スト認メタルトキハ之ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管スヘシ

一　物件久ニ耐ヘキコト又ハ著シク其ノ價格ヲ減スル虞アルコト

二　爆發物、容易ニ燃燒スヘキ物又ハ其ノ他ノ物件ニシテ保管上危險ノ虞アルコト

三　保管ノ費用其ノ物件ノ價格ニ超過シ又ハ其ノ價格ニ比シ不相當ナルコト

前項ノ規定ニ依リ公賣ヲ爲サントスル場合ニ於テ船長其ノ地ニ在ルトキハ市町村長ハ期間ヲ定メ其ノ期間內ニ市町村長ノ相當ト認ムル擔保ヲ供シテ物件ノ引渡ヲ請求セサルトキハ公賣ニ付スヘキ旨ヲ船長ニ告知スヘシ

遭難船舶ノ所在地船舶碇港ナルトキハ前項ノ告知ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スヘシ

船長又ハ船舶所有者ニ於テ第二項ノ規定ニ依リ物件ノ引渡ヲ請求シタルトキハ公賣ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條　救護ニ關係シタル者ハ市町村長ヨリ救護費用ノ支給ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ左ニ掲クル者ニハ之ヲ適用セス

一　救護セラレタル船舶ノ所有者又ハ其船舶ノ船員

二　故意、懈怠又ハ過失ニ因リ遭難ヲ惹起シタル者

三　第五條ノ規定ニ違反シテ救護シタル者

四　救護ニ際シ妨害ヲ爲シ又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者

五　遭難物件ヲ持去リ又ハ其ノ引渡ヲ拒ミタル者

第十三條　左ニ掲クルモノヲ以テ救護費用トス

一　救護ニ關係シタル者ノ勞務ノ報酬

二　第六條ノ規定ニ依ル土地ノ使用又ハ物件ノ徵用ニ對スル補償

三　救上ケタル物件ノ運搬、保管又ハ公賣ニ要シタル費用

第十四條　救護費用ノ支給ヲ受ケントスル者ハ市町村長ノ指定スル期間內ニ其ノ金額ヲ申立ツヘシ

前項ノ手續ヲ爲ササル者ハ救護費用ノ支給ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條　救護費用ノ金額ハ命令ノ規定ニ依リ市町村長之ヲ定ム

市町村長ハ救護費用ノ金額ヲ船長ニ告知シ期間ヲ定ムメテ之ヲ納付セシムヘシ

遭難船舶ノ所在地船舶碇港ナルトキ又ハ船長在ラサルトキハ前項ノ告知ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スヘシ

第十六條　船長又ハ船舶所有者ハ救護費用ヲ納付シテ市町村長ノ保管ニ係ル金錢其ノ他ノ物件ノ引渡ヲ受クヘシ

船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ相當ト認ムル擔保ヲ共スルトキハ前項ノ金錢其ノ他ノ物件ノ全部若クハ一部ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

左ニ掲クル物件ハ前二項ノ規定ニ拘ラス其ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

一　船員ノ所持品

二　船員及旅客ノ食料

三　運送賃ヲ支拂フコトナクシテ船中ニ携帶スル旅客ノ手荷物

四　第十七條第二項ニ掲クル物件

市町村長ノ保管スル船舶又ハ積荷ヲ賣却シ抵當ト爲シ又ハ質入セントスルトキハ市町村長ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ市町村長必要アリト認ムルトキハ之ニ立會フヘシ

前項ノ處分ニ因リ取得シタル金錢其ノ他ノ物件ハ市町村長之ヲ保管スヘシ

市町村長ニ於テ第十一條又ハ前項ノ規定ニ依リ金錢ヲ保管スル場合ニ其ノ金錢救護費用ノ金錢ニ達シタルトキハ直ニ其ノ金錢ヲ以テ救護費用ヲ支辨シ其ノ殘額ハ保算ニ係ル他ノ物件ト共ニ船長又ハ船舶所有者ニ引渡スヘシ

第十七條　船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ定メタル期間内ニ救護費用ヲ納付セサルトキハ市町村長ハ保管ノ物件又ハ擔保トシテ差出シタル物件ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管スヘシ

前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ公賣ヲ爲スモ其ノ代金ヲ以テ公賣ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタル物件ニ之ヲ適用セス

第十八條　市町村長ハ納付ヲ受ケタル金額又ハ其保管ニ係ル金錢ヲ以テ救護費用ヲ支辨スヘシ

第十九條　救護其ノ效ヲ奏セサルトキハ救護費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

船舶又ハ船舶所有者救護費用ヲ納付セサル場合ニ於テ第十七條ニ定ムル手續ヲ爲シタル後市町村長ノ保管ニ係ル金錢ヲ以テ救護費用ヲ支辨スルニ足ラサルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給シ殘餘アルトキハ船長又ハ船舶所有者ニ之ヲ還付ス

第二十條　本章ノ規定ハ市町村長ノ招集ヲ待タスシテ救護ニ從事シタル者ニ亦之ヲ適用ス但シ市町村長ニ於テ救護ニ干與セサルトキハ此ノ限ニアラス

第二十一條　本章中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ亦之ヲ適用ス

第二十二條　第一條乃至第四條第五條第一項、第六條乃至第九條第十二條乃至第十四條、第十五條第一項第二項、第十八條、第十九條第一項第二十條及第二十一條ノ規定ハ海軍艦船其ノ他官廳ノ所有スル船舶ニ又之ヲ準用ス

第二十三條　本章ノ規定ハ條約ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

第二章　漂流物及沈沒品

第二十四條　漂流物又ハ沈沒品ヲ拾得シタル者ハ遲滯ナク之ヲ市町村長ニ引渡スヘシ但シ其ノ物件ノ所有者分明ナル場合ニ於テハ拾得ノ日ヨリ七日以内ニ限リ直ニ其ノ所有者ニ引渡スコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ拾得者ハ所有者ヨリ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ十分ノ一、沈沒品ニ在リテハ其物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額以内ノ報酬ヲ受クルコトヲ得

第二十五條　市町村長ハ引渡ヲ受ケタル物件ヲ保管スヘシ

市町村長ハ前項ノ物件ヲ所有者ニ引渡スヘキコトヲ公告スヘシ但シ其ノ所有者知レタルトキハ公告スヘキ事項ヲ直ニ其ノ所有者ニ告知スヘシ此場合ニ於テハ公告ヲ須キサルコトヲ得

第二十六條　第十一條第一項ノ規定ハ漂流物及沈沒品ニ之ヲ準用ス

第二十七條　市町村長ニ於テ第二十五條ノ公告又ハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一箇年以内ニ限リ所有者ハ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其物件ノ價格ノ十分ノ一、沈沒品ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額竝公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用ヲ市町村長ニ納付シテ物件ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ拾得者ニ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其物件ノ價格ノ十分ノ一、沈沒品ニ在リテハ其物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額ヲ支給ス

物件ノ價格ハ市町村長之ヲ定ム但シ鑑定人ヲシテ之ヲ評價セシムルコトヲ得

第二十八條　前條ノ期間内ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求セサルトキ又ハ物件ノ引渡ヲ請求セサル意思ヲ表示シタルトキハ市町村長ハ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ受クヘキコトヲ拾得者ニ告知スヘシ

拾得者ハ前項ノ期間内ニ公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用ヲ市町村長ニ納付シ物件ノ引渡ヲ受クルニ因リテ其ノ所有權ヲ取得ス

拾得者ニ於テ前項ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ受ケサルトキハ市町村長ハ其ノ物件ヲ公賣シ其ノ代金ヨリ前項ノ費用ヲ控除スヘシ此ノ場合ニ於テ殘餘アルトキハ國庫ノ取得トシ不足アルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給ス

第二十九條　警察官吏ニ於テ航路錨地又ハ建造物ニ障害ヲ爲スト認メタル漂流物又ハ沈沒品ヲ取除キタル場合ニ於テハ警察官吏ニ其ノ物件ヲ市町村長ニ引渡スヘシ

前項ニ依リ市町村長ニ於テ引渡ヲ受ケタル物件ニ付テハ第十一條第一項及第二十五條第二項ノ規定ヲ適用ス

第三十條　前條ニ依リ公告若クハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一箇年以内ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求シタルトキハ市町村長ハ所有者ヲシテ取除、保管、公告及公賣ニ要シタル費用ヲ納付セシメ之ニ其ノ物件ヲ引渡スヘシ前項ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ請求スル者ナキトキハ市町村長ハ其ノ物件ヲ公賣シ其ノ代金ヲ以テ取除保管公告及公賣ニ要シタル費用ヲ支辨スヘシ此ノ場合ニ於テ殘餘アルトキハ國庫ノ取得トシ不足アルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給ス

第三章　罰則

第三十一條　遭難船舶救護ノ場合ニ於テ左ノ各號ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　正當ノ理由ナクシテ市町村長ノ招集ニ應セス又ハ物件ノ徵用若クハ土地ノ使用ヲ拒ミタル者

二　第六條第二項ノ規定ニ違反シタル者

三　第七條第三項ノ規定ニ違反シタル者

第三十二條　遭難船舶救護ノ場合ニ於テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十三條　第十條第一項ノ手續ヲ爲スコトヲ怠リタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　詐僞ノ所爲ヲ以テ船難報告書ニ認證ヲ受ケタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條ノ一　刑法第三百八十五條及第三百八十七條ノ規定ハ沈沒品ニ亦之ヲ適用ス

第三十五條ノ二　漂流ノ物件ニ對シ現存スル記號ヲ塗抹毀損シ若クハ新ニ附記押捺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十六條　此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十二年七月勅令第三五七號ヲ以テ同年八月四日ヨリ施行）

第三十七條　明治三年二月二十九日不開港場規則、明治四年四月二十二日外國船漂著ノ節取扱方、明治八年第六十六號布告及明治十年第五十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十八條　此ノ法律施行ノ際明治八年第六十六號布告ニ依リ處分中ノ事件ニ付テハ其ノ處分ヲ終ルマテ該布告ノ規定ヲ適用ス

第三十九條　此ノ法律ニ於ケル市町村長ノ事務ハ東京市、京都市及大阪市ニ於テハ區長之ヲ行ヒ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

水難救護法施行細則

（明治三十二年七月二十九日 遞信省令第三十五號）

第一章　水難船舶

第一條　水難救護法第十條ニ定メタル船難報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印スヘシ

一　船舶ノ種類及名稱
二　總噸數又ハ積石數
三　船籍港
四　船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
五　發航港寄航港到達港及水難ノ場所
六　水難及救護ノ顛末
七　船舶ノ損害
八　死傷者ノ氏名
九　滅失若クハ毀損シタル積荷ノ種類、重量若クハ容積其荷造ノ種類箇數記號及艤船者若クハ荷造人ノ氏名若クハ名稱

第二條　船難報告書ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタルトキハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ船長之ニ認印シ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ樣字體ヲ存スヘシ

第三條　船長船難報告書ニ認證ヲ受ケムトスルトキハ該報告書二通ヲ差出スヘシ

第四條　市町村長船難報告書ニ記載シタル事實ヲ正當ナリト認メタルトキハ一通其ノ末尾ニ記載事項ノ相違ナキコトヲ認證スル旨及年月日ヲ附記シ署名捺印ノ上船長ニ還付シ他ノ一通ハ當該役場ニ之ヲ保存スヘシ

第五條　市町村長ニ於テ水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ指定スル期間ハ救護ノ終リタル後直ニ救護人ヲ集メテ之ニ告知シ又ハ遲滯ナク一定ノ場所ニ之ヲ掲示スルモノトス

第六條　水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ救護費用ノ金額ヲ申立ツルニハ書面又ハ口頭ヲ以テ其金額及之ヲ算出シタル事由ヲ示スヘシ

第七條　市町村長ハ地方習慣上ノ賃錢ヲ基礎トシ各人ノ爲シタル勞務ノ種類、時間ノ長短危險ノ程度及被害ノ大小ヲ斟酌シテ勞務ノ報酬ヲ定ムヘシ

地方習慣上ノ賃錢ハ市町村長ニ於テ豫メ之ヲ定メ當該地方長官ノ認可ヲ受ケ其金額ヲ定率ト爲スヘシ

市町村長ハ地方ノ長官ノ認可ヲ受ケ前項ノ定率ヲ變更スルコトヲ得

第八條　海軍艦船其他官廳ノ所有スル船舶ノ救護費用ノ請求セントスルトキハ市町村長ハ救護費用計算書ヲ調製シ之ヲ其艦長又ハ船長ニ差出スヘシ

第九條　船長、船舶所有者其他利害關係人ハ救護費用ノ算定ニ關シ市町村長ノ調製シタル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第二章　漂流物及沈沒品

第十條　水難救護法第二十四條第一項ノ市町村長トハ拾得地ノ市町村長ヲ謂ヒ航海中ニ拾得シタル場合ニ在リテハ其後最初ニ到著シタル地ノ市町村長ヲ謂フ

第十一條　水難救護法第二十五條第二項ニ定メタル公告ハ物件ノ品質及

價格ニ準シ掲示又ハ新聞紙掲載其他市町村長ノ適當ト認ムル方法ニ依リ品名、數量、拾得ノ日時及場所ヲ明示スヘシ

第十二條　水難救護法第二十七條第一項ノ規定ニ依リ所有者ニ於テ物件ノ引渡ヲ申請スルトキハ其物件ニ對スル自己ノ權利ヲ市町村長ニ疏明スヘシ

第三章　公賣

第十三條　水難救護法第十一條第一項、第十七條第一項第二十八條第三項及第三十條第二項ニ規定スル公賣ハ入札ノ方法ヲ以テ行フヘシ

第十四條　市町村長公賣ヲ爲サントスルトキハ豫メ左ノ事項ヲ公告スヘシ

一　物件ノ種類、數量及品質
二　公賣ノ場所及年月日時

公告ノ方法ニ付テハ第十一條ノ規定ニ依ル

第十五條　水難救護法第十七條第一項ノ規定ニ依リ公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ遭難船舶ノ船長又ハ所有者ハ公賣ニ立會フニトヲ得

附　則

第十六條　本則ハ水難救護法施行ノ日ヨリ施行ス

第十七條　明治九年（十二月）第百七十號達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

北海道舊土人保護法

（明治三十二年三月二日 法律第二十七號）

【沿革】　大正八年三月法律第六號改正

第一條　北海道舊土人ニシテ農業ニ從事スル者又ハ從事セムト欲スル者ニハ一戶ニ付土地一萬五千坪以內ヲ限リ無償下附スルコトヲ得

第二條　前條ニ依リ下附シタル土地ノ所有權ハ左ノ制度ニ從フヘキモノトス

一　相續ニ因ル外讓渡スルコトヲ得ス
二　質權抵當權地上權又ハ永小作權ヲ設定スルコトヲ得ス
三　北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ地役權ヲ設定スルコトヲ得ス
四　留置權先取特權ノ目的トナルコトナシ

前條ニ依リ下付シタル土地ハ下付ノ年ヨリ起算シテ三十箇年ノ後ニ非サレハ地租及地方稅ヲ課セス又登錄稅ヲ徵收セス

舊土人ニ於テ從前ヨリ所有シタル土地ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ相續ニ因ル外之ヲ讓渡シ又ハ第一項第二及第三ニ揭ケタル物權ヲ設定スルコトヲ得ス

第三條　第一條ニ依リ下付シタル土地ニシテ其ノ下付ノ年ヨリ起算シ十五箇年ヲ經ルモ尙開墾セサル部分ハ之ヲ沒收ス

第四條　北海道舊土人ニシテ貧困ナル者ニハ農具及種子ヲ給スルコトヲ得

第五條　北海道舊土人ニシテ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ自費治療スルコト能ハサル者ハ之ヲ救療シ又ハ之ニ藥價ヲ給スルコトヲ得

第六條　北海道舊土人ニシテ傷痍、疾病、不具、老衰又ハ幼少ノ爲自活スルコト能ハサル者ハ從來ノ成規ニ依リ救助スルノ外仍之ヲ救シ救助中死亡シタルトキハ埋葬料ヲ給スルコトヲ得

第七條　北海道舊土人ノ貧困ナル者ノ子弟ニシテ就學スル者ニハ授業料ヲ給スルコトヲ得

第八條　第四條乃至第七條ニ要スル費用ハ北海道舊土人共有財產ノ收益

ヲ以テ之ニ充ツ若シ不足アルトキハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第九條　北海道舊土人ノ部落ヲ爲シタル場所ニハ國庫ノ費用ヲ以テ小學校ヲ設クルコトヲ得

第十條　北海道廳長官ハ北海道舊土人共有財産ヲ管理スルコトヲ得
北海道廳長官ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ共有者ノ利益ノ爲ニ共有財産ノ處分ヲ爲シ又必要ト認ムルトキハ其ノ分割ヲ拒ムコトヲ得

第十一條　北海道廳長官ノ管理スル共有財産ハ北海道廳長官之ヲ指定ス
北海道廳長官ハ北海道舊土人保護ニ關シテ警察令ヲ發シ之ニ二圓以上二十五圓以下ノ罰金若ハ十一日以上二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第十二條　此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十三條　此ノ法律ノ施行ニ關スル細則ハ內務大臣之ヲ定ム

北海道舊土人保護法施行規則

（明治三十二年四月八日　內務省令第五號）

【沿革】明治三十九年六月告令第一號改正

第一條　北海道舊土人保護法第一條及第四條乃至第七條ノ下付又ハ給與ヲ受ケントスル者ハ北海道廳長官ニ願出ツ可シ

第二條　北海道舊土人全部ノ共有財産ノ收益ハ舊土人全體ノ爲ニ舊土人一部ノ共有財産ノ收益ハ其ノ部內ノ舊土人ノ爲ニ之ヲ充用ス可シ但共有財産ノ性質上其ノ費途ノ目的ヲ限ラレタルモノハ他ノ目的ノ爲ニ其收益ヲ充用スルコトヲ得ス

第三條　北海道舊土人保護法第九條ニ依リ小學校ヲ設クヘキ場所ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第四條　前數條ノ外北海道舊土人保護法ノ施行ニ必要ナル細則ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第四章　行旅病、感化

行旅病人及行旅死亡人取扱法

（明治三十二年三月二十八日　法律第九十三號）

第一條　此ノ法律ニ於テ行旅病人ト稱スルハ歩行ニ堪ヘサル行旅中ノ病人ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキ者ヲ謂ヒ行旅死亡人ト稱スルハ行旅中死亡シ引取者ナキモノヲ謂フ
住所、居所若ハ氏名知レス且引取者ナキ死亡人ハ行旅死亡人ト看做ス

第二條　行旅病人ハ其ノ所在地市町村長之ヲ救護スヘシ
前二項ノ外行旅病人及行旅死亡人ニ準スヘキ者ハ內務大臣之ヲ定ム

第三條　行旅病人又ハ其ノ同伴者ヲ救護シタルトキハ市町村長ハ速ニ扶養義務者若ハ家族又ハ第五條ニ揭ケタル公共團體ニ通知シ之ヲ引取ラシムル手續ヲ爲スヘシ
前項ノ通知及引取ノ手續並期間ノ指定其ノ他之ニ關スル必要ナル事項ハ內務大臣之ヲ定ム

第四條　救護ニ要シタル費用ハ被救護者ノ負擔トシ被救護者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス

第五條　行旅病人ハ若其ノ同伴者ノ引取ヲ爲ス者ナキトキ又ハ救護費用ノ辨償ヲ得サル場合ニ於テハ其ノ引取並費用ノ辨償ヲ爲スヘキ公共團體ニ關シテハ勅命ノ定ムル所ニ依ル

第六條　扶養義務者ニ對スル被救護者引取ノ請求及救護費用辨償ノ請求ハ扶養義務者中ノ何人ニ對シテモ之ヲ請求スルコトヲ得但シ費用ノ辨償ヲ爲シタル者ハ民法第九百五十五條及第九百五十六條ニ依リ扶養ノ義務ヲ履行スヘキ者ニ對シ求償ヲ爲スヲ妨ケス

第七條　行旅死亡人アルトキハ其ノ所在地市町村長ハ其ノ狀況相貌遺留物件其ノ他本人ノ認識ニ必要ナル事項ヲ記錄シ其ノ屍體ヲ假土葬スヘシ但シ法令ニ別段ノ規定アル場合ニ於テ之ヲ火葬スルコトヲ妨ケス
墓地若ハ火葬場ノ管理者ハ本條ノ假土葬又ハ火葬ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條　必要ノ場合ニ於テハ市町村長ハ行旅死亡人ノ同伴者ニ對シテ亦相當ノ救護ヲ爲スヘシ
行旅病人ニ關スル規定ハ前項ノ場合ニ準用ス

第九條　行旅死亡人ノ住所、居所若ハ氏名知レサルトキハ市町村長ハ其ノ狀況相貌遺留物件其ノ他本人ノ認識ニ必要ナル事項ヲ公署ノ揭示場ニ告示シ且官報若ハ新聞紙ニ公告スヘシ

第十條　行旅死亡人ノ住所若ハ居所及氏名知レタルトキハ市町村長ハ速ニ相續人ニ通知シ相續人分明ナラサルトキハ扶養義務者若ハ家族ニ通知シ又ハ第十三條ニ揭ケタル公共團體ニ通知スヘシ
前項ノ手續其ノ他之ニ關スル必要ナル事項ニ付テハ第三條第二項ヲ準用ス

第十一條　行旅死亡人取扱ノ費用ハ先ツ其ノ遺留ノ金錢若ハ有價證券ヲ以テ之ニ充テ仍足ラサルトキハ相續人ノ負擔トシ相續人ヨリ辨償ヲ得サルトキハ死亡人ノ扶養義務者ノ負擔トス

第十二條　行旅死亡人ノ遺留物件ハ市町村長之ヲ保管スヘシ但シ其ノ保管ノ物件滅失若ハ毀損ノ虞アルトキ又ハ其ノ保管ニ不相當ノ費用若ハ手數ヲ要スルトキハ之ヲ賣却シ又ハ棄却スルコトヲ得

第十三條　市町村長ハ第九條ノ公告後六十日ヲ經過スルモ仍行旅死亡人取扱費用ノ辨償ヲ得サルトキハ行旅死亡人ノ遺留物品ヲ賣却シテ其ノ費用ニ充ツルコトヲ得其ノ仍足ラサル場合ニ於テ費用ノ辨償ヲ爲スヘキ公共團體ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル
市町村ハ行旅死亡人取扱費用ニ付遺留物件ノ上ニ他ノ債權者ノ先取特權ニ對シ優先權ヲ有ス

第十四條　市町村長ハ行旅死亡人取扱費用ノ辨償ヲ得タルトキハ相續人ニ其ノ保管スル遺留物件ヲ引渡スヘシ相續人ナキトキハ正當ナル請求者ト認ムル者ニ之ヲ引渡スコトヲ得

第十五條　行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護若ハ取扱ニ關ハル費用ハ所在地市町村費ヲ以テ一時之ヲ繰替フヘシ
前項費用ノ辨償金徵收ニ付テハ市町村稅徵收ニ關スル例ニ依ル

第十六條　行旅病人行旅死亡人ノ所持物件若ハ遺留物件ノ取扱ニ關スル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第十七條　外國人タル行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者並其ノ所持物件若ハ遺留物件ノ取扱ニ關シ別段ノ規定ヲ要スル者ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條　船車内ニ於ケル行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者竝其ノ所持物件若ハ遺留物件ノ取扱ニ關シ別段ノ規定ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　此ノ法律ニ於テ市町村長トアルハ東京市、京都市、大阪市其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ區長ニ、市町村長ヲ置カサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ、市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セラル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ準用ス

第二十條　北海道沖繩縣其ノ他市制町村制ヲ施行セサル地ニハ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十一條　此法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

第二十二條　明治十五年第四十九號布告行旅死亡人取扱規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

少年法（大正十一年四月十五日法律第四十二號）

第一章　通則

第一條　本法ニ於テ少年ト稱スルハ十八歳ニ滿タサル者ヲ謂フ

第二條　少年ノ刑事處分ニ關スル事項ハ本法ニ定ムルモノノ外一般ノ例ニ依ル

第三條　本法ハ第七條、第八條、第十條乃至第十四條ノ規定ヲ除クノ外陸軍刑法第八條、第九條及軍軍刑法第八條、第九條ニ揭ケタル者ニ之ヲ適用セス

第二章　保護處分

第四條　刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲シ又ハ刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲スノ虞アル少年ニ對シテハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　訓誡ヲ加フルコト

二　學校長ノ訓誡ニ委スルコト

三　書面ヲ以テ改心ノ誓約ヲ爲サシムルコト

四　條件ヲ附シテ保護者ニ引渡スコト

五　寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコト

六　少年保護司ノ觀察ニ付スルコト

七　感化院ニ送致スルコト

八　矯正院ニ送致スルコト

九　病院ニ送致又ハ委託スルコト

前項各號ノ處分ハ適宜併セテ之ヲ爲スコトヲ得

第五條　前條第一項第五號乃至第九號ノ處分ハ二十三歳ニ至ル迄其ノ執行ヲ繼續シ又ハ其ノ執行ノ繼續中何時ニテモ之ヲ取消シ若ハ變更スルコトヲ得

第六條　少年ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ又ハ假出獄ヲ許サレタル者ハ猶豫又ハ假出獄ノ期間内少年保護司ノ觀察ニ付ス

前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ第四條第一項第四號、第五號、第七號乃至第九號ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ第四條第一項第七號又ハ第八號ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ執行ノ繼續中少年保護司ノ觀察ヲ停止ス

第三章　刑事處分

第七條　罪ヲ犯ス時十六歳ニ滿タサル者ニハ死刑及無期刑ヲ科セス死刑又ハ無期刑ヲ以テ處斷スヘキトキハ十年以上十五年以下ニ於テ懲役又ハ禁錮ヲ科ス

刑法第七十三條、第七十五條又ハ第二百條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ前項ノ規定ヲ適用セス

第八條　少年ニ對シ長期三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ以テ處斷スヘキトキハ其ノ刑ノ範圍内ニ於テ短期ト長期トヲ定メ之ヲ言渡ス但シ短期五年ヲ超ユル刑ヲ以テ處斷スヘキトキハ短期ヲ五年ニ短縮ス

前項ノ規定ニ依リ言渡スヘキ刑ノ短期ハ五年長期ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス

刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第九條　懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル少年ニ對シテハ特ニ設ケタル監獄又ハ監獄内ノ特ニ分界ヲ設ケタル場所ニ於テ其ノ刑ヲ執行ス

本人十八歳ニ達シタル後ト雖二十三歳ニ至ル迄ハ前項ノ規定ニ依リ執行ヲ繼續スルコトヲ得

第十條　少年ニシテ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル者ニハ左ノ期間ヲ經過シタル後假出獄ヲ許スコトヲ得

一　無期刑ニ付テハ七年

二　第七條第一項ノ規定ニ依リ言渡シタル刑ニ付テハ三年

三　第八條第一項及第二項ノ規定ニ依リ言渡シタル刑ニ付テハ其ノ刑ノ短期ノ三分ノ一

第十一條　少年ニシテ無期刑ノ言渡ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サレタル後其ノ處分ヲ取消サルルコトナクシテ十年ヲ經過シタルトキハ刑ノ執行終リタルモノトス

少年ニシテ第七條第一項及第八條第一項及第二項ノ規定ニ依リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サレタル後其ノ處分ヲ取消ササルコトナクシテ假出獄前ニ刑ノ執行ヲ爲シタルト同一ノ期間ヲ經過シタルトキ亦前項ニ同シ

第十二條　少年ノ假出獄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條　少年ニ對シテハ勞役場留置ノ言渡ヲ爲サス

第十四條　少年ノ時犯シタル罪ニ因リ死刑又ハ無期刑ニ非サル刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ執行ヲ終ヘ又ハ執行免除ヲ受ケタルモノハ人ノ資格ニ關スル法令ノ適用ニ付テハ將來ニ向テ刑ノ言渡ヲ受ケサリシモノト看做ス

少年ノ時犯シタル罪ニ付刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノハ其ノ猶豫期間中刑ノ執行ヲ終ヘタルモノト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ人ノ資格ニ關スル法令ノ適用ニ付テハ其ノ取消サレタル時刑ノ言渡アリタルモノト看做ス

第四章　少年審判所ノ組織

第十五條　少年ニ對シ保護處分ヲ爲ス爲少年審判所ヲ置ク

第十六條　少年審判所ノ設立、廢止及管轄ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　少年審判所ハ司法大臣ノ監督ニ屬ス

司法大臣ハ控訴院長及地方裁判所長ニ少年審判所ノ監督ヲ命スルコトヲ得

第十八條　少年審判所ニ少年審判官、少年保護司及書記ヲ置ク

第十九條　少年審判官ハ單獨ニテ審判ヲ爲ス

第二十條　少年審判官ハ少年審判所ノ事務ヲ管理シ所部ノ職員ヲ監督ス

二人以上ノ少年審判官ヲ置キタル少年審判所ニ於テハ上席者前項ノ規定ニ依ル職務ヲ行フ

第二十一條　少年審判官ハ判事ヲシテ之ヲ兼ネシムルコトヲ得

判事タル資格ヲ有スル少年審判官ハ判事ヲ兼ヌルコトヲ得

第二十二條　少年審判官審判ノ公平ニ付嫌疑ヲ生スヘキ事由アリト思料スルトキハ職務ノ執行ヲ避クヘシ

第二十三條　少年保護司ハ少年審判官ヲ補佐シテ審判ノ資料ヲ供シ觀察事務ヲ掌ル

少年保護司ハ少年ノ保護又ハ教育ニ經驗ヲ有スル者其ノ他適當ナル者ニ對シ司法大臣之ヲ囑託スルコトヲ得

第二十四條　書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ審判ニ關スル書類ノ調製ヲ掌リ庶務ニ從事ス

第二十五條　少年審判所及少年保護司ハ其ノ職務ヲ行フニ付公務所又ハ公務員ニ對シ囑託ヲ爲シ其ノ他必要ナル補助ヲ求ムルコトヲ得

第五章　少年審判所ノ手續

第二十六條　大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ヲ犯シタル者ハ少年審判所ノ審判ニ付セス

第二十七條　左ニ記載シタル者ハ裁判所又ハ檢事ヨリ送致ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外少年審判所ノ審判ニ付セス

一　死刑、無期又ハ短期三年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタル者

二　十六歲以上ニシテ罪ヲ犯シタル者

第二十八條　刑事手續ニ依リ審理中ノ者ハ少年審判所ノ審判ニ付セス

十四歲ニ滿タサル者ハ地方長官ヨリ送致ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外少年審判所ノ審判ニ付セス

第二十九條　少年審判所ニ於テ保護處分ヲ爲スヘキ少年アルコトヲ認知シタル者ハ之ヲ少年審判所又ハ其ノ職員ニ通告スヘシ

第三十條　通告ヲ爲スニハ其ノ事由ヲ開示シ成ルヘク本人及其ノ保護者ノ氏名、住所、年齡、職業、性行等ヲ申立テ且參考ト爲ルヘキ資料ヲ差出スヘシ

通告ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭ノ通告アリタル場合ニ於テハ少年審判所ノ職員其ノ申立ヲ錄取スヘシ

第三十一條　少年審判所審判ニ付スヘキ少年アリト思料シタルトキハ事件ノ關係及本人ノ性行、境遇、經歷、心身ノ狀況、教育ノ程度等ヲ調査スヘシ

心身ノ狀況ニ付テハ成ルヘク醫師ヲシテ診察ヲ爲サシムヘシ

第三十二條　少年審判所ハ少年保護司ニ命シテ必要ナル調査ヲ爲サシムヘシ

第三十三條　少年審判所ハ事實ノ取調ヲ保護者ニ命シ又ハ之ヲ保護團體ニ委託スルコトヲ得

保護者及保護團體ハ參考ト爲ルヘキ資料ヲ差出スコトヲ得

第三十四條　少年審判所ハ參考人ニ出頭ヲ命シ調査ノ爲必要ナル事實ノ供述又ハ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ供述又ハ鑑定ノ要領ヲ錄取スヘシ

第三十五條　參考人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ費用ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條　少年審判所ハ必要ニ依リ何時ニテモ少年保護司ヲシテ本人ヲ同行セシムルコトヲ得

第三十七條　少年審判所ハ事情ニ從ヒ本人ニ對シ假ニ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　條件ヲ附シ又ハ附セスシテ保護者ニ預クルコト

二　寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコト

三　病院ニ委託スルコト

四　少年保護司ノ觀察ニ付スルコト

已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ本人ヲ假ニ感化院又ハ矯正院ニ委託スルコトヲ得

第一項第一號乃至第三號ノ處分アリタルトキハ本人ヲ少年保護司ノ觀察ニ付ス

第三十八條　前條ノ處分ハ何時ニテモ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

第三十九條　前三條ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ旨ヲ保護者ニ通知スヘシ

第四十條　少年審判所調査ノ結果ニ因リ審判ヲ開始スヘキモノト思料シタルトキハ審判期日ヲ定ムヘシ

第四十一條　審判ヲ開始セサル場合ニ於テハ第三十七條ノ處分ハ之ヲ取消スヘシ

第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條　少年審判所審判ヲ開始スル場合ニ於テ必要アルトキハ本人ノ爲附添人ヲ附スルコトヲ得

本人、保護者又ハ保護團體ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ附添人ヲ選任スルコトヲ得

附添人ハ辯護士、保護事業ニ從事スル者又ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケタル者ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第四十三條　審判期日ニハ少年審判官及書記出席スヘシ

少年保護司ハ審判期日ニ出席スルコトヲ得

審判期日ニハ本人、保護者及附添人ヲ呼出スヘシ但シ實益ナシト認ムルトキハ保護者ハ之ヲ呼出ササルコトヲ得

第四十四條　少年保護司、保護者及附添人ハ審判ノ席ニ於テ意見ヲ陳述スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人ヲ退席セシムヘシ但シ相當ノ事由アルトキハ本人ヲ在席セシムルコトヲ得

第四十五條　審判ハ之ヲ公行セス但シ少年審判所ハ本人ノ親族、保護事業ニ從事スル者其ノ他相當ト認ムル者ニ在席ヲ許スコトヲ得

第四十六條　少年審判所審理ヲ終ヘタルトキハ第四十七條乃至第五十四條ノ規定ニ依リ終結處分ヲ爲スヘシ

第四十七條　刑事訴追ノ必要アリト認メタルトキハ事件ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致スヘシ

裁判所又ハ檢事ヨリ送致ヲ受ケタル事件ニ付新ナル事實ノ發見ニ因リ刑事訴追ノ必要アリト認メタルトキハ管轄裁判所ノ檢事ノ意見ヲ聽キ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ本人及保護者ニ通知スヘシ

檢事ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ送致ヲ受ケタル事件ニ付爲シタル處分ヲ少年審判所ニ通知スヘシ

第四十八條　訓誡ヲ加フヘキモノト認メタルトキハ本人ニ對シ其ノ非行ヲ指摘シ將來遵守スヘキ事項ヲ諭告スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ成ルヘク保護者及附添人ヲシテ立會ハシムヘシ

第四十九條　學校長ノ訓誡ニ委スヘキモノト認メタルトキハ學校長ニ對

シ必要ナル事項ヲ指示シ本人ニ訓誡ヲ加フヘキ旨ヲ告知スヘシ

第五十條　改心ノ誓約ヲ爲サシムヘキモノト認メタルトキハ本人ヲシテ誓約書ヲ差出サシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ成ルヘク保護者ヲシテ立會ハシメ且誓約書ニ連署セシムヘシ

第五十一條　條件ヲ附シテ保護者ニ引渡スヘキモノト認メタルトキハ保護者ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル條件ヲ指示シ本人ヲ引渡スヘシ

第五十二條　寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スヘキモノト認メタルトキハ委託ヲ受クヘキ者ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルヘキ事項ヲ指示シ保護監督ノ任務ヲ委囑スヘシ

第五十三條　少年保護司ノ觀察ニ付スヘキモノト認メタルトキハ少年保護司ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル事項ヲ指示シ觀察ニ付スヘシ

第五十四條　感化院、矯正院又ハ病院ニ送致又ハ委託スヘキモノト認メタルトキハ其ノ長ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルヘキ事項ヲ指示シ本人ヲ引渡スヘシ

第五十五條　刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲ス虞アル少年ニ對シ前三條ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テ適當ナル親權者、後見人、戸主其ノ他ノ保護者アルトキハ其ノ承諾ヲ經ヘシ

第五十六條　少年審判所ノ審判ニ付テハ始末書ヲ作リ審判ヲ經タル事件及終結處分ヲ明確ニシ其ノ他必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

第五十七條　少年審判所第四十八條乃至第五十二條及第五十四條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ保護者、學校長、受託者又ハ感化院、矯正院若ハ病院ノ長ニ對シ成績報告ヲ求ムルコトヲ得

第五十八條　少年審判所第五十一條及第五十二條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ少年保護司ヲシテ其ノ成績ヲ觀察シ適當ナル指示ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十九條　少年審判所第四十八條乃至第五十四條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタル後審判ヲ經タル事件第二十六條又ハ第二十七條第一號ニ記載シタルモノナルコトヲ發見シタルトキハ裁判所又ハ檢事ヨリ送致ヲ受ケタル場合ト雖管轄裁判所ノ檢事ノ意見ヲ聽キ處分ヲ取消シ事件ヲ檢事ニ送致スヘシ

禁錮以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者ニ付第四條第一項第七號又ハ第八號ノ處分ヲ繼續スルニ適セサル事情アリト認メタルトキ亦前項ニ同シ

第六十條　少年審判所本人ヲ寺院、教會、保護團體若ハ適當ナル者ニ委託シ又ハ病院ニ送致若ハ委託シタルトキハ委託又ハ送致ヲ受ケタル者ニ對シ之ニ因リ生シタル費用ノ全部又ハ一部ヲ給付スルコトヲ得

第六十一條　第三十五條及前條ノ費用竝矯正院ニ於テ生シタル費用ハ少年審判所ノ命令ニ依リ本人又ハ本人ヲ扶養スル義務アル者ヨリ全部又ハ一部ヲ徴收スルコトヲ得

前項費用ノ徴收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第六章　裁判所ノ刑事手續

第六十二條　檢事少年ニ對スル刑事事件ニ付第四條ノ處分ヲ爲スヲ相當ト思料シタルトキハ事件ヲ少年審判所ニ送致スヘシ

第六十三條　第四條ノ處分ヲ受ケタル少年ニ對シテハ審判ヲ經タル事件又ハ之ニリ輕キ刑ニ該ルヘキ事件ニシテ處分前ニ犯シタシモノニ付刑事訴追ヲ爲スコトヲ得ス但シ第五十九條ノ規定ニ依リ處分ヲ取消シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條　少年ニ對スル刑事事件ニ付テハ第三十一條ノ調査ヲ爲スヘシ

少年ノ身上ニ關スル事項ノ調査ハ少年保護司ニ囑託シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十五條　裁判所ハ公判期日前前條ノ調査ヲ爲シ又ハ受命判事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十六條　裁判所又ハ豫審判事ハ職權ヲ以テ又ハ檢事ノ申立ニ因リ第三十七條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スコトヲ得

第三十八條及第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十七條　勾留狀ハ已ムコトヲ得サル場合ニ非サレハ少年ニ對シテ之ヲ發スルコトヲ得ス

拘置監ニ於テハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外少年ヲ獨居セシムヘシ

第六十八條　少年ノ被告人ハ他ノ被告人ト分離シ其ノ接觸ヲ避ケシムヘシ

第六十九條　少年ニ對スル被告事件ハ他ノ被告事件ト牽連スル場合ト雖審理ニ妨ナキ限リ其ノ手續ヲ分離スヘシ

第七十條　裁判所ハ事情ニ依リ公判中一時少年ノ被告人ヲ退廷セシムルコトヲ得

第七十一條　第一審裁判所又ハ控訴裁判所ヲ審理ノ結果依リ被告人ニ對シ第四條ノ處分ヲ爲スヲ相當ト認メタルトキハ少年審判所ニ送致スル旨ヲ決定ト爲スヘシ

檢事ハ前項ノ決定ニ對シ三日內ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第七十二條　第六十六條ノ處分ハ事件ヲ終局ナシムル裁判ノ確定ニ因リ其ノ效力ヲ失フ

第七十三條　第四十二條、第四十三條第二項第三項及第四十四條ノ規定ハ公判ノ手續ニ第六十條及第六十一條ノ規定ハ豫審又ハ公判ノ手續ニ之ヲ準用ス

第七章　罰則

第七十四條　少年審判所ノ審判ニ付セラレタル事項又ハ少年ニ對スル刑事事件ニ付豫審又ハ公判ニ付セラレタル事項ハ之ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ揭載スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行者ヲ一年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年勅令第四八七號ヲ以テ同十二年一日ヨリ施行）

感化法（明治三十三年三月十日法律第三十七號）

【沿革】明治四十一年四月　第四三號、大正十一年四月同第四四號改正

第一條　北海道及府縣ニハ感化院ヲ設置スヘシ

第二條　感化院ハ地方長官之ヲ管理ス

第三條　感化院ニ關スル經費ハ北海道地方費及府縣ノ負擔トス

第四條　北海道及府縣ニ於テハ其ノ區域內ニ團體又ハ私人ニ屬スル感化事業ノ設備アルトキハ內務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ感化院ニ代用スルコトヲ得

代用感化院ニ關シテハ本法ノ規定ヲ準用ス